2023年度 授業概要【経営学科】

科 目 コ ー ド : 40001　　**科目ナンバリング : MA10B01K**　　**主な使用言語 : 日本語**

授業名（英文）: 公共哲学（Pubulic Philosophy）

担 当 者 : 北　夏子

基 本 情 報

年 次 : 1　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 木曜3限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :　　**A L 要 素 :** 11.討論
15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答

授 業 の 概 要 : この授業ではまず公共哲学の形成と展開の歴史を辿ります。続いて、哲学者ハンナ・アーレントについて取り上げます。彼女が生きた時代、彼女が述べた思想、彼女の人生について、彼女の著作を辿りつつ見ていきます。テキストは日本語訳を使います。特に「悪の陳腐さ」の言葉と共に大変有名になった『エルサレムのアイヒマン――悪の陳腐さについての報告』を取り上げます。この授業では適宜映像資料も用います。
この授業を通して、私たちが直面している・直面するであろうと思われる具体的な諸問題を解決するために、自分自身の意見を持てるようになることを目指します。

キ ー ワ ー ド : 公共性、ハンナ・アーレント、全体主義、悪の陳腐さ、善、愛

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で解説を受けた公共哲学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法: 振り返り用紙　　**評 価 割 合 :** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート　　**評 価 割 合 :** 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評 価 割 合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　授業概要説明
第2回　公共哲学とはどのような学問か(1)
第3回　公共哲学とはどのような学問か(2)
第4回　ハンナ・アーレントとその時代(1)
第5回　ハンナ・アーレントとその時代(2)
第6回　アーレントを知るために――アウグスティヌスの愛(1)
第7回　アーレントを知るために――アウグスティヌスの愛(2)
第8回　アーレントの経験(1)
第9回　アーレントの経験(2)
第10回　アーレントの経験(3)
第11回　アイヒマンと私たち(1)
第12回　アイヒマンと私たち(2)
第13回　アイヒマンと私たち(3)
第14回　レポート執筆の際の注意事項と研究倫理
第15回　まとめ

使用テキスト：アーレント、ハンナ（2017）『エルサレムのアイヒマン――悪の陳腐さについての報告』（大久保和郎訳）みすず書房。
このテキスト以外で授業で使用する資料はすべて印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる（90分）。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい（90分）。
・参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：メールで対応します。メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。

留意事項：課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード：40006　**科目ナンバリング：MA10B02K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：政治学（Politics）

担当者：林　寛一

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：**M

関連資格：教職　**ＡＬ要素：**16. 振り返り用紙と応答

授業の概要：教養としての政治学を学びます。高校時代までに学んだ政治の単なる延長ではありません。皆さんは、デモクラシーと言えば、日本語で、民主主義と習っています。大学では、批判的に学ぶという知的作業も必須です。democracyは、〇〇ismではありません。〇〇cracyは何？と一歩深く考えてみます。主義という日本語おかしくない？と進めば、ちょっと大学生らしく生意気になります。この授業では、ヨハネによる福音書ではありませんが、はじめに言葉ありき、から始めます。政治の言葉を一歩深く考えるところから始めます。原則、教科書のテーマに沿って授業を進めますが、内容はそこから離れることもあります。

キーワード：民主政治、福祉、内閣、選挙、議会、政党、政策、世論、地方自治、グローバリゼーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法：学期末筆記試験又は課題・レポート　**評価割合：60％**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法: **評価割合:** 40%

学期末筆記試験又は課題・レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

第1回 オリエンテーション;民主政治の起源(1)
第2回 民主政治の起源(2)
第3回 民主政治の変容(1)
第4回 民主政治の変容(2)
第5回 福祉と政治
第6回 民主政治の様々な仕組み
第7回 政治権力とリーダーシップ
第8回 選挙
第9回 議会と政党
第10回 政策過程と官僚・利益集団
第11回 世論とマスメディア
第12回 地方自治
第13回 グローバル化(1)
第14回 グローバル化(2)
第15回 民主政治の現在
定期試験

使用テキスト: 川出良枝・谷口将紀編『政治学(第2版)』東京大学出版会、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:
授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと(60分)。
授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい(60分)。
参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業等でお知らせします。

留 意 事 項： 特になし

科 目 コ ー ド：40008　　**科目ナンバリング：MA10B04K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：コミュニケーションと言語学（Communication and Linguistics）

担 当 者：三上　司

基 本 情 報

年 次：1　　**単 位 数：2**　　**授業形式：講義**

曜 時：火曜2限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：　　**A L 要 素：** 09,10,13,15

授 業 の 概 要： 【特例期間中の授業形態】課題研究型
言語はコミュニケーションの道具である、と一般に言われている。しかし、言語はすべての種類の情報伝達に向いているとは限らない。このことは、パイロットと管制官の交信が原因で事故が起こるという事実、ひもやネクタイの結び方を言葉だけで説明することは至難の業であることなどを考えてみても分かることである。言語は空間や感覚・感情に関する情報を伝達することは苦手なのである。また、言語は真実だけではなく嘘も伝えることができるという側面も持っている。この講義では、コミュニケーションの様々な側面について、言語学の視座から観察・分析し、コミュニケーションの仕組みについて考えることが目標である。

キーワード： コミュニケーション、言語学、語用論、直示表現、協調の原理、言語行為、談話分析、ポライトネス。関連性理論

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： コミュニケーションの様々な分析の仕方を理解し、説明することができる。

評価方法： 授業への参加、課題提出　　**評 価 割 合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 言語学の知識に基づいて、効果的なコミュニケーションをおこなうことができる。

評価方法： 授業への参加、課題提出　　**評 価 割 合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評 価 割 合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評 価 割 合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。

評 価 割 合：0%

▼その他

特になし。

評 価 割 合：特になし。

授 業 計 画：

1. はじめに
2. 表現と場面：語用論の考え方
3. 直示表現：場所の直示・時間の直示
4. 協調の原理：Griceの4つの公理
5. 言語行為：Austin(1962)の主張
6. Searleの言語行為・間接発話行為

7. Harris(1952)の談話分析、Hallidayの結束性
8. Leechの丁寧さの理論
9. Brown& Levinsonのポライトネス理論
10. 関連性理論(1)
11. 関連性理論(2)
12. 語用論の応用(1):ジョークの語用論
13. 語用論の応用(2):レトリックの語用論
14. 言語コミュニケーション論
15. 言語コミュニケーションと社会

使用テキスト: 印刷物を配布する予定です。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考書等は授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 最初の授業で提示します。

留意事項: 特になし。

科目コード:40011 **科目ナンバリング:MA10B05K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **倫理学(Ethics)**

担当者: **北 夏子**

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:木曜2限 **履修可能学科・専攻:** M

関連資格: 教職 福祉主 **AL要素:** 11.討論
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 本講義では、「生命の終わり」「環境」「家族」といった主題に関して、現在私たちが置かれている社会的な状況について可能な限り多角的に把握した上で、今・ここから「よく生きる」ことを目指して、具体的に私たちには何ができるのか考えていきます。この授業を通して、私たちが自分の足で力強く歩んでいくために必要な倫理学的知識を身につけ、自分の意見を持てるようになることを目指します。
授業では、指定テキストの第II部を扱い「倫理学史」を概観してから、テキストの第I部を扱います。映像資料等を含め、教員が準備する補助資料も用いて進めます。

キーワード: 幸福、安楽死、環境問題、動物解放論、動物虐待、動物実験、自然保護論、共生、家族、ケア、いじめ、ヤングケアラー、経営倫理学、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた倫理学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法: 振り返り用紙 **評価割合:30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート **評価割合:70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート

課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　倫理学とはどういう学問か(授業概要説明含む)
第2回　倫理学史(1)古代
第3回　倫理学史(2)キリスト教
第4回　倫理学史(3)近現代への影響
第5回　生命倫理学(1)安楽死を考える
第6回　生命倫理学(2)安楽死を考える
第7回　環境倫理学(1)人間と動物
第8回　環境倫理学(2)人間と動物
第9回　現代の問題(1)集団といじめ
第10回　現代の問題(2)家族の問題
第11回　現代の問題(3)ヤングケアラー?
第12回　経営倫理学(1)
第13回　経営倫理学(2)
第14回　レポート指導と研究倫理
第15回　まとめ

使用テキスト： 小坂国継・岡部英男（編）(2005)『倫理学概説』ミネルヴァ書房。
このテキスト以外で授業で使う関連資料は、授業中に印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(90分)。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。
・参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。メールアドレスは初回授業時にお知らせします。

留意事項： 課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード：40015　**科目ナンバリング：MA10C05K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ミクロ経済学入門（Microeconomics）

担当者： Yodtomorn Pimprapa

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　　**ＡＬ要素：** 17.発問と回答

授業の概要： この授業は、初心者を対象にミクロ経済学の基本的な考え方を解説することを目的とする。ミクロ経済学の基礎理論と知識を整理し、身近な経済の仕組みについて分かりやすく解説する。
本講義では、ミクロ経済学の理論を解説するだけでなく、実際に社会・経済問題を応用に分析する方法を身に付けることも重要なポイントである。

キーワード： 需要と供給、消費者行動、企業行動、市場取引と資源配分、競争市場、独占、寡占

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1.市場経済の仕組みについて理解する。
2.需要と供給などの経済学入門レベルの基礎知識を身につける。
3.現実の社会・経済に関する問題を通して経済学の考え方を学ぶ。

評価方法： 中間テスト・期末試験　　**評価割合：** 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修で得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： リーアクションペーパー　　**評価割合：** 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

第1回　イントロダクション：経済学の十大原理
第2回　経済の分析ツール
第3回　市場における需要と供給の作用（1）
第4回　市場における需要と供給の作用（2）
第5回　弾力性とその応用
第6回　復習
第7回　消費者行動の理論：効用、無差別曲線
第8回　消費者行動の理論：予算制約、効用最大化
第9回　消費者行動の理論：需要曲線の導出
第10回　企業行動と産業組織：生産の費用
第11回　企業行動と産業組織：短期と長期

第12回　競争市場における企業
第13回　独占
第14回　寡占
第15回　まとめ

使用テキスト： N.グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー経済学Ｉミクロ編(第4版)』東洋経済新報社。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
授業後には、その回の内容を復習するとともに、その関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。
参考文献
小島寛之(2019)『世界一わかりやすいミクロ経済学入門』講談社。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回に案内する。

留意事項： 「マクロ経済学入門」を併せて履修することが望ましい。

科目コード：40016　**科目ナンバリング：MA10C04K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：マクロ経済学入門(Macroeconomics)

担当者： Yodtomorn Pimprapa

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** Ｅ Pe Pc Ｃ Ｗ Ｆ Ｎ Ｍ

関連資格： 教職　**ＡＬ要素：** 発問と回答

授業の概要： 本講義は、初心者を対象にマクロ経済学の基本的な考え方を解説することを目的とする。マクロ経済とは家計、企業、市場に同時に影響を及ぼす様々な経済的変化である。
本講義では、マクロ経済の基礎として、国内総生産GDPの概念・測定、金融・財政政策、インフレと失業などの基本的な概念を解説する。

キーワード： 国内総生産GDP、金融・財政政策、インフレーション、失業

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1.GDP、物価、インフレ、失業の基本的な概念を説明できる。
2.総需要に対して金融・財政政策の効果を説明できる。

評価方法： 中間テスト・期末試験　**評価割合：100%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修で得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができること。

評価方法： リーアクションペーパー　**評価割合：0%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。但し、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。但し、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　イントロダクション：マクロ経済学とは何か
第2回　国民所得：GDPの測定、実質GDPと名目GDP
第3回　家計費の測定
第4回　生産と成長（1）
第5回　生産と成長（2）
第6回　貯蓄、投資と金融システム
第7回　ファイナンスの基本的な分析手法
第8回　貨幣システム
第9回　貨幣量の成長とインフレーション
第10回　インフレと失業（1）
第11回　インフレと失業（2）
第12回　開放経済のマクロ経済学（1）
第13回　開放経済のマクロ経済学（2）
第14回　経済学と格差・貧困問題
第15回　まとめ

使用テキスト： N.グレゴリー・マンキュー（2019）『マンキュー経済学Ｉ マクロ編(第4版)』東洋経済新報社。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後には、その回の内容を復習するとともに、その関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回に案内する。

留意事項： 「ミクロ経済学入門」を履修済みであることが望ましい。

科目コード：40017　**科目ナンバリング：MA10B06K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：法学 a（Law a）

担当者：古屋　等

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜1限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職　福祉主　**ＡＬ要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれません。しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違

反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。

キーワード： 法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法（財産法）、意思主義、契約、民法（家族法）、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合： 0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合： 5%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1　ガイダンス
2　法とは何か
3　法の種類と存在形式
4　法の段階的構造
5　罪刑法定主義
6　犯罪の成立要件Ⅰ
7　犯罪の成立要件Ⅱ
8　刑事手続の基本原理
9　裁判手続の基本構造
10 民法の基本構造Ⅰ
11 民法の基本構造Ⅱ
12 財産関係と法Ⅰ
13 財産関係と法Ⅱ
14 家族関係と法Ⅰ
15 家族関係と法Ⅱ
16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕（成文堂）2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：40017　**科目ナンバリング：MA10B06K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：法学 b（Law b）

担当者：古屋　等

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職　福祉主　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれません。しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。

キーワード： 法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法（財産法）、意思主義、契約、民法（家族法）、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1 ガイダンス
2 法とは何か
3 法の種類と存在形式
4 法の段階的構造
5 罪刑法定主義
6 犯罪の成立要件Ⅰ
7 犯罪の成立要件Ⅱ
8 刑事手続の基本原理
9 裁判手続の基本構造
10 民法の基本構造Ⅰ
11 民法の基本構造Ⅱ
12 財産関係と法Ⅰ
13 財産関係と法Ⅱ
14 家族関係と法Ⅰ
15 家族関係と法Ⅱ
16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕(成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：40017 **科目ナンバリング：MA10B06K** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **法学 c(Law c)**

担当者： **森本 敦司**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜3限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職 福祉主 **AL要素：** 18その他

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに

違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれません。しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている民法を通じて学んでいきます。

キーワード： 法、権利、自由、民法（財産法）、意思主義、契約、民法（家族法）、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 毎回の課題演習　　**評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法という身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合： 0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

【第01回】オリエンテーション：法とは何か・民法の沿革
【第02回】民法概説：財産法と家族法
【第03回】権利能力・意思能力・行為能力（1）未成年
【第04回】権利能力・意思能力・行為能力（2）成年後見
【第05回】権利の主体と客体
【第06回】代理
【第07回】時効
【第08回】物権と登記制度
【第09回】担保物権・抵当権
【第10回】契約と法（1）契約の種類
【第11回】契約と法（2）債務不履行／不法行為
【第12回】親族
【第13回】婚姻と離婚
【第14回】親子
【第15回】相続
定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべてオンラインで配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次回のプリントは事前に配付するので、授業前に目を通しておくこと（2時間）。
また授業終了後に配布プリントによる演習問題を中心に復習をすること（2時間）。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 講義の前後に教室にて対応します。

留意事項： デバイスを持参すること。

科目コード：40018 **科目ナンバリング：MA10B07K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：社会学 a（Sociology a）

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜4限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職 福祉主 **ＡＬ要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード： 人間と社会、家族、性、環境、災害、教育、逸脱行動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問やディスカッションなど、積極的に参加すること。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　ガイダンス・社会学とは何か
第2回　社会学の歴史(1)
第3回　社会学の歴史(2)
第4回　社会と「私」(1)ー個人と集団、自我と他者
第5回　社会と「私」(2)ー社会的人間と社会集団
第6回　家族と社会(1)ー家族のあり方と変容
第7回　家族と社会(2)ー結婚と出産
第8回　性と社会(1)ージェンダーとセクシュアリティ
第9回　性と社会(2)ー教育・スポーツ・労働とジェンダー
第10回　不平等と格差ー一億総中流意識にみる日本の格差意識
第11回　労働と産業ー未来の仕事と働き方
第12回　消費と社会ー消費行動とマクドナルド化
第13回　コミュニティと地域社会
第14回　宗教と社会ー世界の宗教と日本人の宗教観
第15回　振り返りと統括

使用テキスト：篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：【予習】毎回、授業の前日までに授業用資料をパワーポイントでteamsにアップします。各自ダウンロードして目を通しておいてください。
【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の課題レポートに向けてノート等にまとめておいてください。
【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項：日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をするよう心がけてください。

科目コード：40018　　**科目ナンバリング**：MA10B07K　　**主な使用言語**：日本語

授業名(英文)：社会学 b(Sociology b)

担当者：勝山　紘子

基本情報

年次：1　　**単位数**：2　　**授業形式**：講義

曜時：木曜4限　　**履修可能学科・専攻**：M

関連資格：教職　福祉主　　**AL要素**：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要：社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード：人間と社会、家族、性、環境、災害、教育、逸脱行動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問やディスカッションなど、積極的に参加すること。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　ガイダンス・社会学とは何か
第2回　社会学の歴史(1)
第3回　社会学の歴史(2)
第4回　社会と「私」(1)ー個人と集団、自我と他者
第5回　社会と「私」(2)ー社会的人間と社会集団
第6回　家族と社会(1)ー家族のあり方と変容
第7回　家族と社会(2)ー結婚と出産
第8回　性と社会(1)ージェンダーとセクシュアリティ
第9回　性と社会(2)ー教育・スポーツ・労働とジェンダー
第10回　不平等と格差ー一億総中流意識にみる日本の格差意識
第11回　労働と産業 ー未来の仕事と働き方
第12回　消費と社会ー消費行動とマクドナルド化
第13回　コミュニティと地域社会
第14回　宗教と社会ー世界の宗教と日本人の宗教観
第15回　振り返りと統括

使用テキスト： 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
【予習】毎回、授業の前日までに授業用資料をパワーポイントでteamsにアップします。各自ダウンロードして目を通しておいてください。
【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の課題レポートに向けてノート等にまとめておいてください。
【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留 意 事 項： 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をするよう心がけてください。

科 目 コ ー ド：40020　　**科目ナンバリング：MA10B08K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **哲学の歴史（History of Philosophy）**

担 当 者： **北　夏子**

基 本 情 報

年 次 ：1　　**単 位 数：2**　　**授業形式：講義**

曜 時 ：木曜3限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格： 教職　　**ＡＬ要 素：** 15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、第2回及び第3回の授業で、まず、古代からデカルトに至るまでの哲学の歴史の大まかな流れを示します。4回目からは、カントからベルクソンの時代までの代表的な哲学者を取り上げ、彼らの哲学のエッセンスと人間的魅力を扱います。テキストは日本語訳を使います。哲学者たちの人生及び考えを吟味することで、彼らの哲学に対して自分の意見を持てるようになることを目指します。

キーワード： アンチノミー、物自体、自己意識、自由、絶対知、ニヒリズム、力への意志、超人、無意識、死の欲動、持続、笑い、社会

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 授業で解説を受けた哲学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法： 振り返り用紙　　**評 価 割 合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート　　**評 価 割 合：70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評 価 割 合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合：0%

▼そ の 他

特になし。

評 価 割 合：特になし。

授 業 計 画： 第1回　イントロダクション
第2回　古代からデカルトまで (1)
第3回　古代からデカルトまで (2)
第4回　カントの哲学について
第5回　カント『純粋理性批判』を読む
第6回　ヘーゲルの哲学について
第7回　ヘーゲル『精神現象学』を読む
第8回　ニーチェの哲学について
第9回　ニーチェ『ツァラトゥストラ』を読む
第10回　フロイトの哲学について
第11回　フロイト『夢判断』を読む
第12回　ベルクソンの哲学について
第13回　ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』を読む
第14回　ベルクソン『笑い』を読む
第15回　まとめ

使用テキスト： 授業中に扱う資料は全て印刷・配付しますが、授業で扱う全ての作品について、書籍でも手元に置いておくことをすすめます。
全部揃えるのが難しい場合は、
・アンリ・ベルクソン（2002）『意識に直接与えられたものについての試論』（合田正人・平井靖史訳）ちくま学芸文庫。
・アンリ・ベルクソン（1938）『笑い』（林達夫訳）岩波文庫。
を特におすすめします。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる（90分）。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい（90分）。
・参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学内メールで対応します。メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。

留 意 事 項： 課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科 目 コ ー ド：40023　　**科目ナンバリング：MA10B09K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：宗教学（Science of Religion）

担 当 者：北　夏子

基本情報

年 次：1　　**単 位 数：2**　　**授業形式：講義**

曜 時：木曜2限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格： 教職　　**AL 要 素：** 11.討論
14.輪読活動
15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、世界の宗教と宗教的課題について概観することから始めます。続いて、身近な体験から宗教を考えるために、指定テキストとして渡辺和子『置かれた場所で咲きなさい』を扱い、吟味していきます。このテキストで取り上げられている様々な思想についても扱い、渡辺の考えを辿っていきます。日本人に親しみをもって受け入れられているこのテキストを手掛かりに宗教について改めて考えることによって、人々の支えとなっているとともに批判対象ともなっている宗教について、自分の意見を持てるようになることを目指します。

キーワード： 宗教、生、死、老い、愛、神、人格

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた宗教学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法: 振り返り用紙　　**評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート　　**評価割合:** 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

第1回　はじめに(授業概要説明含む)
第2回　世界の宗教(1)
第3回　世界の宗教(2)
第4回　宗教の課題(1)
第5回　宗教の課題(2)
第6回　自分自身に語りかける(1):マザー・テレサ
第7回　自分自身に語りかける(2):マザー・テレサ
第8回　明日に向かって生きる(1):東日本大震災
第9回　明日に向かって生きる(2):ヴィクター・フランクル
第10回　美しく老いる(1):老いについて考える
第11回　美しく老いる(2):老いについて考える
第12回　愛するということ(1):人格
第13回　愛するということ(2):人格
第14回　レポート執筆の際の注意と研究倫理
第15回　まとめ

使用テキスト: 渡辺和子『置かれた場所で咲きなさい』幻冬舎、2012年。

上記にあげたテキスト以外で授業で使用する資料はすべて印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(90分)。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。
・参考文献

『宗教学入門』棚次正和、山中弘編、ミネルヴァ書房、2005年。
中村圭志『教養としての宗教入門　基礎から学べる信仰と文化』中公新書、2014年。

上記以外の参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。

留意事項： 課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード：41001　**科目ナンバリング：MA11A01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営学入門I a（Introduction to Management I a）**

担当者： **渡部　暢**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　**AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： 本講義では、企業や経営についての基本的知識を学習すると共に、企業や経営の役割や意味について考え、受講生一人ひとりが社会における経営の問題に興味を抱き、より上級の専門学習へと展開していけるような力を育成することを目的としています。

キーワード： 経営学史・ミクロ組織論・マクロ組織論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 経営学に関する包括的かつ中核的な理論や概念を修得する

評価方法： 期末テスト　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 様々な知識や情報を修得しながら、活用し、論理的思考を育んでいく

評価方法： ミニテストおよびレポート　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしグループディスカッション・発言・提出されたミニレポート等が著しく講義へ貢献したと認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により
深められた知見等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において著しく他者の権利等侵害する言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授 業 計 画： 1. イントロダクション：経営学の位置づけ・講義全般の目的や手法について説明する。
2. 経営学の歴史：組織論に関する歴史的な変遷や、基礎的な概念について学ぶ。組織と人間観。
3. 制度の選択：企業と会社の制度的な特徴
4. 制度の選択：コーポレートガバナンスと企業の社会的責任
5. 組織構造の基礎(1)：職能別組織と事業部制組織：
6. 組織構造の基礎(2)：プロジェクト組織とマトリックス組織
7. 組織文化
8. ケーススタディ（1）
9. ケーススタディ（2）
10. モチベーション(1)：コンテント理論とプロセス理論
11. モチベーション(2)：内発的モチベーションの理論
12.リーダーシップ論の基本(1)： 特性理論と行動理論
13. リーダーシップ論の展開(2)： 変革理論と集団のダイナミクス
14. 人的資源管理
15. 総復習

使用テキスト： 購入する必要はありませんが下記の文献を取り扱います。

藤田誠『経営学入門ベーシックプラス』中央経済社、2015年
高尾義明『はじめての経営組織論』有斐閣ストゥディア、2019年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で使用する資料はすべて掲示するので、授業後に必ず復習すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワーあるいはメールで対応します。

留 意 事 項： ミニテストを振り返る形で全体へのフィードバックを口頭で行う

科 目 コ ー ド：41001 **科目ナンバリング：MA11A01K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営学入門I b（Introduction to Management I b）**

担 当 者： **菅野 雅子**

基本情報

年 次：1 **単 位 数：2** **授業形式：講義**

曜 時：水曜5限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格： 教職 **AL 要 素：** 07 発表
10 資料調査課題
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 経営学はどういう学問なのか、基本概念を日常生活の中で体験している具体的な例と結びつけながら紹介します。前期は、会社はどのように仕組みで運営されているのか（制度の選択）、どのような目的・方針で動いているのか（理念や戦略の形成）、目的の達成のためにどのような組織の枠組みを作っているのか（組織構造）など、経営の枠組みについて学修します。講義の他に、新聞記事や報道番組の動画なども適宜活用し、事例を通じて分析や考察をしていきます。

キーワード： 経営の仕組み、企業の社会的責任、株式会社、コーポレート・ガバナンス、経営理念、経営戦略、競争戦略、組織形態,、組織構造、職務設計、組織間関係

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 経営学の基本概念、用語、各理論の概要について理解し、経営学の基礎知識を身に着ける。

評価方法： 課題　　**評価割合：50%**
期末試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 企業活動の実際について、授業で学んだ経営学の知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、考察することができる。

評価方法： 課題　　**評価割合：30%**
期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とする。グループワークへの積極的な参加・貢献・発表、質問・意見、リアクションペーパーの提出など主体的な学習姿勢で取り組んでほしい。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
【第1回】イントロダクション（授業ガイダンス）
【第2回】会社とは何か
【第3回】経営の仕組みと形態
【第4回】社会に対する会社の役割と行動
【第5回】企業の社会的責任
【第6回】株式会社の機能
【第7回】コーポレート・ガバナンス
【第8回】中間レビュー（小テスト、振り返り）
【第9回】経営理念
【第10回】経営戦略
【第11回】競争戦略
【第12回】組織形態
【第13回】組織構造と職務設計
【第14回】組織間関係
【第15回】期末レビュー（小テスト、振り返り）
※期末試験

使用テキスト： レジュメを授業内で配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
授業で使用する資料はすべて印刷・配布するので、毎回の授業後に必ず復習する。
授業中の討論や発表で、自分の意見を整理し伝えることができたかどうかを振り返る。
毎回の振り返り（授業で得られた気づきや学び、質問・感想など）をリアクションペーパーに記載し提出する。リアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業で行う。
授業内で提示された課題には必ず取り組む。課題に対するフィードバックは、授業内で総括的なコメントを行う。

＜参考文献＞※購入は必須ではありません
上林憲雄他『経験から学ぶ経営学入門第2版』有斐閣ブックス、2018年。

藤田誠『経営学入門』中央経済社、2015年。
井原久光『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房、2008年。
榊原清則『経営学入門 上・下（第2版）』日経文庫、2013年。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41002　**科目ナンバリング：MA12A01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営学入門II a（Introduction to Management II a）**

担当者： **渡部 暢**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　**AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： 本講義は前期で行われた経営学入門Ⅰに引き続き、企業や経営についての基本的知識を学習すると共に、企業や経営の役割や意味について考え、受講生一人ひとりが社会における経営の問題に興味を抱き、より上級の専門学習へと展開していけるような力を育成することを目的としています。特に経営学総論Ⅱでは、日本企業に関する経営史を学んでもらい、その後マーティング論・戦略論・ファイナンスについての基礎的な概念や理論を解説していきます。

キーワード： 日本の経営史・マーケティング論・戦略論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 経営学に関する包括的かつ中核的な理論や概念を修得する

評価方法： 期末テスト　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 様々な知識や情報を修得しながら、活用し、論理的思考を育んでいく

評価方法： ミニテスト及びミニレポート　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしグループディスカッション・発言・提出されたミニレポート等が著しく講義へ貢献したと認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により
深められた知識等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において著しく他者の権利等侵害する言動等があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1. イントロダクション：経営学総論Ⅰの総復習
2. 日本の経営史①
3. 日本の経営史②
4. マーケティングの役割・枠組み・機能①
5. マーケティングの役割・枠組み・機能②
6. ドメイン
7. ケーススタディ(1)
8. ケーススタディ(2)
9. 経営理念、目的と戦略
10. 企業戦略
11. 競争戦略と事業システム
12. 市場でのポジショニング
13. 経営資源
14. イノベーション
15. 総復習

使用テキスト： 購入する必要はありませんが下記の文献を取り扱います。

藤田誠『経営学入門ベーシックプラス』中央経済社、2015年
高尾義明『はじめての経営組織論』有斐閣ストゥディア、2019年
井原久光他『経営学入門キーコンセプト』ミネルヴァ書房、2019年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で使用する資料はすべて掲示するので、授業後に必ず復習すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワーあるいはメールで対応します。

留意事項： ミニテストを振り返る形で全体へのフィードバックを口頭で行う

科目コード：41002　**科目ナンバリング：MA12A01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **経営学入門II b(Introduction to Management II b)**

担当者： **菅野 雅子**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職

AL要素： 07 発表
10 資料調査課題
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 経営学はどういう学問なのか、基本概念を日常生活の中で体験している具体的な例と結びつけながら紹介します。後期は、企業における管理活動について、業種や管理対象ごとの固有の理論や考え方を学修します。講義の他に、新聞記事や報道番組の動画なども適宜活用し、事例を通じて分析や考察をしていきます。

キーワード： 生産管理、品質管理、生産方式、マーケティング、流通機能、物流、小売業、サービス業、サービス・マネジメント、ヒューマン・サービス、人的資源管理、日本型人事管理、評価と報酬、人材育成、モチベーション、リーダーシップ

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 経営学の基本概念、用語、各理論の概要について理解し、経営学の基礎知識を身に着ける。

評価方法： 課題　　**評価割合：50%**
期末試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 企業活動の実際について、授業で学んだ経営学の知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、考察することができる。

評価方法： 課題　　**評価割合：30%**
期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とする。グループワークへの積極的な参加・貢献・発表、質問・意見、リアクションペーパーの提出など主体的な学習姿勢で取り組んでほしい。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
【第1回】イントロダクション（授業ガイダンス）
【第2回】生産管理の枠組みと変遷
【第3回】製造業の品質管理と生産方式
【第4回】製造業のマーケティング
【第5回】流通機能と物流
【第6回】小売業のマネジメント
【第7回】サービス業のマネジメント
【第8回】中間レビュー（小テスト、振り返り）
【第9回】ヒューマン・サービス組織のマネジメント
【第10回】人的資源管理と日本型人事管理
【第11回】人材の評価と報酬
【第12回】人材育成
【第13回】従業員のモチベーション管理
【第14回】リーダーシップ
【第15回】期末レビュー（小テスト、振り返り）
※期末試験

使用テキスト： レジュメを授業内で配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
授業で使用する資料はすべて印刷・配布するので、毎回の授業後に必ず復習する。
授業中の討論や発表で、自分の意見を整理し伝えることができたかどうかを振り返る。
毎回の振り返り（授業で得られた気づきや学び、質問・感想など）をリアクションペーパーに記載し提出する。リアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業で行う。
授業内で提示された課題には必ず取り組む。課題に対するフィードバックは、授業内で総括的なコメントを行う。

＜参考文献＞※購入は必須ではありません
上林憲雄他『経験から学ぶ経営学入門第2版』有斐閣ブックス、2018年。

藤田誠『経営学入門』中央経済社、2015年。
井原久光『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房、2008年。
榊原清則『経営学入門 上・下（第2版）』日経文庫、2013年。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41003 **科目ナンバリング：MA11B01K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：会計学入門I（Introduction to Accounting Ⅰ）

担当者：長島 正浩

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜4限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職 **AL要素：** 16、17

授業の概要： 原則としてテキストに沿って授業計画どおりに進行するが、そのときの社会情勢なども取り上げ、必要な場合は適宜資料を配付して、理解の助けとすることもある。また、テキストに載っているケース・スタディの記入用紙を別途配付することもある。毎回学習した範囲で、ミニテストや簡単な口頭試問を実施する予定。

キーワード： ディスクロージャー、金融商品取引法、会社法、財務諸表、資産、負債、純資産、費用、収益、認識と測定、複式簿記、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 会計や簿記を全く知らないということを前提にして、会計を使った会社の実態の把握、複式簿記の原理、財務諸表の作成までを学修する。まさに入門の入口ぐらいのところで、会計という学問対象について知ることを目標とする。

評価方法： 記述方式による学期末試験 **評価割合：70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 会計の知識および技能の初歩を学びつつ、企業会計のもつ普遍的な理屈を学修し、会計思考力を身に付けることを目標とする。

評価方法： 記述方式による学期末試験 **評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とな

るので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 イントロダクション──会計を勉強するとどんな良いことがあるか
【第02回】 会社と会計──家計簿と会計帳簿の役割
【第03回】 上場会社と大会社──小さくても優良企業はある
【第04回】 貸借対照表と損益計算書──会社の実態を報告する
【第05回】 財務ディスクロージャー制度──なぜ粉飾決算はなくならないのか
【第06回】 単式簿記と複式簿記──500年以上前の人類最高の発明
【第07回】 複式簿記の本質──事実には必ず二面性がある
【第08回】 複式簿記の原理──仕訳の原則を押える
【第09回】 ケース・スタディ──環境会計
【第10回】 決算整理──毎日記帳できないこともある
【第11回】 貸借対照表──バランスシートにはどんな情報が載るのか
【第12回】 資産・負債・純資産──目に見えない財産がある
【第13回】 損益計算書──会社の成績には様々な種類がある
【第14回】 キャッシュ・フロー計算書──黒字でも倒産することがある
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト： 千代田邦夫『新版 会計学入門（第7版）』中央経済社、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 標準的には、予習は30分程度、復習は90分程度の学習時間が必要であろう。授業時間中にしかできなことと、自宅学習時間中にしかできないことを明確化し、質の高い充実した時間を過ごすこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後、採点が終わり次第、匿名で点数データ（点数分布、平均点、標準偏差）を公表する。

科目コード：41004 **科目ナンバリング：MA12C02K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **会計学入門II（Introduction to Accounting Ⅱ）**

担当者： **長島 正浩**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜4限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職 **AL要素：** 16,17

授業の概要： 原則としてテキストに沿って授業計画どおりに進行するが、具体例や数値例が必要な場合には適宜補助プリントを配付して、理解の助けとする。また、テキストだけでなく、そのときの経済ニュースなどで取り上げられたホットな話題を論じていくこともあるので、会計学を広く学習することとなる。毎回学習した範囲で、ミニテスト、口頭試問またはレポート作成を実施する予定である。

キーワード： 有価証券報告書、貸借対照表、損益計算書、時価基準、原価基準、低価基準、国際会計基準、リース会計、減損会計、減価償却、原価概念

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 「会計学入門Ⅱ」では、「会計学入門Ⅰ」を前提にして、会計制度、会計原則、企業会計基準、公認会計士監査の概略を学んでいく。そのためより細かい会計基準・会計手続の知識を深めていく。

評価方法: 記述方式による学期末試験　　**評価割合:** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 今度は入門の入口だったところから、門の中に入る「会計学」の学問領域へと足を踏み入れることになる。いよいよ自分の頭を使って、しっかり考えなければならない局面へとさしかかった。したがって、企業会計のもつ普遍的な理屈の理解を深めると同時に、それに基づく批判的な視野を持って論じることができる。

評価方法: 記述方式による学期末試験　　**評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

【第01回】 会社法会計──なぜ会社法に会計規定があるのか
【第02回】 金融商品取引法会計──有価証券報告書とは
【第03回】 企業会計と法人税法──利益と所得は別物
【第04回】 企業会計原則──GAAPは法律ではない
【第05回】 資産評価の基本原則──物の価値をどうやって測るか
【第06回】 金融資産の会計──有価証券の価値はいくら？
【第07回】 棚卸資産の会計──在庫品の価値はいくら？
【第08回】 有形固定資産の会計──建物の価値はいくら？
【第09回】 引当金の会計──退職金は給料の後払い
【第10回】 税効果会計──会計には税金の前払いがある
【第11回】 原価計算のプロセス──製品の製造過程も帳簿記入する
【第12回】 ケース・スタディ──1個いくらで作ったかを計算してみる
【第13回】 財務諸表監査──なぜ公認会計士が必要か
【第14回】 法定監査制度──法律が監査を義務付ける理由
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト: 千代田邦夫『新版 会計学入門(第7版)』中央経済社、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テキストを読むとか、ノートをまとめるとか、授業時間外にできることは予習・復習として自宅などで行えばよい。
標準的には、予習を30分、復習を60分は必要とし、定期試験直前はさらに試験対策のための学修時間を相当に割かなければならない。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後、採点が終わり次第、匿名で点数データ（点数分布、平均点、標準偏差）を公表する。

科目コード：41005 **科目ナンバリング：MA21B01K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営学総論（General Theory of Management）**

担当者： **渡部 暢**

基本情報

年次：カリキュラム **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：水曜5限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職 **AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： 経営学は学問上様々な分野に分化しています。その代表的な分野として組織論、戦略論、マーケティング論などが挙げられます。しかし、このような学問上の分化は、実社会では統合を要請されているはずです。そこで前期の講義では、多様な経営学を統合的に学んでいきます。

キーワード： 戦略論・ミクロ組織論・マクロ組織論・国際経営論・イノベーション論・起業論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 経営学に関する包括的かつ中核的な理論や概念を修得する

評価方法： 期末テスト **評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 様々な知識や情報を修得しながら、活用し、論理的思考を育んでいく

評価方法： ミニテストおよびレポート **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしグループディスカッション・発言・提出されたミニレポート等が著しく講義へ貢献したと認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により
深められた知見等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において著しく他者の権利等侵害する言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1. 環境の中で生きる企業
2. 経営戦略の策定
3. 全社戦略
4. 新事業開発の戦略
5. 事業戦略
6. 競争優位と事業システム
7. 事業システムの設計と構築
8. 企業組織の形態
9. モチベーションとリーダーシップ
10. 雇用システムと人材育成
11. 組織文化
12. ファミリービジネスと長寿企業
13. 国際化のマネジメント
14. イノベーションのマネジメント
15. アントレプレナーシップとベンチャービジネス

使用テキスト：購入する必要はありませんが下記の文献を取り扱います。
山田幸三『経営学概論』一般財団法人放送大学教育振興会、2018年
伊丹・加護野『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版社、2007年
藤田誠『経営学入門ベーシックプラス』中央経済社、2015年
高尾義明『はじめての経営組織論』有斐閣ストゥディア、2019年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：授業で使用する資料はすべて掲示するので、授業後に必ず復習すること。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください

授業時間外の連絡手段：講義直後、オフィスアワーあるいはメールで対応します。

留意事項：ミニテストを振り返る形で全体へのフィードバックを口頭で行う

科目コード：41006　**科目ナンバリング**：MA22C02K　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：経営学総論II（General Theory of Management II）

担当者：渡部　暢

基本情報

年次：カリキュラム　**単位数**：2　**授業形式**：講義

曜時：水曜5限　**履修可能学科・専攻**：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職　**AL要素**：17. 発問と回答

授業の概要：経営学は学問上様々な分野に分化しています。その代表的な分野として組織論、戦略論、マーケティング論などが挙げられます。しかし、このように分化している経営学を中心的に支えてきている学説が存在するのも確かです。そこで後期の講義では、経営学を支えてきている重要な学説を中心に学んでいきます。

キーワード：経営学説史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：経営学に関する包括的かつ中核的な理論や概念を修得する

評価方法： 期末レポート・ミニテスト　　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 様々な知識や情報を修得しながら、活用し、論理的思考を育んでいく

評価方法： ミニレポート　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしグループディスカッション・発言・提出されたミニレポート等が著しく講義へ貢献したと認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により
深められた知見等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において著しく他者の権利等侵害する言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. イントロダクション
2. 作業の合理化
3. 古典的経営管理論と管理原則の導入
4. 合理性と官僚制組織
5. 人間性の発見
6. 協働体系としての組織（1）
7. 協働体系としての組織（2）
8. 認識された制度の役割
9. 技術と組織構造
10. 課業環境と組織プロセス
11. 課業と組織デザイン
12. 問題解決を越えて
13. 組織の進化理論
14. 創発する戦略行動
15. 総復習

使用テキスト： 購入する必要はありませんが下記の文献を取り扱います。
岸田民樹・田中政光『経営学説史』有斐閣アルマ、2009年
伊丹・加護野『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版社、2007年
藤田誠『経営学入門ベーシックプラス』中央経済社、2015年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で使用する資料はすべて掲示するので、授業後に必ず復習すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワーあるいはメールで対応します。

留意事項： ミニテストを振り返る形で全体へのフィードバックを口頭で行う

科 目 コ ー ド : 41007　　科目ナンバリング : MA10C01K　　主な使用言語 : 日本語

授業名（英文）: キャリアデザイン（Career Design）

担 当 者 : 菅野 雅子

基本情報

年 次 : 1　　単 位 数 : 2　　授業形式 : 講義

曜 時 : 火曜2限　　履修可能学科・専攻: M

関 連 資 格 :　　ＡＬ要 素 : 07 発表
08 協同学修
10 資料調査課題
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要: キャリアとは、単に仕事・職業だけを指すのではなく、それを含めた自分らしい生き方や人生そのものを指します。キャリアを考えることは、自分自身の生き方・人生を考えることです。
本授業では、自分らしいキャリア（ワークキャリア、ライフキャリア）を検討するために、「自分を知る」、「求められていることを知る」、「仕事・会社や環境を知る」の3つの観点から授業を展開します。
これから社会に出て自立し、自らがどのように働き、どのように生きていくのか、そのためにこれからの大学生活をどう過ごすのか、それらについて自ら考え、授業でのワークを通じてアウトプットしていきます。

キーワード: 自律的なキャリア形成、キャリアライフキャリア、ワークキャリア、キャリアアンカー、社会人基礎力、自己分析、仕事研究、大学生のキャリアプラニング、就職活動、起業、仕事研究

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 「自分を知る」、「求められていることを知る」、「仕事・会社や環境を知る」という3つの視点に関して、授業で扱った知識や情報を理解している。

評価方法: 課題
プレゼンテーション　　評価割合 : 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ知識や情報を活用し、自己分析や環境分析を踏まえて、自らのキャリアデザインを構想することができる。

評価方法: 課題
プレゼンテーション　　評価割合 : 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とする。グループワークへの積極的な参加・貢献、質問・意見・発表など主体的な学習姿勢で取り組んでほしい。

評価割合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第1回】イントロダクション：キャリアとは何か、キャリアデザインとは何か
【第2回】自分を知る(1)：これまでの自分を振り返る
【第3回】自分を知る(2)：キャリア形成の3要素とキャリアアンカー
【第4回】自分を知る(3)：他者から見た自分
【第5回】求められていることを知る(1)：社会で求められる能力や態度
【第6回】求められていることを知る(2)：モチベーションと学ぶ力
【第7回】求められていることを知る(3)：コミュニケーションとマナー
【第8回】大学生活の目標共有
※課題：「大学生活の目標設定」提出
【第9回】仕事や環境を知る(1)：産業構造の変化と職業
【第10回】仕事や環境を知る(2)：労働法の知識
【第11回】仕事や環境を知る(3)：就職活動のプロセス
【第12回】仕事や環境を知る(4)：起業という選択肢について考える
【第13回】仕事研究発表(1)
【第14回】仕事研究発表(2)
【第15回】振り返りとまとめ
※学期末課題：「ケース検討と自分自身のキャリアプランニング」提出

使用テキスト： テキストは使用しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
授業で使用する資料はすべて印刷・配布するので、毎回の授業後に必ず復習する。
授業中の討論や発表で、自分の意見を整理し伝えることができたかどうかを振り返る。
毎回の振り返り（授業で得られた気づきや学び、質問・感想など）をリアクションペーパーに記載し提出する。リアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業で行う。
授業内で提示された課題には必ず取り組む。課題に対するフィードバックは、授業内で総括的なコメントを行う。

＜参考文献＞※購入は必須ではありません。もっと学びを深めたい人のために
大久保幸夫『キャリアデザイン入門Ⅰ＆Ⅱ」日経文庫、2006年。
金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新穂、2002年。
稲本恵子編著『大学生のキャリアデザイントレーニング』晃洋書房、2020年。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41008　**科目ナンバリング：MA20C05K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ビジネスリサーチ（Business Research Methods）

担当者：長谷川 博康

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 10 資料調査課題

授業の概要： ビジネスリサーチの授業では、ビジネスにおけるリサーチ、アンケート設計から調査方法、アンケートデータの集計までの講義を行います。マーケティング調査や市場調査など、様々なところでアンケート調査を行うことがあります。そこで、これらアンケートを取る方法から分析までを行うための講義を行います。
現在では、GoogleフォームやMicrosoftフォームなど、アンケート調査を行うことが簡単にでき

るようになりました。これらアンケート作成のツールを使って、簡単にアンケートを取れるようになること、またアンケート結果を集計することを目的に講義を行います。アンケート結果の基本的な統計解析から、実データの分析の説明します。

キーワード： ビジネスリサーチ、アンケート作成、アンケート調査、アンケート集計、顧客満足度調査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 基本的なデータ分析や統計解析、アンケートの手法など、調査、分析の小テストを実施します。各回の復習で、小テストが回答することができる。

評価方法： 小テスト　　**評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： データ解析や統計解析、顧客満足度の調査やアンケート調査の解析をすることができるようになる。

評価方法： 期末テスト　　**評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

理解を確認したり深めるために、授業中に発問する。良い回答があった場合には評価する。

評価割合： 10%

▼実践的ボランタリズム

授業内での他の受講者へのサポートや理解を深めるための質問、協力は評価として加点する。

評価割合： 0%

▼公正性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第01回：講義の説明と内容
第02回：調査設計の概要
第03回：データ収集について
第04回：サンプリング
第05回：質問票の作成
第06回：アンケートのデザイン
第07回：データ収集について
第08回：データのコーディング
第09回：記述統計量と推測統計
第10回：推定と検定
第11回：正規分布と標本分布
第12回：カテゴリ変数の分析
第13回：スケール変数の分析
第14回：回帰分析による多変量解析
第15回：アンケートデータの分析

使用テキスト： 毎回、資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各回授業を受けた後に各回配布した資料の確認と授業内容の復習をしてください。
参考資料として、「生活分析から政策形成へ: 地域調査の設計と分析・活用」（法律文化社）があります。こちらは、社会学のアンケート調査についてになりますが、参考になるかと思います。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。
メールでも対応しますので、連絡先は学務部に確認して下さい。

留意事項： 特になし

科目コード：41009　**科目ナンバリング：MA11A02E**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ演習Ⅰa（Leadership Seminar Ⅰa）

担当者：菅野 雅子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

ＡＬ要素： 07 発表
08 協同学修
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、リーダーシップ基礎演習で実践したグループ討議をさらに発展させ、キャンパスグッズの企画・提案プロジェクトにグループで取り組む。プロジェクトの目標達成のために、グループの中で一人ひとりがどのように役割を果たし貢献していけば良いか、お互いにどのようにコミュニケーションをとれば良いかなどについて、実践的に学修する。
本授業では、誰もが主体的に考え、それぞれの得意分野やシチュエーションに応じてリーダーシップを発揮することを目指す。

キーワード： リーダーシップ、キャンパスグッズ、グループ討議、アサーティブ・コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： チームに貢献するリーダーシップとコミュニケーションの知識を身につけている。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： グループ討議の中で様々な思考技法を活用し、アサーティブ・コミュニケーションを通じて、創造的なアイデアを生み出すことができる。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの間でアサーティブ・コミュニケーションを実践し、グループとしてのコンセンサス（合意）を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回：オリエンテーション：リーダーシップ行動方針の策定
第02回：プロジェクト キックオフ:
第03回：アイデア発想
第04回：商品コンセプトの検討
第05回：提案グッズの確定
第06回：中間発表準備
第07回：中間発表
第08回：商品コンセプトの再検討・改善
第09回：グッズ提案の仕上げ
第10回：クラス内最終発表会
第11回： 経営フォーラム参加
第12回：全クラス合同発表会
第13回：グループ活動の振り返り
第14回：リーダーシップ行動方針振り返り
第15回：全体の振り返り、まとめ

※経営フォーラムは講師の都合により日程が変更されることがあります。

使用テキスト：テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべてteamsに掲示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：授業後に出される課題は必ず提出するとともに、授業中のグループ討議でアサーティブ・コミュニケーションやリーダーシップが実践できたかどうか振り返ること。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：各自パソコンを持参すること。
各クラスの担当教員はアドバイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
課題についてはIC−UNIPAの課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行う。

科目コード：41009　**科目ナンバリング**：MA11A02E　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：リーダーシップ演習I b（Leadership Seminar I b）

担当者：長島 正浩

基本情報

年次：1　**単位数**：2　**授業形式**：演習

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻**：M

関連資格：　**AL要素**：07、08、10、11、16

授業の概要：リーダーシップ演習Iで体感した、チームに貢献するリーダーシップ行動を発展させ、エマージェント・リーダーシップを身につけます。
グループワークで取り組む課題は、新商品/新サービス開発プロジェクトです。経営戦略論やマーケテイングの一部を実践できるようになります。

キーワード：リーダーシップ、新商品・新サービス開発、グループワーク、マーケティング、経営戦略

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標：プロジェクト・マネジメントに必要なリーダーシップ・スタイルやコミュニケーションに関する知識・技能と、マーケティングや経営戦略などの新商品・新サービス開発に関する知識を身につけている。

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 新製品・新サービス開発に関する知識・技能を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして一つの具体的アイデアへとまとめあげることができる

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第01回　.授業ガイダンス【全体授業】
・全クラス合同オリエンテーション（目指すリーダーシップ行動と、新商品開発戦略）
・リーダーシップ演習Ⅲの狙い、・商品開発について
商品開発はどのように行う？
商品開発事例調査のフォーマット説明
・商品開発事例研究の進め方

第02回　商品開発事例を選ぶ（チームに分かれて、商品を決める）
・調査テーマを決める
・誰もが面白い商品開発事例を集めて持ち寄る。
商品名、企業名

第03回　商品開発の基本理論を学ぶ
・商品開発の意義、商品開発の方法
・フォーマットにもとづいて調査開始

第04回　調査結果にもとづいてプレゼン資料の作成

第05回　クラスでのプレゼン

第06回　全体発表会（新製品開発事例）【全体授業】
・各クラスから2チーム　計10チームのプレゼン
・優秀チームの発表

第07回　ガイダンスとゼミ説明会【全体授業】
・新商品開発企画について（基本的な理論の講義）
・商品企画書の作成方法
・2022年度開講ゼミ（経営演習）の説明会

第08回　グループワーク　新商品企画の検討　新商品テーマのアイデア出し

第09回　グループワーク　新商品の検討

第10回　グループワーク　新商品の決定（商品のデザイン、仕様、イメージ、機能など）

第11回　いかに売っていくか（STP＋4P検討）
・ターゲット市場を決めて、ポジショニング、マーケティング戦略を考察する

第12回　商品のネーミング、商品コンセプト、販売計画などのマーケティング計画　を策定

第13回　発表準備　販売計画、単純な損益計画（原価計算、損益分岐点）に取り組む

・プロモーションツール作成
・新製品チラシ、パンフレット、ビデオ、CM　コピーなどを資料に盛り込む
・クラス発表会　意見交換、修正　全体発表会準備
第14回　新商品企画全体発表会①　5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表
第15回　新商品企画全体発表会②　5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくこと(60分)
・授業後に課題が出された場合は必ず提出し、授業中のグループ討議でリーダーシップを実践できたかどうかを振り返ること(60分)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：
・デバイスの持参を推奨します。調査・情報収集や発表資料の作成等で活用しますので、可能な限りノートPCやタブレット等を授業に持参してください。なお、原則として紙での資料配布は致しません。UNIPA等にpdf資料をアップしますので紙の資料が必要な場合はそれを印刷してください。詳しくは1回目の全体授業(ガイダンス)で説明します。
・各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
・授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う

科目コード：41009　**科目ナンバリング：MA11A02E**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **リーダーシップ演習Ⅰc(Leadership Seminar Ⅰc)**

担当者： **米岡　英治**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 07 発表
08 協同学修
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、リーダーシップ基礎演習で実践したグループ討議をさらに発展させ、キャンパスグッズの企画・提案プロジェクトにグループで取り組む。プロジェクトの目標達成のために、グループの中で一人ひとりがどのように役割を果たし貢献していけば良いか、お互いにどのようにコミュニケーションをとれば良いかなどについて、実践的に学修する。
本授業では、誰もが主体的に考え、それぞれの得意分野やシチュエーションに応じてリーダーシップを発揮することを目指す。

キーワード： リーダーシップ、キャンパスグッズ、グループ討議、アサーティブ・コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： チームに貢献するリーダーシップとコミュニケーションの知識を身につけている。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： グループ討議の中で様々な思考技法を活用し、アサーティブ・コミュニケーションを通じて、創

造的なアイデアを生み出すことができる。

評価方法：グループ討議、発表　　**評価割合**：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの間でアサーティブ・コミュニケーションを実践し、グループとしてのコンセンサス（合意）を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回：オリエンテーション：リーダーシップ行動方針の策定
第02回：プロジェクト キックオフ:
第03回：アイデア発想
第04回：商品コンセプトの検討
第05回：提案グッズの確定
第06回：中間発表準備
第07回：中間発表
第08回：商品コンセプトの再検討・改善
第09回：グッズ提案の仕上げ
第10回：クラス内最終発表会
第11回： 経営フォーラム参加
第12回：全クラス合同発表会
第13回：グループ活動の振り返り
第14回：リーダーシップ行動方針振り返り
第15回：全体の振り返り、まとめ

※経営フォーラムは講師の都合により日程が変更されることがあります。

使用テキスト：テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべてteamsに掲示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：授業後に出される課題は必ず提出するとともに、授業中のグループ討議でアサーティブ・コミュニケーションやリーダーシップが実践できたかどうか振り返ること。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：各自パソコンを持参すること。
各クラスの担当教員はアドバイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
課題についてはIC−UNIPAの課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行う。

科目コード：41009　　**科目ナンバリング**：MA11A02E　　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：リーダーシップ演習Ｉｄ（Leadership Seminar Ｉｄ）

担 当 者： 佐藤　和明

基本情報

年 次 ：1　　**単位数：**2　　**授業形式：**演習

曜 時 ：火曜3限　　**履修可能学科・専攻：** M

関 連 資 格：　　**ＡＬ要素：** 07 発表
08 協同学修
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、リーダーシップ基礎演習で実践したグループ討議をさらに発展させ、キャンパスグッズの企画・提案プロジェクトにグループで取り組む。プロジェクトの目標達成のために、グループの中で一人ひとりがどのように役割を果たし貢献していけば良いか、お互いにどのようにコミュニケーションをとれば良いかなどについて、実践的に学修する。
本授業では、誰もが主体的に考え、それぞれの得意分野やシチュエーションに応じてリーダーシップを発揮することを目指す。

キーワード： リーダーシップ、キャンパスグッズ、グループ討議、アサーティブ・コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： チームに貢献するリーダーシップとコミュニケーションの知識を身につけている。

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：**30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： グループ討議の中で様々な思考技法を活用し、アサーティブ・コミュニケーションを通じて、創造的なアイデアを生み出すことができる。

評価方法：グループ討議、発表　　**評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの間でアサーティブ・コミュニケーションを実践し、グループとしてのコンセンサス（合意）を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授 業 計 画：
第01回：オリエンテーション：リーダーシップ行動方針の策定
第02回：プロジェクト キックオフ:
第03回：アイデア発想
第04回：商品コンセプトの検討
第05回：提案グッズの確定
第06回：中間発表準備
第07回：中間発表

第08回:商品コンセプトの再検討・改善
第09回:グッズ提案の仕上げ
第10回:クラス内最終発表会
第11回: 経営フォーラム参加
第12回:全クラス合同発表会
第13回:グループ活動の振り返り
第14回:リーダーシップ行動方針振り返り
第15回:全体の振り返り、まとめ

※経営フォーラムは講師の都合により日程が変更されることがあります。

使用テキスト: テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべてteamsに掲示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後に出される課題は必ず提出するとともに、授業中のグループ討議でアサーティブ・コミュニケーションやリーダーシップが実践できたかどうか振り返ること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項: 各自パソコンを持参すること。
各クラスの担当教員はアドバイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
課題についてはIC−UNIPAの課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行う。

科目コード:41009 **科目ナンバリング:MA11A02E** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): リーダーシップ演習Ⅰe(Leadership Seminar Ⅰe)

担当者: 長谷川 博康

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:火曜3限 **履修可能学科・専攻: M**

関連資格: **AL要素:** 07 発表
08 協同学修
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要: この授業では、リーダーシップ基礎演習で実践したグループ討議をさらに発展させ、キャンパスグッズの企画・提案プロジェクトにグループで取り組む。プロジェクトの目標達成のために、グループの中で一人ひとりがどのように役割を果たし貢献していけば良いか、お互いにどのようにコミュニケーションをとれば良いかなどについて、実践的に学修する。
本授業では、誰もが主体的に考え、それぞれの得意分野やシチュエーションに応じてリーダーシップを発揮することを目指す。

キーワード: リーダーシップ、キャンパスグッズ、グループ討議、アサーティブ・コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: チームに貢献するリーダーシップとコミュニケーションの知識を身につけている。

評価方法: グループ討議、発表 **評価割合:30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: グループ討議の中で様々な思考技法を活用し、アサーティブ・コミュニケーションを通じて、創造的なアイデアを生み出すことができる。

評価方法：グループ討議、発表　　**評価割合**：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの間でアサーティブ・コミュニケーションを実践し、グループとしてのコンセンサス（合意）を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回：オリエンテーション：リーダーシップ行動方針の策定
第02回：プロジェクト キックオフ:
第03回：アイデア発想
第04回：商品コンセプトの検討
第05回：提案グッズの確定
第06回：中間発表準備
第07回：中間発表
第08回：商品コンセプトの再検討・改善
第09回：グッズ提案の仕上げ
第10回：クラス内最終発表会
第11回： 経営フォーラム参加
第12回：全クラス合同発表会
第13回：グループ活動の振り返り
第14回：リーダーシップ行動方針振り返り
第15回：全体の振り返り、まとめ

※経営フォーラムは講師の都合により日程が変更されることがあります。

使用テキスト：テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべてteamsに掲示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：授業後に出される課題は必ず提出するとともに、授業中のグループ討議でアサーティブ・コミュニケーションやリーダーシップが実践できたかどうか振り返ること。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：各自パソコンを持参すること。
各クラスの担当教員はアドバイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
課題についてはIC−UNIPAの課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行う。

科目コード：41010　　**科目ナンバリング**：MA23A01E　　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：リーダーシップ演習III a（Leadership Seminar III a）

担当者：澤端　智良

基本情報

年 次 :2　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 水曜2限　　**履修可能学科・専攻:** M

関連資格 :　　**AL要素 :** 07、08、10、11、16

授業の概要 : リーダーシップ演習Iで体感した、チームに貢献するリーダーシップ行動を発展させ、エマージェント・リーダーシップを身につけます。
グループワークで取り組む課題は、新商品/新サービス開発プロジェクトです。経営戦略論やマーケテイングの一部を実践できるようになります。

キーワード : リーダーシップ、新商品・新サービス開発、グループワーク、マーケティング、経営戦略

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : プロジェクト・マネジメントに必要なリーダーシップ・スタイルやコミュニケーションに関する知識・技能と、マーケティングや経営戦略などの新商品・新サービス開発に関する知識を身につけている。

評価方法 : グループ討議、発表　　**評価割合 : 30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 新製品・新サービス開発に関する知識・技能を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして一つの具体的アイデアへとまとめあげることができる

評価方法 : グループ討議、発表　　**評価割合 : 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 :

第01回　.授業ガイダンス【全体授業】
・全クラス合同オリエンテーション（目指すリーダーシップ行動と、新商品開発戦略）
・リーダーシップ演習Ⅲの狙い、・商品開発について
商品開発はどのように行う？
商品開発事例調査のフォーマット説明
・商品開発事例研究の進め方

第02回　商品開発事例を選ぶ（チームに分かれて、商品を決める）
・調査テーマを決める
・誰もが面白い商品開発事例を集めて持ち寄る。
商品名、企業名

第03回　商品開発の基本理論を学ぶ

・商品開発の意義、商品開発の方法
・フォーマットにもとづいて調査開始
第04回　調査結果にもとづいてプレゼン資料の作成
第05回　クラスでのプレゼン
第06回　全体発表会（新製品開発事例）【全体授業】
・各クラスから2チーム　計10チームのプレゼン
・優秀チームの発表
第07回　ガイダンスとゼミ説明会【全体授業】
・新商品開発企画について（基本的な理論の講義）
・商品企画書の作成方法
・2022年度開講ゼミ（経営演習）の説明会
第08回　グループワーク　新商品企画の検討　新商品テーマのアイデア出し
第09回　グループワーク　新商品の検討
第10回　グループワーク　新商品の決定（商品のデザイン、仕様、イメージ、機能など）
第11回　いかに売っていくか（STP＋4P検討）
・ターゲット市場を決めて、ポジショニング、マーケティング戦略を考察する
第12回　商品のネーミング、商品コンセプト、販売計画などのマーケティング計画　を策定
第13回　発表準備　販売計画、単純な損益計画（原価計算、損益分岐点）に取り組む
・プロモーションツール作成
・新製品チラシ、パンフレット、ビデオ、CM　コピーなどを資料に盛り込む
・クラス発表会　意見交換、修正　全体発表会準備
第14回　新商品企画全体発表会①　5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表
第15回　新商品企画全体発表会②　5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくこと（60分）
・授業後に課題が出された場合は必ず提出し、授業中のグループ討議でリーダーシップを実践できたかどうかを振り返ること（60分）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：
・デバイスの持参を推奨します。調査・情報収集や発表資料の作成等で活用しますので、可能な限りノートPCやタブレット等を授業に持参してください。なお、原則として紙での資料配布は致しません。UNIPA等にpdf資料をアップしますので紙の資料が必要な場合はそれを印刷してください。詳しくは1回目の全体授業（ガイダンス）で説明します。
・各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
・授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う

科目コード：41010　**科目ナンバリング：MA23A01E**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ演習Ⅲ b（Leadership Seminar Ⅲ b）

担当者：長谷川　博康

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**ＡＬ要素：** 07、08、10、11、16

授業の概要： リーダーシップ演習Iで体感した、チームに貢献するリーダーシップ行動を発展させ、エマー

ジェント・リーダーシップを身につけます。
グループワークで取り組む課題は、新商品/新サービス開発プロジェクトです。経営戦略論やマーケテイングの一部を実践できるようになります。

キーワード： リーダーシップ、新商品・新サービス開発、グループワーク、マーケティング、経営戦略

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： プロジェクト・マネジメントに必要なリーダーシップ・スタイルやコミュニケーションに関する知識・技能と、マーケティングや経営戦略などの新商品・新サービス開発に関する知識を身につけている。

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 新製品・新サービス開発に関する知識・技能を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして一つの具体的アイデアへとまとめあげることができる

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合： 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第01回　.授業ガイダンス【全体授業】
・全クラス合同オリエンテーション（目指すリーダーシップ行動と、新商品開発戦略）
・リーダーシップ演習Ⅲの狙い、・商品開発について
商品開発はどのように行う？
商品開発事例調査のフォーマット説明
・商品開発事例研究の進め方

第02回　商品開発事例を選ぶ（チームに分かれて、商品を決める）
・調査テーマを決める
・誰もが面白い商品開発事例を集めて持ち寄る。
商品名、企業名

第03回　商品開発の基本理論を学ぶ
・商品開発の意義、商品開発の方法
・フォーマットにもとづいて調査開始

第04回　調査結果にもとづいてプレゼン資料の作成

第05回　クラスでのプレゼン

第06回　全体発表会（新製品開発事例）【全体授業】
・各クラスから2チーム　計10チームのプレゼン
・優秀チームの発表

第07回　ガイダンスとゼミ説明会【全体授業】
・新商品開発企画について（基本的な理論の講義）
・商品企画書の作成方法
・2022年度開講ゼミ（経営演習）の説明会
第08回　グループワーク　新商品企画の検討　新商品テーマのアイデア出し
第09回　グループワーク　新商品の検討
第10回　グループワーク　新商品の決定（商品のデザイン、仕様、イメージ、機能など）
第11回　いかに売っていくか（STP＋4P検討）
・ターゲット市場を決めて、ポジショニング、マーケティング戦略を考察する
第12回　商品のネーミング、商品コンセプト、販売計画などのマーケティング計画　を策定
第13回　発表準備　販売計画、単純な損益計画（原価計算、損益分岐点）に取り組む
・プロモーションツール作成
・新製品チラシ、パンフレット、ビデオ、CM　コピーなどを資料に盛り込む
・クラス発表会　意見交換、修正　全体発表会準備
第14回　新商品企画全体発表会①　5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表
第15回　新商品企画全体発表会②　5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくこと（60分）
・授業後に課題が出された場合は必ず提出し、授業中のグループ討議でリーダーシップを実践できたかどうかを振り返ること（60分）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：
・デバイスの持参を推奨します。調査・情報収集や発表資料の作成等で活用しますので、可能な限りノートPCやタブレット等を授業に持参してください。なお、原則として紙での資料配布は致しません。UNIPA等にpdf資料をアップしますので紙の資料が必要な場合はそれを印刷してください。詳しくは1回目の全体授業（ガイダンス）で説明します。
・各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
・授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う

科目コード：41010　**科目ナンバリング：MA23A01E**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ演習III c（Leadership Seminar III c）

担当者：田口　尚史

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 07、08、10、11、16

授業の概要： リーダーシップ演習Iで体感した、チームに貢献するリーダーシップ行動を発展させ、エマージェント・リーダーシップを身につけます。
グループワークで取り組む課題は、新商品/新サービス開発プロジェクトです。経営戦略論やマーケテイングの一部を実践できるようになります。

キーワード： リーダーシップ、新商品・新サービス開発、グループワーク、マーケティング、経営戦略

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： プロジェクト・マネジメントに必要なリーダーシップ・スタイルやコミュニケーションに関する知識・技能と、マーケティングや経営戦略などの新商品・新サービス開発に関する知識を身につけている。

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：**30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 新製品・新サービス開発に関する知識・技能を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして一つの具体的アイデアへとまとめあげることができる

評価方法：グループ討議、発表　　**評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第01回　.授業ガイダンス【全体授業】
・全クラス合同オリエンテーション（目指すリーダーシップ行動と、新商品開発戦略）
・リーダーシップ演習Ⅲの狙い、・商品開発について
商品開発はどのように行う？
商品開発事例調査のフォーマット説明
・商品開発事例研究の進め方

第02回　商品開発事例を選ぶ（チームに分かれて、商品を決める）
・調査テーマを決める
・誰もが面白い商品開発事例を集めて持ち寄る。
商品名、企業名

第03回　商品開発の基本理論を学ぶ
・商品開発の意義、商品開発の方法
・フォーマットにもとづいて調査開始

第04回　調査結果にもとづいてプレゼン資料の作成

第05回　クラスでのプレゼン

第06回　全体発表会（新製品開発事例）【全体授業】
・各クラスから2チーム　計10チームのプレゼン
・優秀チームの発表

第07回　ガイダンスとゼミ説明会【全体授業】
・新商品開発企画について（基本的な理論の講義）
・商品企画書の作成方法
・2022年度開講ゼミ（経営演習）の説明会

第08回　グループワーク　新商品企画の検討　新商品テーマのアイデア出し

第09回　グループワーク　新商品の検討

第10回　グループワーク　新商品の決定（商品のデザイン、仕様、イメージ、機能など）

第11回　いかに売っていくか（STP＋4P検討）
・ターゲット市場を決めて、ポジショニング、マーケティング戦略を考察する
第12回　商品のネーミング、商品コンセプト、販売計画などのマーケティング計画　を策定
第13回　発表準備　販売計画、単純な損益計画（原価計算、損益分岐点）に取り組む
・プロモーションツール作成
・新製品チラシ、パンフレット、ビデオ、CM　コピーなどを資料に盛り込む
・クラス発表会　意見交換、修正　全体発表会準備
第14回　新商品企画全体発表会①　5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表
第15回　新商品企画全体発表会②　5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくこと（60分）
・授業後に課題が出された場合は必ず提出し、授業中のグループ討議でリーダーシップを実践できたかどうかを振り返ること（60分）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：
・デバイスの持参を推奨します。調査・情報収集や発表資料の作成等で活用しますので、可能な限りノートPCやタブレット等を授業に持参してください。なお、原則として紙での資料配布は致しません。UNIPA等にpdf資料をアップしますので紙の資料が必要な場合はそれを印刷してください。詳しくは1回目の全体授業（ガイダンス）で説明します。
・各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
・授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う

科目コード：41010　**科目ナンバリング：MA23A01E**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ演習Ⅲ d（Leadership Seminar Ⅲ d）

担当者： Yodtomorn Pimprapa

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**ＡＬ要素：** 07、08、10、11、16

授業の概要： リーダーシップ演習Iで体感した、チームに貢献するリーダーシップ行動を発展させ、エマージェント・リーダーシップを身につけます。
グループワークで取り組む課題は、新商品/新サービス開発プロジェクトです。経営戦略論やマーケテイングの一部を実践できるようになります。

キーワード： リーダーシップ、新商品・新サービス開発、グループワーク、マーケティング、経営戦略

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： プロジェクト・マネジメントに必要なリーダーシップ・スタイルやコミュニケーションに関する知識・技能と、マーケティングや経営戦略などの新商品・新サービス開発に関する知識を身につけている。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 新製品・新サービス開発に関する知識・技能を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グ

ループとして一つの具体的アイデアへとまとめあげることができる

評価方法：グループ討議、発表　　**評価割合**：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第01回　.授業ガイダンス【全体授業】
・全クラス合同オリエンテーション（目指すリーダーシップ行動と、新商品開発戦略）
・リーダーシップ演習Ⅲの狙い、・商品開発について
商品開発はどのように行う？
商品開発事例調査のフォーマット説明
・商品開発事例研究の進め方
第02回　商品開発事例を選ぶ（チームに分かれて、商品を決める）
・調査テーマを決める
・誰もが面白い商品開発事例を集めて持ち寄る。
商品名、企業名
第03回　商品開発の基本理論を学ぶ
・商品開発の意義、商品開発の方法
・フォーマットにもとづいて調査開始
第04回　調査結果にもとづいてプレゼン資料の作成
第05回　クラスでのプレゼン
第06回　全体発表会（新製品開発事例）【全体授業】
・各クラスから2チーム　計10チームのプレゼン
・優秀チームの発表
第07回　ガイダンスとゼミ説明会【全体授業】
・新商品開発企画について（基本的な理論の講義）
・商品企画書の作成方法
・2022年度開講ゼミ（経営演習）の説明会
第08回　グループワーク　新商品企画の検討　新商品テーマのアイデア出し
第09回　グループワーク　新商品の検討
第10回　グループワーク　新商品の決定（商品のデザイン、仕様、イメージ、機能など）
第11回　いかに売っていくか（STP＋4P検討）
・ターゲット市場を決めて、ポジショニング、マーケティング戦略を考察する
第12回　商品のネーミング、商品コンセプト、販売計画などのマーケティング計画　を策定
第13回　発表準備　販売計画、単純な損益計画（原価計算、損益分岐点）に取り組む
・プロモーションツール作成
・新製品チラシ、パンフレット、ビデオ、CM　コピーなどを資料に盛り込む
・クラス発表会　意見交換、修正　全体発表会準備
第14回　新商品企画全体発表会①　5チーム【全体授業】

・優秀チームの投票・発表
第15回　新商品企画全体発表会②　5チーム 【全体授業】
・優秀チームの投票・発表

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくこと(60分)
・授業後に課題が出された場合は必ず提出し、授業中のグループ討議でリーダーシップを実践できたかどうかを振り返ること(60分)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：
・デバイスの持参を推奨します。調査・情報収集や発表資料の作成等で活用しますので、可能な限りノートPCやタブレット等を授業に持参してください。なお、原則として紙での資料配布は致しません。UNIPA等にpdf資料をアップしますので紙の資料が必要な場合はそれを印刷してください。詳しくは1回目の全体授業(ガイダンス)で説明します。
・各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
・授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う

科目コード：41010　**科目ナンバリング：MA23A01E**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **リーダーシップ演習Ⅲ e(Leadership Seminar Ⅲ e)**

担当者： **佐藤　和明**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 07、08、10、11、16

授業の概要： リーダーシップ演習Iで体感した、チームに貢献するリーダーシップ行動を発展させ、エマージェント・リーダーシップを身につけます。
グループワークで取り組む課題は、新商品/新サービス開発プロジェクトです。経営戦略論やマーケテイングの一部を実践できるようになります。

キーワード： リーダーシップ、新商品・新サービス開発、グループワーク、マーケティング、経営戦略

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： プロジェクト・マネジメントに必要なリーダーシップ・スタイルやコミュニケーションに関する知識・技能と、マーケティングや経営戦略などの新商品・新サービス開発に関する知識を身につけている。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 新製品・新サービス開発に関する知識・技能を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして一つの具体的アイデアへとまとめあげることができる

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第01回 .授業ガイダンス【全体授業】
・全クラス合同オリエンテーション（目指すリーダーシップ行動と、新商品開発戦略）
・リーダーシップ演習Ⅲの狙い、・商品開発について
商品開発はどのように行う？
商品開発事例調査のフォーマット説明
・商品開発事例研究の進め方

第02回 商品開発事例を選ぶ（チームに分かれて、商品を決める）
・調査テーマを決める
・誰もが面白い商品開発事例を集めて持ち寄る。
商品名、企業名

第03回 商品開発の基本理論を学ぶ
・商品開発の意義、商品開発の方法
・フォーマットにもとづいて調査開始

第04回 調査結果にもとづいてプレゼン資料の作成

第05回 クラスでのプレゼン

第06回 全体発表会（新製品開発事例）【全体授業】
・各クラスから2チーム 計10チームのプレゼン
・優秀チームの発表

第07回 ガイダンスとゼミ説明会【全体授業】
・新商品開発企画について（基本的な理論の講義）
・商品企画書の作成方法
・2022年度開講ゼミ（経営演習）の説明会

第08回 グループワーク 新商品企画の検討 新商品テーマのアイデア出し

第09回 グループワーク 新商品の検討

第10回 グループワーク 新商品の決定（商品のデザイン、仕様、イメージ、機能など）

第11回 いかに売っていくか（STP＋4P検討）
・ターゲット市場を決めて、ポジショニング、マーケティング戦略を考察する

第12回 商品のネーミング、商品コンセプト、販売計画などのマーケティング計画 を策定

第13回 発表準備 販売計画、単純な損益計画（原価計算、損益分岐点）に取り組む
・プロモーションツール作成
・新製品チラシ、パンフレット、ビデオ、CM コピーなどを資料に盛り込む
・クラス発表会 意見交換、修正 全体発表会準備

第14回 新商品企画全体発表会① 5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表

第15回 新商品企画全体発表会② 5チーム【全体授業】
・優秀チームの投票・発表

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくこと（60分）
・授業後に課題が出された場合は必ず提出し、授業中のグループ討議でリーダーシップを実践できたかどうかを振り返ること（60分）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： ・デバイスの持参を推奨します。調査・情報収集や発表資料の作成等で活用しますので、可能な限りノートPCやタブレット等を授業に持参してください。なお、原則として紙での資料配布は致しません。UNIPA等にpdf資料をアップしますので紙の資料が必要な場合はそれを印刷してください。詳しくは1回目の全体授業（ガイダンス）で説明します。
・各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。
・授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う

科目コード：41012 **科目ナンバリング：MA22A01E** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **リーダーシップ演習II a（Leadership Seminar II a）**

担当者： Yodtomorn Pimprapa

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：演習**

曜時：水曜2限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： **ＡＬ要素：** 04 課題解決
07 発表
08 協同学修
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、与えられた集団討論課題に対して、グループごとに図書館やインターネットを利用しながら、①情報を収集し課題の実態を把握、②対策等のメリットやデメリットなど論点を整理、③演習参加者での討論を行うことで、課題や対策等の理解を深めるとともに解決策の検討を行います。演習担当者は、レジュメ作成・論点整理の仕方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方などについてサポートしていきます。

キーワード： リーダーシップ、問題解決、集団討論、論理的思考

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法： グループ討議、発表 **評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法： グループ討議、発表 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議

や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回　オリエンテーション
第02回　集団討論課題1
第03回　課題1の文献調査・レジュメ作成
第04回　課題1の論点整理
第05回　第1回集団討論（課題1）
第06回　集団討論課題2
第07回　課題2の文献調査・レジュメ作成
第08回　課題2の論点整理
第09回　第2回集団討論（課題2）
第10回　集団討論課題3
第11回　課題3の文献調査・レジュメ作成、論点整理
第12回　第3回集団討論（課題3）
第13回　集団討論課題4
第14回　課題4の文献調査・レジュメ作成、論点整理
第15回　第4回集団討論（課題4）、全体の振り返り

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷しての配布、またはTeamsで共有する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後に出される課題は必ず提出し、授業中のグループ討議で適度に自分の意見を伝えられたかどうかを振り返ること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： グループで調査、資料作成を行う上で、ノートPCを持参すること。
課題に対する報告資料はTeamsを利用しグループ単位で提出する。集団討論実施後に課題内容、取り組んだ結果に対して口頭でフィードバックを行います。
各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41012　**科目ナンバリング：MA22A01E**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ演習II b（Leadership Seminar II b）

担当者：佐藤　和明

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

ＡＬ要素： 04 課題解決
07 発表
08 協同学修

11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、与えられた集団討論課題に対して、グループごとに図書館やインターネットを利用しながら、①情報を収集し課題の実態を把握、②対策等のメリットやデメリットなど論点を整理、③演習参加者での討論を行うことで、課題や対策等の理解を深めるとともに解決策の検討を行います。演習担当者は、レジュメ作成・論点整理の仕方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方などについてサポートしていきます。

キーワード： リーダーシップ、問題解決、集団討論、論理的思考

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回　オリエンテーション
第02回　集団討論課題1
第03回　課題1の文献調査・レジュメ作成
第04回　課題1の論点整理
第05回　第1回集団討論（課題1）
第06回　集団討論課題2
第07回　課題2の文献調査・レジュメ作成
第08回　課題2の論点整理
第09回　第2回集団討論（課題2）
第10回　集団討論課題3
第11回　課題3の文献調査・レジュメ作成、論点整理
第12回　第3回集団討論（課題3）
第13回　集団討論課題4
第14回　課題4の文献調査・レジュメ作成、論点整理

第15回　第4回集団討論（課題4）、全体の振り返り

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷しての配布、またはTeamsで共有する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後に出される課題は必ず提出し、授業中のグループ討議で適度に自分の意見を伝えられたかどうかを振り返ること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： グループで調査、資料作成を行う上で、ノートPCを持参すること。
課題に対する報告資料はTeamsを利用しグループ単位で提出する。集団討論実施後に課題内容、取り組んだ結果に対して口頭でフィードバックを行います。
各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41012　**科目ナンバリング：MA22A01E**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ演習II c（Leadership Seminar II c）

担当者：米岡　英治

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

AL要素： 04 課題解決
07 発表
08 協同学修
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、与えられた集団討論課題に対して、グループごとに図書館やインターネットを利用しながら、①情報を収集し課題の実態を把握、②対策等のメリットやデメリットなど論点を整理、③演習参加者での討論を行うことで、課題や対策等の理解を深めるとともに解決策の検討を行います。演習担当者は、レジュメ作成・論点整理の仕方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方などについてサポートしていきます。

キーワード： リーダーシップ、問題解決、集団討論、論理的思考

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することが

できる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回　オリエンテーション
第02回　集団討論課題1
第03回　課題1の文献調査・レジュメ作成
第04回　課題1の論点整理
第05回　第1回集団討論（課題1）
第06回　集団討論課題2
第07回　課題2の文献調査・レジュメ作成
第08回　課題2の論点整理
第09回　第2回集団討論（課題2）
第10回　集団討論課題3
第11回　課題3の文献調査・レジュメ作成、論点整理
第12回　第3回集団討論（課題3）
第13回　集団討論課題4
第14回　課題4の文献調査・レジュメ作成、論点整理
第15回　第4回集団討論（課題4）、全体の振り返り

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷しての配布、またはTeamsで共有する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後に出される課題は必ず提出し、授業中のグループ討議で適度に自分の意見を伝えられたかどうかを振り返ること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： グループで調査、資料作成を行う上で、ノートPCを持参すること。
課題に対する報告資料はTeamsを利用しグループ単位で提出する。集団討論実施後に課題内容、取り組んだ結果に対して口頭でフィードバックを行います。
各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41012　**科目ナンバリング：MA22A01E**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ演習II d（Leadership Seminar II d）

担当者：菅野　雅子

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜 時 : 水曜2限　　**履修可能学科・専攻:** M

関 連 資 格 :

ＡＬ要素 : 04 課題解決
07 発表
08 協同学修
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要 : この授業では、与えられた集団討論課題に対して、グループごとに図書館やインターネットを利用しながら、①情報を収集し課題の実態を把握、②対策等のメリットやデメリットなど論点を整理、③演習参加者での討論を行うことで、課題や対策等の理解を深めるとともに解決策の検討を行います。演習担当者は、レジュメ作成・論点整理の仕方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方などについてサポートしていきます。

キーワード : リーダーシップ、問題解決、集団討論、論理的思考

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標 : レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法 : グループ討議、発表　　**評 価 割 合 :** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法 : グループ討議、発表　　**評 価 割 合 :** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評 価 割 合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 :

第01回　オリエンテーション
第02回　集団討論課題1
第03回　課題1の文献調査・レジュメ作成
第04回　課題1の論点整理
第05回　第1回集団討論（課題1）
第06回　集団討論課題2
第07回　課題2の文献調査・レジュメ作成
第08回　課題2の論点整理
第09回　第2回集団討論（課題2）
第10回　集団討論課題3

第11回　課題3の文献調査・レジュメ作成、論点整理
第12回　第3回集団討論（課題3）
第13回　集団討論課題4
第14回　課題4の文献調査・レジュメ作成、論点整理
第15回　第4回集団討論（課題4）、全体の振り返り

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷しての配布、またはTeamsで共有する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後に出される課題は必ず提出し、授業中のグループ討議で適度に自分の意見を伝えられたかどうかを振り返ること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： グループで調査、資料作成を行う上で、ノートPCを持参すること。
課題に対する報告資料はTeamsを利用しグループ単位で提出する。集団討論実施後に課題内容、取り組んだ結果に対して口頭でフィードバックを行います。
各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41012　**科目ナンバリング：MA22A01E**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ演習II e（Leadership Seminar II e）

担当者：長谷川　博康

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

AL要素： 04 課題解決
07 発表
08 協同学修
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、与えられた集団討論課題に対して、グループごとに図書館やインターネットを利用しながら、①情報を収集し課題の実態を把握、②対策等のメリットやデメリットなど論点を整理、③演習参加者での討論を行うことで、課題や対策等の理解を深めるとともに解決策の検討を行います。演習担当者は、レジュメ作成・論点整理の仕方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方などについてサポートしていきます。

キーワード： リーダーシップ、問題解決、集団討論、論理的思考

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法：グループ討議、発表　　**評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回　オリエンテーション
第02回　集団討論課題1
第03回　課題1の文献調査・レジュメ作成
第04回　課題1の論点整理
第05回　第1回集団討論（課題1）
第06回　集団討論課題2
第07回　課題2の文献調査・レジュメ作成
第08回　課題2の論点整理
第09回　第2回集団討論（課題2）
第10回　集団討論課題3
第11回　課題3の文献調査・レジュメ作成、論点整理
第12回　第3回集団討論（課題3）
第13回　集団討論課題4
第14回　課題4の文献調査・レジュメ作成、論点整理
第15回　第4回集団討論（課題4）、全体の振り返り

使用テキスト：　テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷しての配布、またはTeamsで共有する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：　グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後に出される課題は必ず提出し、授業中のグループ討議で適度に自分の意見を伝えられたかどうかを振り返ること。

障がいのある履修者への対応：　可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段：　オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：　グループで調査、資料作成を行う上で、ノートPCを持参すること。
課題に対する報告資料はTeamsを利用しグループ単位で提出する。集団討論実施後に課題内容、取り組んだ結果に対して口頭でフィードバックを行います。
各クラスの担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41016　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：　経営戦略論I（Strategic Management I）

担 当 者： 渡部　暢

基本情報

年 次 ：カリキュラム　　**単 位 数 ：**2　　**授業形式：**講義

曜 時 ：水曜4限　　**履修可能学科・専攻：** Ｅ Pe Pc Ｃ Ｗ Ｆ Ｎ Ｍ

関 連 資 格 ：　　**ＡＬ要 素 ：** 17. 発問と回答

授業の概要： 経営戦略論は、個別の事業を対象とする事業戦略（競争戦略）と、複数の事業の編成を対象とする全社戦略に大別されます。そこで経営戦略論Ｉでは、事業戦略の基本となる理論を中心に体系的な知識を身につけつつ、ツールとして戦略論が実践で活用できるようになることを目指していきます。抽象的な理論が理解しやすくなるように、具体的な事例を取りあげながら授業を進めていきます。

キーワード： 事業戦略、全社戦略、ケーススタディ

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 経営戦略論に関する包括的かつ中核的な理論や概念を修得する

評価方法： 期末テスト　　**評 価 割 合 :** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 経営戦略論に関する知識や情報を修得しながら、それを活用し、論理的思考を育んでいく

評価方法：ミニテスト及びミニレポート　　**評 価 割 合 :** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしグループディスカッション・発言・提出されたミニレポート等が著しく講義へ貢献したと認められる場合は、評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により
深められた知見等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において著しく他者の権利等侵害する言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 ：

1. イントロダクション：戦略とは何か
2. 業界の構造分析
3. ポジショニング
4. コストリーダーシップ
5. 差別化
6. 経営資源
7. 事例研究（1）
8. 事例研究（2）
9. 垂直統合
10. 製品ライフサイクル

11. ゲーム論①
12. 情報の経済学①
13. 情報の経済学②
14. 取引費用理論
15. 総復習

使用テキスト: 購入する必要はありませんが下記の文献を中心に取り扱います。
綱倉久永他『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年
井上達彦他『経営戦略ベーシックプラス』中央経済社、2020年
嶋口充輝他『1からの戦略論』中央経済社、2009年
ジェイ・B・バーニー『企業戦略論上・中・下』、ダイヤモンド社、2013年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業で使用する資料はすべて掲示するので、授業後に必ず復習すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 講義直後、オフィスアワーあるいはメールで対応します。

留意事項: ミニテストを振り返る形で全体へのフィードバックを口頭で行う

科目コード:41017 **科目ナンバリング:MA32C01K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 経営戦略論II(Strategic Management II)

担当者: 渡部 暢

基本情報

年次:3 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:水曜4限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 17. 発問と回答

授業の概要: 本講義では前期の概念や理論を簡単に復習しながら、全社戦略の基本となる理論を学んでいきます。全社戦略論に関する体系的な知識を身につけつつ、ツールとしての戦略が実践で活用できるようになることを目指していきます。また抽象的な理論が理解しやすくなるように、具体的な事例を取りあげながら授業を進めていきます。

キーワード: 事業戦略、全社戦略、ケーススタディ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 経営戦略論に関する包括的かつ中核的な理論や概念を修得する

評価方法: 期末レポート **評価割合:30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な知識や情報を修得しながら、活用し、論理的思考を育んでいく

評価方法: ミニテスト・ミニレポート・発表 **評価割合:70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしグループディスカッション・発言・提出されたミニレポート等が著しく講義へ貢献したと認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により
深められた知見等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において著しく他者の権利等侵害する言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1．前期の総復習
2. ドメイン
3. 戦略的提携
4. 多角化
5. 多角化企業の資源配分
6．M&A
7．事例研究(1)
8．事例研究(2)
9．事例研究(3)
10．境界の変動
11．戦略策定と実行プロセス
12．不確実性とリアルオプション
13．意思決定としての戦略
14. イノベーションと戦略
15. 総復習

使用テキスト： 購入する必要はありませんが下記の文献を取り扱います。
綱倉久永他『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年
井上達彦他『経営戦略ベーシックプラス』中央経済社、2020年
嶋口充輝他『1からの戦略論』中央経済社、2009年
ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』ダイヤモンド社、2013年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で使用する資料はすべて掲示するので、授業後に必ず復習すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワーあるいはメールで対応します。

留意事項： ミニテストを振り返る形で全体へのフィードバックを口頭で行います。
経営戦略論Ⅱは、基本的に前期で学んだ事業戦略（競争戦略）の基本理論や概念は習得していることを前提に進行していきます。それゆえに戦略論Ⅱを選択する場合基本的にはⅠを履修済みであることが望ましいです。

科目コード：41018　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：**日本語

授業名（英文）： 経営組織論（Organizations）

担当者： 菅野　雅子

基本情報

年次：3　　**単位数：**2　　**授業形式：**講義

曜 時 : 木曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :

AL 要 素 : 07 発表
11 討論
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要: 本授業では、主にミクロ組織論の領域から、組織の中で他者や集団・チームとうまく付き合うための理論と実践の知識を学修します。具体的には、組織行動学の理論をもとに、実際に会社に入ってから経験する事象をとりあげて、組織の中で人はどのように状況を知覚しどのように行動するのか、どうすれば一人ひとりの力を最大限発揮して組織の成果を最大化できるのかなどについて考察します。講義の他に、演習としてケース教材を活用し、組織の課題分析や問題解決の方法について具体的に検討していきます。
演習（ケース検討）の授業回は、予習が必須になります。

キーワード: 組織社会化、組織コミットメント、組織ストレス、チーム・マネジメント、心理的安全性、グループダイナミックス、リーダーシップ、理論と持論、マネジメント、パワー、政治、組織開発、ケースメソッド

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 現実の職場の中で起こりやすい組織の問題、および問題の構造について理解している。

評価方法: 課題
討論と発表
授業内テスト

評 価 割 合 : 35%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ組織論の知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、組織の課題を考察することができる。

評価方法: 課題
討論と発表
授業内テスト

評 価 割 合 : 35%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とする。グループワークへの積極的な参加・貢献・発表、質問・意見、リアクションペーパーの提出など主体的な学習姿勢で取り組んでほしい。
出席、課題やリアクションペーパーの提出状況、演習（ケース検討）の授業回での発言頻度などを評価指標とする。

評 価 割 合 : 30%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼ 公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 : 【第1回】イントロダクション（授業ガイダンス）
【第2回】入社と組織社会化
【第3回】組織と個人の関係性

【第4回】組織ストレス
【第5回】チーム・マネジメントと心理的安全性
【第6回】★演習（ケース検討）
【第7回】グループダイナミクス
【第8回】リーダーシップ理論とリーダーシップの持論
【第9回】マネジャーの仕事
【第10回】★演習
【第11回】パワーと政治
【第12回】組織開発による組織変革
【第13回】★演習（ケース検討）
【第14回】★演習（ケース検討）
【第15回】知識の確認（授業内テスト）、振り返りとまとめ

使用テキスト： テキストは指定しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布するので、授業後に必ず復習する。
授業中の討論や発表で、自分の意見を整理し伝えることができたかどうかを振り返る。
毎回の振り返り（授業で得られた気づきや学び、質問・感想など）をリアクションペーパーに記載し提出する。リアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業で行う。

【重要】
演習の回は、ケース教材の予習をしてくることが必須となる。ケース教材が配られたら、必ず予習課題に取り組み、所定の期日までに提出してから授業に臨むようにすること。
予習課題をベースに、授業内でグループワークおよび全体討議で検討する。

＜参考文献＞※購入は必須ではありません
稲葉祐之ほか『キャリアで語る経営組織―個人の論理と組織の論理』有斐閣アルマ、2010年。
鈴木竜太『はじめての経営学 経営組織論』東洋経済新報社、2018年。
スティーブンP.ロビンズ著・高木晴夫訳『新版 組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社、2009年。
田尾雅夫編著『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房、2010。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。大学のメールアドレスでも受け付けます。

留意事項： 特になし。

科目コード：41019　**科目ナンバリング：MA30C02K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営情報論（Management Information）**

担当者： **米岡　英治**

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 17 発問と回答

授業の概要： 情報化社会になり社会環境が大きく速く変化している状況において、近年ますますデータの活用が重要になっていることを学ぶ。また、データ活用に対応する情報技術や企業の変革についても理解を深めると同時に、データ活用の基本となるITシステムの仕組みを理解する。
企業の組織、業務、戦略はさまざまであり、このような情報システムを作ればよいというものはありません。しかし、現在の情報システムを見直し再構築する上での共通した考え方、注意すべき点などはあります。これらを学ぶとともに、企業経営においての情報の活用について、意思決定、システム連携、マーケティング等における活用領域の広がりの観点から学びま

す。
また、情報活用における注意点、現代社会においてデータ活用に対する倫理観などについて学ぶ（セキュリティ、プライバシー、忘れられる権利、価値観の対立など）。

キーワード： 経営情報システム、コミュニケーション、情報管理、企業間連携、ICT、情報倫理、情報公開

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ①経営情報と経営戦略、組織論の関係について基本的な考え方、②組織構造、企業間関係、情報公開などの変化、③情報管理、情報倫理、情報資源活用の重要性について理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験　　**評価割合：**80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 経営情報システムの今日的利用について、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：学期末筆記試験およびリフレクションノート　　**評価割合：**20%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の質疑応答の内容から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験やリフレクションノートの記述内容により認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第01回】授業概要、データから情報へ、経営資源としての情報
【第02回】組織の情報処理、経営戦略と情報
【第03回】経営情報システムの変遷
【第04回】企業における情報処理
【第05回】ビジネスプロセス革新
【第06回】情報処理技術の活用（1）情報技術基盤・ネットワークとその活用
【第07回】情報処理技術の活用（2）組織コミュニケーション
【第08回】インターネットビジネス戦略
【第09回】情報管理・活用（1）　情報化投資、組織体制、ITガバナンス
【第10回】情報管理・活用（2）　企業内情報共有・ナレッジマネジメント
【第11回】企業間連携（組織構造・組織間関係の変化）
【第12回】持たざる情報化
【第13回】情報化社会における課題（1）企業活動
【第14回】情報化社会における課題（2）情報通信技術、情報倫理
【第15回】情報公開（CSR-ESG,非財務情報開示）、全体振り返り
定期試験

使用テキスト： 資料をそのつど配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布資料について復習するとともに、新聞・雑誌などで企業動向に注意しておくこと。
参考文献として次のものを推薦する。
宮川公男・上田豊編著, 2014『経営情報システム』第4版 中央経済社
遠山 暁・村田 潔・岸 眞理子（著）2015『経営情報論 新版補訂』有斐閣
遠山暁・村田潔・古賀広志(2021)『現代経営情報論』有斐閣

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： リフレクションノートに対するフィードバックを授業時間に口頭で行います。

科目コード：41020　**科目ナンバリング：MA20C02K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営管理論（Business Administration）**

担当者： **菅野 雅子**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 07 発表
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 経営管理論は、企業の適切な運営を管理的な側面から追求する学問領域です。1人で成しえない大きなことを行うために組織が生まれますが、その組織を運営していくために必要な能力が管理能力です。
本授業では、経営管理論の基本的な理論や知識の学修します。前半は、現代の経営管理論の基礎を築いたともいえる古典理論、新古典理論、近代管理論について、代表的な学説や理論をレビューします。後半は、経営管理に関する主要トピックを取り上げて、テーマごとの代表的な理論・概念を抑え、具体的な企業事例を交えながら考察します。
いずれの回も、講義とグループワークを組合せて、理論を現実の場面に当てはめながら分析・考察をしていきます。

キーワード： マネジメント、科学的管理法、管理過程論、管理原則、官僚制組織、人間関係論、行動科学、近代管理論、組織デザイン、組織文化、ソーシャル・キャピタル、組織学習、知識創造企業、組織変革

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 経営管理論の主要理論、用語、各理論の概要を理解し、経営管理論の基礎知識を身に着ける。

評価方法： 課題
期末試験　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ経営管理論の知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、現実の企業のマネジメントについて考察することができる。

評価方法： 課題
期末試験　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とする。グループワークへの積極的な参加・貢献・発表、質問・意見、リアクションペーパーの提出など主体的な学習姿勢で取り組んでほしい。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
【第1回】イントロダクション（授業ガイダンス）
【第2回】マネジメントの誕生とテイラーの科学的管理法
【第3回】ファヨールの管理過程論と管理原則
【第4回】合理性の追求と官僚制組織
【第5回】メイヨー＝レスリスバーガーの人間関係論
【第6回】人間性の発見と行動科学
【第7回】協働体系としての組織とバーナード＝サイモン理論
【第8回】中間レビュー（小テスト、振り返り）
【第9回】組織デザイン
【第10回】組織文化
【第11回】組織学習
【第12回】組織変革
【第13回】組織におけるソーシャル
【第14回】イノベーションと知識創造企業
【第15回】期末レビュー（小テスト、振り返り）
※期末試験

使用テキスト： 特になし。授業中に教材を配布

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
授業で使用する資料はすべて印刷・配布するので、毎回の授業後に必ず復習する。
授業中の討論や発表で、自分の意見を整理し伝えることができたかどうかを振り返る。
毎回の振り返り（授業で得られた気づきや学び、質問・感想など）をリアクションペーパーに記載し提出する。リアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業で行う。
授業内で提示された課題には必ず取り組む。課題に対するフィードバックは、授業内で総括的なコメントを行う。

＜参考文献＞※購入は必須ではない。さらに学びを深めたい人のための参考文献は、授業内で適宜ご紹介する。
上野恭裕・馬場大治『経営管理論』中央経済社、2016年。
井原久光『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房、2008年。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41022　**科目ナンバリング：**MA21C02K　**主な使用言語：**日本語

授業名（英文）： 人材マネジメント論I（Human Resource Management I）

担当者： 菅野 雅子

基本情報

年次：2　**単位数：**2　**授業形式：**講義

曜 時 : 木曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :

AL 要 素 : 07 発表
10 資料調査課題
11 討論
16 振り返り用紙と応答

授業の概要: 人材マネジメントとは企業におけるヒトというリソースをいかにマネジメントしていくかという管理領域です。本授業では、日本企業の人材マネジメントの代表的な仕組み・制度・施策とその実態について概観し、現状の課題や今後の方向性について検討します。前半では、日本型雇用とそれに関連する人事施策について検討します。後半では、ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進、高齢者雇用、ダイバーシティなど、近年の主要トピックに関する人事施策について検討します。

キーワード: 人的資源管理、日本型人事管理、等級制度、評価、賃金、労働時間管理、人材育成、若年者雇用、ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進、非正規労働、多様な働き方、働き方改革

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 企業の人材マネジメントの主要な仕組み・制度・施策に関する基礎知識を身に着ける。

評価方法: 課題
期末試験　　**評 価 割 合 :** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 企業の人材マネジメントの実際について、授業で学んだ知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、考察することができる。

評価方法: 課題
期末試験　　**評 価 割 合 :** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とする。グループワークへの積極的な参加・貢献、質問・意見・発表など主体的な学習姿勢で取り組んでほしい。

評 価 割 合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 :
【第1回】イントロダクション（授業ガイダンス）
【第2回】人的資源管理の枠組みと日本型人事管理の特徴
【第3回】等級制度
【第4回】評価制度
【第5回】賃金制度
【第6回】労働時間管理
【第7回】人材育成
【第8回】中間レビュー（小テスト、振り返り）
【第9回】若年者雇用

【第10回】ワーク・ライフ・バランス
【第11回】女性活躍推進
【第12回】非正規労働
【第13回】高齢者雇用
【第14回】多様な働き方
【第15回】期末レビュー（小テスト、振り返り）
※期末試験

使用テキスト： 授業内でレジュメを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布するので、毎回の授業後に必ず復習する。
授業中の討論や発表で、自分の意見を整理し伝えることができたかどうかを振り返る。
毎回の振り返り（授業で得られた気づきや学び、質問・感想など）をリアクションペーパーに記載し提出する。リアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業で行う。
授業内で提示された課題には必ず取り組む。課題に対するフィードバックは、授業内で総括的なコメントを行う。

＜参考文献＞※購入は必須ではありません
守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞出版社、2010年。
平野光俊・江夏幾多郎『人事管理―人と企業、ともに活きるために』有斐閣ストゥディア、2018年。
奥林康司編著『入門人的資源管理』中央経済社、2010年。
今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト人事管理入門〈第2版〉』日本経済新聞出版、2009年。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41023　**科目ナンバリング：MA22C03K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **人材マネジメント論II（Human Resource Management II）**

担当者： **笠原　一絵**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 11　討議

授業の概要： 経営資源はヒト、モノ、カネ、情報と言われる中で、ヒトは最も重要な資源です。本講座では企業が目標達成に向けて、組織を構成する「ヒト（人的資源）」をいかにマネジメントしていくかについて学習することを目的とします。
近年の日本企業は、時代の変化と共に大きな転換期を迎えています。かつては終身雇用や年功序列を特徴として、企業に入社すれば雇用が確保され、年齢と共に昇進し給与も右肩上がりでした。しかし現代の企業はグローバルな競争環境で急速な変化への対応を迫られる、雇用の多様化や流動化、成果主義への移行と課題など、ヒトをマネジメントする方法や考え方を模索し、大きな変化を遂げてきています。
そこで、本講座ではこのような変化の中での人材マネジメントの現状や課題を学習し、今後への展望を検討していく予定です。

キーワード： 人材マネジメント、戦略的人的資源管理、グローバル化、労働の多様化、ワークライフバランス、働き方の新潮流、ピープルアナリティクス

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 日本企業の人材マネジメントの現代的特徴を理解し、多様な角度から企業の人材マネジメント

を分析・検討することができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：70%**
クラスでの発言

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 企業の人材マネジメントに関して、論理的に考察し、表現することができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：30%**
クラスでの発言

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により深められた知見等が授業中の発言やレポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実戦により深められた知見等が授業中の発言やレポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述において人権侵害・差別的発言など著しく公正を欠く行動や、レポートにおける盗用等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1. オリエンテーション
2.人材マネジメント論の概要
3.人事評価／パフォーマンス・マネジメント
4.報酬
5.事例　従来からの働き方改革
6.事例　成果主義の課題の理解
7.事例　人材育成のついての今日的課題
8.事例　人材マネジメントと企業戦略
9.企業の求める人材
10.グローバル化と人材マネジメント
11.働き方の多様化、ワークライフバランス
12.HRテクノロジーとピープルアナリティクス
13.人材マネジメントに関する今日的課題
14.人材マネジメントに関する新潮流
15.まとめ
※　状況により内容は変更する場合があります。

使用テキスト： 特に指定しません。必要に応じて資料等を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
＜事前準備学習＞
資料を事前に配布する場合には、全て読み各自で考えをまとめておいてください。この場合、予習をしていないと授業は全く理解できませんので、必ず行ってきてください。

＜参考文献＞
ハーバード・ビジネス・レビュー(2020)『人材育成・人事の教科書』ダイヤモンド社

HRインスティテュート(2020)『人材マネジメントの基本』日本実業出版社
上林 憲雄編著『人的資源管理』中央経済社 2015
小池和男『仕事の経済学第3版』東洋経済 2005
守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞出版社 2004 他
上記の本の購入は必須ではありません。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー等で対応する予定です。詳細は授業内で伝えます。

留意事項: 特になし

科目コード:41026 **科目ナンバリング:MA30C03K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **イノベーションマネジメント(Innovation Management)**

担当者: **米岡 英治**

基本情報

年次:3 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:木曜3限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 17 発問と回答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)
イノベーションとは技術革新を示すものではなく、さまざまなモノ・コトを新たに繋ぎ合わせて行くことである。近年では、製造業に属する企業における考え方もモノづくりから、コトづくりに変化している。どのような価値を提供するかが重視されているが、技術が不要ということではない。自社が必要とする技術をどのように得るのか、どのようなビジネスモデルに変化させるのかが問われている。本科目では、技術経営の視点から、技術・イノベーションのマネジメントに関する基本を学ぶとともに、近年の新たな技術の影響を考えます。また、担当教員の実務経験から考えられる内容も踏まえて、今後の進展に関する考察をしていきます。

キーワード: イノベーション、技術戦略、標準化、収益化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 顧客の求める価値、イノベーションモデル、近年の技術動向から企業が検討しなければならないことなどについて理解し、解答することができる。また今後のビジネスモデルに関して、考えを述べられるようになる。

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 調査・考察を行いイノベーションの影響について、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート **評価割合:20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の質疑応答の内容から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第01回】イントロダクション　授業概要、キーワード
【第02回】技術戦略と価値づくり
【第03回】研究開発とイノベーション　概論
【第04回】研究開発モデル、イノベーション戦略（1）オープン化
【第05回】イノベーション戦略（2）技術と市場
【第06回】イノベーションのパターン
【第07回】イノベーションと製品アーキテクチャ、知識創造・知財マネジメント
【第08回】イノベーションの収益化、サービスイノベーション
【第09回】情報技術の発展が及ぼす影響（1）（IoT、ロボティクス）
【第10回】情報技術の発展が及ぼす影響（2）（人工知能、ビッグデータ）
【第11回】情報技術の発展が及ぼす影響（3）（価値共創、デジタル・ファブリケーション）
【第12回】イノベーションと戦略
【第13回】イノベーションと組織（1）
【第14回】イノベーションと組織（2）
【第15回】振り返り

定期試験

使用テキスト： 資料をそのつど配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布資料について復習するとともに、新聞・雑誌などで企業動向に注意しておくこと。
参考文献として次のものを推薦する。
長内厚・水野由香里・中本龍市・鈴木信貴著, 2021『イノベーション・マネジメント』中央経済社

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： リフレクションノートに対するフィードバックを授業時間に口頭で行います。

科目コード：41027　**科目ナンバリング：MA30C04K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ビジネスプラニング（Business Planning）

担当者：佐藤　和明

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 10.資料調査課題
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： インターネット等の情報通信技術である「ICT（Information Communication Technology）」を活用することは必須の時代になっていることは周知の事実である。私達の生活にも深く浸透しているが、本講義では実際にICTはどのように活用されているのか、そしてビジネスシーン

での取り組みなどを中心に、最新ICTキーワードとともに、学生自らビジネスをプランニングし、最終的には模擬的な事業計画書を作成することを目的とする。また、WebプランナーやWebコンサルティングの実務経験を活かし、ICT関連のビジネスプラン作成に必要な基礎知識を講義していく。

シラバスに記載されている各回の内容は、ビジネスモデル作成時に必要となる知識等を教員が助言する内容の一部であり、基本的にはビジネスプランニング、フレームワークの利用方法、模擬事業計画書の作成を主な内容としている。

キーワード： ICT、Webビジネス、フレームワーク（3C分析、SWOT分析）

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ICTとビジネスに関する基本知識とフレームワークの完成度で評価。

評価方法： 各回の自らの進捗状況を教員へ報告。　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ICTの概要を理解し、Webビジネスやアプリ開発などにビジネスモデルを構築し、事業計画書を擬似的に作成することができる。

評価方法： 学期末
レポート　**評価割合：60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が最終レポートである事業計画書に盛り込まれている場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する。

評価割合：0%

▼公正性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回　オリエンテーション
本講義の各回の概要と進行方法、成績評価について説明します。ICTを活用したビジネスの調査もくしは関心のある業界を考え、次回から行うビジネスモデルの課題の礎となるビジネスや企業を選定します。

第2回　情報リテラシーの応用
情報リテラシーの総復習と同時に、次回以降の講義の関連性を概説します。特にコンピューターリテラシーとメディアリテラシーを中心に、総復習し、今後の講義への派生させるための知識を固めます。また、最終レポートである事業計画書作成の準備として、マインドマップの作成方法を解説します。

第3回　インターネットの仕組と歴史
現代では、様々な情報を発信する手段としての様々なメディアが存在しますが、過去の情報

発信方法には、どのような方法があったのか。情報の歴史を概説し、情報加工に必要な各ツールの進化、現況などを概説します。前回の続きで、ビジネスモデルのマインドマップを作成していきます。

第4回　情報収集の方法と活用
「情報収集（取材）」する方法を中心に授業を進めます。情報検索、アンケートやヒアリング（インタービュー）手法、白書などの情報リサーチ方法を中心に情報へのアクセス手法を学びます。ビジネスモデルのマインドマップを作成過程で指摘された部分を修正してさらにブラッシュアップする

第5回　インターネットサービスとビジネス類型
有料、無料を問わず私たちは、様々なインターネットサービスを利用しています。これらのインターネットサービスのビジネス類型、収益モデルなどを概説します。また、マインドマップを作成したビジネスや企業の新規事業の競合他社をリサーチし、競合分析を行う準備をする。

第6回　ソーシャルメディアとビジネス活用
ソーシャルメディアはネットクチコミの1つと捉え、様々な企業が活用しています。ソーシャルメディアにおける情報発信とビジネス活用を概説するとともに、災害におけるソーシャルメディアの有用性など、災害時の取り組みも説明します。ビジネスモデルの講義としては、競合分析のフレームワークである3C分析の手法を説明後、作成して行きます。

第7回　ビックデータとビジネスの現状
ビッグデータビジネスは、「ビッグデータを用いて社会・経済の問題解決や、業務の付加価値向上を行う、あるいは支援する事業」と目的的に定義されています。ビックデータとは、どのようなデータであるのか、そして活用の実例と仕組を概説します。

第8回
IoTにおけるビジネスモデル
「IoT（Internet of Things）」とは、PCやスマートフォンなどの情報通信機器のみならず、すべてのモノに通信機能を持たせ、ネット接続し、モノの機能をさらに高めることをいいます。IoT、そしてビックデータとの併用事例などを中心に概説します。3C分析をさらにSWOT分析に落とし込んで行く作業にはいります。SWOT分析の説明後に、作成していきます。

第9回　ビジネスにおけるクラウドコンピューティング
サーバ資源を安価に供給するための仕組みとして米国で生まれたクラウドコンピューティングのシステム。ビジネスシーンでの活用事例と仕組、そして個人で活用するライフハック術を解説します。前回同様にSWOT分析のフレームワークを作成していきます。

第10回　eビジネスにおけるマーケティングの基本
eビジネスにおけるマーケティング手法には様々な種類が存在します。各マーケティング手法を概説するとともに、マーケティングの基本知識を再確認します。SWOT分析後にさらにステージアップしてクロスSWOT分析を行います。クロスSWOT分析の手法を概説します。

第11回　デジタルマーケティングの現状と活用
インターネット上のマーケティング手法のうち、重要な検索エンジンマーケティング、ソーシャルメディアマーケティング、eビジネスの成績表ともいえるアクセスログ解析の概要と利用方法の基本知識を学びます。各自、クロスSWOTで指摘された部分を修正し、ブラッシュアップしていきます。

第12回　インターネット上における決済システム
ネット上では、様々な取引と決済がおこなわれています。決済システムの仕組を中心に、eビジネスの取引手法を解説します。また、ビジネスモデル作成では、クロスSWOTで得られた結果を元に、ピクト図を作成します。ピクト図の作成方法を説明します。

第13回　情報と危機管理（法律）
法律がICTの技術に追いついていない実情もありますが、個人情報保護法、知的財産法など様々なIT関連法が存在します。知っておくべき、ICT活用関連の法律を業態別に概説します。ビジネスモデルでは、ピクト図を完成させます。

第14回　情報と危機管理（セキュリテイ）
情報、そしてICT技術をビジネスで活用する上でのリスク全般。ハードウェア上の危機管理、そして広報活動に欠かせない炎上のメカニズムと対応策を事例とともに学びます。ビジネスモデルでは、事業計画書の書き方を説明し、実際に執筆して行きます。

第15回　総括
前回までの講義のまとめ及び提出レポート（事業計画書）の書き方を説明し、質疑応答します。

使用テキスト： 各回、参考資料のPDFを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となるWebサイトや文献を指定するので、それらを読み込んでください。また、PowerPoint、場合によってはEXCELで作成した図表を利用し、最終的なレポートをWordで提出します。各回、講義中にノートに作成した図表、自らのビジネスモデルの概要を帰宅後にパソコンでまとめることも復習となります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 初回に伝えるオフィスアワーで対応します。

留意事項： PowerPoint、場合によってはEXCELで作成した図表を利用し、最終的なレポートをWordで提出します。
各回の講義には、ノートPCの持ち込みを可とします。
課題についてはIC−UNIPAの課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行います。

科目コード：41028　　**科目ナンバリング：MA20C06K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営史（History of Management）**

担当者： **笠原　一絵**

基本情報

年次：カリキュラム　　**単位数：2**　　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　　**AL要素：** 11　討議

授業の概要： 経営学の研究は現実の企業が直面した課題を調査し分析することから成り立ってきています。本講座では、日本の経営史の発展について学びます。特に、創造的な企業家の相次いだ登場により、日本が近代国家から経済大国へと成長した原動力となったと言えます。それらの企業の軌跡を学ぶことで、日本の企業家の考え方や経営手法の特徴を認識し、今後更にグローバル化が進展する時代における日本企業が進むべき道筋についても検討していきます。

キーワード： 江戸時代の商家、財閥の形成、企業の多角化、新興コンツェルン、財閥解体、日本型生産システム

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 日本の産業や企業の歴史に関する基礎知識を習得し、産業や企業の歴史的発展のダイナミズムを理解した上で、今後の日本企業のあり方について考えることができる。

評価方法： 中間試験　　**評価割合：70%**
レポート
クラスでの発言等

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 企業の課題と解決方法を歴史的に考察した上で、今後の企業のあり方について論理的に考察し、表現することができる。

評価方法： 中間試験　　**評価割合：30%**
レポート
クラスでの発言等

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により深められた知見等が授業中の発言や中間試験・レポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実戦により深められた知見等が授業中の発言や中間試験・レポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や中間試験・レポートの記述において人権侵害・差別的発言など著しく公正を欠く行動や、中間試験でのカンニングやレポートにおける盗用等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1.オリエンテーション 、経営学説史についての概説
2.江戸時代の経営
3.明治の産業とビジネス
4.近代産業経営の成立
5.大企業時代の到来（財閥の多角化と組織）
6.大戦間の歴史と都市型産業の誕生
7.中間テスト
8.重化学工業の開拓
9.日本型人事管理の誕生
10.戦後復興期の日本企業（財閥解体と戦後型企業集団形成へ）
11.高度経済成長から安定成長へ
12.日本的生産システムの形成
13.流通革命の発展
14.大企業のリストラクチャリング
15.まとめ
※　状況により内容は変更する場合があります。

使用テキスト： 特になし。必要に応じて資料を使用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ＜事前準備学習＞
事前資料を使用した授業では、指定された範囲を全て読み、各自で考えをまとめておいてください。この場合、予習をしていないと授業は全く理解できませんので、必ず行ってきてください。

＜参考文献＞
安部 悦生他(2020)『ケースブック アメリカ経営史〔新版〕』有斐閣
ジェームス・マクグラス、ボブ・ベイツ(2015)『経営理論大全』朝日新聞出版
スチュアート・クレイナー、嶋口充輝監訳、岸本義之・黒岩健一郎訳(2000)『マネジメントの世紀 1901～2000』東洋経済新報社
宮本又郎、岡部桂史、平野恭平編著(2014)『1からの経営史』碩学舎
宇田川勝、生田淳編(2011)『企業家に学ぶ 日本経営史』有斐閣ブックス
加藤健太、大石直樹(2013)『ケースに学ぶ 日本の企業』有斐閣ブックス 他
上記の本の購入は必須ではありません。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー等で対応する予定です。詳細は授業内で伝えます。

留意事項: 特になし

科目コード:41030 **科目ナンバリング:MA30C16K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): ソーシャルビジネス論(Social Business)

担当者: 笠原 一絵

基本情報

年次:3 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:木曜5限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 11 討論

授業の概要: 2006年にグラミン銀行(バングラデシュ)のムハマド・ユヌス氏がノーベル平和賞を受賞したことで、「ソーシャルビジネス」という言葉は有名になりました。ソーシャルビジネスは社会的課題の解決にビジネスの手法を用いて取り組む事業で、福祉や医療などの地域社会が抱える課題から、環境や貧困などの更に地球規模の課題など様々な社会的課題を対象としています。
これらは単なる寄付やボランティアに依存するのではなく、企業やNPOなどの組織が事業として社会的課題を解決しようとしています。ソーシャルビジネスとは何か、なぜそのような考え方が生じたのか、具体的にはどのような事業が運営されているのか、などについて学んだ上で、今後社会でソーシャルビジネスに各自がどのように関わるようになるか、深く考えていく予定です。

キーワード: ソーシャルビジネス、社会起業家、NPO、地域活性化、福祉、育児、食料支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ソーシャルビジネス(社会的企業)とはどのようなものかを把握し、事例を学習した上で、社会的課題の解決方法について分析することができる。

評価方法: レポート
クラスでの発言
評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会的課題の解決に向けて、身近な問題から各自がどのように関わることができるかを論理的に考察し、表現することができる。

評価方法: レポート
クラスでの発言
評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により深められた知見等が授業中の発言やレポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実戦により深められた知見等が授業中の発言やレポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポート等の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公正を欠く行動や、レポートにおける盗用等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 次のようなテーマについて講義とディスカッションを中心に行います。

1.オリエンテーション
2.ソーシャルビジネス（社会的企業）の誕生とその背景
3.BOPの変遷
4.事例　安全な水の提供
5.CSR、CSV、SDGs、ESGについて
6.事例　グラミン銀行
7.事例　社会貢献ビジネスの新潮流
8.事例　途上国支援とビジネス
9.事例　食料支援
10.事例　高齢化社会と地域活性化
11.事例　地域社会への貢献
12.事例　病院と地域社会
13.事例　飢餓と飽食の解消
14.事例　地域創生
15.まとめ
※　状況により事例内容は変更する場合があります。

使用テキスト： 特に指定しません。必要に応じて資料や教材を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ＜事前準備学習＞
必要な場合には教材を事前に配布しますので、全て読み各自で考えをまとめておいてください。この場合、予習をしていないと授業は全く理解できませんので、必ず行ってきてください。

＜参考文献＞
SSIR Japan（2022）『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版 01 ソーシャルイノベーションの始め方』SSIR Japan（スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビューの日本版）
田口 一成（2021）『9割の社会問題はビジネスで解決できる』PHP研究所
ムハマド ユヌス（2018）『3つのゼロの世界ー貧困0・失業0・CO2排出0の新たな経済』早川書房
小暮真久（2012）『社会をよくしてお金も稼げるしくみのつくりかた』ダイヤモンド社
駒崎弘樹（2011）『「社会を変える」を仕事にする』ちくま文庫
塚本一郎、山岸秀雄　編著（2009）『ソーシャル・エンタープライズ　社会貢献をビジネスにする』丸善株式会社

谷本寛治(2006)『ソーシャル・エンタープライズ　社会的企業の台頭』中央経済社　他
上記の本の購入は必須ではありません。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー等で対応する予定です。詳細は授業内で伝えます。

留意事項: 特になし

科目コード:41031　**科目ナンバリング:MA30C05K**　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **ベンチャービジネス論(Venture Business)**

担当者: **申　美花**

基本情報

年次:3　**単位数:2**　**授業形式:講義**

曜時:金曜2限　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格:　**AL要素:** 04、07、11、12、17

授業の概要: 起業することの動機や意義を始め、起業するためのビジョン、課題や問題点について概観し、実際のベンチャー企業の事例を取り上げながら「起業」についての基礎知識を深めます。ここで取り上げるケース研究のほとんどは社長が20代に起業した会社の事例なので、親しみを持って学ぶことができます。

キーワード: 社内ベンチャー、起業、ビジネスモデルの構築、事業計画書

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ベンチャービジネスの基本的知識を修得し、卒業後に、社内ベンチャーの一員或いはベンチャー企業の経営者として活躍するために、新しいビジネスモデルを構築する能力を身につけることができる。

評価方法: 期末テスト　**評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: プレゼンテーション課題について創造的なアイデアを駆使して、様々な知識や情報を活用し、発表内容をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法: プレゼンテーション　**評価割合:30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の討議に積極的に参加し、自分の意見を明確に主張してほしい。

評価割合:20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授 業 計 画：
1. ガイダンス:ベンチャービジネスを学ぶ重要性と楽しみ
2. クラウドファンディングの成功事例
3. クラウドファンディングの失敗事例
4. グループ発表会
5. 成功しているベンチャー企業の探求
6. グループ発表会
7. 事業計画書作成の仕方
8. 創業の動機と経営者の略歴
9. 取扱商品・サービス
10. グループ発表会
11. 取引先と従業員
12. お借入れの状況と必要な資金調達方法
13. 事業計画書の作成
14. グループ発表会
15. 期末テスト

使用テキスト： テキストは使用しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布するので、授業後に必ず復習すること。授業中の討論で適度に自分の意見を伝えられたかどうかを振り返ること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留 意 事 項： 特になし。

科目コード：41034 **科目ナンバリング：MA31C04K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **地域産業経営論I（Regional Industry and Management I）**

担 当 者： **古井 仁**

基本情報

年 次：3 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜 時：水曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 07. 発表
08. 協同学修
10. 資料調査課題
11. 討論
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 本授業では、地域経済、地域産業の再生・活性化に取り組む上で必要な概念などを学びます。課題として、グループまたは単独で路上観察（課題発掘調査）に取り組み、授業の最後にその成果発表を行ってもらいます。

キーワード： 地域経済循環、産業集積、地場産業、イノベーション、関係人口、地域政策

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： ・授業で解説を受けた概念・理論・分析手法について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

・日本や世界の事例を通して地域の産業経済の実態を知り、地域再生への理解が深まる。

・地域活性化のあり方に関する基本的な考え方を理解できる。

評価方法： 筆記試験　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・授業で扱った内容について、自主学修およびグループ学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

・自ら地域を探訪して、現実の経済社会構造を観察する眼を養うことができる。

評価方法： 発表、グループ討議　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第01回　ガイダンス（授業の進め方）
第02回　地域経済の現状と課題
第03回　地域活性化の視点①：移住者・定住者
第04回　地域活性化の視点②：社会起業家
第05回　地域活性化の視点③：地域プロデューサー
第06回　地域経済再生の考え方
第07回　地域産業再生の考え方
第08回　中間まとめ
第09回　地域経済循環
第10回　地域産業連関
第11回　地域づくり①：地域資源の活用
第12回　地域づくり②：コミュニティビジネス
第13回　路上観察　発表会（前半）
第14回　路上観察　発表会（後半）
第15回　全体的まとめ

・授業の前半にゲスト講師による講演が数回入ります。
・上記の授業計画は、授業の展開や進度、受講生のニーズ、ゲスト講師の都合を勘案して変更する場合があります。

使用テキスト： テキストは使用せずに、授業時に資料（プリント）を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

参考文献
枝廣淳子[2018]『地元経済を創りなおす』岩波書店
玉沖仁美[2012]『地域をプロデュースする仕事』英治出版
田中輝美[2017]『関係人口をつくる』シーズ総合政策研究所
野口秀行ほか[2015]『地方創生！:それでも輝く地方企業の理由』KKKベストブック
松永圭子[2015]『ローカル志向の時代:働き方、産業経済を考えるヒント』光文社新書
松永圭子[2012]『創造的地域社会』新評論

・グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後に出される課題は必ず提出し、授業中のグループ討議で適度に自分の意見を伝えられたかどうかを振り返ること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: ・上記の授業計画は、授業の展開や進度、受講生のニーズを勘案して変更する場合があります。
・初回の授業にはやむを得ない事情がある場合を除き必ず出席すること。
・レポートについては、提出物を確認後、模範解答(解答例)を、IC-UNIPAに掲示します。

科目コード:41035 **科目ナンバリング:MA32C05K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 地域産業経営論II(Regional Industry and Management II)

担当者: 古井 仁

基本情報

年次:3 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:水曜2限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 07. 発表
08. 協同学修
10. 資料調査課題
11. 討論
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 前期科目「地域産業経営論Ⅰ」の実践編である本授業では、受講生自らが特定地域に出向いて課題発掘を行い、課題解決の政策アイデア企画立案に取り組み、その成果を発表します。また、地方自治体などの政策立案者や、地域活性化の体現者との対話の機会を設け、実践的な知識を学びます。

キーワード: 地域経済循環、経済波及効果、地域イノベーション、地域連携

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた概念・理論・分析手法について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: レポート **評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修およびグループ学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 発表、グループ討議 **評価割合:50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第01回　ガイダンス
第02回　地域経済活性化のキーワード（KFS）
第03回　地域経済活動の可視化（RESASの活用）
第04回　地域活性化の事例（1）課題先進地域の事例
第05回　地域活性化の事例（2）茨城県の事例
第06回　対象地域の課題発掘調査（1）目的の設定　情報収集と分析
第07回　対象地域の課題発掘調査（2）課題の考察
第08回　対象地域の課題発掘調査（3）課題の特定化
第09回　対象地域の課題発掘調査（4）実地調査の計画
第10回　政策アイデアの企画立案（1）打ち手の特定
第11回　政策アイデアの企画立案（2）政策アイデア（解決策）の導出
第12回　地域活性化の政策評価(1)：社会軸
第13回　地域活性化の政策評価(2)：経済軸
第14回　プロジェクト成果発表会（前半）
第14回　プロジェクト成果発表会（後半）
第15回　振り返りと全体的なまとめ

・授業の前半にゲスト講師による講演が入ることがあります。
・上記の授業計画は、授業の展開や進度、ゲスト講師の都合を勘案して変更する場合があります。

使用テキスト：とくにテキストは使用せずに、資料（プリント）を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。
参考文献
日経ビッグデータ[2016]『RESASの教科書：あの街はなぜ賑わうのか　データが地方創生を加速する』日経BP社。
小長谷一之、前川知史編[2012]『経済効果入門』日本評論社
その他、地域活性化の取組事例を適宜紹介します。

・必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後に出される課題は必ず提出し、課題管理（プロジェクト管理）には細心の注意をはらうこと。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留 意 事 項： ・履修に際しては、前期科目「地域産業経営論Ⅰ」を受講していることが望ましい。
・初回の授業にはやむを得ない事情がある場合を除き必ず出席すること。
・レポートについては、提出物を確認後、模範解答（解答例）を、IC-UNIPAに掲示します。

科 目 コ ー ド：41036　**科目ナンバリング：MA20C18K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **公共経済論（Public Economics）**

担 当 者： **Yodtomorn Pimprapa**

基本情報

年 次：カリキュラム　**単 位 数：2**　**授業形式：講義**

曜 時：火曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：　**ＡＬ要 素：** 発問と回答

授業の概要： 公共経済学（Public Sector Economics）の基本的な考え方は、市場の失敗を捉え、その本質的理由を検討し、政府による市場経済への介入の在り方を示すことにある。
ここでは公共経済学の基本的な考え方を考察しながら、現在社会が直面している諸課題に対する公共政策の在り方を分析する。

キーワード： 市場の失敗、政府による介入、公共財、外部性、子育て政策、教育政策、地域政策

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 1.公共経済学の基本的考え方を修得する。
2.公共経済学の分野で基礎的な用語・概念を理解する。

評価方法： テスト　**評価割合：70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 現実的問題を理解し、実証的に公共経済学の方法論をどのように応用できるかを考察できる。

評価方法： レポート、課題　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。但し、自主的な学修により、自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

実践的ボランタリズム 直接的な評価対象としない。但し、ボランティア活動等の実践により、深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授 業 計 画： 第1回　イントロダクション
第2回　ミクロ経済学の復習

第3回　公共部門の経済学
第4回　外部性の理論
第5回　公共財の理論
第6回　公共財の理論とその応用
第7回　税制の経済効果
第8回　社会保障
第9回　まとめ：小テスト
第10回　アジアにおける人口減少と高齢者の雇用（1）
第11回　アジアにおける人口減少と高齢者の雇用（2）
第12回　公教育政策と経済発展（1）
第13回　公教育政策と経済発展（2）
第14回　移民・外国人労働者の受け入れ
第15回　まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後には、その回の内容を復習するとともに、その関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献として次の3点を推薦する。

参考書：
板谷淳一・佐野博之（2013）『コア・テキスト公共経済学』新世社。
林宏昭・橋本恭之（2014）『入門地方財政(第3版)』中央経済者.
井堀利宏（2015）『基礎コース公共経済学』新世社。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41038　**科目ナンバリング：MA20B01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ビジネスエコノミクス入門（Introduction to Business Economics）

担当者：古井　仁

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要： 本授業では、企業や産業の現場で起きる問題を経済学的な見方で解き明かしていきます。身近なビジネスで見られる現象にミクロ経済学の方法をあてはめて、ビジネスの本質的な部分を見いだし、ビジネスのヒット率を高める経営戦略を学びます。

キーワード： 企業戦略、経営戦略、ゲーム理論、戦略的意思決定

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた概念・理論・分析手法について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 筆記試験　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的か

つ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：理解度確認小テスト(2回分)　　**評価割合**：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第01回　ガイダンス
第02回　ビジネス・エコノミクスとは
第03回　価格戦略と儲けのしくみ①：消費者行動
第04回　価格戦略と儲けのしくみ②：需要の価格弾力性の応用
第05回　価格からビジネスの構造が見える
第06回　ICT革命とビジネスの構造変化
第07回　市場メカニズムを活用する
第08回　中間まとめ
第09回　経済学で競争戦略を解剖する
第10回　ビジネスは「ゲーム」だ①：ゲーム理論の考え方
第11回　ビジネスは「ゲーム」だ②：ゲーム理論の応用
第12回　ビジネスは「ゲーム」だ③：インセンティブとは何か
第13回　ビジネスは「ゲーム」だ④：人々の行動のクセを読む
第14回　イノベーションと競争
第15回　全体的まとめ

使用テキスト：伊藤元重[2021]『ビジネス・エコノミクス　第2版』日本経済新聞出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後は、テキストや配付資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。
・テーマに関する参考文献は、授業の中で紹介する。
・日頃から新聞の経済面にも目を通すようにしてください。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項：
・初回の授業にはやむを得ない事情がある場合を除き必ず出席してください。
・小テストについては、提出物を確認後、模範解答(解答例)を、IC-UNIPAに掲示します。

科目コード：41039　　**科目ナンバリング**：MA21C05K　　**主な使用言語**：日本語

授業名(英文)：ビジネスエコノミクスI(Business Economics I)

担当者：古井 仁

基本情報

年 次 :2　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 火曜1限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W N M

関連資格 :　　**AL要素 :** 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要 : 本授業は前期科目「ビジネス・エコノミクス入門」の発展科目として位置づけられています。本授業では、企業経営の諸活動（生産活動やマーケティングの戦略など）および事業展開（垂直・水平・国際化）における経営戦略を扱い、これらにミクロ経済学の分析手法を応用し、効果的な経営戦略のあり方について学びます。

キーワード : 企業戦略、競争戦略、ゲーム理論、戦略的意思決定

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で解説を受けた概念・理論・分析手法について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法 : 筆記試験　　**評価割合 : 60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法 : 理解度確認小テスト（2回分）　　**評価割合 : 40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 :
第01回　ガイダンス、市場構造の分析枠組
第02回　需要の特性
第03回　費用の規定要因
第04回　市場の支配力
第05回　ゲームと戦略
第06回　寡占と競争
第07回　中間まとめ　要点整理
第08回　競争戦略の分類
第09回　価格戦略
第10回　製品戦略
第11回　流通と販売促進

第12回　サプライチェーン
第13回　情報とインセンティブ
第14回　企業の境界と組織
第15回　全体的まとめ　要点整理

使用テキスト： 丸山雅祥[2011]『経営の経済学[第3版]』有斐閣

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後、テキストや配付資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献として次の4点を推薦する。
青木昌彦・伊丹敬之[1985]『企業の経済学』岩波書店。
淺羽茂[2004]『経営戦略の経済学』日本評論社。
小田切宏之[2010]『企業経済学（第2版）』東洋経済新報社。
ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ[1997]（奥野正寛ほか訳）『組織の経済学』NTT出版。

・日頃から新聞の経済面にも目を通すようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項：
・「ミクロ経済学」または「ビジネスエコノミクス入門」を履修していることが望ましい。
・小テストについては、提出物を確認後、模範解答（解答例）を、IC-UNIPAに掲示します。

科目コード：41041　**科目ナンバリング：MA21B02K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：マーケティング論I（Marketing I）

担当者：澤端　智良

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　**AL要素：** 11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要： 企業が事業を維持していくためには継続的に顧客を獲得することが必要であり、マーケティングはその意味で企業活動において極めて重要な役割を担っている。この授業では教科書を活用しながらマーケティングの基礎概念・理論について解説する。マーケティング実務経験に基づく具体例や、身近な商品やサービスの例なども用いながら、できるだけ理解しやすいように説明する。

キーワード： マーケティング概念の変遷、消費者理解、STP、Product、Price、Promotion、Place

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説したマーケティングの基礎的な概念および理論を正しく理解し、マーケティングとは何か，企業経営の中でどのような位置づけを占め、各実行段階でどのような方法を用いるものなのかについても説明できる。

評価方法： 学期末筆記試験　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだマーケティングの基礎的な概念・理論を用い、企業の実際のマーケティング活動について解釈・分析し、論理的に説明できる。

評価方法： 学期末筆記試験　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み、提出すること。また、教員から呈示された課題や問いに対しては、討論に積極的に参加し発言すること。レポートや討論への参加状況についても成績評価の対象とする(20%)。

評価割合:20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画:
第1回:イントロダクション
第2回:マーケティングとはなにか
第3回:消費者の行動
第4回:購買意思決定の影響要因
第5回:マーケティング・リサーチ
第6回:経営環境の把握
第7回:セグメンテーション, ターゲティング, ポジショニング
第8回:製品と製品ミックス
第9回:新製品開発
第10回:価格の設定
第11回:戦略的価格
第12回:プロモーションの理解
第13回:プロモーションの手段
第14回:マーケティング・チャネル ／ メーカーと流通
第15回:まとめ
定期試験

使用テキスト:
黒岩健一郎・水越康介 著『マーケティングをつかむ[第3版]』有斐閣, 2023年, 2,200円＋税。
【注意】2023年発行の[第3版]を使います。入手の際は書名や「版」をよく確認し、間違えないように注意してください。なお、[第3版]は2023年3月発売予定となっていますが、出版が予定より遅れるなど4月の時点で[第3版]を入手できない状況にある場合は、2018年発行の[新版]へ変更する場合があります(その場合は初回の授業で指示します)。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:
事前にテキストの該当箇所に目を通し、内容を理解しておくこと(60分)。また、授業後は学習した内容を振り返ったうえで、テキストのケースや演習問題等に取組むことが望ましい(60分)。
その他、別途資料を提示した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。
課題が出された場合は〆切までに提出すること。
参考文献などは必要に応じて授業の中で随時紹介する。

障がいのある履修者への対応:
可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段:
オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項:
①「学期末定期試験」(80%)と、②「授業期間中に複数回課す予定の課題(ミニ・レポート類等)」(20%)とを総合して評価する。
授業中に簡単なアンケートやワーク等を課すこともあるが、一人一人がしっかりと取り組み、意見を求められた場合には自らの考えを発言できるようにすること。なお、授業期間内に課したレポート類については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。
BYOD導入に伴い、講義資料はUNIPA等へアップすることとし、原則として紙では配布しない。手元に

資料が必要な場合はデバイスを持参するなど各自で対応をして下さい。

科 目 コ ー ド :41042　　**科目ナンバリング : MA22C03K**　　**主な使用言語 : 日本語**

授業名（英文）: マーケティング論II（Marketing II）

担 当 者 : 田口　尚史

基 本 情 報

年 次 :2　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 火曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 : 教職　　**A L 要 素 :** 10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要: 1950年代に体系化された伝統的なマーケティングの理論枠組みは，その後，1970年代にはソーシャル・マーケティング，さらには1980年代以降，サービス・マーケティング，リレーションシップ・マーケティング，生産財マーケティングへとその領域を拡張してきた。最近では，グローバル化の進展やインターネットの普及によって，グローバル・マーケティングやデジタル・マーケティングといった領域も台頭している。本科目では，そのような拡張されたマーケティング領域について解説する。

キーワード: マーケティングの拡張，サービス・マーケティング，生産財マーケティング，ソーシャル・マーケティング，グローバル・マーケティング

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で解説を受けたマーケティングの拡張領域に関する基本的な理論枠組みについて，専門用語用いて論述することが。

評価方法: 学期末レポート　　**評 価 割 合 : 30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について，実際の企業活動を観察し，参考文献等を参照しながら考察し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末レポート　　**評 価 割 合 : 70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし。

評 価 割 合 : 特になし。

授 業 計 画 : 第01回　イントロダクション

第02回　基本戦略
第03回　製品ライフサイクル戦略
第04回　市場地位別戦略
第05回　事業領域と成長戦略
第06回　資源展開
第07回　ブランド
第08回　リレーションシップ・マーケティング
第09回　サービス・マーケティング
第10回　生産財マーケティング
第11回　グローバル・マーケティング
第12回　ソーシャル・マーケティング
第13回　デジタル・マーケティング
第14回　サービス・ドミナント・ロジック
第15回　まとめ

使用テキスト： 黒岩健一郎・水越康介 著『マーケティングをつかむ［第3版］』有斐閣，2023年，2,420円。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業中に配布したレジュメは，ファイル等で大切に保管し，毎回の授業に持参すること。参考文献等は，適宜，授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41043　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：流通システム論（Distribution System）

担当者：田口　尚史

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要： 我々の日常生活は，無意識に流通と深く関わっている。消費者の消費行動や消費文化は，流通が下支えしている。そこで本科目では，わが国の流通システムを構成しているさまざまな小売業態について観察し，過去から現在への変遷を辿りながら，それらの小売業態の特徴を理解する。また，流通システムは時代の流れと共に常に変化していることから，小売業態だけでなく卸売業者や取引慣行も含めて，それらがどのように変化していくのか，担当教員の実務経験を活かしながら将来を展望する。

キーワード： 流通システム，流通フロー，卸売業者，小売業者，業態

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた流通システムに関する基本的な理論枠組みについて，概ね80％の事項を暗記し，解答することができる。

評価方法： 学期末レポート　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について，実際の流通構造を観察し，参考文献等を参照しながら考察し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：学期末レポート　　**評価割合：**70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第01回　流通とは
第02回　百貨店と総合スーパー
第03回　食品スーパーとコンビニエンス・ストア
第04回　ディスカウント・ストアとSPA
第05回　商店街とショッピングセンター
第06回　小売業態とは何か
第07回　小売を支えるロジスティクス
第08回　インターネット技術と新しい小売業態
第09回　小売を支える卸
第10回　流通構造とその変容
第11回　日本的取引慣行
第12回　小売を中心とした取引慣行
第13回　売買集中の原理と品揃え形成
第14回　商業とまちづくり
第15回　製販連携の進展

使用テキスト：石原武政・竹村正明・細井謙一 編著『1からの流通論(第2版)』碩学舎，2018年，2,400円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：テキストの他，適宜，参考資料としてプリントを配布する。授業中に配布したプリントは，ファイル等で大切に保管し，毎回の授業に持参すること。参考書等は，適宜，授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：特になし。

科目コード：41044　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：**日本語

授業名（英文）：流通経営論（Distribution Management）

担当者：田口　尚史

基本情報

年次：2　　**単位数：**2　　**授業形式：**講義

曜時：月曜3限　　**履修可能学科・専攻：**E Pe Pc C W F N M

関連資格：　　**ＡＬ要素：** 10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要： 小売業は，流通構造の末端に位置し，消費者の嗜好や購買行動の変化に柔軟に適合していくことで成長し続けている。小売業者は，新たな業態の開発のために，常に，立地，マーチャンダイジング，プロモーションといったマーケティング・ミックスを調整している。本科目では，前半では小売業の業態開発に関する理論的枠組みについて概説し，後半では近年の新しい小売業態とビジネス・モデルについて考察する。

キーワード： 小売業態，リテール・マネジメント，マーチャンダイジング，サプライチェーン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた小売業経営に関する基本的な理論枠組みについて，概ね80％の事項を理解し説明することができる。

評価方法： 学期末レポート　　**評価割合：**30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について，特定の小売業態を観察し，参考文献等を参照しながら考察し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：学期末レポート　　**評価割合：**70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回　流通フローと流通機関
第02回　小売業態の進化
第03回　立地選択と出店戦略
第04回　仕入活動の管理
第05回　インストア・プロモーション
第06回　延期と投機の原理
第07回　POSシステム
第08回　サプライチェーン・マネジメント
第09回　小売業の商品開発
第10回　小売業の海外進出
第11回　ドラッグストア
第12回　均一価格店
第13回　ECとオムニチャネル
第14回　プラットフォーマー

第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。毎回，レジュメを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 前期の流通システム論を同時に履修することを推奨する。授業中に配布するレジュメは，ファイル等で大切に保管し，毎回の授業に持参すること。参考文献等は，適宜，授業中に配布するレジュメの中で紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし

科目コード：41045　**科目ナンバリング：MA30C07K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：マーケティング戦略論（Strategic Marketing）

担当者：田口　尚史

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：月曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要： 本科目は，マーケティングの基本的な知識に戦略的な視点を加え，企業戦略としてのマーケティングの立場や役割について学際的に解説する。経営学，経営戦略論，人的資源管理論(HRM)などと関連づけながら，戦略的マーケティングの理論的枠組みを紹介する。本科目では，担当教員の実務経験を活かしながら，これらの理論的枠組みが，実際の経営の現場においてどのように実践されているのかについて解説する。

キーワード： マーケティング，戦略的マーケティング，RBV，市場志向

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 競合他社との競争に勝ち抜き，顧客からの支持を得るためのマーケティングの戦略的概念について理論的かつ体系的な理解ができる。

評価方法： 学期末レポート　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業中に学んだ戦略的マーケティングの理論的枠組みを用いて，実在する企業の戦略を構築できるようになる。

評価方法： 学期末レポート　**評価割合：70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第01回 マーケティングへの戦略的視点の導入
第02回 戦略的マーケティング(1)
第03回 戦略的マーケティング(2)
第04回 消費者行動論(1)
第05回 消費者行動論(2)
第06回 市場調査法(1)
第07回 市場調査法(2)
第08回 RBVとマーケティング組織
第09回 市場志向(1)
第10回 市場志向(2)
第11回 リレーションシップ・マーケティング
第12回 サービス・マーケティング
第13回 サービス・ドミナント・(S-D)ロジック
第14回 カスタマー・エンゲージメント
第15回 まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。毎回，レジュメを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業中に配布したレジュメは，ファイル等で大切に保管し，毎回の授業に持参すること。参考文献等は，適宜，授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41046 **科目ナンバリング：MA30C09K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：サービス・マーケティング論（Services Marketing）

担当者：田口 尚史

基本情報

年次：3 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：火曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要： 銀行，鉄道，映画館，教育機関など，我々は日常的にサービスを消費している。これらのサービスは，有形な製品と異なる特徴を有しており，そのため製造業者のマーケティングとは異なるアプローチが必要とされる。本科目では，サービス業のマーケティングとしてのサービス・マーケティングの理論的枠組みについて解説する。

キーワード： サービス，無形財，サービス・クオリティ，知覚品質，サービスの失敗

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けたサービス・マーケティングに関する基本的な理論枠組みについて，専門用語を用いて論述することができる。

評価方法： 学期末レポート　　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について，特定のサービス業のマーケティングを観察し，参考文献等を参照しながら考察し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末レポート　　**評価割合：70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただし，ボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第01回　サービス経済化の進展
第02回　サービスの特徴と分類
第03回　顧客経験管理
第04回　サービス・プロセスの設計
第05回　サービス・オファリング
第06回　サービス・エンカウンター
第07回　サービス・クオリティ
第08回　サービス価格戦略
第09回　サービス需給管理
第10回　サービスの失敗とサービス・リカバリー
第11回　顧客教育とプロモーション戦略
第12回　インターナル・マーケティング
第13回　リレーションシップ管理
第14回　サービス・プロフィット・チェーン
第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。毎回，レジュメを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で配布したレジュメはファイル等で大切に保管し，毎回の授業に持参すること。参考文献として，ラブロック＝ウィルツ著 白井義男 監訳『ラブロック＆ウィルツのサービス・マーケティング』ビアソン・エデュケーション，2008年，6,200円＋税を紹介しておく。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41047　　**科目ナンバリング：MA10C02K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：入門簿記論（Introductory Bookkeeping）

担 当 者： 栗原　正樹

基本情報

年 次 : 1　　**単 位 数 :** 2　　**授業形式 :** 講義

曜 時 : 水曜1限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :　　**A L 要 素 :** 11.討論

授業の概要: 簿記の学習のみならず企業活動自体に馴染みの無い学生に、簿記会計の学習を通じて企業の成り立ちなどを理解してもらうことを目的として講義を行う。地中海沿岸の商業都市で中世に誕生した複式簿記の歴史は500年を遥かに超えるが，その原理・仕組みは今も，その生成当初となんら変わらない。簿記会計を通して企業活動の仕組みを理解することで、経営学など他の科目を学習する意味や目的が理解できるようになり、他の科目との学習の相乗効果を発揮させることも意識している。また、学問の体系的な理解と合わせ、この授業では、担当教員の実務経験に基づき、さらに実務との関係も理解出来るように指導を行う。なお、複式簿記の原理と一連の手続きなど複式簿記の基本・基礎を着実に，かつ，体系的に学び確実な理解ができるように授業を進めていく。そのために，当初に，複式簿記の原理・仕組みを明らかにしてから，基本的かつ重要な個別的項目における取引の簿記処理について演習問題を含めて，具体的，実践的に学習する。また，理解を確実にするために，必要に応じてミニテストを行う。

キーワード: 簿記、会計、財務会計、管理会計、経営

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法: 学期末試験　　**評価割合 :** 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験　　**評価割合 :** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、授業内での発言や発表等を思考力・判断力・表現力の評価として扱う場合がある。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合 : 0%

▼公 正 性

特になし

評価割合 : 0%

▼その他

特になし

評価割合 : 特になし

授 業 計 画 :

第01回 企業の活動と簿記会計のかかわり
第02回 簿記の対象・目的と基本的要素1
第03回 簿記の対象・目的と基本的要素2
第04回 勘定口座と元帳
第05回 帳簿と財務諸表1
第06回 帳簿と財務諸表2

第07回 仕訳と転記
第08回 商品売買取引の基礎的処理と記帳―その1
第09回 商品売買取引の基礎的処理と記帳―その2
第10回 現金・預金の基礎的処理と記帳(基礎)
第11回 手形取引
第12回 債権・債務の基礎的処理と記帳1
第13回 債権・債務の基礎的処理と記帳2
第14回 決算の考え方と有価証券
第15回 総まとめ―複式簿記一巡の手続
定期試験

使用テキスト: テキストは改訂の可能性があるため、1回目の授業時の従って購入すること。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。なお、復習は必須である。簿記の学習は積み重ねであり、日々の継続的な復習が重要な学問であるため、1回の授業に対して、最低同じ時間は復習しないと、授業についていくことは難しい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 電卓を用意すること。現在持っているものでよいが，新たに入手する場合には，はがきサイズのものがよい。価格は高いものでなくてもかまなわない。講義中に、電卓についても改めて説明するので、事前に購入してくる必要はない。カード式は計算が遅くなるしミスが少なくないので，薦められない。
なお、授業中に課題の提出を受ける場合には、次の授業においてコメントを行う。

科目コード:41048 **科目ナンバリング:MA10C03K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 基礎簿記論(Basic Bookkeeping)

担当者: 栗原 正樹

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:水曜1限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 11.討論

授業の概要: 入門簿記論の内容を踏まえ、簿記の学習のみならず企業活動自体に馴染みの無い学生に、簿記会計の学習を通じて企業の成り立ちなどを理解してもらうことを目的として講義を行う。理解できるようになり、他の科目との学習の相乗効果を発揮させることも意識している。また、学問の体系的な理解と合わせ、この授業では、担当教員の実務経験に基づき、さらに実務との関係も理解出来るように指導を行う。なお、複式簿記の原理と一連の手続きなど複式簿記の基本・基礎を着実に，かつ，体系的に学び確実な理解ができるように授業を進めていく。そのために，当初に，複式簿記の原理・仕組みを明らかにしてから，基本的かつ重要な個別的項目における取引の簿記処理について演習問題を含めて，具体的，実践的に学習する。また，理解を確実にするために，必要に応じてミニテストを行う。

キーワード: 簿記、会計、財務会計、管理会計、経営

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法: 学期末試験 **評価割合:90%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験　　**評価割合:** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、授業内での発言や発表等を思考力・判断力・表現力の評価として扱う場合がある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

特になし

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

第01回　入門簿記論の復習　～複式簿記一巡の手順～
第02回　その他の期中取引1
第03回　その他の期中取引2
第05回　決算整理1
第06回　決算整理2
第07回　決算整理3
第08回　決算整理4
第09回　決算整理5
第10回　決算整理6
第11回　決算整理7
第12回　決算整理8
第13回　決算整理9
第14回　精算表の作成
第15回　総まとめ
定期試験

使用テキスト: テキストは改訂の可能性があるため、1回目の授業時の従って購入すること。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。なお、復習は必須である。簿記の学習は積み重ねであり、日々の継続的な復習が重要な学問であるため、1回の授業に対して、最低同じ時間は復習しないと、授業についていくことは難しい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 電卓を用意すること。現在持っているものでよいが，新たに入手する場合には，はがきサイズのものがよい。価格は高いものでなくてもかまなわない。講義中に、電卓についても改めて説明するので、事前に購入してくる必要はない。カード式は計算が遅くなるしミスが少なくないので，薦められない。
なお、授業中に課題の提出を受ける場合には、次の授業においてコメントを行う。

科目コード: 41049　　**科目ナンバリング:** MA20C10K　　**主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 応用簿記論(Advanced Bookkeeping)

担当者: 長島　正浩

基本情報

年 次 :2　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 金曜5限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格 :　　**AL要素 :** 16,17

授業の概要 : 記帳技術といってもいろいろあるが、本講義では仕訳ができるようにすることが第一優先である。したがって、テキストにしたがって仕訳を中心に講義をすすめていく。多少の勘定科目を覚えなければならないが、仕訳とは取引をあるがままの姿で描写するものであるので、そのことを理解することが肝要である。

キーワード : 銀行勘定調整表、クレジット売掛金、電子記録債権、電子記録債務、分記法、総記法、三分割法、売上原価対立法、値引、割戻、返品、割引、役務収益、役務原価、売買目的有価証券、満期保有目的債券、子会社株式及び関連会社株式、その他有価証券

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 経済的に複雑で高度な取引であっても、簡単に仕訳ができる技能が身につく。また、自然と電卓計算技術が向上する。

評価方法: 記帳方式による学期末試験　　**評価割合 : 70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 商品売買の会計処理について、歴史的変遷を理解することにより、現在のコンピュータ入力時代の複式簿記の有用性を考えることができる。複式簿記が単に500年以上の歴史を積み重ねてきているのではないことに思い馳せることができる。

評価方法: 記帳方式による学期末試験　　**評価割合 : 30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 :
【第01回】 銀行勘定調整表
【第02回】 商品売買取引ーその1
【第03回】 商品売買取引ーその2
【第04回】 手形取引と電子記録債権債務
【第05回】 その他の債権・債務
【第06回】 有価証券の取引ーその1
【第07回】 有価証券の取引ーその2

【第08回】 有形固定資産
【第09回】 無形固定資産
【第10回】 引当金―その1
【第11回】 引当金―その2
【第12回】 未決算
【第13回】 割賦購入その他
【第14回】 役務収益の計上
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト: 長浜巖『日商簿記2級―商業簿記―』協進社、2019年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前にテキストを予習することで、授業内容の8割は理解することができる。あとはそれを永く記憶として定着できるかどうかは、効果的な復習にかかっている。その復習のポイントを授業でその都度説明していく。
標準的には、予習60分、復習60分で、すなわち1回の授業に対して2時間程度の自宅学修時間が必要である。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項: 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後に解答速報をUNIPAに掲載するので、自己採点および解けなかった問題を解けるようにすること。採点が終わり次第、匿名で点数データ(点数分布、平均点、標準偏差)を公表する。
電卓を必ず用意すること。出来ればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード:41050 **科目ナンバリング:MA20C11K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 会社簿記論(Corporation Bookkeeping)

担当者: 長島 正浩

基本情報

年次:2 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:金曜5限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 16,17

授業の概要: 前期の「応用簿記論」の続きであるが、応用簿記論が高度な取引を取り扱っていたのに対して、「会社簿記論」では取引主体が株式会社となって、その組織そのものが複雑になるため、より難易度が増す。単に複式簿記原理を押えるだけでなく、会社法という法制度の理解も必要となる。

キーワード: 会社設立、新株発行、吸収合併、剰余金の処分、配当金、資本準備金、利益準備金、繰越利益剰余金、法人税、住民税及び事業税、消費税等、為替差損益、税効果会計、連結会計、リース取引

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 株式会社特有のM&A取引や準備金の積立など非日常的な取引の仕訳ができるようになる。また、このような仕訳を通して、株式会社のしくみまで理解できるようになる。

評価方法: 記帳方式による学期末試験 **評価割合:70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 会社と言えばほとんどが株式会社のことであり、上場企業など大きな取引を行っている会社の財務諸表の作成までできるようになり、結果として財務諸表の数値を読める思考力が身につく。

評価方法： 記帳方式による学期末試験　　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 株式会社会計ー会社設立
【第02回】 株式会社会計ー新株発行
【第03回】 株式会社会計ー買収・合併（M＆A）
【第04回】 株式会社会計ー剰余金の処分
【第05回】 株式会社会計ー法人税、住民税および事業税
【第06回】 株式会社会計ー消費税等の処理
【第07回】 連結会計ー子会社の範囲、連結情報の役割
【第08回】 連結会計ー投資と資本の相殺
【第09回】 連結会計ー子会社財産の時価評価
【第10回】 連結会計ー親子会社間取引の相殺
【第11回】 連結会計ー債権・債務の相殺
【第12回】 連結会計ー配当金の調整
【第13回】 為替換算ー在外子会社の換算
【第14回】 為替換算ー在外支店の換算
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト： 長浜巖『日商簿記2級ー商業簿記ー』協進社、2018年。（前期科目「応用簿記論」と同一のテキストを使用）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前にテキストを予習することが難しいと感じる場合は、復習により時間を割く必要がある。むしろ予習より復習に重点をおくのがよい。株式会社の簿記はイメージが湧きにくいため、授業時になるべくイメージしやすい例示で進めていく。
標準的には、予習は30分、復習は60分を目安とする。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後に解答速報をUNIPAに掲載するので、自己採点および解けなかった問題を解けるようにすること。採点が終わり次第、匿名で点数データ（点数分布、平均点、標準偏差）を公表する。
電卓を必ず用意すること。出来ればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード：41051　　**科目ナンバリング：MA21C03K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：財務会計論I（Financial Accounting I）

担当者：栗原　正樹

基本情報

年次：2　　**単位数：2**　　**授業形式：講義**

曜時：月曜4限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　　**AL要素：** 11.討論

授業の概要： この授業では、会計を「①いまどのように行われているのか」「②なぜそのように行われているのか」「③今後もそれで良いのか」という3つの視点から捉え、考えていく。現実の世界において会計がどのようなルールに従って行われているのか、まずはそれを知ることが大切であるが、そのルールが今後も同じままであるとは限らない。現在の会計を取り巻く環境は激動の時代であり、会計も日々変化している。このような時代にあっては、ルールを暗記するような方法では対応できない。今あるルールをじっくりと見つめ、なぜこのようなルールになったのか、これからどう変わっていくのかを考え、自らの理性で変化を先取りする力が重要である。この授業では、基礎知識の習得はもとより、担当教員の実務経験を踏まえ、変化を先取りする力を身に付けるとともに、実践的に有用な能力を養成するための指導を行う。そのため、授業中は学生に徹底的に考えることを求め、必要に応じて発言を求めていく。

キーワード： 財務会計、国際会計、IFRS

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法： 学期末試験　　**評価割合：80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験　　**評価割合：10%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言や発表等に基づき評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
[第01回] 財務会計の機能と制度会計
[第02回] 財務諸表の作成手続①
[第03回] 財務諸表の作成手続②
[第04回] 財務諸表の作成手続③
[第05回] 会計の歴史的変遷
[第06回] 企業会計の基準の役割

[第07回] 損益会計①
[第08回] 損益会計②
[第09回] 損益会計③
[第10回] 損益会計④
[第11回] 棚卸資産①
[第12回] 棚卸資産②
[第13回] 有形固定資産①
[第14回] 有形固定資産②
[第15回] 有形固定資産③
定期試験

使用テキスト: 『財務会計論: 財務会計基礎理論』栗原正樹、デザインエッグ社
授業時の指示に従ってAmazonにて購入して下さい。生協での販売は致しません。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: なし

科目コード:41052 **科目ナンバリング:MA22C04K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **財務会計論II(Financial Accounting II)**

担当者: **栗原 正樹**

基本情報

年次:2 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:月曜4限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 11.討論

授業の概要: この授業では、会計を「①いまどのように行われているのか」「②なぜそのように行われているのか」「③今後もそれで良いのか」という3つの視点から捉え、考えていく。現実の世界において会計がどのようなルールに従って行われているのか、まずはそれを知ることが大切であるが、そのルールが今後も同じままであるとは限らない。現在の会計を取り巻く環境は激動の時代であり、会計も日々変化している。このような時代にあっては、ルールを暗記するような方法では対応できない。今あるルールをじっくりと見つめ、なぜこのようなルールになったのか、これからどう変わっていくのかを考え、自らの理性で変化を先取りする力が重要である。この授業では、基礎知識の習得はもとより、担当教員の実務経験を踏まえ、変化を先取りする力を身に付けるとともに、実践的に有用な能力を養成するための指導を行う。そのため、授業中は学生に徹底的に考えることを求め、必要に応じて発言を求めていく。

キーワード: 財務会計、国際会計、IFRS

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法: 学期末試験 **評価割合:80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験　　**評価割合**: 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言や発表等に基づき評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

特になし

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:
[第01回] 前期の復習と整理①
[第02回] 前期の復習と整理②
[第03回] 前期の復習と整理③
[第04回] 固定資産①
[第05回] 固定資産②
[第06回] 固定資産③
[第07回] 負債総論
[第08回] 引当金①
[第09回] 引当金②
[第10回] 財務諸表①
[第11回] 財務諸表②
[第12回] 財務会計の概念フレームワーク①
[第13回] 財務会計の概念フレームワーク②
[第14回] まとめ①
[第15回] まとめ②
定期試験

使用テキスト: 『財務会計論: 財務会計基礎理論』栗原正樹、デザインエッグ社、2,376円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 授業中に提出を受けた課題については、次の授業でコメントします。

科目コード: 41055　　**科目ナンバリング**: MA20C12K　　**主な使用言語**: 日本語

授業名(英文): 原価計算論(Cost Accounting)

担当者: 長島 正浩

基本情報

年次: 2　　**単位数**: 2　　**授業形式**: 講義

曜時: 金曜4限　　**履修可能学科・専攻**: E Pe Pc C W F N M

関連資格:　　**AL要素**: 16,17

授業の概要： 原則としてテキストに沿って授業計画どおりに進行し、必要に応じて補助プリントを配付して、理解の助けとする。また、なるべく多くの計算問題を解くことにより計算技術の向上を狙っていく。毎回学習した範囲で、ミニテスト、口頭試問またはレポート作成を実施する予定である。

キーワード： 単純総合原価計算、組別総合原価計算、等級別総合原価計算、工程別総合原価計算、正常仕損、正常減損、直接原価計算、CVP分析、貢献利益、変動製造マージン、原価分解、固定費、変動費

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 市場見込大量生産を前提とし、製品1個当たりいくらで製造したかという原価計算を学ぶ。また、利益計画に役立つCVP分析の技術も身につけることができる。

評価方法： 計算方式による学期末試験　　**評価割合：**80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 製造業での利益向上の命題はコスト削減である。いかにコストを下げていくかを原価計算した結果から思考し、未来へ役立つ原価情報を提供することができる。

評価方法： 計算方式による学期末試験　　**評価割合：**20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 商企業と工企業との相違
【第02回】 総合原価計算と記帳―単純総合原価計算
【第03回】 総合原価計算と記帳―月末仕掛品の計算―平均法
【第04回】 総合原価計算と記帳―月末仕掛品の計算―先入先出法
【第05回】 総合原価計算と記帳―単一工程総合原価計算
【第06回】 総合原価計算と記帳―工程別総合原価計算
【第07回】 総合原価計算と記帳―等級別総合原価計算
【第08回】 総合原価計算と記帳―組別総合原価計算
【第09回】 総合原価計算上の減損・仕損の計算と処理
【第10回】 副産物と連産品の計算と処理
【第11回】 製造原価報告書の作成
【第12回】 直接原価計算
【第13回】 CVP分析―その1
【第14回】 CVP分析―その2

【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト: 長浜巖『日商簿記2級ー工業簿記ー』協進社、2015年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 標準的には、予習は30分程度、復習は90分程度の学習時間が必要であろう。授業時間中にしかできなことと、自宅学習時間中にしかできないことを明確化し、質の高い充実した時間を過ごすこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項: 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後に解答速報をUNIPAに掲載するので、自己採点および解けなかった問題を解けるようにすること。採点が終わり次第、匿名で点数データ(点数分布、平均点、標準偏差)を公表する。
電卓を必ず用意すること。出来ればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード:41056 **科目ナンバリング:MA20C13K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 工業簿記論(Industrial Bookkeeping)

担当者: 長島 正浩

基本情報

年次:2 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:金曜4限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 16,17

授業の概要: 原則としてテキストに沿って授業計画どおりに進行し、必要に応じて補助プリントを配付して、理解の助けとする。また、なるべく多くの計算記帳問題を解くことにより計算記帳技術の向上を狙っていく。毎回学習した範囲で、ミニテスト、口頭試問またはレポート作成を実施する予定である。

キーワード: 工業簿記一巡、材料費計算、労務費計算、外注加工賃、製造間接費、仕掛品勘定、部門別計算、個別原価計算、標準原価計算、差異分析、予算差異、能率差異、操業度差異

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 個別受注生産形態も視野に入れながら、材料費、労務費、製造間接費の配賦の積み上げ計算ができるようになる。また、大企業メーカーではスタンダードになっている標準原価計算をマスターし、差異分析して原価管理に役立つ技能を習得する。

評価方法: 計算方式による学期末試験 **評価割合:70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 予算という概念が登場し、その予算と実績との差額が何を意味し、何が原因で生じるのかを把握することができる。また、工業特有の記帳方法からコスト概念の理解を深めることができる。

評価方法: 計算方式による学期末試験 **評価割合:30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 製造業の内容と特徴
【第02回】 工業簿記の意義・仕組みと原価計算
【第03回】 原価の種類と分類
【第04回】 材料費の計算と記帳
【第05回】 労務費の計算と記帳
【第06回】 経費の計算と記帳
【第07回】 製造間接費の計算と記帳
【第08回】 部門費の計算と記帳―その1
【第09回】 部門費の計算と記帳―その2
【第10回】 個別原価計算と記帳―その1
【第11回】 個別原価計算と記帳―その2
【第12回】 標準原価計算と記帳―その1
【第13回】 標準原価計算と記帳―その2
【第14回】 工場会計の独立
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト： 長浜巖『日商簿記2級ー工業簿記ー』協進社、2015年。（前期科目「原価計算論」と同一のテキストを使用）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習はテキストを読む程度（30分）とし、復習時（60分）に1論点1計算問題を繰り返し解くことを奨励する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後に解答速報をUNIPAに掲載するので、自己採点および解けなかった問題を解けるようにすること。採点が終わり次第、匿名で点数データ（点数分布、平均点、標準偏差）を公表する。
電卓を必ず用意すること。出来ればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード：41057 **科目ナンバリング：MA30C12K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **管理会計論（Management Accounting）**

担当者： **栗原 正樹**

基本情報

年次：カリキュラム **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：火曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 11.討論

授業の概要： 企業を経営する上では、様々な場面で状況の管理が必要となるし、また、様々な場面において判断することが必要となる。このような経営管理上の必要性や、判断上の必要性から情報が求められる場合に、その情報要求に対して会計を使い、応えようとするのが管理会計である。管理会計は、企業経営と密接に関連するものであるため、この授業では、担当教員の実務経験から得られた知見に基づき、実践的に必要な関連する諸分野の内容も取扱い、管理会計を企業経営の中で体系的に理解し、実践できる能力を養成することを目指している。授業中は学生に徹底的に考えることを求め、必要に応じて発言を求めていく。

キーワード： 管理会計、企業経営、財務分析、標準原価計算

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法： 期末テスト　　**評価割合：** 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験　　**評価割合：** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言や発表により評価する。

評価割合： 10%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合： 0%

▼公正性

特になし

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

[第01回] 管理会計の意義①
[第02回] 管理会計の意義②
[第03回] 企業経営と管理会計①
[第04回] 企業経営と管理会計②
[第05回] 企業経営と管理会計③
[第06回] 企業経営と管理会計④
[第07回] CVP分析①
[第08回] CVP分析②
[第09回] CVP分析③
[第10回] 予算編成と統制①
[第11回] 予算編成と統制②
[第12回] 予算編成と統制③
[第13回] まとめ①
[第14回] まとめ②
[第15回] まとめ③
定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 履修にあたり、簿記の基礎知識があった方が望ましい。履修希望者は、簿記などの基本書を読んでおくこと。なお、工業簿記を合わせて履修することが望ましい。また、当然であるが、前回の講義内容を必ず復習してから、次の講義に参加すること。授業中に課題の提出を受ける場合には、次の授業においてコメントを行う。

科目コード：41059　**科目ナンバリング：MA30C11K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営分析論（Business Analysis）

担当者：長島 正浩

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 16,17

授業の概要： 財務諸表数値の内容を確認後、分析の理屈を理解し、あとは実際の数値を使って事例を分析して計算に慣れることが肝要である。そのため講義では、原則としてテキストに沿って授業計画どおりに進行するが、適宜補助プリントを配付して、多くの事例を分析する。毎回学習した範囲で、ミニテスト、口頭試問またはレポート作成を実施する。

キーワード： 流動資産、固定資産、流動負債、固定負債、売上高、売上原価、売上総利益

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 具体的な経営分析手法をマスターし、財務諸表から得られる企業情報を余すことなく活用できるようになる。

評価方法： 択一方式による学期末試験　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 財務諸表を中心とした企業の財務資料を分析することから、企業の実態を把握するとともに、企業戦略に役立たせることができる。

評価方法： 択一方式による学期末試験　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的

発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 財務分析の手法（全体）
【第02回】 収益性分析（全体）
【第03回】 総資本経常利益率の分析
【第04回】 損益分岐点分析
【第05回】 売上総利益の増減分析
【第06回】 安全性分析（全体）
【第07回】 流動比率、当座比率
【第08回】 固定比率、固定長期適合率
【第09回】 キャッシュ・フローの分析（全体）
【第10回】 資金運用表、資金繰表
【第11回】 キャッシュ・フロー計算書
【第12回】 生産性分析（全体）
【第13回】 付加価値、労働生産性、労働分配率
【第14回】 運転資金、設備資金、手形割引限度額
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト： 経済法令研究会『銀行業務検定試験 公式テキスト 財務3級』経済法令研究会、2023年3月。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 復習に重点をおきます。また、授業開始時においても前回の復習から入ります。
自宅学修は復習中心で60分程度が必要である。
参考文献は随時授業内で指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後に解答速報をUNIPAに掲載するので、自己採点および解けなかった問題を解けるようにすること。採点が終わり次第、匿名で点数データ（点数分布、平均点、標準偏差）を公表する。
電卓を必ず用意すること。出来ればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード：41061 **科目ナンバリング：MA21C04K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **ファイナンスI（Corporate Finance I）**

担当者： **椎名 則夫**

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：火曜4限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： ファイナンス初学者に向けて、金融の基本的な仕組みを講義します。
金融市場の機能、金融機関の役割を理解していただくことに加えて、資産運用（預金・投資信託など）および資金調達（借入・株式発行など）を行う金融システムの利用者（企業経営者、一般消費者）としておさえておきたいポイントを、実務経験を踏まえてお伝えします。
最新の事例も随時織り込んで進めていく予定です。

キーワード： ファイナンス、金融、金融市場、金融商品取引法、銀行、証券会社、資産運用会社、金融

庁、金融規制、決済制度、金利、短期金融市場、外国為替、債券市場、 株式市場、フィンテック、直接金融、間接金融、発行市場、流通市場、情報の非対称性

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ファイナンスに関する基本用語と仕組みを的確に理解・習得し、それに基づいてさまざまな経済金融に関する事象を適切に分析する素養を身につける。概ね80%以上の正答率。

評価方法: 学期末試験　　**評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 経済金融事象を主体的に分析・判断し、説明できるようになる。金融システムの利用者として必須の金融リテラシーを身につける。

評価方法: レポート　　**評価割合:30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

出席状況を含めた授業態度。発表・発言などで積極的に授業に貢献した場合は10%程度の加点を行います。

評価割合:20%

▼実践的ボランタリズム

評価対象外。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、カンニング等の不正があった場合は、減点や厳重注意の対象となります。

評価割合:0%

▼その他

特になし。

評価割合:特になし。

授業計画:

第1回　ガイダンス　金融の基本的しくみ
第2回　金融システム概観
第3回　銀行の機能
第4回　証券会社の機能
第5回　資産運用会社の機能
第6回　金融行政、金融当局、金融政策
第7回　金融取引の基本
第8回　金融市場概観1:　短期金融市場、外為市場
第9回　金融市場概観2:　債券市場、株式市場
第10回　金利・期待リターンの見方・考え方
第11回　貨幣の時間価値
第12回　株価の見方・考え方
第13回　裁定理論とデリバティブ
第14回　決済インフラ、フィンテック、ESG・SDGs
第15回　まとめ　レビューと質疑応答

授業計画は授業の進度に応じて変更することがあります。

使用テキスト: 特定のテキストを使用しません。毎回レジュメ・資料を用意します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習においては、レジュメに目を通して、疑問点などを整理して授業に臨んでください。
復習においては、講義のまとめを随時していただくとともに、課題がある場合は都度期限までに取り組んでください。(60分)
参考文献は『金融入門(＜第3版＞)』日本経済新聞社[編]　日経文庫　2020年。

日本経済新聞などに日々目を通し、最新の経済金融事象に触れ、授業で学んだ知識を当てはめて分析・判断することをお勧めします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。連絡方法は初回の授業でお知らせします。

留意事項： できれば高校の該当科目の復習をお願いします。
企業価値評価などコーポレートファイナンスを扱うファイナンスIIを履修予定の方は当講義の内容理解が必須です。

科目コード：41062　**科目ナンバリング：MA22C05K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ファイナンスII（Corporate Finance II）

担当者：椎名　則夫

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： ファイナンスIを踏まえ、コーポレートファイナンスの基本的かつ重要なテーマを網羅的に講義します。

コーポレートファイナンスでは、企業活動にかかわるキャッシュフローに注目し、その現在価値を考えることがベースになります。そして現在価値を算出する際に、資本コストという考え方が必須になります。本講では、まずこのような概念に親しんでいただいた上で、企業が資本コストを経営にどのように実装するのか、理論と実例をご紹介します。

続いて上記の応用編として、企業価値評価の手法と実務、資金調達の実際、M&A、企業倒産を順次ご紹介します。企業統治、ESG、SDGs、スタートアップファイナンスなど、最近注目度が高まるトピックもカバーします。

新しい実例を多く取り上げ、実務経験を踏まえた洞察・分析の視点を提供していきます。
金融機関志望の方はもちろんですが、企業経営を目指す方、将来起業や株式上場を考えている方、有価証券運用に興味のある方にも役立つ内容を予定します。

授業計画は授業の進度に応じて変更することがあります。

キーワード： コーポレートファイナンス、資本コスト、ROIC、企業価値評価、資金調達、スタートアップファイナンス、TOB、M

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 資本コスト、キャッシュフローの割引現在価値、企業価値などの概念を理解し、基本的な計算ができる。さらに、講義で採り上げるコーポレートファイナンスに関する重要な考え方を正確に理解する。概ね80％以上の正答率。

評価方法： 学期末筆記試験　**評価割合：50％**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義で扱う概念を用いて、事例を主体的に分析し、その結果と判断を的確に表現できる。（資本コスト経営、M

評価方法： レポート　**評価割合：30％**

▼学修に主体的に取り組む態度

出席状況を含めた授業態度。発表・発言などで積極的に授業に貢献した場合は10％程度の加点を行います。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

評価対象外。

評価割合：0％

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、カンニング等の不正があった場合は、減点や厳重注意の対象となります。

評価割合：0％

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第1回　コーポレートファイナンス概論
第2回　キャッシュフローと割引現在価値（Net Present Value）
第3回　資本コスト
第4回　資本コスト経営と投下資本収益率（ROIC）
第5回　企業価値評価手法
第6回　企業価値評価の実際
第7回　負債による資金調達
第8回　株式による資金調達
第9回　資産による資金調達
第10回　企業買収（M&A）の基本
第11回　企業買収（M&A）の応用
第12回　企業倒産
第13回　企業統治、ESG、SDGs
第14回　スタートアップファイナンス
第15回　まとめ　レビューと質疑応答

授業計画は授業の進度に応じて変更することがあります。

使用テキスト： 特定のテキストを使用しません。毎回レジュメ・資料を用意します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
予習においては、レジュメに目を通して、疑問点などを整理して授業に臨んでください。
復習においては、講義のまとめを随時していただくとともに、課題がある場合は都度期限までに取り組んでください。（60分）
参考文献は『コーポレートファイナンス入門（＜第2版＞）』砂川伸幸　日経文庫　2017年。

日本経済新聞などに日々目を通し、最新の経済金融事象に触れ、授業で学んだ知識を当てはめて分析・判断することをお勧めします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。連絡方法は初回の授業でお知らせします。

留意事項： ファイナンスIの履修を終えて受講してください。
また履修済みの会計科目の復習も適宜行ってください。

科目コード：41063　**科目ナンバリング：MA20C14K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **金融論（Finance）**

担当者： **尾家　啓之**

基本情報

年 次 :2　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 火曜4限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :　　**A L 要 素 :** 17.発問と回答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】遠隔授業（同時双方向型）/遠隔授業（オンデマンド型）・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業

金融論とは、金もうけをするための理論ではありません。お金を融通する仕組みを体系的かつ理論的に理解する学問ですが、お金（マネー）の意味を掘り下げたり、世の中におけるお金の流れや特徴を理解することにより、実体経済の動きをより深く理解することができます。

日本銀行に長く在職し、その後、銀行系シンクタンクのチーフエコノミストをしている経験を活かし、理論のみならず、実践面で、具体的な世の中の事象を金融経済的な視点を持って解明していく力を身に着けていただくことを目指します。結果として、大学生から社会人になる過程において必須となる金融の基礎知識を身に着け、「金融リテラシー」を高めます。皆さんが生きていく上で、お金とは無縁に暮らしていけません。むしろ、私生活でも職場でも、お金とうまく付き合っていけば、その後の人生をより豊かに送ることができるでしょう。

なお、授業の英語名はFinanceとなっていますが、この授業は、いわゆるファイナンス理論ではなく、実質的にはMoney and Bankingといった内容です。このへんのところは、第1回目の授業で説明します。

キーワード: お金（マネー）・金融・市場、仮想通貨・暗号資産、電子マネー・中央銀行デジタル通貨、日銀、金融政策、インフレ・デフレ、金融機関、金融システム、バブル、金融危機

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で扱った金融論の基礎的な知識・技能、基本的な考え方について、概ね（80％程度）理解し、解答することができる。

評価方法: 3回提出していただく小論文を基に総合的に評価します。　**評 価 割 合 : 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験も踏まえて考察し、論理的に思考の道筋を整理した上で、適正な判断を導き、それを表現することができる。

評価方法: 同上　**評 価 割 合 : 30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席はもとより、授業中に行われる議論に積極的に参加すること、自主的な学修により予習と復習に主体的に取り組むことは、とても重要です。出席と、授業中の議論への参加、3回の小論文作成等を踏まえて、こうした主体的な取り組みの姿勢がうかがわれた場合は、加点の対象とします。一方、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意ないし減点の対象とします。

評 価 割 合 : 10%

▼実践的ボランタリズム

ボランティア活動等の実践により深められた知見が3回提出する小論文の記述等で確認された場合は、加点の対象とします。

評 価 割 合 : 5%

▼ 公 正 性

人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象とします。

評 価 割 合 : 5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　ガイダンス、金融論とはどのような学問か、金融論（前期）の授業の全体像
第2回　金融とは何か、お金（マネー）の本質とは
第3回　仮想通貨・暗号資産はマネーか、電子マネー・中央銀行デジタル通貨とは
第4回　金融市場とは、直接金融と間接金融
第5回　第1回～第4回の復習と、理解度確認小論文提出

第6回　日銀の役割
第7回　金融政策
第8回　インフレとデフレ
第9回　非伝統的金融政策とは
第10回　第6回～第9回の復習と、理解度確認小論文提出

第11回　金融機関の種類
第12回　金融システムとは、金融システムの安定性とは
第13回　バブルとは何か
第14回　金融危機とは何か
第15回　第11回～第14回の復習と、全体のまとめ、理解度確認小論文提出

使用テキスト：島村高嘉・中島真志著「金融読本（第31版）」（東洋経済新報社、2020年）…30版以前の古いものは不可。原則として毎回講義のポイントを記したレジュメを配布する予定です。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：毎回の授業の前に、その回のテーマに関連するテキストの該当部分を読み、キーワード等用語を調べるなどして問題意識を醸成する。授業後には、テキストの該当部分および配布資料の内容について概ね理解できるように復習すると共に、興味のある事項について掘り下げ、更なる疑問点・問題意識を明らかにする。学生時代の貴重な時間を、知識の習得のみならず論理性・思考力・判断力を鍛えるために大切に使う習慣をつける。

参考文献として、植田和男著「大学4年間の金融論が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA、2017年）を推薦します。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに常陽産業研究所（029―233―6731）まで連絡してください。対面での質疑応答が必要な場合は講義前後の時間帯で対応したいと思います。

留意事項：「ミクロ経済学入門」と「マクロ経済学入門」を履修済ないし履修中であることが望ましいが、必須ではありません。経済学の基礎知識がなくても、できるだけ平易にわかりやすく講義することに努めます。

いわゆる1回限りの期末試験（ペーパーテスト）は実施しません。4回授業を行ったあと、5回目はそれまでの復習を簡単に行います。その後、それまでの授業で理解したこと、興味を持ったこと、世の中で応用できそうなこと、更なる疑問点・問題意識などを小論文形式で記述していただきます。これを15回の講義のなかで3回繰り返すことにより、知識・技能面、思考力・判断力・表現力の評価を行います。このほか、学修に主体的に取り組む態度は重要です。授業の中で皆さんに質問を投げかけたいと思いますので、積極的に議論に参加してください。

科目コード：41064　**科目ナンバリング：MA20C15K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：国際金融論（International Finance）

担当者：尾家　啓之

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜4限　**履修可能学科・専攻：**Ｅ Pe Pc Ｃ Ｗ Ｆ Ｎ Ｍ

関連資格：　**ＡＬ要素：**17.発問と回答

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】遠隔授業（同時双方向型）/遠隔授業（オンデマンド型）・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業

この授業は、前期金融論の応用編に位置付けられますので、できれば前期金融論から継続して受講していただくことをお勧めします。皆さんの身の回りの商品をみても明らかなように、今や、経済は国内だけで完結するものではなく、ほとんどの物事が国境を越えたサプライ・チェーンでつながっています。多くの企業は国境を越えて活動していますが、国際的に活動する過程で必ず遭遇するのが、為替レートや貿易、国際金融です。まずは、皆さんが日ごろ見聞きする円ドルレート（為替レート）がどのように決まるのかといった理論を学んだ上で、国際通貨制度、IMF・世銀体制などの歴史的変遷を学習します。その後、国際収支、貿易理論、開放マクロ経済の考え方を学びます。最後に、通貨危機・国際金融危機について、なぜこれが起こるのか、基軸通貨ドルとは何か、フィンテック・デジタル通貨などを踏まえた国際金融の新たな展開について学びます。

キーワード： 為替レート、国際通貨制度、IMF・世銀(ブレトンウッズ）体制、金本位制、固定相場制、変動相場制、国際収支、貿易理論、開放マクロ経済、ユーロ、国際通貨危機、リーマンショック（国際金融危機）、グローバル化、証券化、フィンテック、デジタル通貨

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱った国際金融論の基礎的な知識・技能、基本的な考え方について、概ね（80％程度）理解し、解答することができる。

評価方法： 3回提出していただく小論文を基に総合的に評価します。　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験も踏まえて考察し、論理的に思考の道筋を整理した上で、適正な判断を導き、それを表現することができる。

評価方法： 同上　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席はもとより、授業中に行われる議論に積極的に参加すること、自主的な学修により予習と復習に主体的に取り組むことは、とても重要です。出席と、授業中の議論への参加、3回の小論文作成等を踏まえて、こうした主体的な取り組みの姿勢がうかがわれた場合は、加点の対象とします。一方、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意ないし減点の対象とします。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

ボランティア活動等の実践により深められた知見が3回提出する小論文の記述等で確認された場合は、加点の対象とします。

評価割合：5%

▼公正性

人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象とします。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　ガイダンス、国際金融論とはどのような学問か、国際金融論（後期）の全体像
第2回　為替レートとは何か、どのように決まるのか
第3回　場合によっては第2回の続き、国際通貨制度の変遷
第4回　場合によっては第3回の続きとIMF・世銀体制、固定相場制・変動相場制
第5回　第1回～第4回の復習と、これまでの理解度確認小論文提出

第6回　国際収支
第7回　為替レートによる国際収支の調整
第8回　国際収支不均衡とその是正、アブソープション・アプローチ、ISバランス・アプローチ
第9回　開放マクロ経済
第10回　第6回～第9回の復習と、これまでの理解度確認小論文提出

第11回　ユーロの誕生
第12回　国際通貨危機とは何か
第13回　基軸通貨ドルとは何か
第14回　国際金融の新たな展開（フィンテック、デジタル通貨、金融の未来像）
第15回　第11回～第14回の復習、全体のまとめ、これまでの理解度確認小論文提出

使用テキスト： 西村陽造・佐久間浩司著「新・国際金融のしくみ」（有斐閣アルマ、2020年）。原則として毎回講義のポイントを記したレジュメを配布する予定です。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎回の授業の前に、その回のテーマに関連するテキストの該当部分を読み、キーワード等用語を調べるなどして問題意識を醸成する。授業後には、テキストの該当部分および配布資料の内容について概ね理解できるように復習すると共に、興味のある事項について掘り下げ、更なる疑問点・問題意識を明らかにする。学生時代の貴重な時間を、知識の習得のみならず論理性・思考力・判断力を鍛えるために大切に使う習慣をつける。

参考文献として、植田和男著「大学4年間の金融論が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA、2017年）、橋本優子・小川英治・熊本方雄著「国際金融論をつかむ（新版）」（有斐閣、2019年）を推薦します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに常陽産業研究所（029―233―6731）へ連絡して下さい。対面での質疑応答が必要な場合は、講義前後の時間帯に対応したいと思います。

留意事項： 「ミクロ経済学入門」と「マクロ経済学入門」を履修済ないし履修中であることが望ましいが、必須ではありません。「金融論（前期）」も履修済であることが望ましいが、必須ではありません。経済学の基礎知識がなくても、できるだけ平易にわかりやすく講義することに努めます。

いわゆる1回限りの期末試験（ペーパーテスト）は実施しません。4回授業を行ったあと、5回目はそれまでの復習を簡単に行います。その後、それまでの授業で理解したこと、興味を持ったこと、世の中で応用できそうなこと、更なる疑問点・問題意識などを小論文形式で記述していただきます。これを15回の講義のなかで3回繰り返すことにより、知識・技能面、思考力・判断力・表現力の評価を行います。このほか、学修に主体的に取り組む態度は重要です。授業の中で皆さんに質問を投げかけたいと思いますので、積極的に議論に参加してください。

科目コード：41065　**科目ナンバリング：MA20C16K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：証券市場論（Securities Market）

担当者：小林　亮

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 発問と回答

授業の概要： 遠隔授業(同時双方向型)　MSTeamsを使った遠隔授業　履修生にはチームコードを共有して授業に参加してもらいます。出欠はチームズ会議への参加記録と授業後のアンケートへの回答で確認します。

主に投資家の立場から有価証券を解説し、それらの価格変化やリスク特性の理解を深めま

す。証券取引所や店頭市場での取引の仕組みを解説し、将来の証券投資など自身の資産管理を行う上で有益な情報を提供します。

キーワード： 債券市場、最終利回り、デュレーション、感応度、利回り曲線（イールド・カーブ）、株式市場、証券取引所、媒介・代理、ディーリング、株価指数、金融派生証券（デリバティブ）、コスト・オブ・キャリー、裁定理論、先物（フューチャーズ）、スワップ、オプション、ボラティリティ、モダン・ポートフォリオ理論、CAPM、効率市場仮説

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 債券価格と利回りの関係、株式売買の仕組み、派生商品の理論価格の基本を理解する。投資理論の背景にあるリスクとリターンの考え方に親しむ。

評価方法： 学期末記述試験　　**評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 裁定理論の考え方に親しみ金融商品以外の売買にも応用できる割高、割安の感覚を身につける。リスクとリターンの関係を意識して不確実な状況下での意思決定に役立てる。

評価方法： レポート　　**評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

出席状況を含めた授業態度。 発表や発言などで積極的に授業に貢献した場合は10％程度の加点も行う。

評価割合： 20%

▼実践的ボランタリズム

評価対象外

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。 ただしカンニング等の不正があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回　有価証券と何か　　金融商品取引法、株主の権利、債権者の権利
第2回　債券の基礎　　利回りと価格、価格感応度、利回り曲線
第3回　債券流通市場　　国債、地方債、政府保証債、事業債、レポ取引
第4回　株式の基礎　個別株、株価指数　株式評価指標
第5回　株式流通市場　　証券取引所、注文の種類、PTS、信用取引、株券貸借
第6回　金融派生商品（1）　先物、コスト・オブ・キャリー，差金決済、現引き・現渡し
第7回　金融派生商品（2）　スワップ取引、ISDA、LIBOR
第8回　金融派生商品（3）　オプション取引、二項モデルでの価格計算、ボラティリティ、デルタ・ヘッジ
第9回　投資理論　（1）　現代ポートフォリオ理論　効率的フロンティア、接点ポートフォリオ
第10回　投資理論（2）　CAPM、シングル・ファクター・モデル、ベータ
第11回　投資理論（3）　効率市場仮説
第12回　投資信託　　仕組み、アクティブ運用、パッシブ（インデックス）運用
第13回　投資家とは　機関投資家、アクティビスト、スチュワードシップ
第14回　その他の投資資産　　不動産、商品（貴金属、原油、穀物）、暗号通貨
第15回　まとめ

授業計画は授業の進度に応じて変更することがあります。

使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。毎回レジュメ・資料を配布。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献

『図説　日本の証券市場(2020版)』 日本証券経済研究所　2020年

日本取引所グループホームページ
https://www.jpx.co.jp

日本証券業協会ホームページ
https://www.jsda.or.jp

授業後に新しく学んだ内容を確認し、自主学習を通じ理解を深める。(60分)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、ますは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 具体的な質問などはメールで受け付けます。 また毎回の授業の後にMSTeams/Formsでアンケートを取るので、授業のフィードバック他、要望等を受け付けます。

留意事項： 履修にあたってはファイナンスIを履修済みであること。数式を使う説明は最小限に止める予定ですが、高校で学んだ数学、特に統計や確率の程度の理解があれば講義の理解に役立ちます。

科目コード：41066　**科目ナンバリング：MA31C03K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **租税論I(Corporate Tax I)**

担当者： **円城寺　大樹**

基本情報

年次：カリキュラム　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 03.実験・実技・体験

授業の概要： まん延防止等重点措置期間中の授業形態　→　課題研究型

税法をはじめて勉強する学生を対象としているので複雑になりすぎないように、日常生活を送るうえで必要な所得税、法人税、消費税、相続税の税法知識を関連法令をはじめとする様々な資料を使って解説をします。
税法の知識を深めるために、実際の事例を用いて税金計算をしてもらい課税庁への提出書類(申告書等)の作成に慣れてもらいます。

キーワード： 租税法律主義、租税公平主義、税収、所得再分配、納税、所得、青色申告、累進課税、実効税率、内国法人、外国法人、国際課税

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた税法知識により所得税、法人税、消費税、相続税の申告書骨組みが理解できる。

評価方法： 学期末筆記試験　**評価割合：70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、税法の基本的な考え方が理解できる。

評価方法： 学期末筆記試験　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがあ

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【01回】この授業の到達目標と概略
【02回】租税法の基本原則
【03回】所得税　所得の種類
【04回】所得税　所得から差し引かれる金額
【05回】所得税　納める金額の計算
【06回】所得税　確定申告
【07回】相続税　相続税のしくみ
【08回】相続税　相続税の計算①
【09回】相続税　相続税の計算②
【10回】相続税　贈与税の計算
【11回】消費税　基本的な仕組み
【12回】消費税　納税義務者
【13回】消費税　課税対象等
【14回】消費税　仕入税額控除
【15回】消費税　簡易課税
定期試験

使用テキスト：税務経理協会「ガイダンス　新税法講義」林仲宜、竹内進、四方田彰、角田敬子著を使用します。
授業で使用する資料については、すべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる
・授業後には、テキスト、配布した資料について復習して下さい。
参考文献などは授業でお知らせするようにします。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段：初回の授業でお知らせいたします

留意事項：特になし

科目コード：41067　**科目ナンバリング**：MA32C03K　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：租税論II（Corporate Tax II）

担当者：円城寺　大樹

基本情報

年次：カリキュラム　**単位数**：2　**授業形式**：講義

曜 時：木曜3限　　**履修可能学科・専攻**： E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：　　**ＡＬ要 素**： 03 実験・実技・体験

授業の概要： 国税のうち法人税、消費税といったビジネス実務に関する税法の取扱いや考え方及び実務における問題点等を講義します。必要に応じてケーススタディによる最新の判例、新聞記事による事例解説なども加味し、講義により身に着いた基礎的な知識を簡単な例にあてはめて運用する能力を身に着けられるよう効率的効果的に解説します。

キーワード： 消費税、軽減税率、. 国境を越えた役務提供、法人税、同族会社、外国法人、企業組織再編

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 授業で解説を受けた税法知識により法人税と消費税の簡単な申告書の作成ができるようになり、国際課税の問題が理解できるようになる。

評価方法： 学期末筆記試験　　**評 価 割 合**：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、税法の応用的な考え方が理解できる

評価方法：学期末
筆記試験　　**評 価 割 合**：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合：0%

▼その他

特になし

評 価 割 合：特になし

授 業 計 画：
【01回】この授業の到達目標と概略
【02回】消費税　課税対象
【03回】消費税　納税義務者と納税地
【04回】消費税　課税期間
【05回】消費税　課税標準と税率
【06回】消費税　税額控除Ⅰ
【07回】消費税　税額控除Ⅱ
【08回】消費税　税額計算と申告
【09回】所得税　所得の種類
【10回】所得税　納税義務者

【11回】所得税　源泉徴収
【12回】所得税　青色申告
【13回】所得税　所得控除
【14回】所得税　税額計算Ⅰ
【15回】所得税　税額計算Ⅱ
定期試験

使用テキスト： 税務経理協会「ガイダンス　新税法講義」林仲宜、竹内進、四方田彰、角田敬子著を使用します。
授業で使用する資料については、すべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる
・授業後には、テキスト、配布した資料について復習して下さい。
参考文献などは授業でお知らせするようにします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部へ連絡してください

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお知らせいたします。

留意事項： 特になし

科目コード：41068　**科目ナンバリング：MA11C02K**　**主な使用言語：日本語＆英語**

授業名（英文）：ビジネスコミュニケーションI（Business English Communication I）

担当者： Le Pavoux, Mari

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：月曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 13. 役割演技と疑似体験

授業の概要： 社会の変化を反映したテーマについての英文（英検2級程度）を読解し、それに対して意見交換する。TOEICなどの検定試験にも頻出する語彙・文法についても解説する。

キーワード： ビジネス英語、社会の変化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けたビシネスに頻出する表現をおおむね80%意味が分かり、選択することができる。

評価方法： 学期末筆記試験　**評価割合：70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知識や知見をふまえ、意見を述べることができる。

評価方法： 学期末試験　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

該当しない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて人権侵害・差別的

発言など著しく公正性を書く言動やカンニングなどの不正行為があった場合、原点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
1回目　ギグワーク
2回目　外国人の上司
3回目　ビットコイン
4回目　リモートワーク
5回目 クラウドファンでぃんぶ
6回目　eスポーツビジネス
7回目　ユニコーン企業
8回目　音楽ビジネス
9回目　宇宙旅行ビジネス
10回目キャッシュレスとビジネス
11回目ワーケーション
12回目はんこの未来
13回目エンタメ系サブスクサービス
14回目日本の高品質デニム
15回目ポップアップストア
定期試験 （筆記試験）

使用テキスト： 「Global Pathways」by Jonathan Lynch / Kotaro Shitori （成美堂）2090円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 教科書および配布された資料は下読みし、調べても分からない表現を特定してくること。練習問題は授業前に解いてくること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡先等を問い合わせてください。

留意事項： 後期開講の「ビジネスコミュニケーションII」とは、完全に別の内容です。

科目コード：41069　**科目ナンバリング：MA12C03K**　**主な使用言語：日本語＆英語**

授業名（英文）：ビジネスコミュニケーションII（Business English Communication II）

担当者： Le Pavoux, Mari

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：月曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 13. 役割演技と疑似体験

授業の概要： ビジネスにおける実際のコミュニケーションにおける対人関係の心理について扱う。毎回異なるテーマについての英文を通して知識を得た後、質疑応答を通して理解を深める。

キーワード： ビジネス英語、ビジネス心理、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けたビシネスに頻出する表現をおおむね80%意味が分かり、選択することができる。

評価方法： 学期末筆記試験　**評価割合：70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、また自主学習によって得た知識や知見をふまえ、ビジネスにおけるあらゆる場面において望ましい振る舞いをすることができる。

評価方法: 学期末試験　　**評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

該当しない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を書く言動やカンニングなどの不正行為があった場合、原点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

1回目　ビジネス心理学とは何か
2回目　就職活動の心理学
3回目　積極的な休暇のすすめ
4回目　ロボットとともに働くということ
5回目　会社は男社会その1
6回目　会社は男社会その2
7回目　社内で自分らしくいるということ
8回目　ギブ・アンド・テイク
9回目　職場のゴシップ
10回目　職場の仕切りたがり屋
11回目　行いの立派なのが立派な人
12回目　私の空間・あなたの空間
13回目　起業家になるためには何をしたらよいか
14回目　ブレインストーミングと情報化社会
15回目　人事におけるビジネス心理学の活用のすすめ
定期試験

使用テキスト: 「Mind Matters -- The Psychology of Business and Work 」by Jim Knudsen / Hirofumi Horikiri (南雲堂) 1900円 + 税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 教科書および配布された資料は下読みし、調べても分からない表現を特定してくること。練習問題は授業前に解いてくること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡先等を問い合わせてください。

留意事項: 前期開講の「ビジネスコミュニケーションI」とは、完全に別の内容です。

科目コード: 41070　　**科目ナンバリング:** MA20C20K　　**主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 外書講読(English Business Reading)

担当者: Le Pavoux, Mari

基本情報

年 次 :2　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 月曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格 :　　**AL要素 :** 17発問と回答

授業の概要 : 日本の代表的な企業における実際のビジネスケースについての英文を講読することを通して、英語力の向上とビジネスへの見識を深める。

キーワード : グローバル・リーダーシップ、ビジネス分野の語彙

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で解説した語彙、表現、内容について、概ね80％理解し、暗記している。

評価方法 : 学期末筆記試験　　**評価割合 : 80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で扱った内容に関して、簡単に英語で意見を述べることができる。

評価方法 : 学期末試験　　**評価割合 : 20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的には評価しない。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的には評価しない。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的には評価しない。

評価割合 : 0%

▼その他

直接的には評価しない。

評価割合 : 直接的には評価しない。

授業計画 :

1回目　世界最大の共同＝協働マーケティングを立ち上げる
2回目　新しい価値を創造し、変化をもたらす
3回目　日本の消費者に向けたブランド構築
4回目　技術経営で大企業に変化を起こす
5回目　時代をリードするブランドの再生
6回目　アメリカ本社との交渉戦術で日本の品質管理を世界基準に
7回目　困難なビジネスを長期的展望で黒字化に
8回目　中国人のためのブランドづくりと企業活動
9回目　新興国を開拓する
10回目　日本の消費者に伝わるコミュニケーション戦略
11回目　地域密着ブランドで全国ブランドに対抗する
12回目　ブランド・アイデンティティの持続とグローバルビジネス戦略
13回目　グローバルブランドコミュニケーションの向上
14回目　グローバルリーダーの育成をめざすダイバーシティ経営
15回目　グローバルビジネスモデルの構築
定期試験

使用テキスト : 「Global Leadership -- Case Studies of Business Leaders in Japan 」
by Yasuo Nakatani / Ryan Smithers（金星堂）1900円+ 税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等 : 授業前にテキストを下読みしてくること。授業後は、テキストを音読し、語彙力増強に努めてく

だい。

障がいのある履修者への対応: まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: 教科書は毎回必ず持参すること。

科目コード:41071 **科目ナンバリング:MA20C07K** **主な使用言語:会話は日本語。文**

授業名(英文): 英語で学ぶ経営学入門(Business Management in English)

担当者: 渡部 暢

基本情報

年次:2 **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:木曜2限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 14. 輪読活動
17. 発問と回答

授業の概要: ビジネス的な素養と英語の能力を備えることは、働く人達にとって当たり前のように求められる時代となってきています。ただその双方の技能を実践で活用できるレベルにまで至るのはそれほど容易ではないのも事実です。そこで、この講義では皆さんが今後自身で未来を切り開いていけるようにビジネスの素養と英語の能力を身につけていくうえで足掛かりとなる講義と演習を行っていきます。特には、ビジネス関連の英文和訳をして貰うことで、英語の理解力向上を図りつつ、経営学上の鍵となる理論や概念、時には議論に至るまでを身につけていくことを目指します。

キーワード: ビジネスイングリッシュ、マネジメント、経営学基礎

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英語の文献を通して経営学の概念
を学習する。これによって、英語の理解力を向上とビジネス的な素養の一部を習得することが目標である。

評価方法: 授業内課題 **評価割合:40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ビジネス記事や英語の経営学関連の教材を和訳し、内容を理解・表現できる量力をつける。

評価方法: 授業内での和訳 **評価割合:40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業で配布される課題を復習し、内容を理解することが必要。

評価割合:20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合:0%

▼公正性

直接的には評価対象とはしない。ただし授業中に他者の権利等を著しく侵害する行為や言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：経営学の文献、ビジネスに関する記事などの和訳を中心に講義を進める。その上でビジネスで重要だと考えられる経営用語を理解するとともに、経営学的な意味も理解できるような設計を図る。様々な文献や資料から適当な箇所をコピーして配布するので、それを履修者が和訳する形式で進めていく。経営の知識が少ない学生でも理解できるように、できるだけ基本的な文献や実際の企業の実例を使った資料を取り扱っていく。英語の経営書を和訳していくことで、海外の文献や資料の内容を理解することで英語とビジネス的な素養両方を身につける足掛かりとしてほしい。

使用テキスト：随時配布するので指定のテキストはない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：ビジネス関連の英語文献に常に触れること。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：講義直後、オフィスアワーあるいはメールで対応します。

留意事項：英語に不安がある方は、毎講義、電子辞書あるいはペーパーの辞書を持参すること。
演習内で対話を図っていく形でフィードバックを行う

科目コード：41072　**科目ナンバリング**：MA10B11K　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：会社法I（Business Law I）

担当者：荒木 雅也

基本情報

年次：カリキュラム　**単位数**：2　**授業形式**：講義

曜時：前期（集中講義）、後期（集中講義）　**履修可能学科・専攻**：ＥPe Pc ＣＷＦＮＭ

関連資格：教職　**ＡＬ要素**：アクティブラーニング要素は16. 授業終了時に回収する振り返り用紙などを参考にして次時の授業などで応答を行う。

授業の概要：会社法Iでは、株式会社の機関（株主総会、取締役、取締役会、代表取締役、会計参与、監査役等）について学習した上で、株式会社に関する主要なルールを概観する。

キーワード：株式会社　株式会社の機関　株主　株主総会　取締役　取締役会　代表取締役　監査役　新株発行　自己株式取得

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：①株式会社の機関の役割と、諸機関の関係を理解すること。②株式会社の資金調達のための制度の概要を理解すること。③株式会社に関する主要な専門用語を的確に理解すること、④会社に関する法制度についての日経新聞の解説記事を理解できるようになること。

評価方法：小テスト　**評価割合**：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：最終試験において、ただ単に知識を示すだけではなく、仮定の事例において適切に問題解決の方法を示すことができるようになること。

評価方法：最終試験　**評価割合**：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第1回：ガイダンス
シラバスを用いてガイダンスを行う。
第2回：株式会社の機関設計
株式会社の機関である、取締役会や株主総会などの基本的な役割について解説する。
第3回：株主・株主総会
株主の権利と株主総会の権限について解説する。
第4回：株主総会決議の瑕疵
どのような場合に株主総会決議を取消すことができるかなどについて解説する。
第5回：取締役・取締役会・代表取締役
株式会社の経営機構の権利と義務について解説する。
第6回：会計参与・監査役・会計監査人
株式会社の監視機構の権利と義務について解説する。
第7回：役員等の会社に対する責任
取締役などがどのような場合に株式会社に対して賠償責任を負うかについて解説する。
第8回：株主代表訴訟
どのような場合に株主は、株式会社に代わって取締役などに対して損害賠償を請求できるかについて解説する。
第9回：会社の資金調達
株式会社の資金調達の方法として、新株発行、社債発行、新株予約権の発行があることを解説する。
第10回：新株発行
株式会社がどのように新株を発行するか、また、違法な新株発行に対してどのような措置が講じられるか、について解説する。
第11回：新株予約権
株式会社がどのように新株予約権を発行するか、また、違法な新株予約権発行に対してどのような措置が講じられるか、について解説する。
第12回：自己株式
株式会社が自己株式を取得する意義や、そのための手続きなどについて解説する。
第13回：種類株式など
株式会社が発行できる株式の多様性について解説する。
第14回：M&A
株式会社の合併その他のM&Aについて解説する。
第15回：まとめと最終試験

使用テキスト：教科書は指定しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：毎回の授業ではレジュメを配布します。重要な箇所については、受講者にレジュメに補足してもらいながら解説します。小テストや期末試験において解答するうえで、配布物が基礎的な資料となりますので、小テストや期末試験の前には、配布物を用いて復習をしておいてください。

参考書として以下の書籍を指定する。
岩原・神作・藤田　編著『会社法判例百選　第3版』（有斐閣、2016年）、2592円。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご相談下さい。

授業時間外の連絡手段: 学務部等を通してのご相談に応じます。

留意事項: なし。

科目コード:41073 **科目ナンバリング:MA10B12K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **会社法II(Business Law II)**

担当者: **荒木 雅也**

基本情報

年次:カリキュラム **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: アクティブラーニング要素は16. 授業終了時に回収する振り返り用紙などを参考にして次時の授業などで応答を行う。

授業の概要: 会社法IIでは、会社法を学習する上での基礎として、自然人・組合・匿名組合・商人・法人・会社(合名会社、合資会社、合同会社、株式会社)といった基礎的な概念について解説した上で、会社法総則と、株式会社の設立などについて解説する。

キーワード: 自然人と法人 株式会社 持分会社 合名会社 合資会社 合同会社 法人格否認の法理 商法と会社法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ①会社にはさまざまな種類の会社があることをを理解すること。②株式会社と持ち分会社の相違を理解すること。③商法と会社法の関係を理解すること。

評価方法: 小テスト **評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 最終試験において、ただ単に知識を示すだけではなく、仮定の事例において適切に問題解決の方法を示すことができるようになること。

評価方法: 最終試験 **評価割合:50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合:0%

▼その他

特になし。

評価割合:特になし。

授業計画: 第1回:ガイダンス
第2回:民法・商法・会社法

第3回:個人企業、組合企業、法人企業
第4回:商人・商行為
第5回:持分会社
第6回:株式会社
第7回:法人格否認の法理
第8回:株式会社の設立①　定款、発起人
第9回:株式会社の設立②　設立手続
第10回:設立関与者の責任
第11回:商業登記
第12回:商号
第13回:商業使用人
第14回:代理商
第15回:まとめと最終試験

使用テキスト: 教科書は指定しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎回の授業ではレジュメを配布します。重要な箇所については、受講者にレジュメに補足してもらいながら解説します。小テストや期末試験において解答するうえで、配布物が基礎的な資料となりますので、小テストや期末試験の前には、配布物を用いて復習をしておいてください。

参考書として以下の書籍を指定する。
岩原・神作・藤田　編著『会社法判例百選　第3版』(有斐閣、2016年)、2592円。
江頭・山下　編著『商法(総則・商行為)判例百選 第5版』(有斐閣、2008年)、2592円。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご相談下さい。

授業時間外の連絡手段: 学務部等を通してのご相談に応じます。

留意事項: なし。

科目コード:41076　**科目ナンバリング:MA10C06K**　**主な使用言語:日本語・英語**

授業名(英文): TOEFL/TOEIC集中講座(Intensive Course on TOEFL / TOEIC)

担当者: 三上　司

基本情報

年次:1　**単位数:2**　**授業形式:演習**

曜時:火曜5限　**履修可能学科・専攻:** M

関連資格:　**AL要素:** 03, 05, 17

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型
TOEICテストと同形式の問題演習を通じ、TOEICテストの形式になれるとともに、正答するために必要な解答ストラテジーを身に付けられるようにします。同時に、小テストを通じて、TOEICのスコアをアップするために必要な文法事項及び頻出語彙についても学習します。

キーワード: TOEIC, テスト形式、語彙、構文

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説されたTOEICの問題について、正しく解答することができる。

評価方法: 授業への参加、小テスト　**評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱ったTOEIC問題正答のためのストラテジー、語彙・文法事項の知識を実践的に使用することができる。

評価方法: 授業への参加、小テスト　　**評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

第01回 Introduction
第02回 Living Arrangements
第03回 Entertainment
第04回 Traffic and Transportation
第05回 Travel(小テスト)
第07回 Office Work
第08回 Purchasing
第09回 Technology
第10回 Personnel(小テスト)
第11回 Finance and Money
第12回 New Media
第13回 Press Release
第14回 Research
第15回 Environment(小テスト)

使用テキスト: 開講時に提示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考書等は、授業中適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 開講時に示します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 41079　　**科目ナンバリング:** MA21C05K　　**主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 経営特講I(Topics in Management I)

担当者: 菅野 雅子

基本情報

年次: 2　　**単位数:** 2　　**授業形式:** 講義

曜時: 火曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格:　　**AL要素:** 04 課題解決
07 発表
08 協同学習
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 日立市による寄付講座です。
前半は、日立市役所の4つの部署の担当者より、それぞれの担当業務に関する話題を提供していただきます。日立市の現状や地域の抱える様々な課題、それに対して行政はどのような施策を行っているのか理解を深めていきます。地方公務員の仕事内容の理解にも役立ちます。
後半は、聴講した講義を踏まえてグループごとに課題を設定し、学生の立場から解決策やアクションプランを考案します。最終的に、検討した案を市役所の担当者にプレゼンテーションを行いコメントをいただきます。プレゼンテーションに向けた一連のグループワークを通じて、情報収集力、課題発見力、論理思考、創造性、協調性などを磨くことができます。

キーワード： 日立市、市役所、地方自治、地方創生、課題解決、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 設定された4つのテーマごとに、日立市の現状と課題についての講義を受け、地域の抱える課題と解決の方向性についての基礎知識を身に着ける。

評価方法： リアクションペーパー、プレゼンテーション　**評価割合：** 35%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義で学んだ日立市の現状と課題に関する知識や情報を踏まえ、さらに自分自身で情報収集を行い、論理的思考と創造性を駆使して、新たな視点から課題解決策を提案をすることができる。

評価方法： リアクションペーパー、プレゼンテーション　**評価割合：** 35%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とする。グループワークへの積極的な参加・貢献、質問・意見、リアクションペーパーの提出、プレゼンテーションへの取組み姿勢など主体的な学習姿勢で取り組んでほしい。
外部の方に対するマナーや礼儀も重視します。

評価割合： 30%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的には評価対象とはしないが、グループワークでの参加、講話に対する質問等の行動が見られた場合は評価に加える。

評価割合： 0%

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画： 前半は、日立市役所の4つの部署の担当者の講義を受けます。各講義の翌週は、講義の振り返りと提示された課題をグループで検討します。
後半は、各自が検討したいテーマによってグループに分かれて、課題解決策やアクションプランを検討します。最終的に、検討した案を日立市役所の担当者に対してプレゼンテーションを行いコメントをいただきます。
※日立市の担当者の方の講義は、第2・4・6・8回の4回です。テーマは（仮）であり、変更の可能性があります。

第1回：オリエンテーション
第2回：日立市のシティプロモーション※
第3回：振り返りと課題のクループワーク
第4回：日立市の若者支援※

第5回:振り返りと課題のクループワーク
第6回:日立市の環境対策※
第7回:振り返りと課題のクループワーク
第8回:日立市の観光振興※
第9回:振り返りと課題のクループワーク
第10回:グループ結成と作業打ち合わせ
第11回:グループワーク(1)
第12回:グループワーク(2)
第13回:グループワーク(3)
第14回:グループワーク(4)
第15回:成果発表会

使用テキスト: レジュメを資料内で配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前に日立市のホームページ、日立市が発信するSNS(インスタグラム、Twitter、Facebook)等を通じて、日立市の取り組みについて情報収集しておくと良い。
授業後に必ず復習すること。課題やディスカッション等で、自分の意見や考え方を伝えられたかどうかを振り返ること。

＜参考文献＞※購入は必須ではありません。
財団法人日本経済研究所『公共サービスデザイン読本』ぎょうせい、2008年。
筧裕介『地域を変えるデザイン』英治出版、2011年。
筧裕介『ソーシャルデザイン実践ガイド』英治出版、2013年。
石山恒貴『地域とゆるくつながろう』静岡新聞社、2019年。

障がいのある履修者への対応: できる限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項: 特になし。

科目コード:41080 **科目ナンバリング:MA22C06K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **経営特講II(Topics in Management II)**

担当者: **申 美花**

基本情報

年次:2 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:火曜3限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 04. 課題解決
07. 発表
08. 協同学習

授業の概要: 講義は,60分の経営者の講義,質疑応答時間30分で進行する計画である。講義の主題をもとにしたレポート課題が担当教員から出題されるので、次の週までにUNIPAを通じて教員にレポートを提出する。講義の翌週は教員から提示された課題を,グループごとに討議し、チームとしてのソリューションをまとめて発表する。このように、講義とグループワークを2週組み合わせて授業を進める。参加者は話を聞くだけではなく、質問、グループでの課題解決に積極的な参加が必要とされる。実際に経営者が直面している経営課題に、経営者に対する質問、グループ実習での問題解決、プリゼンなどによって関与し、社会で求められる能力を育成することが目標である。

キーワード: 経営者講話、経営課題、経営実習

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 第一線で活躍している経営者の方々から直接経営の話を聞く、茨城県経営者協会による寄附講座である。県を代表する産業・企業の経営者が講義を担当する。企業の強み・弱み、ビジネスの機会とリスクを評価するSWOT分析などの方法や、業界の動向、自社の具体的な経営戦略や成長戦略などの話から実際の企業経営を理解します。

評価方法: 課題に対する提出するレポート　**評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 経営者の講話を聞いて、経営者の考え方を理解するとともに、提示される課題について考察できる能力をつける。

評価方法: グループワークでの案とプリゼンテーション　**評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループワークでの課題解決への取り組み

評価割合: 10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的には評価対象とはしないが、グループワークでの参加、講話に対する質問等の行動が見られた場合は評価に加える。

評価割合: 10%

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画:

第1回: オリエンテーション
第2回: 茨城県経営者協会寄付講座　開講式
第3回: 講義ケース＃1
第4回: グループワーク＃1
第5回: 講義ケース＃2
第6回: グループワーク＃2
第7回: 講義 ケース＃3
第8回: グループワーク＃3
第9回: 講義 ケース＃4
第10回: グループワーク＃4
第11回: 講義 ケース＃5
第12回: グループワーク＃5
第13回: 講義 ケース＃6
第14回: グループワーク＃6
第15回: 横浜税関鹿島税関支署による特別講義

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: その都度、参考資料を配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。大学のメールアドレスでも受け付けます。

留意事項: 会社のHPや新聞記事等を事前に読み、質問を考えておくと、非常に有益な授業になります。さまざまな業界の動向や仕事内容など、就職を考える際にも参考になる情報が得られるものと思います。

県経済,産業,企業に関する実態把握（www.ikk.or.jp/）（www.pref.ibaraki.jp/）を参照。

科目コード：41081　**科目ナンバリング：MA23C01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営特講Ⅲ（Topics in Management Ⅲ）

担当者：佐藤　和明

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 01 実地訓練
09 実地調査
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 経営特講Ⅲは株式会社日立製作所の寄附講座です。世界的大企業の日立製作所の事業内容や経営戦略、マネジメントについて実際の現場で活躍されている講師をお招きして、お話しいただく実践的な授業です。経営学を学びつつ、企業の現実の課題やマネジメントに接し、課題を考えるという有意義な授業です。

一方的に講義を聞くのではなく、うち何回かは課題を与えられて、グループワークの上、課題に対する発表資料を作成して、発表も行う演習スタイルの授業も取り入れます。実際の企業活動の実務を講師だけではなく、教員の実務経験も織り交ぜてわかりやすい授業を行います。

キーワード： ケーススタディ、日立製作所の歴史、工場見学、経営戦略、コンプライアンス、寄附講座

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 実際の企業の経営活動を学び、各部門・職能でおこなっている活動を理解する。これにより、経営学部で教科書から学ぶ理論的な学問内容を、現実の企業経営を知ることによって補強する。

評価方法： 各回のリフレクションもしくくはレポート　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 教科書などから学ぶ理論的な学問内容を、大企業で実際に活躍される講師による活きた企業経営を教えてもらうことで、応用力、実践力を養う。

評価方法： 期末レポート　**評価割合：20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

出席はもとより外部講師への質問など授業に主体的に参加する態度をはかる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼その他

講師の授業は隔回で行い、その間の授業では振り返りを行う。リフレクションノートを記述して、理解度や問題認識の向上をはかる。

評価割合：講師の授業は隔回で行い、その間

授業計画： ＊は日立製作所に担当していただく授業です。

第1回　オリエンテーション

第2回　日立製作所の動画鑑賞

＊第3回　日立製作所の歴史、地域との関わり

第4回　振り返り、グループワーク

＊第5回　ヒューマンリソースマネジメント

第6回　振り返り、グループワーク

＊第7回　日立オリジンパーク

第8回　振り返り、グループワーク

＊第9回　企業広報活動

第10回　振り返り、グループワーク

＊第11回　コーポレートガバナンス

第12回　振り返り、グループワーク

＊第13回　財務管理

第14回　振り返り、グループワーク

第15回　全体のまとめ

使用テキスト： 教材は授業中に配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 隔回で「振り返り」の講義を行う。資料等は授業で配布。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特に日立グループへの就職を希望する学生は受講することを推奨します。なお、外部講師を招いての授業ですので授業態度、出席などを重視します。授業態度の悪い学生（私語、居眠り、遅刻など）は厳禁ですので、真面目に履修する意欲の乏しい学生は選択しないようにしてください。
工場見学を予定しています。交通費は自己負担となります。
課題についてはIC−UNIPAの課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行います。

科目コード：41082　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営特講IV（Topics in Management IV）**

担当者： **三ツ堀　裕太**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： 「あなたはパソコンを使えますか？」
このような問いに、あなたならどのように答えますか？
目的に応じてコンピュータを使いこなす能力は、現代社会においてはもはや必須のスキルと言えます。
加えて、今やITに関する知識は技術職だけでなく経営や管理に携わる人にとっても欠かせない時代となっています。
こういった知識を証明するための国家資格として、情報処理技術者試験があります。
ITパスポート試験はその入り口であり、上位試験の基礎とも言えるものです。

本講義では「ITパスポート試験対策」を通じ、コンピュータに関する広い知識を身に付けることを目指します。

キーワード： ITパスポート　合格　過去問

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 「ITパスポート試験」の合格水準に相当する知識を身に付ける。

評価方法： ミニテスト　　**評価割合：100%**
期末テスト

COVID-19対策に伴い、期末テストは期末レポートへ変更する可能性があります。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 直接的な評価対象とはしません。

評価方法： 特になし　　**評価割合：0%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　情報処理技術者試験の概要
第2回　基礎学習(1)ハードウェア1
第3回　基礎学習(2)ハードウェア2
第4回　基礎学習(3)ソフトウェア
第5回　基礎学習(4)システム構成
第6回　基礎学習(5)ネットワーク
第7回　基礎学習(6)セキュリティ1
第8回　基礎学習(7)セキュリティ2
第9回　基礎学習(8)アルゴリズムとプログラミング
第10回　基礎学習(9)企業活動と法務1
第11回　基礎学習(10)企業活動と法務2

第12回　基礎学習(11)経営戦略とシステム戦略1
第13回　基礎学習(12)経営戦略とシステム戦略2
第14回　基礎学習(13)マネジメント1
第15回　基礎学習(14)マネジメント2
定期試験

使用テキスト： 栢木 厚 著『令和05年 イメージ＆クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室』(技術評論社 出版)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 実際にITパスポート試験を受験したい方は、下記の書籍も併せて購入されることを推奨します。

五十嵐 聡 著『令和05年【上半期】ITパスポート パーフェクトラーニング過去問題集』(技術評論社 出版)
(”令和05年【上半期】”に限らず購入段階における最新版を推奨)

障がいのある履修者への対応： 自力で受講できることを条件に受け入れます。詳細は学務部等にご確認下さい。

授業時間外の連絡手段： 電子メールおよびSNSでの連絡手段を提供します。

留意事項： ITパスポート試験は出題範囲が非常に広いため、授業の限られた時間内だけではカバーしきれません。
試験合格に向けて、自主的に学習する姿勢を期待します。

科目コード：41083　**科目ナンバリング：MA25C01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **経営特講V(Topics in Management V)**

担当者： **滝本　政衛**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 16、振り返り用紙と応答

授業の概要： 今年の本講義は主権者教育をテーマに位置付けます。すなわち、若者世代の政治離れが進む中、主権者であり、将来の日本を背負っていく立場である学生の皆さんに政治意識を高めてもらい、政治参加のきっかけをつかんでもらうのが狙いです。
キーワードは「政治は自分自身のためにある」です。政治は政治家のためにあるものではなく、主権者である国民一人ひとりのためにある。国民は自分たちの暮らしを良くするために、自分たちの代表である政治家を選び、暮らしを任せている。すなわち、主役は政治家ではなく、あくまで国民一人ひとりである。だからこそ、国民は政治に関心を持ち、絶えず政治を監視しなければならない。その姿勢が政治を良くし、自分の暮らしを良くすることにつながる。本授業では以上のような点にポイントを置き、話を進めていきます。

担当講師は地方新聞社で多くの政治・選挙取材経験があり、その経験を生かした実践的な授業を展開します。機会があれば、議会見学なども考えています。

キーワード： 政治は自分自身のためにある。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 政治に関する基礎的知識を身に付けることにより、政治への関心と理解を高め、政治参加のきっかけをつくることができる。

評価方法： 授業後に随時提出するミニレポートを基本にする。　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 毎回の学習内容を考察し簡単なミニレポートとして表現することにより、思考力、表現力の上達に寄与できる。

評価方法： 同上　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度を点数化するのは難しいが、目視した中で、評価の対象としたい。
私語など他の学生への迷惑行為は、厳重注意の対象となる。

評価割合： 20%

▼実践的ボランタリズム

特に問わない。

評価割合： 0%

▼公正性

欠席者への代返・代筆など公正性を欠く行為が認められた場合は評価の対象になる。

評価割合： 随時

▼その他

・試験はやりません。
・期末レポートと授業3回に一回程度の割合で提出してもらう簡単なミニレポートを基本に採点します。
・評価割合はあくまで目安です。「随時」とした項目も加味します。

評価割合： ・試験はやりません。
・期末レポ

授業計画：

第1回：オリエンテーション
第2回：政治ってなに？
第3回：政治の参加者
第4回：政治家
第5回：官僚
第6回：国会
第7回：政党
第8回:政治と金
第9回：首相と内閣
第10回：財政
第11回：選挙
第12回：地方政治
第13回：世界とのかかわり
第14回：未来のために
第15回：あなたの役割

授業内容・計画は変動の可能性があります。

使用テキスト： 教材、資料は、ユニパで資料提供するか、印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 自主性にお任せします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部に連絡してください。ただし、一般学生と著しく異なる対応は控えたいと思います。

授業時間外の連絡手段： 連絡先は公開しませんので、学務部を通してください。

留意事項： 1，当科目は教科改編の関係で4年生だけが対象になります。4年生は就活等との関係でスケジュールが制限されることが増えると思いますが、そういった場合は出席扱いにするなど最大限配慮しますのでご安心ください。

2, 日本は国民一人一人が主権者です。政治を動かす政治家は主権者である国民に選ばれた国民の代表にすぎません。政治は国民生活に直結し、暮らしの良し悪しは政治によって左右されるといっても過言ではありません。国民が政治に関心を持ち、政治に参加しなければ、政治は政治家の思うがままに動かされてしまいます。それは国にとって、国民の生活にとって大変危険な流れです。国民が積極的に政治参加することが国を良くし、国民の暮らしを豊かにすることにつながります。学生である皆さんは近い将来社会人となり、国を動かす原動力になります。皆さんが国の将来と自分たちの暮らしを担う立場になるのです。この授業では、その構図を学び、皆さんが主権者としての自覚をもってもらう手助けをしたいと考えてます。

科目コード:41084　**科目ナンバリング**:MA10B10K　**主な使用言語**:日本語

授業名(英文): 社会経済史(Socio-Economic History)

担当者: 北 夏子

基本情報

年次:1　**単位数**:2　**授業形式**:講義

曜時:木曜4限　**履修可能学科・専攻**: E Pe Pc C W F N M

関連資格:　**AL要素**: 15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: この授業では、まず、初回から4回目の授業で社会経済史学の歴史及び方法について概観します。続いて「交通」、並びに、本学の学生及び教員にとって非常に身近な存在だと思われる「鉄道」について、その発達の歴史、社会及び経済への影響、さらには課題を扱います。身近な事象を手掛かりにして考えを深めていくことによって、具体的な諸課題に対して私たちにはどういった対処が可能なのか、自分の意見を持てるようになることを目指します。

キーワード: 社会、経済、歴史、交通、鉄道、移動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた社会経済史学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法: 振り返り用紙　**評価割合**:30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法:レポート　**評価割合**:70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他
特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　社会経済史学とはどのような学問か（授業概要説明含む）
第2回　社会経済史学の歴史と方法(1)
第3回　社会経済史学の歴史と方法(2)
第4回　社会経済史学の歴史と方法(3)
第5回　交通(1)
第6回　交通(2)
第7回　交通(3)
第8回　鉄道(1)
第9回　鉄道(2)
第10回　鉄道(3)
第11回　鉄道(4)
第12回　社会経済史学における課題(1)
第13回　社会経済史学における課題(2)
第14回　レポート執筆の際の注意事項と研究倫理
第15回　まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる（90分）。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい（90分）。
・参考文献
『鉄道と地域の社会経済史』篠崎尚夫編、日本経済評論社、2013年。
『社会経済史学事典』社会経済史学会編、丸善出版、2021年。。
上記以外の参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。

留意事項： 課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード：41085　**科目ナンバリング：MA20C19K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：公共経営特講（Topics in Public Management）

担当者：野口　通

基本情報

年次：カリキュラム　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：月曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 10.資料調査課題
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 本授業は、公共経営の中で重要な位置を占める地方行政について実践的な視点から学ぶ「実践的地方行政論」である。地方自治体がどのような課題に対しどのように政策を立案し実施しているのか、その過程で直面する困難をどう乗り越えているのかなどを、地域振興政策を中心に実例に即し具体的に学ぶ。また、自分が自治体の職員だったらと仮定し、自ら地域振興のための課題を分析し具体的な対応策について考える機会を提供する。併せて、地方行政の今後のあり方について考察する。
なお、授業担当者は長年県庁の最前線において、新規事業の企画・実践を含む様々な業務に携わってきた。その実務経験を活かし、授業を進めていく。

キーワード： 地方行政、地方自治体、公共、地方自治法、首長、議会、地方公務員、税、財政、計画、共

創、地域振興、街づくり

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた地方行政の仕組みや自治体の実践例について、基本的な事項を理解し説明することができる。

評価方法: 授業後のレポート　　**評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自らの所見を明確に表現することができる。

評価方法: 授業後のレポート、学期末レポート　　**評価割合:** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、調査や考察等に時間をかけるなど、自主的な学修に積極的に取り組んだことが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、地域におけるボランティア活動等により、本授業のテーマに関わる実践的な知見が深まっていることが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業の進行や他の学生の学習を妨げる言動、差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. イントロダクション:本授業のテーマ。「公共」、「地域振興」について。
2. 自治体の仕事を概観する(1):今、地方が直面している課題
3. 自治体の仕事を概観する(2):自治体が行っていること__消防、医療・福祉、教育から、街づくり、産業振興、観光まで
4. 自治体の仕事の実際(1):観光、地元産品(資源を磨き、知ってもらう)
5. 自治体の仕事の実際(2):街づくり(都市計画と地域活性化)
6. 地方行政のルールとリソース:法律、権限、国と地方の関係、首長と議会、税・財政
7. 自治体の仕事の実際(3):産業の振興(1)__地元企業の振興、ベンチャー育成
8. 自治体の仕事の実際(4):産業の振興(2)__企業誘致
9. 仕事の進め方:問題把握、課題分析、政策立案、資源の配分、意思決定、実行、チェック
10. 地域振興について:地域振興とはどういうことか。何をすればいいのか(今行われていることは適切か、十分か)。
11. 自治体の仕事の実際(5):交通問題への対応
12. 自治体の仕事の実際(6):人口減少、少子化、高齢化への対応
13. 計画行政:計画の必要性、様々な計画、計画の立て方
14. 自治体職員の立場で考えてみる:特定の地域について、振興のための課題を分析し、課題解決のための実行可能な政策を検討する
15. まとめ:これからの地方行政。地域をもっと元気にするために(共創のさらなる拡充を)

※順番や一部の内容は変わることがあります。

使用テキスト: 授業で使用する資料は原則としてPDFで配信する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習：随時、自ら調べたり考えたりすることが望ましい事項を伝え、参考資料がある場合は提示するので、それらに基づき準備の上、授業に臨んで欲しい。
復習：授業内容を振り返り、自分が予め考えたことについて補足、修正等があるか考えて欲しい。
参考文献：地方自治について理解を深めたい学生には、次の書籍を勧める。
曽我謙悟『日本の地方政府』中央公論新社、2019
大森彌・大杉覚『これからの地方自治の教科書　改訂版』第一法規株式会社、2021

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。アドレスは初回の授業でお知らせします。

留意事項： デバイスの持参を推奨します。

科目コード：41087　**科目ナンバリング：MA20C03K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **情報システム論（Information Systems）**

担当者： **長谷川　博康**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 17 発問と回答

授業の概要： 情報システム論の講義では、経営情報システム3級の試験を通して、専門知識の習得や実務能力を評価するため知識を身に付けます。
経営情報システム3級は、中央職業能力開発協会の「社会に出て仕事のできる人材（幅広い専門知識や職務思考能力を活用して、期待される成果や目標を達成できる人材）」に求められる専門知識の習得や実務能力を評価するための「ビジネス・キャリア検定試験」の公的資格試験です。この専門知識や実務能力は、ITや情報システム、システム設計から運用、保守まで。業務アプリケーションの活用や選定、情報活用の基礎までを範囲としており、それらを知識として学ぶことができます。資格試験を通して、企業経営におけるICTの活用や情報システムについて学びます。

キーワード： ビジネス・キャリア検定試験、経営情報システム3級、情報システム、業務アプリケーション、ICT活用

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 経営情報システム3級の知識が、小テストで解答することができるようになる。

評価方法： 小テスト　**評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 経営情報システム3級の過去問題から出題して、7割程度解答することを合格ラインとする。

評価方法： 期末テスト　**評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

理解を確認したり深めるために、授業中に発問する。良い回答があった場合には評価する。

評価割合： 10%

▼実践的ボランタリズム

授業内での他の受講者へのサポートや理解を深めるための質問、協力は評価として加点する。

評価割合： 0%

▼公正性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回：講義の説明と内容
第02回：IT活用の基礎：コンピュータシステムの基礎、情報システムの基礎
第03回：IT活用の基礎：ネットワーク技術の基礎、インターネットの基礎
第04回：IT活用の基礎：IT活用の動向
第05回：IT活用の基礎：まとめ
第06回：システム化計画の設計と基礎：業務分析の基礎、要件定義の基礎
第07回：システム化計画の設計と基礎：システム化計画の基礎、ヒューマンインターフェイスの基礎
第08回：システム化計画の設計と基礎：データベース・ファイルの設計
第09回：情報システムの運用・保守の基礎：情報システムを運用、管理する
第10回：情報システムの運用・保守の基礎：ITサービスを利用、提供、セキュリティの管理
第11回：情報システムの運用・保守の基礎：まとめ
第12回：業務アプリケーションの活用と選定の基礎；業務、製造業、販売活用、物流業務のアプリケーション
第13回：業務アプリケーションの活用と選定の基礎；さまざまな業務アプルケーション
第14回：情報活用の基礎；情報、情報ビジネス、マルチメディア、ネットワーク活用、ビジネスツール
第15回：全体のまとめとテスト

使用テキスト： 「ビジネス・キャリア検定試験標準テキスト 経営情報システム3級［第2版］」発売元 社会保険研究所
「ビジネス・キャリア検定試験 過去問題集 解説付き 経営情報システム3級」発行 一般社団法人 雇用問題研究会

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各回授業を受けた後、テキストを再度読み、授業内容の復習をしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし

科目コード：41088 **科目ナンバリング：MA20C04K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **ITビジネス論（IT Business Studies）**

担当者： **佐藤　和明**

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： ITを経営に活かしてビジネスを展開するための基礎知識を売るために、ITビジネスの仕組み、用語を中心に入門的な知識を得る講義内容である。特に、身近なインターネットを活用したビジネスモデルを中心に、AI活用の現状から今後の展望なども盛り込んだ内容となる。

注意点として、教材として、主にネット教材である「googleデジタルワークショップ」を活用して進めるため、各自、自己の名前で利用できるGoogleアカウントは必須となる。また、シラバスに記載されている各回テーマの一部は、ネット教材の進捗により、後半にまとめて講義する場合もある。

キーワード： eビジネス、デジタルコンテンツ、Webマーケティング、検索エンジン、データマイニング、情報セキュリティ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ITビジネス及びインターネットビジネスに関する基本知識が、各回の復習小テストで8割程度の内容で解答することができる。

評価方法： 各回
小テスト

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ITビジネス、インターネットビジネスの概要を理解し、記述式の期末テスト問題に7割程度、解答することができる。

評価方法： 期末テスト

評価割合：60%

▼学修に主体的に取り組む態度

基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が講義内容と合致する場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する。

評価割合：0%

▼公正性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

講義内で流す「googleデジタルワークショップ」の動画から、内容を書き留めるルーズリーフを用意し、テスト時の資料とすることが望ましい。

評価割合：講義内で流す「googleデジタルワー

授業計画：

第1回　オリエンテーション
講義の概要説明と各回の概要説明をします。

第2回　ITビジネスとは
ITビジネス、特にインターネットを用いたビジネスの特徴や社会に与えた影響など、全体像を知る。

第3回　ITビジネスのビジネスモデル
技術革新がもたらしたビジネスモデルの歴史的変遷、代表的なビジネスモデルの知識を得る。

第4回　eビジネスの基礎知識
eビジネスには様々なビジネスの形態が存在する。各ビジネスの形態を理解し、実例とともにeビジネスの概要を理解する。

第5回　デジタルコンテンツ・ビジネス
現在、私達はインターネットを介して、様々なデジタルコンテンツを享受している。デジタルコンテンツの配信ビジネスを中心に全体像を知る。

第6回　Webマーケティング入門
Webサイトを作成しただけでは、集客することはできない。Webサイトへ集客を促すマーケ

ティング手法の基本及び全体像を把握する。

第7回　検索エンジンのしくみ
日常生活の調べ物に欠かせいない検索エンジンであるが、その成り立ちから現在まで、そして世界各国の検索エンジン事情を踏まえて理解する。

第8回　消費者の動向を知るデータマイニング
アンケートやSNSへの投稿、行動履歴などのデータからパターンやルール、顧客の深層心理を発見する手法である。データマイニングの基本知識を理解する。

第9回　ITビジネスに必要なインフラ
ITビジネス、特にインターネットビジネスに必要なインフラの概要を把握する。

第10回　ITビジネスの情報セキュリティ
ITビジネスで守るべき情報や漏洩のパターンを事例とともに理解する。

第11回　ITビジネスの危機管理
コンピューターウイルス対策の必要性と対策、ネット上で発生した企業の不祥事など事例とともに、問題点を考察する。

第12回　電子認証と電子決済
電子認証や電子決済の仕組みを理解し、私達の生活での活用事例などを理解する。

第13回　ITビジネスの法と倫理
ITビジネスにも光と影があり、様々な事件が発生している。知的財産件、個人情報保護法、不正競争防止法などの判例から、ITビジネスの法的な基礎知識を学ぶ。

第14回　進化するITビジネスの今後
AIと技術発展でさらに進化するITビジネスの実用化前の事例などを含め今後の展望に関する知識を得る。

第15回　総括
総復習とともに、テストに関する説明を実施する。

使用テキスト： 必要と思われる場合、参考資料のPDFを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となるWebサイトや文献を指定するので、それらを読み込んでください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 初回に伝えるオフィスアワーで対応します。

留意事項： 課題についてはIC−UNIPAの課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行います。

科目コード：41090　**科目ナンバリング：MA30C06K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **国際経営論（International Business）**

担当者： **渡部　暢**

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： 近年では多くの企業が国際的な活動を意識しています。一方で企業が国際的な経営活動を行う際には、政治、社会、文化など様々な条件を考慮する必要があるため複雑さが残されています。それだけにどのような論理で国際的な経営活動が展開されるのか、また国際的な経営活動を行う際にはどのような課題を解決していく必要があるのかといった事柄を抑えていくことが重要です。そこで本講義では、国際経営に関する基礎的な論理や課題等を解説します。これによって履修生の皆さんがグローバルな人材として活躍できる足がかりとしていけることを目指していきます。

キーワード： 多国籍企業、国際経営戦略、国際経営マーケティング、海外研究開発、海外生産

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 国際経営論に関する包括的かつ中核的な論理や概念を修得する

評価方法： 期末レポート　　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 経営戦略論に関する知識や情報を修得しながら、それを活用し、論理的思考を育んでいく

評価方法： ミニテスト及びミニレポート　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループワーク等への取り組みとプレゼンテーションが必要となります

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により
深められた知見等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において著しく他者の権利等侵害する言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. イントロダクション
2. 海外直接投資
3. 多国籍企業による国際競争の歴史
4. 多国籍企業の組織デザイン
5. トランスナショナル経営
6. 海外子会社の経営
7. 国際マーケティング
8. ケーススタディ(1)
9. ケーススタディ(2)
10. ケーススタディ(3)
11. モノづくりの国際拠点展開
12. 研究開発の国際化
13. 国際的な人的資源管理
14. 国際パートナーシップ
15. 日本企業の国際化

使用テキスト： 購入する必要はありませんが下記の文献を中心に取り扱います。
中川功一他『はじめての国際経営』有斐閣ストゥディア、2015年
吉原英樹『国際経営』有斐閣、1997

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で使用する資料はすべて掲示するので、授業後に必ず復習すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワーあるいはメールで対応します。

留意事項： ミニテストを振り返る形で全体へのフィードバックを口頭で行う

科目コード：41094 **科目ナンバリング：MA31C02K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：消費者行動論I（Consumer Behavior I）

担当者：田口　尚史

基本情報

年次：3 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：水曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要： 消費者が購買意思決定に至るまでの過程で，企業のマーケティング・コミュニケーションにどのように反応し，どのような認知処理を行ない，どのような判断の下に，最終的にブランド選択を行なうのかについて，消費者行動研究の諸概念を用いて解説する。そして，企業側の立場から，どのように自社ブランドを消費者に訴求すればよいのかについて考察する。時には，事例を交えながら分かりやすく説明するつもりである。

キーワード： 消費者心理，購買意思決定，知覚，動機，学習，態度，関与

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた消費者行動に関する基本的な理論枠組みについて，概ね80％の事項を暗記し，解答することができる。

評価方法： 学期末レポート **評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について，実際の消費者の行動を観察し，参考文献等を参照しながら考察し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末レポート **評価割合：70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第01回 イントロダクション
第02回 消費者行動研究の重要性
第03回 消費者行動研究の系譜
第04回 消費者の包括的意思決定モデル(1)
第05回 消費者の包括的意思決定モデル(2)
第06回 消費者の購買意思決定プロセス
第07回 組織の購買意思決定プロセス
第08回 消費者行動に影響を与える諸要因
第09回 消費者行動の内的要因(1) 知覚
第10回 消費者行動の内的要因(2) 動機
第11回 消費者行動の内的要因(3) 学習
第12回 消費者行動の内的要因(4) 態度
第13回 消費者行動の内的要因(5) 関与
第14回 消費者行動の内的要因(6) ニューロ・マーケティング
第15回 まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。毎回，レジュメを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業中に配布したレジュメは，ファイル等で大切に保管し，毎回の授業に持参すること。参考文献等は，適宜，授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41095 **科目ナンバリング：MA32C02K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：消費者行動論II（Consumer Behavior II）

担当者：澤端 智良

基本情報

年次：3 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要： 本科目では、担当者が実務経験で関わった様々な事例等も用いながら、消費者の行動を主に外的な要因（外部環境要因）との関係から解説していく。
前半～中盤では、流行、文化、社会志向、アイデンティティ、家族、少子高齢化などの社会的環境が消費者行動とどのように関わっているのかについて学び、後半では応用的テーマ（店頭マーケティング、立地・商圏）や、近年のトピックス（SNSやデジタルマーケティングの影響等）を取り上げ、消費者行動について理解を深めていくなお，本科目は前期開講の「消費者行動論Ｉ」とも関連性が高いため合わせて履修することを推奨するが、「Ｉ」未履修者にも理解できるように解説は行う予定である。

キーワード： 消費者行動の外的要因、流行、文化、社会環境変化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説する消費者行動に関する概念や理論について正しく理解し説明することができる。

評価方法: 学期末試験　　**評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ消費者行動に関する基礎的な概念・理論を用いて自身の消費行動や企業のマーケティング活動を分析し、論理的に説明できる。

評価方法: 学期末記試験　　**評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み、必ず提出すること。レポートは成績評価の対象とする(20%)。

評価割合: 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

【第1回】ガイダンス・イントロダクション
【第2回】流行と消費
【第3回】文化と消費
【第4回】消費社会の変遷とポスト消費社会
【第5回】消費者の社会志向
【第6回】企業の向社会的行動とソーシャル・マーケティング
【第7回】消費における他者の存在(準拠集団・アイデンティティ・他者評価)
【第8回】家族・世帯と消費者行動
【第9回】世代・ライフステージと消費者行動
【第10回】ノスタルジアと消費者行動
【第11回】消費者行動と店頭マーケティング
【第12回】消費者空間行動と立地・商圏
【第13回】デジタルマーケティングと消費者行動(1)
【第14回】デジタルマーケティングと消費者行動(2)
【第15回】全体のまとめ
定期試験

使用テキスト: 特定の教科書は使用せず、毎回資料を配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 次回授業のテーマやキーワードについて参考文献やWeb等で調べ、事前に大まかな内容を理解しておくこと(60分)。また、授業後は学習した内容を振り返り理解しておくこと(60分)。その他、別途資料を配布した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。参考文献や資料等は、必要に応じ 授業内で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留 意 事 項： 成績は、学期末試験を主(80%)とし、授業内で複数回課すレポート類の提出(20%)と合わせて総合的に評価する。したがって、授業内で課す課題は必ず提出し、それに基づいて議論を行う際にも積極的に参加する姿勢が求められる。
なお、授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。

科 目 コ ー ド：41098　　**科目ナンバリング：MA30C15K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **地域ブランド論(Regional Branding)**

担 当 者： **澤端 智良**

基 本 情 報

年 次：3　　**単 位 数：2**　　**授業形式：講義**

曜 時：木曜2限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：　　**A L 要 素：** 16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要： 「地域ブランド」がわが国で学術的に取り上げられるようになったのは概ね2000年代以降であり、比較的新しい概念といえる。この授業では、「地域ブランド」について経営学的な観点から理解するために、まずはじめに「ブランド」についての基礎的な概念について説明をし、その後「地域ブランド」について解説していく。後半のパートでは前半パートで学んだ「ブランド」に関する理論・概念も活用しながら「地域ブランド」についての理解を深めていく。第12回～14回では「関係人口」「地域プロモーション」「企業による地域貢献活動」など関連するテーマを取り上げる。
担当教員は、ブランドマネジメントおよび地域活性化の両分野での実務経験を有していることから、様々な方法論や事例についても、授業の中で適宜紹介していく。

キーワード： ブランド論、地域活性化、地域資源、プレイス・ブランディング、企業の地域貢献

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 授業で解説した「ブランド」「地域」「地域ブランド」に関する概念や理論について正しく理解し説明することができる。

評価方法： 小テスト
学期末レポート　　**評 価 割 合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学習した「ブランド」および「地域ブランド」に関する基礎的な概念・理論を用いて地域の実態や問題を分析し、論理的に説明できる。

評価方法： 小テスト
学期末レポート　　**評 価 割 合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業期間内に実施する予定のミニ・レポート課題に取り組み、提出すること。また、教員から呈示された課題や問いに対しては積極的に参加し発言すること。

評 価 割 合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合：0%

▼ 公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第1回】イントロダクション
【第2回】「ブランド」とは何か
【第3回】ブランド論の基礎概念(1)
【第4回】ブランド論の基礎概念(2)
【第5回】コーポレートブランドとプロダクトブランド／ブランド・エクステンション
【第6回】前半(ブランド・パート)のまとめ　※小テスト＋解説
【第7回】「地域」とは何か
【第8回】「地域ブランド」とは何か(1)地域産品のブランド化
【第9回】「地域ブランド」とは何か(2)地理空間のブランド化
【第10回】「地域ブランド」と戦略的ゾーニング：「街」から「国家」まで
【第11回】「地域ブランド」のマネジメント・モデル
【第12回】関係人口：「訪れたい」と「住みたい」のあいだ
【第13回】地域プロモーション／シティ・プロモーション
【第14回】企業による地域の魅力発見・向上・強化
【第15回】全体のまとめ

使用テキスト：特定の教科書は使用しない。授業で使う資料は適宜配布をする。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：次回授業のテーマやキーワードについて参考文献やWeb等で調べ、事前に大まかな内容を理解しておくこと(60分)。また、授業後は学習した内容を振り返り理解しておくこと(60分)。その他、別途資料を提示した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。参考文献や資料等は、必要に応じ 授業内で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項：中間で実施する小テスト(1回：30%)と授業期間内で課す「ミニ・レポート」(20%)、学期末レポート(50%)を総合し評価する。
授業実施期間内に実施する小テストについては、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。

科目コード：41100　**科目ナンバリング**：MA30C10K　**主な使用言語**：日本語

授業名(英文)：マーケティング調査(Marketing Research)

担当者：澤端　智良

基本情報

年次：カリキュラム　**単位数**：2　**授業形式**：講義

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻**：ＥPe Pc ＣＷＦＮＭ

関連資格：　**ＡＬ要素**：11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要：企業や自治体などの組織が意思決定を行っていくうえで、市場を正しく理解することは不可欠であり、市場環境が大きく変化するなかでマーケティング・リサーチの重要性はますます高まってきている。したがって、リサーチはマーケティング職にとって必須のスキルとも言える。本講義では、実務経験者としての視点も取り入れながら、リサーチによる情報の収集・分析に関する基本知識の習得と、組織におけるマーケティングリサーチの役割や活用状況等の理解を目的に授業を進める。

キーワード：マーケティング、顧客理解、定量調査、定性調査、調査票

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で解説したマーケティング調査に関する基礎的な概念および理論を正しく理解し、マーケティング活動全体の中での位置づけ・役割等についても説明することができる。

評価方法: 学期末レポート　　**評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学習した知識・理論をふまえ、調査目的に沿ったマーケティング調査の企画ができる。

評価方法: 学期末レポート　　**評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み、提出すること。また、教員から呈示された演習課題へ取り組むとともに、問いかけに対しても討論に積極的に参加し発言すること。レポートや演習・討論への参加状況についても成績評価の対象とする

評価割合: 40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授 業 計 画 :
【第1回】ガイダンス・イントロダクション
【第2回】マーケティングにおけるリサーチの重要性
【第3回】マーケティング・リサーチの定義と役割
【第4回】デスク・リサーチによる市場の理解:二次データの活用
【第5回】統計データの読み方と統計分析の基礎
【第6回】統計・調査データの読み方・解釈に関する演習
【第7回】定性調査の役割と主な手法
【第8回】定性調査演習
【第9回】定量調査の役割と主な手法
【第10回】調査企画・アンケート調査票作成演習(1)
【第11回】調査企画・アンケート調査票作成演習(2)
【第12回】調査結果の集計・解釈
【第13回】企業におけるマーケティング・リサーチの活用事例
【第14回】これからのマーケティングとマーケティング・リサーチ
【第15回】全体のまとめ

使用テキスト: 特定の教科書は使用しない。授業で使う資料はPDFにしてUNIPA等へアップする(授業で使用するスライド等は特別な場合を除き紙では配布はしない)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 次回授業のテーマやキーワードについて参考文献やWeb等で調べ、事前に大まかな内容を理解しておくこと(60分)。また、授業後は学習した内容を振り返り理解しておくこと(60分)。その他、別途資料を配布した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。参考文献や資料等は、必要に応じ 授業内で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留 意 事 項： 授業期間内に複数回実施する課題レポートおよび演習・討論への参加状況（計40%）と、学期末レポート[調査企画とアンケート調査票の作成]（60%）を総合して評価する。
なお、授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。
BYOD導入に伴い、講義資料はUNIPA等へアップすることとし、原則として紙では配布しない。手元に資料が必要な場合はデバイスを持参するなど各自で対応すること。

科 目 コ ー ド：41101　　**科目ナンバリング：MA32C04K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ビジネスエコノミクスII（Business Economics II）

担 当 者： Yodtomorn Pimprapa

基 本 情 報

年 次：3　　**単 位 数：2**　　**授業形式：講義**

曜 時：水曜3限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W N M

関 連 資 格：　　**A L 要 素：** 発問と回答

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業（同時双方向型）
日本の社会は、少子高齢化、外国人労働者の受け入れなどによる労働市場の構造変化が進んでいる。労働時間、能力開発、労働条件などの諸問題は労働者の暮らしと働き方に影響する。
本講義では実例に基づき、労働経済学と人的資本理論の分析視点から、社会・経済問題について理論的に考察する。

キーワード： 少子高齢化、人的資本、労働経済、高齢者雇用、女性雇用、外国人労働者

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 1.労働市場の仕組みについて理解する。
2.日本の社会と経済に関する問題を通して、労働経済学の考え方を学ぶ。

評価方法： 小テスト　　**評 価 割 合：70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修で得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができるようになること。

評価方法： 発表、報告書　　**評 価 割 合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。但し、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。但し、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合：0%

▼そ の 他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第1回　イントロダクション
第2回　労働市場の需給Ⅰ
第3回　労働市場の需給Ⅱ
第4回　経済の構造変化と雇用・労働市場
第5回　賃金の規定要因
第6回　高齢者就業の経済分析
第7回　女性雇用の経済分析
第8回　人的資本と教育政策
第9回　日本的人事の変容と内部労働市場
第10回　日本人の働き方の変化
第11回　人的資源開発ー企業内教育の変遷、OJTとOff-JTー
第12回　労働時間規制と正社員の働き方
第13回　アジア諸国の労働市場の調査Ⅰ
第14回　アジア諸国の労働市場の調査Ⅱ
第15回　まとめ・発表

使用テキスト：清家篤著・風神佐知子(2020)『労働経済』東洋経済新報社。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後には、その回の内容を復習するとともに、その関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献として次の3点を推薦する。
1.川口大司(2017)『日本の労働市場 ー経済学者の視点』有斐閣。
2.浅子和美他(2021)『入門・日本経済』有斐閣。
3.ゲーリー・ベッカー (著),・佐野 陽子 (翻訳)『人的資本ー教育を中心とした理論的・経験的分析』 東洋経済新報社。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に案内する。

留意事項：経済学に関する科目を履修済みであることが望ましい。
本講義では授業内での発表だけでなく、グループ討論を取り入れる予定である。
履修者の人数によっては授業の方法や扱うトピックを多少修正する可能性がある。

科目コード：41102　　**科目ナンバリング**：MA30C13K　　**主な使用言語**：日本語

授業名(英文)：国際貿易論(International Trade)

担当者：古井 仁

基本情報

年次：2　　**単位数**：2　　**授業形式**：講義

曜時：月曜2限　　**履修可能学科・専攻**：E Pe Pc C W F N M

関連資格：　　**AL要素**：16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要：本授業では、国際貿易の原理を分かりやすく解説します。さらに、関税の効果など貿易政策の基礎を学び、その応用として、WTOや地域貿易協定、海外直接投資などさまざまなトピックスについて考えます。

キーワード：比較優位、貿易の利益、産業内貿易、貿易政策、WTO、地域貿易協定、海外直接投資

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標：比較優位の原理、貿易の利益、産業内分業、関税の効果、WTO、地域貿易協定など、国際貿

易論の基礎、貿易政策の基礎と応用について、概ね80％理解し、解答することができる。

評価方法： 筆記試験　　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修で得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 理解度確認テスト(2回分)　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第01回　ガイダンス、国際貿易の全体像
第02回　国際貿易とは何か
第03回　比較優位
第04回　国際分業と要素賦存
第05回　国際分業と規模の経済
第06回　貿易政策の基礎
第07回　貿易政策の応用
第08回　中間まとめ
第09回　貿易政策の政治経済学
第10回　国際貿易のルールと貿易交渉
第11回　地域貿易協定
第12回　海外直接投資
第13回　国際貿易と経済発展
第14回　国際貿易と環境
第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後、配付資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献として次の3点推薦する。
石川城太・椋寛・菊地徹著[2013]『国際経済学をつかむ(第2版)』有斐閣。
浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸[2010]『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣アルマ。
竹森俊平[1995]『国際経済学』東洋経済新報社。

問題意識を持って毎回の授業に臨んでほしい。そのために日頃からニュースや新聞の経済・国際面に目を通すように心がけてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留 意 事 項： ・「ミクロ経済学入門」と「マクロ経済学入門」を履修済みであることが望ましい。
・小テストについては、提出物を確認後、模範解答（解答例）を、IC-UNIPAに掲示します。

科 目 コ ー ド：41104 **科目ナンバリング：MA20C21K** **主な使用言語：English and Japan**

授業名（英文）：ビジネス英語（Business English）

担 当 者： Yodtomorn Pimprapa

基本情報

年 次：2 **単 位 数：2** **授業形式：講義**

曜 時：木曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格： **ＡＬ要 素：** 11.Discussion, 17.Questioning and Answers

授業の概要： The goal of this course is to improve the business English reading skill and also practices English speaking. Students will learn the basic knowledge of Japanese business and economics. Students are required to practice these skills through presentations and discussions related to a variety of topics.
「Reading」「Speaking」を中心に、ビジネスの世界で必要とされる英語能力を養成します。「Reading」では、経済に関わる英の記事で正しく文章を読む練習をします、「Speaking」では、自己紹介、挨拶、商品説明、取引、交渉などの職場のコミュニケーションを英語でできるように練習します。

キーワード： 英文ビジネスEメール（English Business Emails）、レジュメ（Resume）、職場のコミュニケーション（Communication in Workplace）、交渉（Negotiations）、発表（Presentation）

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 1.Write short English email and simple sentence with acceptable grammar
2.Improve their skills in English at work
1.英語ビジネスEメールとレジュメを作成する。
2.職場のコミュニケーションを習得する。

評価方法： Quiz
小テスト
評 価 割 合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1.Develop an ability to formulate their opinion
2.Make presentations to describe their topics
1.自己の意見を発信する。
2.自分でテーマを選択し、内容をまとめて英語で発表する。

評価方法： Presentation
発表
評 価 割 合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
**Participating in-class activities is an essential part of the course.

評 価 割 合：5%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記

述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

1. Course Introduction
2.Economy and Industry (1)
3.Economy and Industry (2)
4.Demand and Supply (1)
5.Demand and Supply (2)
6.Asian Economy (1)〔Quiz Ⅰ〕
7.Asian Economy (2)
8.Asian Economy (3)
9.Asian Economy (4)
10.Develop a presentation and student consultations〔QuizⅡ〕
11.Creating Business travel packages (Group work)
12.Presentation
13.World Business Manner (1) (Group work)
14.World Business Manner (2) (Group work)
15.Presentation and Wrap-up

使用テキスト： 教科書の指定はなし。講義時に資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後には、その回の内容を復習するとともに、その関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は開講時、推薦します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 留意事項本講義では授業内での発表だけでなく、グループ討論を取り入れる予定である。
履修者の人数によっては授業の方法や扱うトピックを多少修正する可能性がある。

科目コード：41105 **科目ナンバリング：MA30C17K** **主な使用言語：日本語・英語**

授業名（英文）：時事英語（Current Topics in English）

担当者：三上　司

基本情報

年次：3 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：火曜2限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： **AL要素：** 10,15,17

授業の概要： 英字新聞を精読し、重要語句・重要構文の習得を図る。内容理解問題を解くことによって、読解力を養う。

キーワード： 英字新聞、社会問題、政治問題、国際問題、重要語句、重要構文

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 一定の英語力を持ち、政治・社会・国際問題を理解することができる。

評価方法: 授業への参加とテスト　　**評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 時事問題を題材とした英文(新聞、雑誌など)を読むことができる。

評価方法: 授業への参加とテスト　　**評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

01 序論
02 リーディング(1)、語彙、構文、内容理解問題
03 リーディング(2)、語彙、構文、内容理解問題
04 リーディング(3)、語彙、構文、内容理解問題
05 小テスト
06 リーディング(4)、語彙、構文、内容理解問題
07 リーディング(5)、語彙、構文、内容理解問題
08 リーディング(6)、語彙、構文、内容理解問題
09 リーディング(7)、語彙、構文、内容理解問題
10 小テスト
11 リーディング(8)、語彙、構文、内容理解問題
12 リーディング(9)、語彙、構文、内容理解問題
13 リーディング(10)、語彙、構文、内容理解問題
14 リーディング(11)、語彙、構文、内容理解問題
15 小テスト

使用テキスト: 開講時に提示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考書等は授業の中で随時指示します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 開講時に提示します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 41106　　**科目ナンバリング:** MA20C22E　　**主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): グローバルビジネス演習(Seminar of Global Business)

担当者: 渡部 暢

基本情報

年 次 :2　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 火曜2限　　**履修可能学科・専攻 :** M

関連資格 :　　**AL要素 :** 04. 課題解決
07. 発表
08. 協同学習

授業の概要 : 企業にとってグローバルな活動を行う事は当たり前のように求められる時代となってきています。しかし実際にグローバル活動を行っている企業がどのようなことに挑戦しているのかはそれほど知られていないのも事実です。そこで、この演習ではグローバルビジネスを展開している企業の事例研究（や可能であればグループワーク）やその発表を中心に行っていきます。その中で適宜、理論的な説明や課題、また幾つかのグローバル企業の事例を紹介していきます。これによってグローバルビジネスを考える際に重要な考え方や議論に至るまでを身につけていくことを目指します。

キーワード : グローバル化、海外市場開拓、グローバルマネジメント

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 企業の様々なグローバルビジネスに関する事例研究を通して、グローバルビジネスの基礎知識やリアルな経営課題を理解することを目指す。

評価方法 : ケースの課題　　**評価割合 : 40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 様々な企業の事例を通じて、グローバルな経営に必要な能力を育成する。

評価方法 : ケース課題に対する理解と発表　　**評価割合 : 40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループワークでの課題解決への取り組みとプレゼンテーションが必要となります

評価割合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的には評価対象とはしないが、グループワークへの積極的な姿勢や貢献が著しければ評価も考慮します。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : グローバルビジネスの事例研究を中心に行ってもらう形で演習を進める。その過程の中で重要だと考えられる経営学上の理論や概念の理解を促し、経営学的な意味も理解できるような設計を図る。また時には新聞や雑誌の記事、事例研究を行う上での参考資料等をコピーして配布することによって履修者が深く理解できるよう促していく。経営の知識が少ない学生でも理解できるように、できるだけ基本的な文献や実際の企業の実例を使った資料を取り扱っていく。これによってグローバルビジネスの内容を理解してもらい、履修者一人一人

がグローバル人材となる足掛かりとしてほしい。

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業中に資料やプリントを配布します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワー、またはメールで対応します。メールアドレスやオフィスアワーに関しては初回に案内します。

留意事項： ①本科目は選抜コースなので、定員15名を超えた場合は登録者を選考します。
②履修者の希望や進捗状況によって、予定している事例や内容の変更も考慮します。

科目コード：41107 **科目ナンバリング：MA30C18E** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **地域マネジメント演習（Regional Management Seminar）**

担当者： **申　美花**

基本情報

年次：3 **単位数：2** **授業形式：演習**

曜時：火曜3限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： **ＡＬ要素：** 01,02,03,04,07,08,09,10,11,12,16,17

授業の概要： 本授業は「地域マネジメント・プログラム」の中核授業となります。地域社会の活性化にとって重要なテーマを取り上げ、学生の視点で問題解決提案を行います。日立市役所の支援を得ながら、授業を具体的かつ段階的に進めていきます。キャンパスから離れて、学生は現地に実際に出向き、学んだ経営学の知識や問題解決手法を駆使して、課題に対する提案資料をまとめて発表する経験も積みます。地域の課題に向き合い、問題解決に取り組むことは、県内で就職し、将来も居住する学生にとって大変有意義な授業になるはずです。学生の視点で地域をいかにとらえ、自分たちの将来とどのように結び付けて考察するのか、地域の事情やニーズも考察しながら、主体的に、建設的に取り組む内容になっています。そのために授業は大学を出てのフィールド調査やインタビューなど地域社会との密接な関わりを行います。
グループ編成を行い、それぞれの課題に取り組み、中間や最終授業で活動成果のプレゼンテーションを行います。

キーワード： 地域、マネジメント、演習、体験型学習、地域連携、ボランティア、実地調査、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 日立市が抱える地域社会の課題に関する知識と理解を深める

評価方法： 授業参加度
レポート
評価割合： 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生としての視点で問題に向き合い、調査分析、ディスカッションなどを実施し、課題解決のための方策を提案する能力を身につける

評価方法： チームワーク、プレゼン内容・成果 **評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

教員の指導を待たなくとも、テーマに沿った課題解決を主体的に計画することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

地域の人々と関わる活動のなかで、社会貢献の要素も取り入れる。

評価割合：10%

▼公正性

地域連携活動のなかで学生としての役割と責任を自覚し、公平・公正な態度で仲間と接する態度を尊重する。

評価割合：10%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回：オリエンテーション
第02回：活動内容および役割分担の決定
第03回～第14回：グループ毎に、分担された役割を遂行し、プロジェクト発表会に向けて準備をする。
第15回：プロジェクト発表会でプレゼンテーションを行う。

使用テキスト：とくになし、場合によって教材配布

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：企画、調査、プレゼンテーションなどすべてに予習、復習は重要である。授業の合間もコミュンケーションを闊達にしながら調査や問題解決策の考案などに取り組む。

障がいのある履修者への対応：履修者の状況に応じて適切に対応します。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：日立市役所と連携で行う授業です。学生としての品位と社会貢献への熱意を持つ人が対象です。

科目コード：41108　**科目ナンバリング**：MA30C19E　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：地域インターンシップ（Regional Internship）

担当者：申　美花

基本情報

年次：3　**単位数**：2　**授業形式**：演習

曜時：火曜2限　**履修可能学科・専攻**：M

関連資格：　**AL要素**：01、15

授業の概要：地域に関連した職場において就業体験を行います。実際の職場を経験することで、学生の皆さんが地域における企業活動の現状を体感すること、地域とのつながりを意識しながら働くイメージを持てるようになること、などを目的としています。

キーワード：インターンシップ、キャリアプラン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：仕事を通じて働くことの意味と厳しさ、楽しさを体験し、自分の適性を確認できるようになる。また社会人としてのマナーや責任感を身につけることができる。

評価方法：実習先からの評価　**評価割合**：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：実際のビジネス現場での体験を通じて、自身のキャリアの将来設計について考えられるようになる。

評価方法： 事後課題（レポート）　　**評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし実習先での発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：
（1）6月下旬にガイダンスを行います。
（2）実習先決定（実習先リストはガイダンス時に配布します）
（3）インターンシップの履修登録は、実習に参加することが決まってから
2023年度後期科目として登録します。
相手企業の承諾があれば、学生が自ら選んだ企業も認めます。
（4）実習（8月から12月の期間で1−2週間）
インターンシップは事前に相手先に誓約書を提出し、期間中は、日誌を書きます。
（5）終了後にはまず「お礼状」を送り、その後「インターンシップで体験したこと、考えたこと」についてのレポートを提出します。

使用テキスト： テキストは使用しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 特になし。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード： 41109　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：** 日本語

授業名（英文）： 卒業研究 a（Graduation Research a）

担当者： 栗原　正樹

基本情報

年次： 4　　**単位数：** 4　　**授業形式：** 演習

曜時： 前期（集中講義）、後期（集中講義）　　**履修可能学科・専攻：**

関連資格：　　**AL要素：** 15.レポート指導

授業の概要： 個別指導を中心とするので、論文の進捗度合いによって異なる。

キーワード： 会計、法律、経営学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法： 期末課題　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 演習中の態度　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

【前期】
[第01回] オリエンテーション
[第02回] 財務会計の基礎論点の理解①
[第03回] 財務会計の基礎論点の理解②
[第04回] 財務会計の基礎論点の理解③
[第05回] 財務会計の基礎論点の理解④
[第06回] 財務会計の基礎論点の理解⑤
[第07回] 財務会計の基礎論点の理解⑥
[第08回] 各自の研究テーマの決定
[第09回] 論文の書き方について
[第10回] 各自の研究内容の発表①
[第11回] 各自の研究内容の発表②
[第12回] 各自の研究内容の発表③
[第13回] 研究構成ー目次の検討①
先行研究調査やデータ収集を含む
[第14回] 研究構成ー目次の検討②
[第15回] 研究構成ー目次の検討③

【後期】
後期（経営演習Ⅳ）は全体指導、グループ指導、個別指導を適宜行っていく。
[第01回] ～[第03回]　研究テーマ、タイトル、目次、序論までの発表
[第04回] ～[第06回]　本論までの発表
[第07回]　中間発表会
[第08回] ～[第10回]　内容調整と結論までの執筆
[第11回] ～[第13回]　研究論文の発表
[第14回] まとめ①
[第15回] まとめ②

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 事前準備学習として、研究分野の基礎的な知識を習得しておくこと。
卒業論文が期日までに提出された上で、以下の点から評価する。
・卒業論文の執筆にあたり、しっかりと指導を受けていること。
・論文の質が、卒業論文に相応しく、しっかりと論理構成されたものであること。
・論文の形式がしっかりと整っていること。
上記の点が著しく満たされていない場合、論文を提出しても不合格になる場合もあるので注意する。

科目コード:41109 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **卒業研究 b(Graduation Research b)**

担当者: **澤端 智良**

基本情報

年次:4 **単位数:4** **授業形式:演習**

曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻:** M

関連資格: **AL要素:** 07発表、09実地調査、10資料調査課題、11討論、15.レポート指導

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)
※ただし、第1回は遠隔授業(課題研究型)で実施します

本演習では個人研究に重点を置き進めていく。前期は，各自が選択した研究テーマについてクラス内で研究内容を発表し、学生同士でディスカッションを行う。後期は，各自の研究の進捗に合わせて主に個別に指導をし、卒業論文を完成させる。なお、上記の学びを促進するために担当教員の実務経験から得た知見を共有し、実践的知識・スキルの修得を目指す。

キーワード: 卒業研究、文献研究、個人発表、検証・探索調査、マーケティング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 卒業論文の執筆に必要な、問題提起・テーマ設定・理論構築法・調査法等に関する基本的な知識や方法論が習得できていること。

評価方法: 卒業研究の内容・水準により評価する。 **評価割合:40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 発表や卒業論文の執筆を通じてマーケティングに関する知識を深めるとともに、論理構成力、文章力、ディスカッション力、プレゼンテーション力等、社会で必要な能力が身についていること。

評価方法: 卒業研究の内容・水準により評価する。 **評価割合:40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

個人研究を進めるにあたって、各個人で事前準備をしっかりと行い、成果と進捗状況について適宜ゼミでの発表や教員への報告を行うこと。
また、ゼミは「学びの共同体」であるとの認識に立ち、他のメンバーの発表内容に関しても積極的にコメント・アドバイスを与え、クラス全体へ貢献すること。

評価割合:20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第1回】 ガイダンス(演習の目的、概要、進め方等)
【第2回】 研究の進め方・論文の書き方
【第3回】 研究テーマの発表とディスカッション(1)
【第4回】 研究テーマの発表とディスカッション(2)
【第5回】 研究テーマのブラッシュアップ
【第6回】 先行研究レビュー・参考資料収集とディスカッション(1)
【第7回】 先行研究レビュー・参考資料収集とディスカッション(2)
【第8回】 先行研究レビュー・参考資料収集とディスカッション(3)
【第9回】 先行研究レビュー・参考資料収集とディスカッション(4)
【第10回】 個別論文作成指導(1)
【第11回】 個別論文作成指導(2)
【第12回】 研究計画報告(1)
【第13回】 研究計画報告(2)
【第14回】 研究計画報告(3)
【第15回】 前期まとめ
【第16回】 研究の進捗報告
【第17回】 論文計画の精緻化・個別指導(1)
【第18回】 論文計画の精緻化・個別指導(2)
【第19回】 調査計画・調査の実施(1)
【第20回】 調査計画・調査の実施(1)
【第21回】 論文執筆内容の中間報告(1)
【第22回】 論文執筆内容の中間報告2)
【第23回】 論文執筆および個別指導(1)
【第24回】 論文執筆および個別指導(2)
【第25回】 論文執筆および個別指導(3)
【第26回】 論文執筆および個別指導(4)
【第27回】 論文(初稿)の提出
【第28回】 論文指導、修正
【第29回】 卒業論文の最終提出
【第30回】 全体まとめと振り返り

使用テキスト： 特定の教科書は指定しない。必要な文献や資料は適宜コピーして配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 卒業研究に関する成果と進捗状況を報告するための発表準備を行うこと。また、教員やゼミのメンバーから受けた指摘については各自で理解・解釈をしたうえで、必要に応じて論文内容に反映し、論文を完成へ向けて進めること。
なお、参考文献等については、必要に応じて適宜呈示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項： 原則として卒業論文の執筆に取り組むこととするが、受講生の希望があれば代替レポートによって経営演習Ⅳの評価とかえることもある(ただし、「卒業研究」の単位は与えない)。
その際は必ず事前にその旨を担当教員に申し出たうえで、許可を得ること。

授業期間内に課したレポート類については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。

科 目 コ ー ド :41109　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 卒業研究 c(Graduation Research c)

担 当 者 : 申 美花

基本情報

年 次 :4　　**単 位 数 :4**　　**授業形式:演習**

曜 時 :前期(集中講義)、後期(集中講義)　　**履修可能学科・専攻:**

関 連 資 格 :　　**ＡＬ要 素 :** 07、09、10、11、14、15

授業の概要: 論文作成のために必要な文献の提示、引用文献と参考文献の書き方について個別に指導します。論文の進捗状況に応じて添削を中心とした授業を行います。

キーワード: 論文の書き方、研究フレームワーク、研究テーマ、オリジナリティー

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: テーマを決め研究を遂行し、優れた論文を書くことができる。

評価方法: 論文の内容　　**評 価 割 合 :50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自分で新しい問題を設定し、その問題の解決策を客観的な根拠を示しながら、何らかの独創性(オリジナリティー)のある結論へと導くことができる。

評価方法: 論文の内容　　**評 価 割 合 :30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

卒業論文作成に積極的に取り組んでほしい。

評 価 割 合 :20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が卒論の内容の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 :0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 :0%

▼そ の 他

特になし。

評 価 割 合 :特になし。

授 業 計 画 :
第1回　ガイダンス
第2回～第14回　論文執筆指導
第15回　卒業研究発表会

使用テキスト: テキストは使用しない。

予習・復習のポイントと参 考 文 献 ・ 資 料 等 : 論文のテーマについて様々な情報を事前に収集・整理しておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項: 授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード:41109 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 卒業研究 e(Graduation Research e)

担当者: 長島 正浩

基本情報

年次:4 **単位数:4** **授業形式:演習**

曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻:**

関連資格: **AL要素:** 07、11、12、14、15

授業の概要: 大まかな話の道筋を立てる。すなわち、ストーリーを作る。仮説が入って構わないので、一応、こんなことが言えるだろうということを発表してもらう。これについてゼミ内みんなで議論する。他人の論文に興味はないかもしれないが、必ず自分の論文にも役立つ。これを繰り返すことで最終的によい論文が書き上がるのである。

キーワード: 卒業研究、会計論文、法律論文、会計基準研究、判例研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 「卒業研究」は「経営演習Ⅲ・Ⅳ」と並行して行われる。本学で学んだすべての集大成としての卒業研究論文を完成させる。

評価方法: 卒業研究論文の評価による **評価割合:40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 先行業績を丹念にリサーチし、他人からの批判もしっかりと議論して受け入れ、納得したものを作り上げる。そのような過程を経ることで、論理的思考が養われ、プレゼンテーション能力も磨かれ、また、文章力も上達することになる。

評価方法: 卒業研究論文の評価による **評価割合:60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 参考文献の追加検索
【第02回】 個別論文構成指導ーその1
【第03回】 個別論文構成指導ーその2
【第04回】 個別論文構成指導ーその3
【第05回】 論文最終発表ーその1
【第06回】 論文最終発表ーその2
【第07回】 論文最終発表ーその3
【第08回】 論文最終発表ーその4
【第09回】 論文最終発表ーその5
【第10回】 論文完成ー暫定版提出
【第11回】 論文の微調整、修正1
【第12回】 論文の微調整、修正2
【第13回】 卒業研究論文完成版提出
【第14回】 研究の総括1
【第15回】 研究の総括2

使用テキスト： 特になし（ただし、参考書は下記参照のこと）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考書として、酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』（第2版）共立出版、2017年 をお勧めする。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：41109 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： 卒業研究 f（Graduation Research f）

担当者： 古井 仁

基本情報

年次：4 **単位数：4** **授業形式：演習**

曜時：前期（集中講義）、後期（集中講義） **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： **AL要素：** 07. 発表
11. 討論
15. レポート指導
17. 発問と回答

授業の概要： 本授業では、4年間の学修活動の集大成としての卒業論文の作成に取り組む。集団授業と個別指導で進める。毎回報告者を決め、卒業論文の途中経過の報告を行い、お互いに議論し合う。改善を図りながら完成させていく。

キーワード： 独創性、構想力、実践性

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる

評価方法： 提出物、成果物 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、意見をまとめあ

げ、それを明確に主張することができる。

評価方法：提出物、成果物　　**評価割合**：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、卒業論文において、自身の課題についての探究と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

前期

第01回　ガイダンス
第02回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第03回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第04回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第05回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第06回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第07回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第08回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第09回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第10回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第11回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第12回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第13回　卒業論文準備レポート提出
第14回　卒業研究指導
第15回　まとめ

後期

第16回　ガイダンス
第17回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第18回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第19回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第20回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第21回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第22回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第23回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第24回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第25回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第26回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第27回　卒業論文初稿提出
第28回　卒業論文完成稿提出
第29回　卒業研究合評会
第30回　まとめ（審査論文の返却）

使用テキスト: テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後、配付資料について復習するとともに、自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は開講時、推薦します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: ・提出物・成果物については、添削後、返却します。
・担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活・進路について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード:41109 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **卒業研究 g(Graduation Research g)**

担当者: **米岡 英治**

基本情報

年次:4 **単位数:4** **授業形式:講義**

曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻:**

関連資格: **AL要素:** 07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要: 個別指導を中心とするため、研究の進捗に応じた指導を行う。
必要に応じてゼミ生が集合しての研究報告・ディスカッションを行い、自分の研究に不足している視点などを確認する。
本学での学びの集大成として研究した内容を論文として纏める。

キーワード: 先行研究レビュー、事例調査、ロジカルシンキング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: テーマに関連する事柄に関して、適切な先行研究や事例等を調査し、内容ごとに適切にまとめることができる。

評価方法: 卒業論文 **評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: テーマに対して様々な視点での検討を行い、適切な経営学で扱われるフレームワークなどを使用し、論理的な内容であること。

評価方法: 卒業論文 **評価割合:50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

先行研究や事例等の調査・検討過程から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし卒業論文の内容において人権侵害・差別的など著しく公正性を欠く内容があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 経営演習III、IVと並行して行い、先行研究、論文構成、注意点等について個別に指導する。
【第01回】イントロダクション　進め方
【第02～15回】
【講義・ディスカッション】
・テーマの詳細化
・研究計画の具体化
・先行研究及び事例の理解
・論文構成の検討
・研究状況の発表

【第16～30回】
【講義・ディスカッション】
・先行研究との差異
・追加的な確認事項の指示
・論文構成の見直し
・論文作成
・研究状況の発表

使用テキスト： 資料をそのつど配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布資料について復習するとともに、新聞・雑誌などで企業動向に注意しておくこと。
設定したテーマに関連する先行研究や事例について調査・検討することにより、知見を深めること。
研究内容に応じて参考資料を指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 主体的に研究を進めること。研究内容に関して個別指導の時間にフィードバックを行います。

科目コード：41109　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：卒業研究 h（Graduation Research h）

担当者：佐藤　和明

基本情報

年次：4　**単位数：4**　**授業形式：講義|レポート**

曜時：前期（集中講義）、後期（集中講義）　**履修可能学科・専攻：**

関連資格：　**AL要素：** 07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要： 経営演習I、IIを元に、学生自らが問題意識を持っているWeb関連の分野を各自テーマを決め、研究テーマとする。そのため、個別指導を中心とし、研究の進捗に応じた指導を行う。
経営演習III、IVと同様に、発表会を実施し、研究報告会を実施する。発表会後、研究の問題点や課題を議論し、卒業論文の精度を上げていく。

キーワード： 先行研究レビュー、アクセス解析、データ集計、アクセス解析、事例調査、ロジカルシンキング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： テーマに関連する事柄に関する課題などの問題意識を持ち、適切な先行研究や事例等を調査し、オリジナリティーある新規性ある内容を適切に発表できる。

評価方法： プレゼンテーション　　**評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： テーマに関連する事柄に関する課題などの問題意識を持ち、適切な先行研究や事例等を調査し、オリジナリティーある新規性ある内容を適切に卒業研究、論文へ反映することができる。

評価方法： 卒業論文　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らが決定したテーマであるため、積極的に様々な視点で考察し、論理的にまとめることができる。

評価割合： 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

当然のことながら、研究過程、卒業論文の内容において人権侵害・差別的など著しく公正性を欠く内容があった場合は、厳重注意とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

前期
第01回　ガイダンス
第02回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第03回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第04回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第05回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第06回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第07回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第08回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第09回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第10回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第11回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第12回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第13回　卒業論文準備レポート提出
第14回　卒業研究指導
第15回　まとめ

後期
第16回　ガイダンス
第17回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第18回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第19回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第20回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第21回　卒業研究指導、発表とディスカッション

第22回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第23回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第24回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第25回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第26回　卒業研究指導、発表とディスカッション
第27回　卒業論文初稿提出
第28回　卒業論文完成稿提出
第29回　卒業研究合評会
第30回　まとめ（審査論文の返却）

使用テキスト： 必要に応じて配布

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 研究内容に応じて参考資料を指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 自ら決定したテーマであるため、主体的に研究を進めること。研究内容に関して個別指導の時間にフィードバックを行う。また、アンケート等で自己負担が発生する場合もある。

科目コード：41109　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：卒業研究 i（Graduation Research i）

担当者：菅野 雅子

基本情報

年次：4　**単位数：4**　**授業形式：演習**

曜時：前期（集中講義）、後期（集中講義）　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

AL要素： 07 発表
09 実地調査
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要： 論文の書き方や基本的な調査方法等について理解を深めながら、各自が選択した研究テーマについて深掘りしていきます。ゼミ内で各自の研究の進捗状況を発表し、相互フィードバックを行いながら研究内容をブラッシュアップしていきます。
前期は研究テーマ設定、先行研究レビュー、リサーチクエスチョン設定を行い、研究計画を作成します。
夏休みから後期を通じて、調査・論文執筆に取り組みます。

キーワード： 卒業研究、論文の書き方、研究計画、研究目的、リサーチ・クエスチョン、先行研究レビュー、アンケート調査、ヒアリング調査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 卒業研究に必要な知識や方法論を身に着ける。具体的には、論文の書き方、テーマ設定、先行研究レビュー、リサーチクエスチョン設定、調査方法など。

評価方法： 卒業研究の内容・水準により評価　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 卒業研究の進捗状況報告や論文執筆を通じて、課題発見力、論理思考、文章力、創造性、計画・実行力など、社会で必要な基礎力を身に着ける。

評価方法： 卒業研究の内容・水準により評価　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。卒業研究の内容・水準により判断する。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： ＜前期＞
【第1回】ガイダンス（卒業研究の目的・意義、概要、進め方等）
【第2回】研究の進め方・論文の書き方・先行研究の進め方
【第3回】研究テーマの設定(1)
【第4回】研究テーマの設定(2)
【第5回】研究テーマの設定(3)
【第6回】先行研究レビュー(1)
【第7回】先行研究レビュー(2)
【第8回】先行研究レビュー(3)
【第9回】先行研究レビュー(4)
【第10回】調査の進め方(1)
【第11回】調査の進め方(2)
【第12回】研究計画発表(1)
【第13回】研究計画発表(2)
【第14回】研究計画発表(3)
【第15回】前期振り返りとまとめ。後期に向けて

＜後期＞
【第16回】～【第28回】 進捗状況や成果の発表・ディスカッション。個別指導
【第29回】卒業研究提出
【第30回】全体の振り返りとまとめ

使用テキスト： その都度配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 卒業研究の進捗状況や成果をゼミ内で発表するための事前準備をしっかり行うこと。また、教員やゼミのメンバーから受けたフィードバックについては各自で理解・解釈したうえで、論文内容に反映し、研究のブラッシュアップに努める。
なぜ卒業研究に取り組むのか、なぜ自分はその研究テーマに取り組むのかなど自分なりの意義や目的を明確に持ち、前向きな気持ちで臨んでほしい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41109 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **卒業研究 j（Graduation Research j）**

担当者： **Yodtomorn Pimprapa**

基本情報

年 次 :4　　**単位数 : 4**　　**授業形式 : AL要素**

曜 時 : 前期(集中講義)、後期(集中講義)　　**履修可能学科・専攻 :** M

関連資格 :　　**AL要素 :** 07 発表
10 資料調査課題
11 討論

授業の概要 : この授業では、公共政策等の基礎として学んだ経済学の知識を生かし、卒業論文を作成し、一年間かけて研究活動を行う。

キーワード : 卒業論文、先行研究、テーマ設定、個別指導

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 経営演習と並行して行われる。卒業論文の構成を作成し、その内容と論文提出までの日程を合わせて、複数の中間報告期日を設けて論文執筆を進める。

評価方法 : 卒業論文、研究姿勢　　**評価割合 : 80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 専門分野における新規性、有用性を備えた論文を完成させる。

評価方法 : 卒業論文、研究姿勢　　**評価割合 : 20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

卒業研究の内容を報告する前に事前準備を行う。
ゼミ内で積極的に他のメンバーの報告に対してコメントをする。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 :
第1回　授業概要の説明を含む
第2回　卒業論文の仮テーマ提出
第3回　卒業論文の仮研究計画提出
第4回　卒業論文のテーマ・研究計画に関する個別指導(1)
第5回　卒業論文のテーマ・研究計画に関する個別指導(2)
第6回　研究計画書の提出
第7回　個別指導(1)序論
第8回　個別指導(2)本論
第9回　個別指導(3)結論
第10回　個別指導(4)参考文献等
第11回　個別指導(5)注
第12回　卒業論文のプレゼンテーション(1)序論
第13回　卒業論文のプレゼンテーション(2)本論

第14回　卒業論文のプレゼンテーション(3)結論
第15回　卒業論文の提出

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 設定したテーマに関連する先行研究や資料などをまとめ、幅広い視野から物事の分析や考察を重ねて、自分なりの考えをまとめていくことが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41109　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **卒業研究 k(Graduation Research k)**

担当者： **渡部　暢**

基本情報

年次：4　**単位数：4**　**授業形式：演習**

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 04 課題解決、07 発表、08 協同学修、11 討論

授業の概要： 本演習は卒業論文を作成する意思のあるもののみに向けた演習となります。イノベーションや戦略に関する知識をより深めていき、4年時に必要となる卒業論文(あるいは卒業レポート)の作成を見据えた論文の読み方・書き方などの作法を学んでいきます。

キーワード： 戦略論、イノベーション論、問題解決、論理的思考

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法： 論文　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法： 討議、発表　**評価割合：20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

自律的・建設的に物事を考えられる力や、自らの考えを文章で、そして口頭で表現できる力を養っていくことを目指すことが求められます。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を

欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 大学を卒業するということはどういう事なのか？社会科学の、そして経営学の、学士を取得するということはどういう事なのか？このゼミでは社会科学という枠組みにある経営学で学士を取得して大学を卒業することの意味や価値の一端を感じてもらえるようにサポートしていきます。
3年時で学んだ戦略論やイノベーションに関わるアカデミックな知識を用いて、文章・論文の読み方・書き方・発表の作法などを改めて修得していくことを目指していきます。習得の際には、双方向的なコミュニケーションを図りながら発展させていきます。

使用テキスト： 指導時に必要な文献を指示します。中心となるのはイノベーションと戦略関連の書籍となります。状況を見て英語文献を読んでもらうこともあります。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必要な情報を事前に収集・整理しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワー、メールにて対応する。オフィスアワーの曜日・時間、メールアドレス等については初回に案内する。

留意事項： 特になし

科目コード：41110　**科目ナンバリング**：　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）： 経営演習Ⅰa（Business Seminar Ⅰa）

担当者： 栗原　正樹

基本情報

年次：3　**単位数**：2　**授業形式**：演習

曜時：月曜5限　**履修可能学科・専攻**： M

関連資格：　**ＡＬ要素**： 11.討論

授業の概要： 経営演習Ⅰは「1、文章を読んで、理解できるようになる」「2、自分の考えを文章で表現できるようにする」「3、専門の基礎知識をつける」の3つを目的としている。演習の進め方は、ディスカッション及びゼミ生の発表を中心として行う。中小企業の実例に基づくケーススタディや財務会計の理論的な解釈などを通じ、会計のみならず、関連周辺分野の理論の理解も深めることにより、会計人として理論と実践のバランスのとれた能力の養成を目指していく。
なお、この演習では、主として財務会計を扱い、一部税務会計も取り扱うが、管理会計は原則として指導しない。

キーワード： 会計、法律、経営学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法： 期末課題　**評価割合**：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法：演習中の態度　　**評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　ケーススタディ1
第2回　財務会計の論理的解釈1
第3回　ケーススタディ2
第4回　財務会計の論理的解釈2
第5回　ケーススタディ3
第6回　財務会計の論理的解釈3
第7回　ケーススタディ4
第8回　財務会計の論理的解釈4
第9回　ケーススタディ5
第10回　財務会計の論理的解釈5
第11回　ケーススタディ6
第12回　財務会計の論理的解釈6
第13回　ケーススタディ7
第14回　財務会計の論理的解釈7
第15回　まとめ

使用テキスト：　印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応：　学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段：　研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項：

事前準備学習 会計関連科目の指定された授業への参加・単位修得が本科目の単位修得の必須条件である。成績評価は、演習内での発表やレポートで評価する。出席しているだけでは、成績上の評価にはならない。なお、単位修得条件として、ゼミ入室時に指定した条件をクリアーしていない場合には、単位の修得は認めないので注意する。

科目コード：41110　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：**日本語

授業名（英文）： 経営演習Ⅰb（Business Seminar Ⅰb）

担当者： 澤端　智良

基本情報

年 次 :3　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 水曜5限　　**履修可能学科・専攻:** M

関 連 資 格 :　　**ＡＬ要 素 :** 07発表、08協同学修、09実地調査、10資料調査課題、11討論、15.レポート指導

授業の概要: 本演習ではグループワークと発表およびフィールドワークを中心に進めていく。前期は販促コンペ・商品開発・デザインなど、主にマーケティングに関連したテーマに取り組む(具体的なテーマは履修学生と相談しながら選定する予定)。
なお、上記の学びを促進するために担当教員の実務経験から得た知見を共有するとともに、実務家をゲスト講師として招いて講演を行い、実践的知識・スキルの修得を目指す。

キーワード: マーケティング、ブランド、販促コンペ、プロモーション、プレゼンテーション・スキル

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: グループワークや発表に必要な、マーケティングに関する概念や理論および調査法等に関する基本的な知識や方法論が習得できていること。

評価方法: 演習内での発表やディスカッションの内容、課題への取組等により、総合的に評価する　　**評 価 割 合 :** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: グループワークや発表を通じて、マーケティングに関する知識を深めるとともに、論理構成力、ディスカッション力、プレゼンテーション力等の技術が身についていること。

評価方法: 演習内での発表やディスカッションの内容、課題への取組等により、総合的に評価する　　**評 価 割 合 :** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

呈示された課題に対し、各個人あるいはチームで事前準備をしっかりと行い、成果や進捗状況について適宜ゼミでの発表や報告を行うこと。
また、ゼミは「学びの共同体」であるとの認識に立ち、他のメンバーの発表内容に関しても積極的にコメント・アドバイスを与え、クラス全体へ貢献すること。

評 価 割 合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 :
【第1回】 ガイダンス
【第2回】 販促コンペの概要説明
【第3回】 基本データ収集と分析
【第4回】 企画書作成
【第5回】 発表とディスカッション
【第6回】 企画内容に関する振返り
【第7回】 3つの小噺:①観察、②抽象化、③問題解決

【第8回】 プロジェクトに関する発表テーマの設定
【第9回】 プロジェクトに関するグループワーク
【第10回】 プロジェクトに関するグループ発表
【第11回】 ディスカッション(1)
【第12回】 ディスカッション(2)
【第13回】 ディスカッションと発表(3)
【第14回】 ディスカッション まとめ
【第15回】 前期のまとめ

※取り組むプロジェクトの期間や内容によって大きく変更する場合もある(授業計画は、受講生とも相談しながら柔軟に設計していく)

使用テキスト: 特定の教科書は指定しない。必要な文献や資料は適宜コピーして配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参加プロジェクトやその他課題に対しては、資料収集・発表準備・フィールドワーク等を事前に充分に行うこと。事前に資料が配られた場合は、必ず目を通してから授業に参加すること(60分)。また、討論等を通じて教員やゼミのメンバーから受けた指摘については各自で理解・解釈をしたうえで復習・整理をしておくこと(60分)。
なお、参考文献等については、必要に応じて適宜呈示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項: 1.ゼミではあくまでも学びの共同体であるとの認識に立ち、決して「受身」ではなく、主体的に考え行動して欲しい。ゼミ生同士、あるは教員も含めて共に学び合う場となるよう、受講者全員が高い意識を持ち、協力し合ってぜひ良いゼミにして欲しい。、
2.企業訪問やゲストを招いての講演なども随時取り入れていく予定である。したがって、先方の都合等により授業計画に変更が生じることもあるが、その場合は事前に連絡するので柔軟に対応して欲しい。なお、発表やプロジェクトのための事前準備や資料作成、調査等で授業時間外に活動時間を確保してもらう必要が生じることが考えられる。予め認識しておいてもらいたい。
また、要望に応じ「サブゼミ」の実施等も検討しているので関心があれば積極的に参加してもらいたい(概要は初回授業時に説明する予定)。

科目コード:41110 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 経営演習Ⅰc(Business Seminar Ⅰc)

担当者: 申 美花

基本情報

年次:3 **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:金曜4限 **履修可能学科・専攻: M**

関連資格: **AL要素:** 04、07、09、11、15

授業の概要: ビジネスモデルは企業がいかにして売上を上げて利益を生み出すか、という事業活動の仕組みであります。この授業では、ビジネスモデルに関する理論を学ぶとともに、事例分析と討議を通じて、業界ごとのビジネスモデルの特徴を比べるなど、ビジネスモデルについて多面的かつ深く考察を行います。

キーワード: ビジネスモデル、オープン戦略、分割モデル

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 利益を生み出す製品やサービスに関する事業戦略と収益構造についての知識を身につける。

評価方法: グループ討議、発表、質問 **評価割合:30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: プレゼンテーション課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、発表内容をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法: プレゼンテーション　　**評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が卒論の内容の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

【第1回】オリエンテーション
経営演習の目的、概要、進め方等
【第2回】ビジネスモデルとは何か
ビジネスモデルの定義を理解する
【第3回】ケーススタディー①
ヒット商品の開発内容
【第4回】デジタル時代のビジネスモデル
フリー戦略に関する基本的概念を、事例から理解する
【第5回】企業訪問
【第6回】デジタル時代のビジネスモデル
プラットフォーム戦略に関する基本的概念を、事例から理解する
【第7回】デジタル時代のビジネスモデル
オープン戦略に関する基本的概念を、事例を交えて理解する
【第8回】ケーススタディー②
ヒット商品の開発内容
【第9回】ソーシャルメディアの活用に注目したビジネスモデル
ソーシャル活用を基盤としたビジネスモデル例を、事例から理解する
【第10回】ケーススタディー③
ヒット商品の開発内容
【第11回】収益構造に注目したビジネスモデル
「カミソリと刃」型モデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第12回】収益構造に注目したビジネスモデル
分割モデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第13回】企業訪問
【第14回】収益構造に注目したビジネスモデル
ロングテールモデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第15回】前期の振り返り

使用テキスト: 平野敦士カール『図解カール教授と学ぶ成功企業31社のビジネスモデル超入門！』株式会社ディスカヴァートゥエンティワン，2012年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業の前に、しっかりと予習をすること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41110　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： 経営演習Ｉｄ（Business Seminar Ｉｄ）

担当者： 田口　尚史

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜4限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

ＡＬ要素： 07.発表
08.協同学修
10.資料調査課題
14.輪読活動
17.発問と回答

授業の概要： 本演習では，マーケティングに関するテーマについて討議する。その後，マーケティングに関する学術論文を執筆するための問題意識を醸成するために，マーケティングに関する文献(書籍や論文)をレビューし，学生同士で討議する。取り上げる文献は，学生の関心に基づいて選択し，各学生はその文献を精読した内容をサマリーとして授業中に発表する。他の学生たちはその発表内容について討議する。

キーワード： マーケティング，輪読，討議

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： マーケティングの理論的・体験的な学びとの関連において，マーケティングの知識を身につけている。

評価方法： レポート　**評価割合：20%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業における経験を踏まえて，企業のマーケティングにおける課題について思考し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 発表および討議　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの関心のあるテーマについて，高い問題意識の下に，主体的に資料収集し，明確なリサーチ・クエスションを導き出すことができる。

評価割合：40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただし，ボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第01回　ガイダンス
第02回　文献レビューと討議(1)
第03回　文献レビューと討議(2)
第04回　文献レビューと討議(3)
第05回　文献レビューと討議(4)
第06回　文献レビューと討議(5)
第07回　文献レビューと討議(6)
第08回　文献レビューと討議(7)
第09回　文献レビューと討議(8)
第10回　文献レビューと討議(9)
第11回　文献レビューと討議(10)
第12回　文献レビューと討議(11)
第13回　文献レビューと討議(12)
第14回　文献レビューと討議(13)
第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは，初回に学生の関心に合わせて決定する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： マーケティングに対する関心や問題意識を常に持ち，経営者の視点からマーケティングを考える習慣をつけてほしい。参考文献や資料等は，授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41110　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習Ⅰe（Business Seminar Ⅰe）

担当者：長島　正浩

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：月曜5限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**ＡＬ要素：** 07、11、12、14、15

授業の概要：

3年次においては、企業会計の「オールラウンダー」を目指し、財務会計、管理会計、経営分析などの基本を幅広く学び、柔軟な会計思考をするための素地を養っていく。特に前期は財務会計について、知識を深めていく。

キーワード： 財務会計制度、金融資産、実物資産、無形資産、減損処理、資産除去債務、リース取引、棚卸資産

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 「経営演習Ⅰ」では、財務会計全般について知識を深め、何が問題で何が問題でないかをはっきりさせていく。

評価方法： 卒業研究論文の評価による　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 先行業績を丹念にリサーチし、他人からの批判もしっかりと議論して受け入れ、納得したものを作り上げる。そのような過程を経ることで、論理的思考が養われ、プレゼンテーション能力も磨かれ、また、文章力も上達することになる。

評価方法: 卒業研究論文の評価による　　**評価割合:** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:
【第01回】 ガイダンス(目標を掲げる)
【第02回】 日本の会計制度の仕組み
【第03回】 日本の企業会計基準
【第04回】 資産の認識と測定のルールーその1
【第05回】 資産の認識と測定のルールーその2
【第06回】 資産の認識と測定のルールーその3
【第07回】 資産の認識と測定のルールーその4
【第08回】 資産の認識と測定のルールーその5
【第09回】 負債の認識と測定ーその1
【第10回】 負債の認識と測定ーその2
【第11回】 純資産の開示と規制ーその1
【第12回】 純資産の開示と規制ーその2
【第13回】 企業結合の会計情報ーその1
【第14回】 企業結合の会計情報ーその2
【第15回】 財務会計のまとめ

使用テキスト: 特になし(ただし、参考書は下記参照のこと)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考書として、桜井久勝『財務会計講義』(第23版)中央経済社、2022年 をお勧めする。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 41110　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 経営演習Ⅰf(Business Seminar Ⅰf)

担当者: 古井 仁

基本情報

年 次 :3　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 月曜3限　　**履修可能学科・専攻 :** M

関連資格 :

ＡＬ要素 : 07. 発表
08. 協同調査
10. 資料調査課題
12. 課題討議法
14. 輪読
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要 : 本授業では、

授業は、通年を通して、基本書の輪読とディスカッションによって進めていきます。また、卒業研究に向けての準備として、3年生の前期中に研究計画を立て、学期末の7月末に卒業研究計画書を提出してもらいます。

キーワード : 経済格差

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法 : 発表、グループ討議　　**評価割合 : 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法 : 発表、グループ討議、レポート　　**評価割合 : 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業終了後に取り組むリアクション・シートや期末レポートにおいて、自身の課題についての探究と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 : 第01回　ガイダンス(授業の進め方、課題図書の紹介、課題提出方法など)
第02回　研究報告とディスカッション
第03回　研究報告とディスカッション

第04回　研究報告とディスカッション
第05回　研究報告とディスカッション
第06回　研究報告とディスカッション
第07回　研究報告とディスカッション
第08回　研究報告とディスカッション
第09回　研究報告とディスカッション
第10回　研究報告とディスカッション
第11回　研究報告とディスカッション
第12回　研究報告とディスカッション
第13回　研究報告とディスカッション
第14回　卒業研究計画書の提出
第15回　全体的まとめ

※授業の前半に図書館ガイダンス（文献検索実習）が入ります。
※授業の前半と後半に討論会を行います。

使用テキスト： テキストは開講時に、指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
授業後、テキストや配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は開講時、推薦します。

・グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後に出される課題は必ず提出し、授業中のグループ討議で適度に自分の意見を伝えられたかどうかを振り返ること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項：
・レポートについては、添削後、返却します。
・担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活・進路について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41110　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習Ｉｇ（Business Seminar Ｉｇ）**

担当者： **米岡　英治**

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：月曜5限　**履修可能学科・専攻：** Ｍ

関連資格：

ＡＬ要素：
04 課題解決
07 発表
08 協同学修
10 資料調査課題
11 討論

授業の概要： 企業経営において、どのような情報をどのように扱うか、どのような活用が考えられるかについて学ぶとともに、ゼミ生間でディスカッションすることで理解を深めます。ビジネスモデルなどを考え、関連する情報について、幅広く学びます。経営（プラン）の全体像・つながりを捉える力を身につけ、ビジネスの構想力などに関する技術・能力の向上を図ります。

キーワード： ビジネスプラン、経営情報、情報公開、市場調査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 経営活動について、人的資源、モノの管理、マーケティング、会計情報、情報技術、経営情報の公開など、さまざまな視点から考察できる。

評価方法: 授業中のディスカッション内容等　　**評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 企画の検討により、経営全般にわたって考察できる。聞き手に伝えられる。

評価方法: 企画の内容、活動報告等　　**評価割合:** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッション内容、および企画の内容・検討過程から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし企画の検討において人権侵害・差別的など著しく公正性を欠く内容があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:
【第01回】イントロダクション　ゼミの進め方
【第02～15回】
【講義・ディスカッション】
・情報活用と業務
・企画検討の手法
・ビジネスプロセス
・ビジネスモデル
【企画検討】
・アイデアの検討、初期まとめ
・アイデアの詳細化

使用テキスト: 資料をそのつど配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配布資料について復習するとともに、新聞・雑誌などで企業動向に注意しておくこと。
検討する企画内容に関連する事柄に関して、自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。
講義において参考資料を指示します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項: 特になし

科目コード: 41110　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 経営演習Ⅰh(Business Seminar Ⅰh)

担当者: 佐藤　和明

基本情報

年 次 :3　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 水曜3限　　**履修可能学科・専攻:** M

関 連 資 格 :　　**ＡＬ要 素 :** 07.発表
08共同学修
10.資料調査課題
14.輪読活動
17.発表と回答

授業の概要 : スマートフォンを中心としたデジタルディバイスの普及により、生活者はいつでもどこででもデジタルメディアにアクセスし、情報を得て、発信することができる時代となった。

一方、企業も、企業が生活者へ伝えたい製品やサービスなどの情報を広告、自社Webサイト SNSなどで広報活動を行うと同時に、AIを活用し、 生活者が発信する情報を分析し、新サービスや新商品などを開発している。たとえば、TwitterなどのSNSを活用し、クチコミを伝播させる広報活動とAIでクチコミを分析し、生活者の動向を探る傾聴戦略が挙げられる。広告では、検索エンジンの検索結果に表示される広告や自社のターゲットとなる潜在顧客を対象とした興味関心広告の出稿など、4大メディアと異なるデジタルメディアの機能で、集客力を上げている。

本演習では、デジタルメディア、特にWEBサイトを構築し、Web、SNS、ネット広告を活用したトリプルメディアを中心に広報及び広報活動、AIを活用した生活者の動向調査など、これらに付帯したビジネスや企業の手法などを調査研究する。希望によっては、実際にWebサイトを構築、運用し、実践的な知識を身につけることも前提としている。そのため、前週の講義内容の復習として、週報をゼミブログにアップし、与えられたテーマに関し、各自、記述、共有し、5分程度の報告を主とした発表を毎回おこなう。

各回のシラバス内容は、ゼミで研究するテーマの一覧であり、メニューのようなものである。年度によって、学生の要望によって、この中より選択して、探求していく。

キーワード : デジタルマーケティング、Webマーケティング、ネット広告、検索エンジン、SNS、AI

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標 : インターネットからの集客方法やAIの活用。Webサイトの構築運営を理解している。

評価方法 : 発表、ディスカッション、質疑応答での評価による。　**評 価 割 合 : 40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : デジタルマーケティング全般、AIとの関連性を理解し、問題意識を持ち、自らの研究テーマに取り組み、最終レポートでまとめることができる。

評価方法 : 発表、ディスカッション、質疑応答、最終レポートでの評価による。　**評 価 割 合 : 60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる。

評 価 割 合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が講義内容と合致する場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する。

評 価 割 合 : 0%

▼ 公 正 性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回　インターネットビジネスの仕組み
ネット上でどのようにビジネスが展開しているのか。日頃接しているメディアを事例にネット上のビジネスモデル形態を理解する。

第2回　デジタルマーケティングとWebマーケティング
デジタルマーケティングとWebマーケティングの差異を理解し、事例を学ぶ。

第3回　様々なネット集客手法
ネットでの集客はどのように展開しているのか。ネット集客の基本を概説するとともに、実際にWebサイト構築の基本を学ぶ。

第4回　ソーシャルメディアでの集客手法
ソーシャルメディアでの集客方法は、広報と広告に分類される。Twitter、Instagramを事例に理解を深める

第5回　ネット広告と種類
ネット広告と一言で言っても、様々な種類が存在する。ネット広告の種類に対する理解を深める。

第6回　ネット広告の活用
ネット広告はデジタル化されており、広告をリーチさせるターゲットを選定して出稿することができる。ネット広告出稿の概要を理解する。

第7回　検索エンジンの仕組み
検索エンジンは、インターネット上をリンクをたどり、巡回するクローラというプログラムによって、収集された情報をデータベースに保存し、有益な情報を検索結果に表示させる。その仕組を理解する。

第8回　検索エンジンマーケティング
検索エンジンを活用したネット集客方法とコンテンツマーケティングの関連性を理解する。

第9回　SEO対策とWebライティング
Webサイトで検索エンジンマーケティングの施策のメインがSEO対策である。SEO対策の手法と通常の文書作成とは異なるWebライティングの手法を学ぶ。

第10回　Webマーケティングの効果測定
Webマーケティングやデジタルマーケティングの効果測定の概要を理解する。アクセスログ解析の用語等を学ぶ。

第11回　AIの歴史と未来
AIは「Artificial Intelligence」の略で、本研究は、第2次世界対戦後から始まる。AIには、3回のブームがあり、現在は3回目のブームとなっている。過去からの流れと、今後の展開、AIの基礎用語の知識を学ぶ。

第12回　機械学習の基礎知識
機械学習は、AIの分類の1つであり、英語では「Machine Learning」といい、略してMLと呼ばれている。MLに関する基礎知識を学ぶ。

第13回　機械学習（ML）の導入事例

MLは、自動車運転の自動化や投資など様々な分野での活用が期待され、現在、導入が進んでいる。MLの導入事例を中心にビジネス導入の基礎知識を理解する。

第14回　SNSとAI
MLの事例をSNSマーケティング中心で学ぶ。SNS上のつぶやきから、新製品やサービスが誕生しているが、これは傾聴戦略を利用したものである。SNSとAIとの関連性などを事例とともに学ぶ。

第15回　総括
各自、関心のある項目を発表し、経営演習IIへつなげる。

使用テキスト： 各回、参考資料のPDFを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となるWebサイトや文献を指定するので、それらを読み込んでください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 初回に伝えるオフィスアワーで対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：41110　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習Ⅰi（Business Seminar Ⅰi）**

担当者： **菅野　雅子**

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜4限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

ＡＬ要素： 07 発表
08 協同学修
10 資料調査課題
11 討論
14 輪読活動
15 レポート指導

授業の概要： ＜ゼミのテーマ＞
1．人的資源管理（Human Resource Management）
2．組織行動論（Organizational Behavior）

経営演習Ⅰでは、(1) 学びの基礎を作る (2) 理論や概念を学ぶ (3) 現実の課題に向き合う (4) 卒業研究の準備・構想、の4つを軸に展開します。
テーマに関する文献研究・輪読、グループワーク、ディスカッション、ケース検討、プレゼンテーションと相互フィードバックなどを組合せて学びを深めます。
演習は担当教員の実務経験から得た知見も随時共有しながら進めていきます。

キーワード： 人的資源管理、組織行動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ゼミのテーマに関する主要な概念や理論、および文献研究、調査法等に関する基本的な知識や方法論を身に着ける。

評価方法： 演習内での発表やディスカッションの内容、課題への取組等により、総合的に評価　**評価割合：40%**

する

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ゼミのテーマに関する知識を踏まえて、企業における人や組織の問題について情報収集・分析・考察することができる。

評価方法： 演習内での発表やディスカッションの内容、課題への取組等により、総合的に評価する　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

課題に対する事前準備をしっかり行い、ゼミ内での発表・報告などに積極的に取り組む。
他のメンバーの研究テーマや発表内容の理解に努め、積極的にコメント・質問・フィードバックをする。
ゼミ内での役割を積極的に果たしゼミ運営に貢献する。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、自発的にゼミに貢献する実践が見られた場合は、「学修に主体的に取り組む態度」としての評価対象とする場合がある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第1回】イントロダクション　ゼミの進め方
【第2～15回】以下の内容を適宜組合せて実施する
※具体的にいつ何をやるかは、ゼミの中で案内します。

(1) 学びの基礎を作る
・クリエイティブ・ラーニング
・ロジカルシンキング
・コミュニケーションスキル

(2) 理論や概念を学ぶ
・人的資源管理
・組織行動論

(3) 現実の課題に向き合う
・ケーススタディ(代理経験)
・企業訪問、インタビュー
・ゲスト講師

(4) 卒業研究の構想
・文献研究の進め方
・研究テーマの構想
・レポートの書き方

なお、大学生活や就職活動などに関して個別に1on1で支援の機会を持ちます。

使用テキスト： その都度配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 課題に対して、主体的に情報収集・事前学習を行い、授業がより深い学びとなるように心がける。

テーマに関して、自分なりの考えや意見を検討し、他者とディスカッションを行い、自らの考えを常にアップデートしていけるよう心がける。
ゼミ内で提示する参考文献や関連する文献を読み、疑問点を出したり、自分なりの考えを整理して次のゼミで発表・報告するなど、問題意識を言語化し他者に伝えることを心がける。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項: 特になし。

科目コード:41110 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **経営演習Ⅰj(Business Seminar Ⅰj)**

担当者: **Yodtomorn Pimprapa**

基本情報

年次:3 **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:水曜4限 **履修可能学科・専攻:** M

関連資格: **AL要素:** 07.発表、08.協同学修、10.資料調査課題、11.討論、17.発問と回答

授業の概要: 19世紀後半から現在に至る、アジア経済の発展について、都市化、高齢化、産業構造の変化、高学歴化などを幅広く学ぶ。本演習では、テキストをもとに発表と討論を行う。

キーワード: アジア経済、都市化、高齢化、産業構造の変化、高学歴化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 最近のアジア経済の動向について学習する。授業全体を通じてアジア経済の過去と現状を理解・把握することができる。

評価方法: 発表、グループ討議 **評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な既存資料と情報を分析して、そこから一定の判断を下すことができる。グループワークや発表を通じて、批評力が身に付けることができる。

評価方法: 発表、グループ討議 **評価割合:50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。但し、自主的な学修により、自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。但し、ボランティア活動等の実践により、深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 本演習では各?が担当するトピックを要約し、発表するという形式で進める。

第1回　イントロダクション
第2回　アジア諸国の環境・暮らし(1)
第3回　アジア諸国の環境・暮らし(2)
第4回　経済発展・産業構造の変化(1)
第5回　経済発展・産業構造の変化(2)
第6回　経済発展・産業構造の変化(3)
第7回　宗教と社会(1)
第8回　宗教と社会(2)
第9回　宗教と社会(3)
第10回　教育発展と高学歴化(1)
第11回　教育発展と高学歴化(2)
第12回　教育発展と高学歴化(3)
第13回　対日関係(1)
第14回　対日関係(2)
第15回　前期のまとめ

使用テキスト： 特定の教科書は指定しないが、アジア経済に関する文献などを必要に応じて適宜配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は開講時、推薦する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜?・時間等については初回に案内する。

留意事項： 参加態度、個人報告、そしてチーム報告などを総合的に判断して評価する。
履修者の人数によっては授業の方法や扱うトピックを多少修正する可能性がある。

科目コード：41110　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 経営演習Ⅰk(Business Seminar Ⅰk)

担当者： 渡部　暢

基本情報

年次：3　　**単位数：**2　　**授業形式：**演習

曜時：水曜3限　　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　　**ＡＬ要素：** 04 課題解決、07 発表、08 協同学修、11 討論

授業の概要： 本演習では学生の皆さんにスタートアップビジネスなどについて企画してもらいます。進捗によっては、ビジネスコンテストへの参加・企業見学等も行うことを検討していきます。そのうえで戦略論やイノベーション論といったアカデミックな知識を同時に学んでいってもらう予定となっています。

キーワード： 戦略論、イノベーション論、問題解決、論理的思考

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：**30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法: グループ討議、発表　　**評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

自律的・建設的に物事を考えられる力や、自らの考えを文章で、そして口頭で表現できる力を養っていくことを目指すことが求められます。

評価割合: 30%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

本演習はビジネスプランなどの企画を行いながら、アカデミック、特には戦略論・イノベーション論・起業論などの見解について学んでいく場となります。そしてこれらを身に着け四年時には卒業論文に挑んでもらえるように設計します。またその過程の中で、思考法やライティングを学習していきます。就活対策としてのエントリシート対策、面接対策などもゼミ活動の一環として行っていきます。

使用テキスト: 指導時に必要な文献を指示します。中心となるのはイノベーションと戦略関連の書籍となります。状況を見て英語文献を読んでもらうこともあります。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必要な情報を事前に収集・整理しておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 講義直後、オフィスアワー、メールにて対応する。オフィスアワーの曜日・時間、メールアドレス等については初回に案内する。

留意事項: 特になし

科目コード: 41111　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 経営演習II a(Business Seminar II a)

担当者: 栗原　正樹

基本情報

年次: 3　　**単位数:** 2　　**授業形式:** 演習

曜時: 月曜5限　　**履修可能学科・専攻:** M

関連資格:　　**AL要素:** 11.討論

授業の概要: 経営演習Ｉは「1、文章を読んで、理解できるようになる」「2、自分の考えを文章で表現できるようにする」「3、専門の基礎知識をつける」の3つを目的としている。演習の進め方は、ディスカッション及びゼミ生の発表を中心として行う。中小企業の実例に基づくケーススタディや財務会計の理論的な解釈などを通じ、会計のみならず、関連周辺分野の理論の理解も深

めることにより、会計人として理論と実践のバランスのとれた能力の養成を目指していく。
なお、この演習では、主として財務会計を扱い、一部税務会計も取り扱うが、管理会計は原則として指導しない。

キーワード： 会計、法律、経営学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法： 期末課題　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 演習中の態度　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回　ケーススタディ1
第2回　財務会計の論理的解釈1
第3回　ケーススタディ2
第4回　財務会計の論理的解釈2
第5回　ケーススタディ3
第6回　財務会計の論理的解釈3
第7回　ケーススタディ4
第8回　財務会計の論理的解釈4
第9回　ケーススタディ5
第10回　財務会計の論理的解釈5
第11回　ケーススタディ6
第12回　財務会計の論理的解釈6
第13回　ケーススタディ7
第14回　財務会計の論理的解釈7
第15回　まとめ

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留 意 事 項：

事前準備学習 会計関連科目の指定された授業への参加・単位修得が本科目の単位修得の必須条件である。成績評価は、演習内での発表やレポートで評価する。出席しているだけでは、成績上の評価にはならない。なお、単位修得条件として、ゼミ入室時に指定した条件をクリアーしていない場合には、単位の修得は認めないので注意する。

科 目 コ ー ド：41111 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習II b（Business Seminar II b）**

担 当 者： **澤端 智良**

基 本 情 報

年 次：3 **単 位 数：2** **授業形式：演習**

曜 時：水曜5限 **履修可能学科・専攻：** M

関 連 資 格： **ＡＬ要 素：** 07発表、08協同学修、09実地調査、10資料調査課題、11討論、15.レポート指導

授業の概要： 本演習ではグループワークと発表および文献調査・フィールドワークを中心に進めていく。後期は商店街・あるいは観光地などへのフィールドワークを取り入れ、主に地域活性化や観光に関連したテーマに取り組む。
なお、上記の学びを促進するために担当教員の実務経験から得た知見を共有し、実践的知識・スキルの修得を目指す。

キーワード： 文献調査、グループワーク、フィールドワーク、地域活性化、観光まちづくり

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： グループワークや発表に必要な、マーケティングに関する概念や理論および調査法等に関する基本的な知識や方法論が習得できていること。

評価方法： 演習内での発表やディスカッションの内容、課題への取組等により、総合的に評価する **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： グループワークや発表を通じて、マーケティングに関する知識を深めるとともに、論理構成力、ディスカッション力、プレゼンテーション力等の技術が身についていること。

評価方法： 演習内での発表やディスカッションの内容、課題への取組等により、総合的に評価する **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

呈示された課題に対し、各個人あるいはチームで事前準備をしっかりと行い、成果や進捗状況について適宜ゼミでの発表や報告を行うこと。
また、ゼミは「学びの共同体」であるとの認識に立ち、他のメンバーの発表内容に関しても積極的にコメント・アドバイスを与え、クラス全体へ貢献すること。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第1回】 後期のガイダンス
【第2回】 基本データ収集と分析（1）
【第3回】 基本データ収集と分析（2）
【第4回】 基本データに関する発表とディスカッション
【第5回】 発表の振返り
【第6回】 追加分析
【第7回】 追加分析に関する発表とディスカッション
【第8回】 フィールド・ワークの進め方
【第9回】 フィールド・ワーク（1）
【第10回】 フィールド・ワーク（2）
【第11回】 フィールドワークに関する発表とディスカッション
【第12回】 プレゼン資料の取りまとめ（1）
【第13回】 プレゼン資料取りまとめ（2）
【第14回】 プレゼンテーション
【第15回】 全体のまとめと次年度へ向けてのオリエンテーション

※取り組むプロジェクトの期間や内容によって大きく変更する場合もある（授業計画は、受講生とも相談しながら柔軟に設計していく）

使用テキスト： 特定の教科書は指定しない。必要な文献や資料は適宜コピーして配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参加プロジェクトやその他課題に対しては、資料収集・発表準備・フィールドワーク等を事前に充分に行うこと。事前に資料が配られた場合は、必ず目を通してから授業に参加すること（60分）。また、討論等を通じて教員やゼミのメンバーから受けた指摘については各自で理解・解釈をしたうえで復習・整理をしておくこと（60分）。
なお、参考文献等については、必要に応じて適宜呈示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項： 具体的なテーマは、履修学生の関心に沿って選定し、授業計画はグループワークの状況等をみながら進めていく予定である。したがって、先方の都合等により授業計画に変更が生じることもあるが、その場合は事前に連絡するので柔軟に対応して欲しい。
なお、発表やプロジェクトのための事前準備や資料作成、調査等で授業時間外に活動時間を確保してもらう必要が生じることが考えられる。予め認識しておいてもらいたい。
また、要望に応じ「サブゼミ」の実施等も検討しているので関心があれば積極的に参加してもらいたい（概要は初回授業時に説明する予定）。
授業期間内に課したレポート類については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。

科目コード：41111　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習II c（Business Seminar II c）

担当者：申　美花

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：金曜4限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 04、07、09、11、15

授業の概要： ビジネスモデルは企業がいかにして売上を上げて利益を生み出すか、という事業活動の仕組みであります。この授業では、ビジネスモデルに関する理論を学ぶとともに、事例分析と討議を通じて、業界ごとのビジネスモデルの特徴を比べるなど、ビジネスモデルについて多面的かつ深く考察を行います。

キーワード： SPAモデル、BOPモデル、ソリューションモデル

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 利益を生み出す製品やサービスに関する事業戦略と収益構造についての知識を身につける。

評価方法： グループ討議、発表、質問　　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： プレゼンテーション課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、発表内容をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法： プレゼンテーション　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ討議に能動的に参加し、他のメンバーとの協働を通じて、グループとしての創意を形成することができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が卒論の内容の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

【第1回】収益構造に注目したビジネスモデル
　会員制モデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第2回】収益構造に注目したビジネスモデル
　ブランドマルチ展開モデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第3回】ケーススタディー④
　ヒット商品の開発内容
【第4回】顧客に注目したビジネスモデル
　ソリューションモデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第5回】顧客に注目したビジネスモデル
　BOPモデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第6回】競合に注目したビジネスモデル
　ブルー・オーシャン戦略に関する基本的概念を理解する
【第7回】競合に注目したビジネスモデル
　ブルー・オーシャン戦略の事例を分析する
【第8回】ケーススタディー⑤
　ヒット商品の開発内容
【第9回】競合に注目したビジネスモデル
　参入障壁モデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第10回】流通チャネルに注目したビジネスモデル
　「マルチ販売ルート」型モデルに関する基本的概念を、事例から理解する

【第11回】流通チャネルに注目したビジネスモデル
SPAモデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第12回】流通チャネルに注目したビジネスモデル
中抜きモデルに関する基本的概念を、事例から理解する
【第13回】企業訪問
【第14回】ビジネスモデルの進化
ビジネスモデルの進化について理解を深める
【第15回】講義のまとめ

使用テキスト: 平野敦士カール『図解カール教授と学ぶ成功企業31社のビジネスモデル超入門！』株式会社ディスカヴァートゥエンティワン，2012年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業の前に、しっかりと予習をすること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項: 授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード:41111 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **経営演習II d(Business Seminar II d)**

担当者: **田口 尚史**

基本情報

年次:3 **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:水曜4限 **履修可能学科・専攻:** M

関連資格: **AL要素:** 07.発表
08.協同学修
10.資料調査課題
14.輪読活動
17.発問と回答

授業の概要: 本演習では，マーケティングに関するテーマについて討議する。その後，マーケティングに関する学術論文を執筆するための問題意識を醸成するために，マーケティングに関する文献(書籍や論文)をレビューし，学生同士で討議する。取り上げる文献は，学生の関心に基づいて選択し，各学生はその文献を精読した内容をサマリーとして授業中に発表する。他の学生たちはその発表内容について討議する。

キーワード: マーケティング，輪読，討議

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: マーケティングの理論的・体験的な学びとの関連において，マーケティングの知識を身につけている。

評価方法: レポート **評価割合:20%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業における経験を踏まえて，企業のマーケティングにおける課題について思考し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 発表および討議 **評価割合:40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの関心のあるテーマについて，高い問題意識の下に，主体的に資料収集し，明確なリサーチ・クエスションを導き出すことができる。

評価割合：40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただし，ボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第01回　卒業論文テーマのガイダンス
第02回　研究テーマの設定
第03回　研究テーマの発表(1)
第04回　研究テーマの発表(2)
第05回　研究テーマの発表(3)
第06回　研究テーマの発表(4)
第07回　研究テーマの発表(5)
第08回　研究テーマの発表(6)
第09回　研究テーマの発表(7)
第10回　研究テーマの発表(8)
第11回　研究テーマ指導(1)
第12回　研究テーマ指導(2)
第13回　研究テーマ指導(3)
第14回　研究テーマ指導(4)
第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは，初回に学生の関心に合わせて決定する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： マーケティングに対する関心や問題意識を常に持ち，経営者の視点からマーケティングを考える習慣をつけてほしい。参考文献や資料等は，授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41111　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習II e（Business Seminar II e）**

担当者： **長島　正浩**

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：月曜5限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 07、11、12、14、15

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業（同時双方向型）

3年次においては、企業会計の「オールラウンダー」を目指し、財務会計、管理会計、経営分析などの基本を幅広く学び、柔軟な会計思考をするための素地を養っていく。特に後期は管理会計・経営分析について、知識を深めていく。

キーワード： 直接原価計算、CVP分析、損益分岐点、安全余裕率、戦術的意思決定、戦略的意思決定、

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 「経営演習Ⅱ」では、管理会計全般について知識を深め、さらに経営分析手法まで学んでいく。

評価方法： 演習時間のおける議論・発言内容の評価による　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 財務諸表を作成する財務会計論の領域からさらに財務諸表を読み取る能力を身につけ、さらに経営者の立場となって、会社をマネジメントできる思考を持てるようになる。

評価方法： 演習時間の議論・発言内容の評価による　**評価割合：60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 経営者のための管理会計
【第02回】 企業価値創造のための管理会計
【第03回】 事業部制による業績管理会計
【第04回】 利益管理のための管理会計ーその1
【第05回】 利益管理のための管理会計ーその2
【第06回】 企業予算によるマネジメント・コントロール
【第07回】 損益分岐点分析による収益性の検討
【第08回】 直接原価計算による利益管理
【第09回】 管理会計のまとめ
【第10回】 収益性の分析
【第11回】 生産性の分析
【第12回】 安全性の分析
【第13回】 成長性の分析
【第14回】 経営分析のまとめ
【第15回】 論文テーマの検討

使用テキスト: 特になし(ただし、参考書は下記参照のこと)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考書として、櫻井通晴『管理会計』(第7版)同文舘出版、2019年 をお勧めする。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード:41111 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 経営演習II f(Business Seminar II f)

担当者: 古井 仁

基本情報

年次:3 **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:月曜3限 **履修可能学科・専攻:** M

関連資格:

AL要素:
07. 発表
08. 協同調査
10. 資料調査課題
12. 課題討議法
14. 輪読
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 本授業では、

授業は、基本書の輪読とディスカッションによって進めていきます。また、卒業研究に向けての準備として、学期末には「卒業論文準備レポート」を提出してもらいます。

キーワード: 経済格差

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法: 発表、グループ討議 **評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法: 発表、グループ討議、レポート **評価割合:50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業終了後に取り組むリアクション・シートや期末レポートにおいて、自身の課題についての探究と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第01回　ガイダンス（卒業論文準備レポートの進めかた）
第02回　研究報告とディスカッション
第03回　研究報告とディスカッション
第04回　研究報告とディスカッション
第05回　研究報告とディスカッション
第06回　研究報告とディスカッション
第07回　研究報告とディスカッション
第08回　研究報告とディスカッション
第09回　研究報告とディスカッション
第10回　研究報告とディスカッション
第11回　研究報告とディスカッション
第12回　研究報告とディスカッション
第13回　研究報告とディスカッション
第14回　卒業論文準備レポートの提出
第15回　全体的まとめ

授業の前半と後半に卒業論文準備レポートの中間発表会、討論会を行います。

使用テキスト： テキストは開講時に、指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
授業後、テキストや配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は開講時、推薦します。

・グループ討議に必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後に出される課題は必ず提出し、授業中のグループ討議で適度に自分の意見を伝えられたかどうかを振り返ること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項：
・提出物については、添削後、返却します。
・担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活・進路について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41111　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習II g（Business Seminar II g）**

担当者： **米岡　英治**

基本情報

年次：3　　**単位数：2**　　**授業形式：演習**

曜時：月曜5限　　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　　**AL要素：** 04 課題解決
07 発表

08 協同学修
10 資料調査課題
11 討論

授業の概要： 企業経営において、どのような情報をどのように扱うか、どのような活用が考えられるかについて学ぶとともに、ゼミ生間でディスカッションすることで理解を深めます。ビジネスモデルなどを考え、関連する情報について、幅広く学びます。経営（プラン）の全体像・つながりを捉える力を身につけ、ビジネスの構想力などに関する技術・能力の向上を図ります。
次年度の卒業研究を前提とした、研究テーマの設定も行います。

キーワード： ビジネスプラン、経営情報、情報公開、市場調査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 経営活動について、人的資源、モノの管理、マーケティング、会計情報、情報技術、経営情報の公開など、さまざまな視点から考察できる。

評価方法： 授業中のディスカッション内容等　　**評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 企画の検討により、経営全般にわたって考察できる。聞き手に伝えられる。

評価方法： 企画の内容、活動報告等　　**評価割合：** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッション内容、および企画の内容・検討過程から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし企画の検討において人権侵害・差別的など著しく公正性を欠く内容があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第1～15回】
【講義・ディスカッション】
・前期振り返り
・卒業研究計画について
・個人研究課題の検討
・仮説の設定、条件
【企画検討】
・アイデアの詳細化
・市場環境検討
・事業化プラン検討
・企業訪問など
・企画内容の実施

使用テキスト： 資料をそのつど配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布資料について復習するとともに、新聞・雑誌などで企業動向に注意しておくこと。検討する企画内容に関連する事柄に関して、自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 特になし

科目コード：41111　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習II h（Business Seminar II h）**

担当者： **佐藤　和明**

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜3限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 07.発表
08共同学修
10資料調査課題
14輪読活動
17発表と回答

授業の概要： 前半は、経営演習Iの復習と各テーマに対する受講者各自の発表を中心とする。後半は各自の研究テーマを意識しつつ、Webサイトの運営、もしくは自らのテーマの先行文献やリサーチなどを含めて研鑽していく。また、各自の発表とディスカッション、レポート提出が主となり、自主性、積極性が求められる。

キーワード： デジタルマーケティング、Webマーケティング、ネット広告、検索エンジン、SNS、AI

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： インターネットからの集客方法やAIの活用を理解している。

評価方法： 発表、ディスカッション、質疑応答での評価による。　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： デジタルマーケティング全般、AIとの関連性を理解し、問題意識を持ち、自らの研究テーマに取り組み、最終レポートでまとめることができる。

評価方法： 発表、ディスカッション、質疑応答、最終レポートでの評価による。　**評価割合：60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が講義内容と合致する場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する。

評価割合：0%

▼公正性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回　ガイダンス
経営演習Ⅱでの研究テーマに関する方向性を各自で決定するための質疑応答ともに、経営演習Iを復習する。

第2回　デジタルマーケティングとWebマーケティングの復習
経営演習Iの復習を数回に分けて実施する。基本的には、学んだことを踏まえて、受講生がリサーチした事例、問題点などを発表する。1回目はデジタルマーケティングとWebマーケティングの差異を主に発表する。

第3回　ソーシャルメディアでの集客法の復習
ソーシャルメディアでの集客?法の復習と各自の発表。

第4回　ネット広告の利活用の復習
ネット広告の利活用の復習と各自の発表。

第5回　検索エンジンマーケティングの復習
検索エンジンマーケティングの復習との発表。SEO対策とWebライティングに関する内容も含まれる。

第6回　SNSとAIの復習
SNSとAIの復習と受講生の発表。

第7回　Webサイトの運営、もしくは研究テーマのリサーチ
Web Siteの運営をすすめつつ、各自の研究テーマを決定する。研究テーマに合わせた先行文献レビューやその他のリサーチ方法などを学び、自らの研究テーマに活かす。

第8回　Webサイトの運営、研究報告と指導（1）
各自が研究報告、ディスカッション、指導する。以下、14回まで同内容。

第9回　Webサイトの運営、研究報告と指導（2）

第10回　Webサイトの運営、研究報告と指導（3）

第11回　Webサイトの運営、研究報告と指導（4）

第12回　Webサイトの運営、研究報告と指導（5）

第13回　Webサイトの運営、研究報告と指導（6）

第14回　Webサイトの運営、研究報告と指導（7）

第15回　総括
研究の発表と今後の展開等を各自で発表する。

使用テキスト： 各回、参考資料のPDFを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となるWebサイトや文献を指定するので、それらを読み込んでく

ださい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 初回に伝えるオフィスアワーで対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：41111　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習Ⅱｉ（Business Seminar Ⅱｉ）

担当者：菅野 雅子

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜4限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

ＡＬ要素： 07 発表
08 協同学修
10 資料調査課題
11 討論
14 輪読活動
15 レポート指導

授業の概要： ＜ゼミのテーマ＞
1．人的資源管理（Human Resource Management）
2．組織行動論（Organizational Behavior）

経営演習Ⅱでは、前期に引き通気、(1) 学びの基礎を作る (2) 理論や概念を学ぶ (3) 現実の課題に向き合う (4) 卒業研究の準備・構想、の4つを軸に展開します。
テーマに関する文献研究・輪読、グループワーク、ディスカッション、ケース検討、プレゼンテーションと相互フィードバックなどを組合せて学びを深めます。
演習は担当教員の実務経験から得た知見も随時共有しながら進めていきます。

キーワード： 人的資源管理、組織行動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ゼミのテーマに関する主要な概念や理論、および文献研究、調査法等に関する基本的な知識や方法論を身に着ける。

評価方法： 演習内での発表やディスカッションの内容、課題への取組等により、総合的に評価する　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ゼミのテーマに関する知識を踏まえて、企業における人や組織の問題について情報収集・分析・考察することができる。

評価方法： 演習内での発表やディスカッションの内容、課題への取組等により、総合的に評価する　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

課題に対する事前準備をしっかり行い、ゼミ内での発表・報告などに積極的に取り組む。
他のメンバーの研究テーマや発表内容の理解に努め、積極的にコメント・質問・フィードバックをする。
ゼミ内での役割を積極的に果たしゼミ運営に貢献する。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、自発的にゼミに貢献する実践が見られた場合は、「学修に主体的に取り組む態度」としての評価対象とする場合がある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第1～15回】以下の内容を適宜組合せて実施する
※具体的にいつ何をやるかは、ゼミの中で案内します。

(1) 学びの基礎を作る
・クリエイティブ・ラーニング
・ロジカルシンキング
・コミュニケーションスキル

(2) 理論や概念を学ぶ
・人的資源管理
・組織行動論

(3) 現実の課題に向き合う
・ケーススタディ(代理経験)
・企業訪問、インタビュー
・ゲスト講師

(4) 卒業研究の構想
・文献研究の進め方
・研究テーマの構想
・レポートの書き方

なお、大学生活や就職活動などに関して個別に1on1で支援の機会を持ちます。

使用テキスト： その都度配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 課題に対して、主体的に情報収集・事前学習を行い、授業がより深い学びとなるように心がける。
テーマに関して、自分なりの考えや意見を検討し、他者とディスカッションを行い、自らの考えを常にアップデートしていけるよう心がける。
ゼミ内で提示する参考文献や関連する文献を読み、疑問点を出したり、自分なりの考えを整理して次のゼミで発表・報告するなど、問題意識を言語化し他者に伝えることを心がける。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41111 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **経営演習II j(Business Seminar II j)**

担当者： **Yodtomorn Pimprapa**

基本情報

年 次 :3　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 水曜4限　　**履修可能学科・専攻 :** M

関連資格 :　　**AL要素 :** 07.発表、08.協同学修、10.資料調査課題、11.討論、17.発問と回答

授業の概要 : 現在、多くの日系企業もアジア諸国に進出している。日系企業の国際ビジネスにおいても異文化対応の重要性が高まっている。また、国内でもアジア諸国から来日する労働者が年々増加している。本授業では異文化に関連する文献を調査し、ビジネス・経済・文化・価値観など様々な観点からアジアの国々を比較します。

キーワード : アジアの社会と経済、異文化、国際ビジネス

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 1.アジアの社会と経済や日系企業の経営現地化に関する知識を習得する。
2.効率的なデータ収集力を身につけることができる。

評価方法 : 発表、グループ討議　　**評価割合 : 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 自ら問題を発見し、その解決方法を考える。また、ゼミ活動を通じて、他者と協調して問題を解決する態度を養う。

評価方法 : 発表、グループ討議　　**評価割合 : 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。但し、自主的な学修により、自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。但し、ボランティア活動等の実践により、深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 : アジアの中の興味ある国・地域を一つ選び、経済・社会・文化に関わる文献・資料を輪読しながら、その国について深く学びます。

第1回　イントロダクション（演習の進め方）
第2回　課題研究の進め方
第3回　発表とディスカッション
第4回　発表とディスカッション
第5回　発表とディスカッション
第6回　発表とディスカッション
第7回　中間報告（内容まとめ）
第8回　文献・資料・統計の収集

第10回　文献・資料・統計の収集
第11回　文献・資料・統計の収集
第12回　研究報告
第13回　研究報告
第14回　研究報告
第15回　全体的まとめ、レポート提出

使用テキスト： 特定の教科書は指定しませんが、アジア経済に関する文献などを必要に応じて適宜配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は開講時、推薦します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 参加態度、個人報告、そしてチーム報告などを総合的に判断して評価します。
履修者の人数によっては授業の方法や扱うトピックを多少修正する可能性がある。

科目コード：41111　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習II k（Business Seminar II k）

担当者：渡部　暢

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜3限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 04 課題解決、07 発表、08 協同学修、11 討論

授業の概要： 本演習では引き続き、学生の皆さんにスタートアップビジネスなどについて進行してもらいます。進捗によっては、ビジネスコンテストへの参加・企業見学等も行うことを検討していきます。そのうえで戦略論やイノベーション論といったアカデミックな知識を同時に学んでいってもらう予定となっています。

キーワード： 戦略論、イノベーション論、問題解決、論理的思考

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法： グループ討議、発表　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

自律的・建設的に物事を考えられる力や、自らの考えを文章で、そして口頭で表現できる力を養っていくことを目指すことが求められます。

評価割合：30%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議

や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 企業のイノベーションや戦略について幅広い角度から皆さんと一緒に掘り下げて学んでいき、グループないしは個人での発表を行ってもらいます。またイノベーションや戦略に関する主要な知識を獲得しつつ、4年時に必要となる卒業論文（あるいは卒業レポート）や、ESの作成を見据えた論文の読み方・書き方などの作法を習得していきます。

使用テキスト： 指導時に必要な文献を指示します。中心となるのはイノベーションと戦略関連の書籍となります。状況を見て英語文献を読んでもらうこともあります。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必要な情報を事前に収集・整理しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワー、メールにて対応する。オフィスアワーの曜日・時間、メールアドレス等については初回に案内する。

留意事項： 特になし

科目コード：41112　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習Ⅲ a（Business Seminar Ⅲ a）

担当者：栗原　正樹

基本情報

年次：4　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 11.討論

授業の概要： 経営演習Ⅲは、自らの考えを整理し、主張するための技術として、考えの整理と論文作成を行う。演習の進め方は、ゼミ生の発表を中心として行う。これらの演習を通じ、会計のみならず、関連周辺分野の理論の理解も深めつつ、会計人として理論と実践のバランスのとれた能力の養成を目指していく。このことは、会計人のみならず、社会で通用するビジネスパーソンとしての基礎的な素養である。
なお、この演習では、主として財務会計を扱い、一部税務会計も取り扱うが、管理会計は原則として指導しない。

キーワード： 会計、法律、経営学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法： 期末課題　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 演習中の態度　　**評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合： 0%

▼公正性

特になし

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 演習は学生の発表と論文の書き方の指導という形式で進める。発表する内容は各自の研究のテーマである。

【前期】
[第01回] オリエンテーション
[第02回] 財務会計の基礎論点の理解①
[第03回] 財務会計の基礎論点の理解②
[第04回] 財務会計の基礎論点の理解③
[第05回] 財務会計の基礎論点の理解④
[第06回] 財務会計の基礎論点の理解⑤
[第07回] 財務会計の基礎論点の理解⑥
[第08回] 各自の研究テーマの決定
[第09回] 論文の書き方について
[第10回] 各自の研究内容の発表①
[第11回] 各自の研究内容の発表②
[第12回] 各自の研究内容の発表③
[第13回] 研究構成ー目次の検討①
先行研究調査やデータ収集を含む
[第14回] 研究構成ー目次の検討②
[第15回] 研究構成ー目次の検討③

【後期】
後期（経営演習Ⅳ）は全体指導、グループ指導、個別指導を適宜行っていく。
[第01回] ～[第03回]　研究テーマ、タイトル、目次、序論までの発表
[第04回] ～[第06回]　本論までの発表
[第07回]　中間発表会
[第08回] ～[第10回]　内容調整と結論までの執筆
[第11回] ～[第13回]　研究論文の発表
[第14回] まとめ①
[第15回] まとめ②

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項：

事前準備学習 会計関連科目の指定された授業への参加・単位修得が本科目の単位修得の必須条件である。成績評価は、演習内での発表やレポートで評価する。出席しているだけでは、成績上の評価にはならない。なお、単位修得条件として、ゼミ入室時に指定した条件をクリアーしていない場合には、単位の修得は認めないので注意する。

科目コード：41112 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習Ⅲ b（Business Seminar Ⅲ b）**

担当者： **澤端 智良**

基本情報

年次：4 **単位数：2** **授業形式：演習**

曜時：水曜4限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： **ＡＬ要素：** 07発表、09実地調査、10資料調査課題、11討論、15.レポート指導

授業の概要： 本演習では個人研究に重点を置き進めていく。論文の書き方・基本要件等について理解を深めたうえで、各自が選択した研究テーマについてクラス内で研究内容を発表し、学生同士でディスカッションを行う。夏休み前には研究計画（プロポーザル）を提出し、夏休みおよび後期の調査・執筆段階へと繋げる。

キーワード： 卒業研究、文献研究、個人発表、検証・探索調査、マーケティング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 卒業論文の執筆に必要な、問題提起・テーマ設定・理論構築法・調査法等に関する基本的な知識や方法論が習得できていること。

評価方法： 卒業研究の内容・水準により評価する。 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 発表や卒業論文の執筆を通じてマーケティングに関する知識を深めるとともに、論理構成力、文章力、ディスカッション力、プレゼンテーション力等、社会で必要な能力が身についていること。

評価方法： 卒業研究の内容・水準により評価する。 **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

個人研究を進めるにあたって、各個人で事前準備をしっかりと行い、成果と進捗状況について適宜ゼミでの発表や教員への報告を行うこと。
また、ゼミは「学びの共同体」であるとの認識に立ち、他のメンバーの発表内容に関しても積極的にコメント・アドバイスを与え、クラス全体へ貢献すること。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第1回】 ガイダンス（演習の目的、概要、進め方等）
【第2回】 研究の進め方・論文の書き方
【第3回】 研究テーマの発表とディスカッション（1）
【第4回】 研究テーマの発表とディスカッション（2）
【第5回】 研究テーマのブラッシュアップ
【第6回】 先行研究レビュー・参考資料収集とディスカッション（1）
【第7回】 先行研究レビュー・参考資料収集とディスカッション（2）
【第8回】 先行研究レビュー・参考資料収集とディスカッション（3）
【第9回】 先行研究レビュー・参考資料収集とディスカッション（4）
【第10回】 個別論文作成指導(1)
【第11回】 個別論文作成指導(2)
【第12回】 研究計画報告（1）
【第13回】 研究計画報告（2）
【第14回】 研究計画報告（3）
【第15回】 前期まとめ

使用テキスト： 特定の教科書は指定しない。必要な文献や資料は適宜コピーして配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 卒業研究に関する成果と進捗状況を報告するための発表準備を行うこと。また、教員やゼミのメンバーから受けた指摘については各自で理解・解釈をしたうえで、必要に応じて論文内容に反映し、論文を完成へ向けて進めること。
なお、参考文献等については、必要に応じて適宜呈示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項： 前期は原則として全員が卒業論文の執筆に取り組み準備を進めることとする。
また、要望に応じ「サブゼミ」の実施等も検討しているので関心があれば積極的に参加してもらいたい（概要は初回授業時に説明する予定）。
なお、課題については授業の中で全体に対しフィードバックを行う。

科目コード：41112 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習III c（Business Seminar III c）**

担当者： **申 美花**

基本情報

年次：4 **単位数：2** **授業形式：演習**

曜時：金曜5限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： **AL要素：** 04、07、09、11、15

授業の概要： 前期は論文のテーマの設定や先行研究のレビューを中心とした演習を行い、論文の基本的な書き方に対する指導を行います。

キーワード： 論文の書き方、研究フレームワーク、研究テーマ、オリジナリティー

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 論文の書き方についてその内容を的確に理解し、テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方などを修得する。

評価方法: 論文の内容　　**評 価 割 合 :** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自分で新しい問題を設定し、その問題の解決策を客観的な根拠を示しながら、何らかの独創性(オリジナリティー)のある結論へと導くことができる。

評価方法: 論文の内容　　**評 価 割 合 :** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の討議に積極的に参加し、自分の意見を明確に主張してほしい。

評 価 割 合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が卒論の内容の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 :

第1回　ガイダンス
第2回　論文の構成の考え方①
第3回　論文の構成の考え方②
第4回　論文の表現の考え方
第5回　正確な言葉選び
第6回　正確な表記
第7回　論文の文体
第8回　明晰な文章展開①
第9回　明晰な文章展開②
第10回　書き手の責任
第11回　問う一目的①
第12回　問う一目的②
第13回　調べる一先行研究①
第14回　調べる一先行研究②
第15回　前期の振り返り

使用テキスト: 石黒　圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社、2012年。

予習・復習のポイントと参 考 文 献 ・ 資 料 等 : 論文のテーマについて様々な情報を事前に収集・整理しておくこと。

障 が い の あ る 履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留 意 事 項 : 授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科 目 コ ー ド :41112　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 経営演習Ⅲ e(Business Seminar Ⅲ e)

担 当 者 : 長島 正浩

基本情報

年 次 :4　　**単 位 数 :2**　　**授業形式:演習**

曜 時 :月曜6限　　**履修可能学科・専攻: M**

関 連 資 格 :　　**ＡＬ要 素 :** 07、11、12、14、15

授業の概要: テーマは決まってもいきなり書き始めることは難しい。では、まず作成スケジュールから作り、時間管理を行う。その上で、先行業績を調べ、誰が、どこまで、明らかにしているのかを確認しなければならない。先人たちの業績を尊重しなければならないからである。次に、大まかな話の道筋を立てる。すなわち、ストーリーを作る。仮説が入って構わないので、一応、こんなことが言えるだろうということを発表してもらう。これについてゼミ内みんなで議論する。他人の論文に興味はないかもしれないが、必ず自分の論文にも役立つ。これを繰り返すことで最終的によい論文が書き上がるのである。

キーワード: 卒業研究、会計論文、法律論文、会計基準研究、判例研究

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 「経営演習Ⅲ」では、本学で学んだすべての集大成としての卒業研究論文の筋道を作っていく。

評価方法: 論文ストーリーの論理性を評価する　　**評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 先行業績を丹念にリサーチし、他人からの批判もしっかりと議論して受け入れ、納得したものを作り上げる。そのような過程を経ることで、論理的思考が養われ、プレゼンテーション能力も磨かれ、また、文章力も上達することになる。

評価方法: ゼミ内プレゼンテーションの内容を評価する　　**評価割合:50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授 業 計 画 : 【第01回】 ガイダンス(目標を掲げる・論文テーマの確認または決定)

【第02回】 論文の書き方・スケジュール
【第03回】 参考文献の検索
【第04回】 論文ストーリーの発表ーその1
【第05回】 論文ストーリーの発表ーその2
【第06回】 論文ストーリーの発表ーその3
【第07回】 論文ストーリーの発表ーその4
【第08回】 論文ストーリーの発表ーその5
【第09回】 個別論文作成指導ーその1
【第10回】 個別論文作成指導ーその2
【第11回】 論文ストーリーの再発表ーその1
【第12回】 論文ストーリーの再発表ーその2
【第13回】 論文ストーリーの再発表ーその3
【第14回】 論文ストーリーの再発表ーその4
【第15回】 論文ストーリーの再発表ーその5

使用テキスト: 特になし(ただし、参考書は下記参照のこと)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考書として、酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』(第2版)共立出版、2017年 をお勧めする。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード:41112 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 経営演習III f(Business Seminar III f)

担当者: 古井 仁

基本情報

年次:4 **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:火曜2限 **履修可能学科・専攻:** M

関連資格: **AL要素:** 07. 発表
11. 討論
15. レポート指導
17. 発問と回答

授業の概要: 本授業では4年間の学修活動の集大成としての卒業論文の作成に取り組む。集団授業と個別指導で進める。毎回報告者を決め、卒業論文の途中経過の報告を行い、お互いに議論し合う。改善を図りながら完成させていく。

キーワード: 独創性、構想力、実践性

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる

評価方法: 提出物、成果物 **評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法: 提出物、成果物 **評価割合:50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、卒業論文において、自身の課題についての探究と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第01回　ガイダンス（授業の進め方など）
第02回　卒業論文の構想
第03回　研究テーマと文献調査
第04回　仮アウトライン設定
第05回　研究課題、研究方法の設定
第06回　テーマ、目次、要旨の発表
第07回　研究計画書の作成
第08回　既存文献の引用、要約の記述方法
第09回　中間報告、及びディスカッション
第10回　中間報告、及びディスカッション
第11回　中間報告、及びディスカッション
第12回　中間報告、及びディスカッション
第13回　中間報告、及びディスカッション
第14回　卒業論文中間レポートの提出
第15回　まとめ（添削レポートの返却）

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後、配付資料について復習するとともに、自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は開講時、推薦します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・提出物・成果物については、添削後、返却します。
・担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活・進路について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41112　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習III g（Business Seminar III g）

担当者：米岡　英治

基本情報

年次：4　　**単位数：2**　　**授業形式：演習**

曜時：月曜6限　　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

ＡＬ要素： 07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要： 個人がテーマを選び、これまでに学んだ経営学における様々なフレームワークを応用した研究を行い、論文として纏める。個人研究を中心とするが、区切りにおいてはゼミ生が集合しての講義・研究報告・ディスカッションを行う。
先行研究や事例に関する調査・報告、関連データの確認などを中心に行う。研究計画の設定から全体構成の検討を行う。

キーワード： 先行研究レビュー、事例調査、ロジカルシンキング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： テーマに関連する事柄に関して、適切な先行研究や事例等を調査し、内容ごとに適切にまとめることができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： テーマに対して様々な視点での検討を行うことで、経営学全般にわたる理解を高め、かつ理解した内容を論理的に他者に伝えることができる。

評価方法： 授業中のディスカッション内容等　　**評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

先行研究や事例等の調査・検討過程から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし設定したテーマの研究において人権侵害・差別的など著しく公正性を欠く内容があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】イントロダクション　ゼミの進め方
【第02～15回】
【講義・ディスカッション】
・テーマの詳細化
・研究計画の具体化
・先行研究及び事例の理解
・論文構成の検討
・研究状況の発表

使用テキスト： 山﨑康司　2011『入門考える技術・書く技術 日本人のロジカルシンキング実践法』ダイヤモンド社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布資料について復習するとともに、新聞・雑誌などで企業動向に注意しておくこと。
設定したテーマに関連する事柄に関して、自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

研究内容に応じて参考資料を指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 主体的に研究を進めること。研究内容に関してゼミまたは個別指導の時間にフィードバックを行います。

科目コード：41112 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習III h（Business Seminar III h）**

担当者： **佐藤 和明**

基本情報

年次：4 **単位数：2** **授業形式：演習**

曜時：水曜4限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： **ＡＬ要素：** 07.発表
08共同学修
10資料調査課題
14輪読活動
17発表と回答

授業の概要： 前半は、経営演習IIの復習とWebサイトの運営、その他付帯するWebマーケティングのテーマに対する受講者各自の発表を中心とする。後半は各自の研究テーマを決め、研究の進め方、先行文献やリサーチ方法などを指導する。各自の発表とディスカッションが主となり、積極性が求められる。

キーワード： デジタルマーケティング、Webマーケティング、ネット広告、検索エンジン、SNS、AI、先行研究レビュー、アクセス解析、データ集計、アクセス解析、事例調査、ロジカルシンキング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： インターネットからの集客方法やAIの活用を理解している。

評価方法： 発表、ディスカッション、質疑応答、Webサイトの運営を理解しているか否かで、評価する。 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： デジタルマーケティング全般、AIとの関連性を理解し、問題意識を持ち、自らの研究テーマに取り組み、最終レポートでまとめることができる。

評価方法： 発表、ディスカッション、質疑応答、最終レポートでの評価による。 **評価割合：60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が講義内容と合致する場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する。

評価割合：0%

▼公正性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回　ガイダンス（研究テーマの決定と進め方）
経営演習IIIでの研究テーマに関する方向性を各自で決定するための質疑応答ともに、経営演習IIを復習する。

第2回　研究報告と指導

第3回　研究報告と指導

第4回　研究テーマの発表

第5回　研究報告と指導

第6回　研究報告と指導

第7回　研究発表　1

第8回　研究報告と指導

第9回　研究報告と指導

第10回　研究報告と指導

第11回　研究発表　2

第12回　研究報告と指導

第13回　研究報告と指導

第14回　研究発表 3

第15回　研究発表 4
研究の発表と今後の展開等を各自で発表する。

使用テキスト： 各回、参考資料のPDFを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となるWebサイトや文献を指定するので、それらを読み込んでください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 初回に伝えるオフィスアワーで対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：41112　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習Ⅲｉ（Business Seminar Ⅲ i）

担当者：菅野　雅子

基本情報

年 次 :4　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 木曜3限　　**履修可能学科・専攻 :** M

関連資格 :　　**AL要素 :** 07 発表
09 実地調査
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要 : 本授業では卒業研究に重点を置いて進めていきます。論文の書き方や基本的な調査方法等について理解を深めながら、各自が選択した研究テーマについて深掘りしていきます。ゼミ内で各自の研究の進捗状況を発表し、相互フィードバックを行いながら研究内容をブラッシュアップしていきます。
前期は研究テーマ設定、先行研究レビュー、リサーチクエスチョン設定を行い、研究計画を作成します。
夏休みから後期を通じて、調査・論文執筆に取り組みます。

キーワード : 卒業研究、論文の書き方、研究計画、研究目的、リサーチ・クエスチョン、先行研究レビュー、アンケート調査、ヒアリング調査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 卒業研究に必要な知識や方法論を身に着ける。具体的には、論文の書き方、テーマ設定、先行研究レビュー、リサーチクエスチョン設定、調査方法など。

評価方法 : 卒業研究の内容・水準により評価　　**評価割合 : 40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 卒業研究の進捗状況報告や論文執筆を通じて、課題発見力、論理思考、文章力、創造性、計画・実行力など、社会で必要な基礎力を身に着ける。

評価方法 : 卒業研究の内容・水準により評価　　**評価割合 : 40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

卒業研究を進めるにあたって、進捗状況や成果についてゼミ内で報告できるようしっかり準備を行い積極的に取り組む。
他のメンバーの研究テーマや内容の理解に努め、積極的にコメント・質問・フィードバックをする。
ゼミ内での役割を積極的に果たしゼミ運営に貢献する。

評価割合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、自発的にゼミに貢献する実践が見られた場合は、「学修に主体的に取り組む態度」としての評価対象とする場合がある。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 : ＜前期＞
【第1回】ガイダンス（卒業研究の目的・意義、概要、進め方等）
【第2回】研究の進め方・論文の書き方・先行研究の進め方

【第3回】研究テーマの設定(1)
【第4回】研究テーマの設定(2)
【第5回】研究テーマの設定(3)
【第6回】先行研究レビュー(1)
【第7回】先行研究レビュー(2)
【第8回】先行研究レビュー(3)
【第9回】先行研究レビュー(4)
【第10回】調査の進め方(1)
【第11回】調査の進め方(2)
【第12回】研究計画発表(1)
【第13回】研究計画発表(2)
【第14回】研究計画発表(3)
【第15回】前期振り返りとまとめ。後期に向けて

＜後期＞
【第16回】～【第28回】進捗状況や成果の発表・ディスカッション。個別指導
【第29回】卒業研究提出
【第30回】全体の振り返りとまとめ

使用テキスト： その都度配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 卒業研究の進捗状況や成果をゼミ内で発表するための事前準備をしっかり行うこと。また、教員やゼミのメンバーから受けたフィードバックについては各自で理解・解釈したうえで、論文内容に反映し、研究のブラッシュアップに努める。
なぜ卒業研究に取り組むのか、なぜ自分はその研究テーマに取り組むのかなど自分なりの意義や目的を明確に持ち、前向きな気持ちで臨んでほしい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41112　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習Ⅲｊ（Business Seminar Ⅲｊ）**

担当者： Yodtomorn Pimprapa

基本情報

年次：4　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：木曜4限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**ＡＬ要素：** 07 発表
09 実地調査
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要： 本演習では経営演習Ⅰと経営演習Ⅱの成果を踏まえて卒業論文を執筆します。受講生には、それぞれの段階で、テーマ設定、先行研究、文献調査、研究手法、論文構成などについての報告をしてもらいます。

キーワード： 卒業論文、先行研究、テーマ設定、分析手法

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： テーマに関連する先行研究や統計資料などを調査し、要約することができる。設定したテーマ

に関連する分野の基本知識を身につける。

評価方法： 提出物、レポート　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 研究課題を見つけ、新しい観点から研究を進め、オリジナリティを確立できる。

評価方法： 進歩状況報告、ディスカッション　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

卒業研究の内容を報告する前に事前準備を行う。
ゼミ内で積極的に他のメンバーの報告に対してコメントをする。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　ガイダンス
第2～4回　テーマ設定
第5～8回　先行研究レビュー・統計資料収集
第9回　中間発表
第10～12回　調査手法の検討
第13～14回　予備調査（質的研究・量的研究）
第15回　調査報告

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 設定したテーマに関連する先行研究や資料などをまとめ、幅広い視野から物事の分析や考察を重ねて、自分なりの考えをまとめていくことが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41112　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習Ⅲ k（Business Seminar Ⅲ k）**

担当者： **渡部　暢**

基本情報

年次：4　　**単位数：2**　　**授業形式：演習**

曜時：木曜3限　　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　　**AL要素：** 04 課題解決、07 発表、08 協同学修、11 討論

授業の概要： 本演習は企業のイノベーションや戦略について幅広い角度から皆さんと一緒に掘り下げて

学んでいく場となります。各回で指示する文献を講義の事前に輪読して貰い、グループないしは個人での発表を行ってもらいます。イノベーションや戦略に関する主要な知識を獲得しつつ、4年時に必要となる卒業論文（あるいは卒業レポート）の作成を見据えた論文の読み方・書き方などの作法を学んでいきます。

キーワード： 戦略論、イノベーション論、問題解決、論理的思考

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法： グループ討議、発表　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

自律的・建設的に物事を考えられる力や、自らの考えを文章で、そして口頭で表現できる力を養っていくことを目指すことが求められます。

評価割合： 30%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ 】遠隔授業 同時双方向型

大学を卒業するということはどういう事なのか？社会科学の、そして経営学の、学士を取得するということはどういう事なのか？このゼミでは社会科学という枠組みにある経営学で学士を取得して大学を卒業することの意味や価値の一端を感じてもらえるようにサポートしていきます。
3年時は戦略論やイノベーションに関わるアカデミックな文献の輪読及び発表を中心に講義を進めていきます。その上で文章・論文の読み方・書き方・発表の作法などを改めて修得していくことを目指していきます。具体的に輪読する文献に関しては、双方向的なコミュニケーションを図りながら決定していきます。経営の知識が少ない学生でも理解しやすい内容の書籍を取り扱っていきますが、状況によっては英語の経営書やハイレベルな文献も取り扱っていきます。

使用テキスト： 指導時に必要な文献を指示します。中心となるのはイノベーションと戦略関連の書籍となります。状況を見て英語文献を読んでもらうこともあります。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必要な情報を事前に収集・整理しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワー、メールにて対応する。オフィスアワーの曜日・時間、メールアドレス等については初回に案内する。

留意事項： 特になし

科目コード：41113 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習IV a（Business Seminar IV a）**

担当者： **栗原　正樹**

基本情報

年次：4 **単位数：2** **授業形式：演習**

曜時：火曜3限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： **ＡＬ要素：** 11.討論

授業の概要： 経営演習Ⅳは、自らの考えを整理し、主張するための技術として、考えの整理と論文作成を行う。演習の進め方は、ゼミ生の発表を中心として行う。これらの演習を通じ、会計のみならず、関連周辺分野の理論の理解も深めつつ、会計人として理論と実践のバランスのとれた能力の養成を目指していく。このことは、会計人のみならず、社会で通用するビジネスパーソンとしての基礎的な素養である。
なお、この演習では、主として財務会計を扱い、一部税務会計も取り扱うが、管理会計は原則として指導しない。

キーワード： 会計、法律、経営学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法： 期末課題 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 演習中の態度 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 演習は学生の発表と論文の書き方の指導という形式で進める。発表する内容は各自の研究のテーマである。

【前期】
[第01回] オリエンテーション
[第02回] 財務会計の基礎論点の理解①
[第03回] 財務会計の基礎論点の理解②
[第04回] 財務会計の基礎論点の理解③
[第05回] 財務会計の基礎論点の理解④
[第06回] 財務会計の基礎論点の理解⑤
[第07回] 財務会計の基礎論点の理解⑥
[第08回] 各自の研究テーマの決定
[第09回] 論文の書き方について
[第10回] 各自の研究内容の発表①
[第11回] 各自の研究内容の発表②
[第12回] 各自の研究内容の発表③
[第13回] 研究構成ー目次の検討①
先行研究調査やデータ収集を含む
[第14回] 研究構成ー目次の検討②
[第15回] 研究構成ー目次の検討③

【後期】
後期(経営演習Ⅳ)は全体指導、グループ指導、個別指導を適宜行っていく。
[第01回] ～[第03回]　研究テーマ、タイトル、目次、序論までの発表
[第04回] ～[第06回]　本論までの発表
[第07回]　中間発表会
[第08回] ～[第10回]　内容調整と結論までの執筆
[第11回] ～[第13回]　研究論文の発表
[第14回] まとめ①
[第15回] まとめ②

使用テキスト: 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項:
事前準備学習 会計関連科目の指定された授業への参加・単位修得が本科目の単位修得の必須条件である。成績評価は、演習内での発表やレポートで評価する。出席しているだけでは、成績上の評価にはならない。なお、単位修得条件として、ゼミ入室時に指定した条件をクリアーしていない場合には、単位の修得は認めないので注意する。

科目コード:41113　**科目ナンバリング:**　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 経営演習Ⅳ b(Business Seminar Ⅳ b)

担当者: 澤端 智良

基本情報

年次:4　**単位数:2**　**授業形式:演習**

曜時:水曜4限　**履修可能学科・専攻:** M

関連資格:　**AL要素:** 07発表、09実地調査、10資料調査課題、11討論、15.レポート指導

授業の概要： 本演習では個人研究に重点を置き進めていく。後期は，各自の研究の進捗に合わせて個別指導と演習内での報告を主として進め、卒業論文を完成させる。

キーワード： 卒業研究、文献研究、個人発表、検証・探索調査、マーケティング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 卒業論文の執筆に必要な、問題提起・テーマ設定・理論構築法・調査法等に関する基本的な知識や方法論が習得できていること。

評価方法： 卒業研究の内容・水準により評価する。 **評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 発表や卒業論文の執筆を通じてマーケティングに関する知識を深めるとともに、論理構成力、文章力、ディスカッション力、プレゼンテーション力等、社会で必要な能力が身についていること。

評価方法： 卒業研究の内容・水準により評価する。 **評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

個人研究を進めるにあたって、各個人で事前準備をしっかりと行い、成果と進捗状況について適宜ゼミでの発表や教員への報告を行うこと。
また、ゼミは「学びの共同体」であるとの認識に立ち、他のメンバーの発表内容に関しても積極的にコメント・アドバイスを与え、クラス全体へ貢献すること。

評価割合： 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第1回】 研究の進捗報告
【第2回】 論文計画の精緻化・個別指導(1)
【第3回】 論文計画の精緻化・個別指導(2)
【第4回】 調査計画・調査の実施(1)
【第5回】 調査計画・調査の実施(1)
【第6回】 論文執筆内容の中間報告(1)
【第7回】 論文執筆内容の中間報告2)
【第8回】 論文執筆および個別指導(1)
【第9回】 論文執筆および個別指導(2)
【第10回】 論文執筆および個別指導(3)
【第11回】 論文執筆および個別指導(4)
【第12回】 論文(初稿)の提出
【第13回】 論文指導、修正
【第14回】 卒業論文の最終提出
【第15回】 全体まとめと振り返り

使用テキスト： 特定の教科書は指定しない。必要な文献や資料は適宜コピーして配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 卒業研究に関する成果と進捗状況を報告するための発表準備を行うこと。また、教員やゼミのメンバーから受けた指摘については各自で理解・解釈をしたうえで、必要に応じて論文内容に反映し、論文を完成へ向けて進めること。
なお、参考文献等については、必要に応じて適宜呈示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項： 原則として全員が卒業論文の執筆に取り組むこととするが、研究が完遂できない場合に限り代替レポートによって当演習の評価とかえることもある(ただし、卒業研究の単位は与えない)。
その際は事前に必ずその旨を担当教員に申し出たうえで、許可を得ること。
また、要望に応じ「サブゼミ」の実施等も検討しているので関心があれば積極的に参加してもらいたい(概要は初回授業時に説明する予定)。
なお、課題については授業の中で全体に対しフィードバックを行う。

科目コード：41113　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： 経営演習Ⅳ c(Business Seminar Ⅳ c)

担当者： 申　美花

基本情報

年次：4　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：金曜5限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**AL要素：** 04、07、09、11、15

授業の概要： 後期は各自テーマを決め段階的に卒業論文の完成を目指します。学期末には研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につけます。

キーワード： 論文の書き方、研究フレームワーク、研究テーマ、オリジナリティー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 論文の書き方についてその内容を的確に理解し、テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方などを修得する。

評価方法： 論文の内容　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自分で新しい問題を設定し、その問題の解決策を客観的な根拠を示しながら、何らかの独創性(オリジナリティー)のある結論へと導くことができる。

評価方法： 論文の内容　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の討議に積極的に参加し、自分の意見を明確に主張してほしい。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が卒論の内容の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　調べる―先行研究③
第2回　調べる―先行研究④
第3回　選ぶ―資料と方法①
第4回　選ぶ―資料と方法②
第5回　選ぶ―資料と方法③
第6回　確かめる―結果と分析①
第7回　確かめる―結果と分析②
第8回　確かめる―結果と分析③
第9回　裏付ける―考察①
第10回　裏付ける―考察②
第11回　裏付ける―考察③
第12回　校正する―提出前の原稿チェック①
第13回　校正する―提出前の原稿チェック②
第14回　参考文献の書き方
第15回　講義のまとめ

使用テキスト： 石黒　圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社、2012年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 論文のテーマについて様々な情報を事前に収集・整理しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 授業内容だけでなく学生生活全般について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41113　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習Ⅳ e（Business Seminar Ⅳ e）

担当者：長島　正浩

基本情報

年次：4　　**単位数：2**　　**授業形式：演習**

曜時：月曜6限　　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　　**ＡＬ要素：** 07、11、12、14、15

授業の概要： テーマは決まってもいきなり書き始めることは難しい。では、まず作成スケジュールから作り、時間管理を行う。その上で、先行業績を調べ、誰が、どこまで、明らかにしているのかを確認しなければならない。先人たちの業績を尊重しなければならないからである。次に、大まかな話の道筋を立てる。すなわち、ストーリーを作る。仮説が入って構わないので、一応、こんなことが言えるだろうということを発表してもらう。これについてゼミ内みんなで議論する。他人の論文に興味はないかもしれないが、必ず自分の論文にも役立つ。これを繰り返すことで最終的によい論文が書き上がるのである。

キーワード： 卒業研究、会計論文、法律論文、会計基準研究、判例研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：「経営演習Ⅳ」では、本学で学んだすべての集大成としての卒業研究論文を完成させる。

評価方法： 卒業研究論文の評価による　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 先行業績を丹念にリサーチし、他人からの批判もしっかりと議論して受け入れ、納得したものを作り上げる。そのような過程を経ることで、論理的思考が養われ、プレゼンテーション能力も磨かれ、また、文章力も上達することになる。

評価方法： 卒業研究論文の評価による　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第01回】 参考文献の追加検索
【第02回】 個別論文構成指導ーその1
【第03回】 個別論文構成指導ーその2
【第04回】 個別論文構成指導ーその3
【第05回】 論文最終発表ーその1
【第06回】 論文最終発表ーその2
【第07回】 論文最終発表ーその3
【第08回】 論文最終発表ーその4
【第09回】 論文最終発表ーその5
【第10回】 論文完成ー暫定版提出
【第11回】 論文の微調整、修正1
【第12回】 論文の微調整、修正2
【第13回】 卒業研究論文完成版提出
【第14回】 研究の総括1
【第15回】 研究の総括2

使用テキスト： 特になし（ただし、参考書は下記参照のこと）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考書として、酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』（第2版）共立出版、2017年　をお勧めする。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：41113　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習IV f（Business Seminar IV f）

担当者：古井 仁

基本情報

年次：4　　**単位数：2**　　**授業形式：演習**

曜時：火曜2限　　**履修可能学科・専攻：M**

関連資格：　　**AL要素：** 07. 発表
11. 討論
15. レポート指導
17. 発問と回答

授業の概要： 本授業では4年間の学修活動の集大成としての卒業論文の作成に取り組む。集団授業と個別指導で進める。毎回報告者を決め、卒業論文の途中経過の報告を行い、お互いに議論し合う。改善を図りながら完成させていく。

キーワード： 独創性、構想力、実践性

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる

評価方法： 提出物、成果物　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法： 提出物、成果物　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、卒業論文において、自身の課題についての探究と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第01回　ガイダンス
第02回　中間報告、及びディスカッション
第03回　中間報告、及びディスカッション
第04回　中間報告、及びディスカッション
第05回　中間報告、及びディスカッション

第06回　中間報告、及びディスカッション
第07回　中間発表会（前半）
第08回　中間発表会（後半）
第09回　中間報告、及びディスカッション
第10回　中間報告、及びディスカッション
第11回　中間報告、及びディスカッション
第12回　卒業論文初稿提出
第13回　卒業論文完成稿提出
第14回　卒業研究合評会
第15回　まとめ（審査論文の返却）

使用テキスト： テキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必要な情報を事前に収集・整理しておくとともに、授業後、配付資料について復習するとともに、自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は開講時、推薦します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・提出物・成果物については、添削後、返却します。
・担当教員はアドヴァイザーでもある。授業内容だけでなく学生生活・進路について相談したいことがある場合は遠慮なく申し出ること。

科目コード：41113　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習IV g（Business Seminar IV g）**

担当者： **米岡　英治**

基本情報

年次：4　　**単位数：2**　　**授業形式：演習**

曜時：月曜6限　　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　　**AL要素：** 07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要： 個人がテーマを選び、これまでに学んだ経営学における様々なフレームワークを応用した研究を行い、論文として纏める。個人研究を中心とするが、区切りにおいてはゼミ生が集合しての講義・研究報告・ディスカッションを行う。
前期での研究内容を踏まえ、追加調査、全体構成などを確認しながら、研究内容の細部を詰め、論文として纏めていく。

キーワード： 先行研究レビュー、事例調査、ロジカルシンキング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： テーマに関連する事柄に関して、適切な先行研究や事例等を調査し、内容ごとに適切にまとめることができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： テーマに対して様々な視点での検討を行うことで、経営学全般にわたる理解を高め、かつ理解した内容を論理的に他者に伝えることができる。

評価方法： 授業中のディスカッション内容等　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

先行研究や事例等の調査・検討過程から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし設定したテーマの研究において人権侵害・差別的など著しく公正性を欠く内容があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第1～15回】
【講義・ディスカッション】
・先行研究との差異
・論文構成の見直し
・論文作成
・研究状況の発表

使用テキスト： 山﨑康司　2011『入門考える技術・書く技術 日本人のロジカルシンキング実践法』ダイヤモンド社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 設定したテーマに関連する事柄に関して、自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。研究内容に応じて参考資料を指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 主体的に研究を進めること。研究内容に関してゼミまたは個別指導の時間にフィードバックを行います。

科目コード：41113　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：経営演習IV h（Business Seminar IV h）

担当者：佐藤　和明

基本情報

年次：4　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：水曜4限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

ＡＬ要素： 07.発表
08共同学修
10資料調査課題
14輪読活動
17発表と回答

授業の概要： 経営演習IIIを元に各自のテーマの個人研究と卒業研究の執筆、発表とディスカッションが主となり、積極性が求められる。

キーワード： デジタルマーケティング、Webマーケティング、ネット広告、検索エンジン、SNS、AI、先行研究レビュー、アクセス解析、データ集計、アクセス解析、事例調査、ロジカルシンキング

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: インターネットからの集客方法やAIの活用を理解している。

評価方法: 発表、ディスカッション、質疑応答、Webサイトの運営を理解しているか否かで、評価する。 **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 各自の研究テーマに関連する事柄に関して、適切な先行研究や事例等、データリサーチ等を実施し、卒業論文、もしくは最終レポートを適切にまとめることができる。

評価方法: 発表、ディスカッション、質疑応答、卒業論文、卒業レポートでの評価による。 **評価割合:** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が講義内容と合致する場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する。

評価割合: 0%

▼公 正 性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授 業 計 画 : 【第1～15回】
【講義・ディスカッション】
・アンケート等の研究データ発表
・先行研究との差異
・論文構成の見直し
・論文作成
・研究状況の発表
各自が選定したテーマから、上記の作業を繰り返し、研究を行い、卒業研究を執筆する。個人研究が中心ではあるが、数回に1回を発表日と定めて、研究報告会を実施する。

使用テキスト: 各回、参考資料のPDFを配布する。

予習・復習のポイントと参 考 文 献 ・ 資 料 等 : 事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となるWebサイトや文献を指定するので、それらを読み込んでください。

障 が い の あ る 履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。

授業時間外の連絡手段: 初回に伝えるオフィスアワーで対応します。

留 意 事 項 : 特になし

科 目 コ ー ド :41113 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 経営演習IV i(Business Seminar IV i)

担 当 者 : 菅野 雅子

基本情報

年 次 :4　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 木曜3限　　**履修可能学科・専攻:** M

関連資格 :　　**AL要素 :** 07 発表
09 実地調査
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要 : 本授業では卒業研究に重点を置いて進めていきます。論文の書き方や基本的な調査方法等について理解を深めながら、各自が選択した研究テーマについて深掘りしていきます。ゼミ内で各自の研究の進捗状況を発表し、相互フィードバックを行いながら研究内容をブラッシュアップしていきます。
前期は研究テーマ設定、先行研究レビュー、リサーチクエスチョン設定を行い、研究計画を作成します。
夏休みから後期を通じて、調査・論文執筆に取り組みます。

キーワード : 卒業研究、論文の書き方、研究計画、研究目的、リサーチ・クエスチョン、先行研究レビュー、アンケート調査、ヒアリング調査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 卒業研究に必要な知識や方法論を身に着ける。具体的には、論文の書き方、テーマ設定、先行研究レビュー、リサーチクエスチョン設定、調査方法など。

評価方法 : 卒業研究の内容・水準により評価　　**評価割合 : 40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 卒業研究の進捗状況報告や論文執筆を通じて、課題発見力、論理思考、文章力、創造性、計画・実行力など、社会で必要な基礎力を身に着ける。

評価方法 : 卒業研究の内容・水準により評価　　**評価割合 : 40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

卒業研究を進めるにあたって、進捗状況や成果についてゼミ内で報告できるようしっかり準備を行い積極的に取り組む。
他のメンバーの研究テーマや内容の理解に努め、積極的にコメント・質問・フィードバックをする。
ゼミ内での役割を積極的に果たしゼミ運営に貢献する。

評価割合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、自発的にゼミに貢献する実践が見られた場合は、「学修に主体的に取り組む態度」としての評価対象とする場合がある。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 : ＜前期＞
【第1回】ガイダンス（卒業研究の目的・意義、概要、進め方等）
【第2回】研究の進め方・論文の書き方・先行研究の進め方

【第3回】研究テーマの設定(1)
【第4回】研究テーマの設定(2)
【第5回】研究テーマの設定(3)
【第6回】先行研究レビュー(1)
【第7回】先行研究レビュー(2)
【第8回】先行研究レビュー(3)
【第9回】先行研究レビュー(4)
【第10回】調査の進め方(1)
【第11回】調査の進め方(2)
【第12回】研究計画発表(1)
【第13回】研究計画発表(2)
【第14回】研究計画発表(3)
【第15回】前期振り返りとまとめ。後期に向けて

＜後期＞
【第16回】～【第28回】 進捗状況や成果の発表・ディスカッション。個別指導
【第29回】卒業研究提出
【第30回】全体の振り返りとまとめ

使用テキスト: その都度配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 卒業研究の進捗状況や成果をゼミ内で発表するための事前準備をしっかり行うこと。また、教員やゼミのメンバーから受けたフィードバックについては各自で理解・解釈したうえで、論文内容に反映し、研究のブラッシュアップに努める。
なぜ卒業研究に取り組むのか、なぜ自分はその研究テーマに取り組むのかなど自分なりの意義や目的を明確に持ち、前向きな気持ちで臨んでほしい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項: 特になし。

科目コード:41113 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **経営演習IV j(Business Seminar IV j)**

担当者: **Yodtomorn Pimprapa**

基本情報

年次:4 **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:木曜4限 **履修可能学科・専攻:** M

関連資格: **AL要素:** 07 発表
09 実地調査
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要: 本演習では卒業論文の書き方を解説し、最後に卒業論文を完成させる。受講生には、学期末に卒業論文の成果を報告してもらう。各自の進捗状況に合わせて個別指導を行う。

キーワード: 卒業論文、先行研究、テーマ設定、個別指導

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 卒業論文執筆に必要な知識と問題意識の明確化、先行研究のレビュー、分析手法、データ分析、そして解釈の仕方等を習得する。

評価方法： 提出物、レポート　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 経済学をベースに因果関係のあるものを理解し、理論的に説明することができる。

評価方法： 進歩状況報告、ディスカッション　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

卒業研究の内容を報告する前に事前準備を行う。
ゼミ内で積極的に他のメンバーの報告に対してコメントをする。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　先行研究レビュ：個別指導
第2回　先行研究レビュ：個別指導
第3回　先行研究レビュ：個別指導
第4回　調査計画と実施
第5回　調査計画と実施
第6回　調査計画と実施
第7回　データ分析・解釈
第8回　データ分析・解釈
第9回　データ分析・解釈
第10回　論文校正
第11回　論文校正
第12回　論文校正
第13回　論文の最終確認
第14回　総合評価
第15回　まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 設定したテーマに関連する先行研究や資料などをまとめ、幅広い視野から物事の分析や考察を重ねて、自分なりの考えをまとめていくことが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41113　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営演習IV k（Business Seminar IV k）**

担当者： **渡部　暢**

基本情報

年 次 :4 **単 位 数 : 2** **授業形式 : 演習**

曜 時 : 木曜3限 **履修可能学科・専攻: M**

関 連 資 格 : **ＡＬ要 素 :** 04 課題解決、07 発表、08 協同学修、11 討論

授業の概要: 本演習では引き続き、企業のイノベーションや戦略について幅広い角度から皆さんと一緒に掘り下げて学んでいきます。各回で指示する文献を講義の事前に輪読して貰い、グループないしは個人での発表を行ってもらいます。イノベーションや戦略に関する主要な知識を獲得しつつ、4年時に必要となる卒業論文(あるいは卒業レポート)の作成を見据えた論文の読み方・書き方などの作法を習得していきます。

キーワード: 戦略論、イノベーション論、問題解決、論理的思考

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: レジュメ作成や論点整理を通して論理的思考を身に付けることができる。また、集団討論をしていくなかで、ロジック(論理)の組み立て方やプレゼンテーションの仕方、討論の進め方も身に付けることができる。

評価方法: グループ討議、発表 **評 価 割 合 : 30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題について様々な知識や情報を活用し、論理的思考と創造性を駆使して、グループとして意見をまとめあげ、それを明確に主張することができる。

評価方法: グループ討議、発表 **評 価 割 合 : 40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

自律的・建設的に物事を考えられる力や、自らの考えを文章で、そして口頭で表現できる力を養っていくことを目指すことが求められます。

評 価 割 合 : 30%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼ 公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼ そ の 他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 : 大学を卒業するということはどういう事なのか？社会科学の、そして経営学の、学士を取得するということはどういう事なのか？このゼミでは社会科学という枠組みにある経営学で学士を取得して大学を卒業することの意味や価値の一端を感じてもらえるように双方向的なコミュニケーションを図りながらサポートしていきます。
4年時は改めて戦略論やイノベーションに関わるアカデミックな知識を習得し、その上で論理的な思考やそれを表現する能力を身に着けていくことを目指します。

使用テキスト: 指導時に必要な文献を指示します。中心となるのはイノベーションと戦略関連の書籍となります。状況を見て英語文献を読んでもらうこともあります。

予習・復習のポイントと参 考 文 献 ・ 資 料 等 : 必要な情報を事前に収集・整理しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 講義直後、オフィスアワー、メールにて対応する。オフィスアワーの曜日・時間、メールアドレス等については初回に案内する。

留意事項： 特になし

科目コード：41114 **科目ナンバリング：MA10B03K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **行政学（Public Administration）**

担当者： **林 寛一**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 16.振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、国と地方の行政の特徴を理解する上での必要最低限の基礎的知識を身に付けますが、単に知識の修得だけではなく、その知識を活かして国と地方の行政上の諸問題について自ら考えたり、一歩踏み込んで分析したりする力を身につけることをも目指しています。

キーワード： 国家公務員、内閣制度、官僚制、行政改革、予算編成、行政責任

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた行政学の基本的な知識・技能について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート **評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述等において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性を欠け言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回：行政学とはどのような学問か（授業概要説明を含む）
第2回：国家公務員について
第3回：内閣制度について
第4回：中央省庁ー制度・意思決定・役割
第5回：予算編成について
第6回：官民関係の見直し
第7回：中央地方関係について
第8回：地方財政と三位一体改革
第9回：大都市行政と広域行政
第10回：官僚制論について
第11回：行政責任について
第12回：日本の行政システム
第13回：行政学説史ーアメリカを中心に
第14回：社会科学としての行政学
第15回：まとめ
定期試験

使用テキスト： 真渕勝『行政学案内（第3版）』慈学社、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと（60分）。
授業後、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい（60分）。
参考文献及び参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。又は配付資料等に掲載する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：41115　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **人文地理学I（Human Geography I）**

担当者： **岩間 信之**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職　**ＡＬ要素：** 17.発問と回答

授業の概要：
人文地理学の講義では、「地域」を読み解く視点を学びます。「地域」とは、自然環境（気候，地形など）と人文環境（人間の活動：各産業、歴史、文化など）が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。
地理学とは奥の深い学問です。例えば、みなさんは観光地という言葉から何を連想するでしょうか？　観光地は、スキー場や避暑地、温泉のようなリゾート地ばかりではありません。古代の遺跡や城壁などの歴史遺産、ニューラナークや日立鉱山のような工業の礎：産業遺産、はたまたディズニーランドからお台場のショッピングモールまで、実に多種多様です。最近では、途上国のスラム街でさえ観光地化しています。観光地とは何なのか？どうしてこのような地域が形成されたのか？観光地の背後には、どのような問題が潜んでいるのか？観光地を理解するには、表象部分だけでなく、その特徴や形成要因、つまり観光地の背後にある「地域」を深く理解しなければいけません。
この講義では、「地域」を読み解く視点を幅広く学んでいきます。人文地理学Iでは、自然環境と第一次産業（農林水産業）、第二次産業（製造業）との関係から、地域を解説します。つづく人文地理学IIでは、第三次産業（サービス業、商業、情報産業）と近年の環境問題の視

点から、地域を見ていきます。

キーワード： 人文環境，第一次産業，第二次産業，都市地理学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた人文地理地に関する諸事項について，おおむね80％を暗記し，回答することができる。また，読図のノウハウを習得している。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験　　**評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について，自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験　　**評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合： 10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回　ガイダンス
第2回　自然環境と地域1
第3回　自然環境と地域2
第4回　地域と農業1　：世界の農業地域
第5回　地域と農業2　：アグリビジネスの地域的展開
第6回　地域と農業3　：農山村の地域問題とエコツーリズム
第7回　地域と農業4　：有機栽培地域の形成と環境負荷軽減問題
第8回　地域と工業1　：工業立地論
第9回　地域と工業2　：産業革命と世界遺産
第10回　地域と工業3　：大手メーカーのネットワーク
　　ー国内における産業集積と空洞化ー
第11回　地域と工業4：中小製造業の集積（1）
　　ー産業集積論ー
第12回　地域と工業5：中小製造業の集積（2）
　　ー日本の大都市と周辺の「町工場」の立地ー
第13回　地域と工業6：工業化と環境破壊
第14回　地域と都市1：世界の大都市の歴史と構造
第15回　地域と都市2：先進国の都市群システム
定期試験（レポートの提出）

使用テキスト：

［使用テキスト］
・特になし

［参考書］
・荒井良雄・箸本健二編『日本の流通と都市空間』（古今書院，2004年発行）

・Neil Wrigley・Michelle Lowe著『Reading retail』(Arnold: London; Oxford Univ)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は，初回の授業でお知らせします。

留意事項： 「人文地理学Ⅱ」と合わせて受講することが望ましいです。

科目コード：41116 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **人文地理学II(Human Geography II)**

担当者： **岩間 信之**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜3限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職 **AL要素：** 17.発問と回答

授業の概要： 人文地理学の講義では、「地域」を読み解く視点を学びます。「地域」とは、自然環境(気候，地形など)と人文環境(人間の活動：各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。

地理学とは奥の深い学問です。例えば、みなさんは観光地という言葉から何を連想するでしょうか？ 観光地は、スキー場や避暑地、温泉のようなリゾート地ばかりではありません。古代の遺跡や城壁などの歴史遺産、ニューラナークや日立鉱山のような工業の礎：産業遺産、はたまたディズニーランドからお台場のショッピングモールまで、実に多種多様です。最近では、途上国のスラム街でさえ観光地化しています。観光地とは何なのか？どうしてこのような地域が形成されたのか？観光地の背後には、どのような問題が潜んでいるのか？観光地を理解するには、表象部分だけでなく、その特徴や形成要因、つまり観光地の背後にある「地域」を深く理解しなければいけません。

この講義では、「地域」を読み解く視点を幅広く学んでいきます。人文地理学Iでは、自然環境と第一次産業(農林水産業)、第二次産業(製造業)との関係から、地域を解説します。つづく人文地理学IIでは、第三次産業(サービス業、商業、情報産業)と近年の環境問題の視点から、地域を見ていきます。

キーワード： 人文環境，第三次産業，都市地理学，フードデザート問題

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた人文地理に関する諸事項について，おおむね80%を暗記し，回答することができる。また，読図のノウハウを習得している。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験 **評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について，自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験 **評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回　地域と都市3：先進国の都市群システム
ー美しきヨーロッパの街並みー
第2回　地域と都市4：発展途上国における都市問題
ーごみの山に住む人々ー
第3回　地域と商業1：都市と農村の商業
ー農村にブランドショップは建ちえるか？ー
第4回　地域と商業2：小売業の政策（1）
ー大店法から大店立地法へー
第5回　地域と商業3：小売業の政策（2）
ー商店街の衰退と都市観光による「まちづくり」への挑戦ー
第6回　地域と商業4：Food desert問題1
ー都心に取り残された老人たちー
第7回　地域と商業5：Food desert問題2
ー問題の本質：無縁社会の現状ー
第8回　地域と商業6：近代小売業の礎としての百貨店と近年の百貨店倒産問題
第9回　地域と商業7：コンビニエンスストアの大躍進
第10 回　地域と商業8：物流システムの構築
ーコンビニの次は何が流行る？ー
第11回　地域と商業9：小売業の国際化1
ーRetail TNCの海外進出ー
第12回　地域と商業10：小売業の国際化2
ー海外ブランド企業の日本襲来ー
第13回　地域と商業11：欧米の商業空間
ーなぜ欧米の商店街は空洞化していないのか？ー
第14回　地域再生に向けた人文地理学の挑戦1
ー被災地の今：復興を目指す被災地の苦悩ー
第15回　地域再生に向けた人文地理学の挑戦2
ーFood desert 問題への挑戦ー
定期試験

使用テキスト：

［使用テキスト］
・特になし

［参考書］
・荒井良雄・箸本健二編『日本の流通と都市空間』（古今書院，2004年）
・Neil Wrigley・Michelle Lowe著『Reading retail』（Arnold: London; Oxford Univ）
・岩間信之編『都市のフードデザート問題』（農林統計協会，2017年）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応：

可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：

オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は，初回の授業でお知らせします。

留 意 事 項： 「人文地理学Ｉ」と合わせて受講することが望ましいです。

科 目 コ ー ド：41117　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **自然地理学I（Natural Geography I）**

担 当 者： **岩間 信之**

基 本 情 報

年 次 ：2　　**単 位 数：2**　　**授業形式：講義**

曜 時 ：月曜4限　　**履修可能学科・専攻：** M

関 連 資 格： 教職　　**ＡＬ要 素：** 17.発問と回答

授 業 の 概 要： 「地域」とは、自然環境（気候、地形など）と人文環境（人間の活動：各産業、歴史、文化など）が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。私達の生活の場である「地域」は、自然と深いかかわりのなかで形成されています。この講義では、地形や気候といった自然地理の基礎を学習するとともに、「地域」と自然環境との関わりを学んでいきます。

キーワード： 地形，地質，気候，地域の文化と自然環境

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 授業で解説を受けた自然地理に関する諸事項について，おおむね80％を暗記し，回答することができる。また，読図のノウハウを習得している。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験　　**評 価 割 合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について，自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験　　**評 価 割 合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評 価 割 合：10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評 価 割 合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。

評 価 割 合：0%

▼そ の 他

特になし

評 価 割 合：特になし

授 業 計 画：

1.自然地理学とは？
2.地形図の読解
3.地形を形成する作用
4.大洋と大山脈
5.海・海流
6.火山活動
7.氷河地形
8.浸食地形
9.河川の浸食地形

10.堆積平野
11.海岸地形
12.サンゴ礁・カルスト地形
13.大学周辺の地形
14.気象学の基礎
15.世界の気候

定期試験

使用テキスト: [使用テキスト]
・特になし

[参考書]
・松岡憲知ほか『地球環境学−地球環境を調査・分析・診断するための30章』(古今書院)
・山本正三ほか『自然環境と文化』(大明堂)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は，初回の授業でお知らせします。

留意事項: 基本的に，高校の地理歴史の教員免許取得を目指す学生が受講する授業です。そのため，内容が難解で課題も多くなります。

科目コード:41118 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **自然地理学II(Natural Geography II)**

担当者: **岩間 信之**

基本情報

年次:2 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:月曜4限 **履修可能学科・専攻:** M

関連資格: 教職 **AL要素:** 17.発問と回答

授業の概要: 「地域」とは、自然環境(気候、地形など)と人文環境(人間の活動:各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。私達の生活の場である「地域」は、自然と深いかかわりのなかで形成されています。この講義では、地形や気候といった自然地理の基礎を学習するとともに、「地域」と自然環境との関わりを学んでいきます。

キーワード: 地形，地質，気候，地域の文化と自然環境

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた自然地理に関する諸事項について，おおむね80%を暗記し，回答することができる。また，読図のノウハウを習得している。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験 **評価割合:60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について，自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験 **評価割合:30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1.自然地理と地域文化の関係
2.東南アジアの自然と文化1：概略
3.東南アジアの自然と文化2：大陸山地
4.東南アジアの自然と文化3：デルタ地帯
5.東南アジアの自然と文化4：海浜地帯1（海底に眠る大陸）
6.東南アジアの自然と文化5：海浜地帯2（海の道が構築した文化）
7.東南アジアの自然と文化6：火山島
8.東南アジアの自然と文化7.ウォーレンシア
9.東南アジアの自然と文化8：イリアンジャヤ
10.ヨーロッパの自然と文化1：ヨーロッパの自然環境
11.ヨーロッパの自然と文化2：イギリスの自然と文化
12.ヨーロッパの自然と文化3：エディンバラの歴史と自然環境の関係性
13.アメリカの自然と文化1：北アメリカの自然と文化
14.アメリカの自然と文化2：アメリカ先住民の歴史と自然環境の関係性
15.地図の読み方
定期試験

使用テキスト：
［使用テキスト］
・特になし

［参考書］
・松岡憲知ほか『地球環境学−地球環境を調査・分析・診断するための30章』（古今書院）
・山本正三ほか『自然環境と文化』(大明堂)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は，初回の授業でお知らせします。

留意事項：基本的に，高校の地理歴史の教員免許取得を目指す学生が受講する授業です。そのため，内容が難解で課題も多くなります。

科目コード：41119　**科目ナンバリング**：　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：地誌（Geology）

担当者：薄井　晴

基本情報

年次：2　**単位数**：2　**授業形式**：講義

曜時：水曜4限　**履修可能学科・専攻**：M

関連資格： 教職　　**ＡＬ要素：** 7.発表
17.発問と回答

授業の概要： 地誌学とはある特定の地域における地域的な性格を総合的に究明する学問です。当授業では，国内外における様々
な地域の自然，産業（特に観光などサービス産業），風土，人口などを総合的に学習できる機会を提供していく予定で
す。地誌学を学ぶことで複雑な現代の社会を様々な視点から見ていきましょう。
授業の終盤では，授業で学習した事柄や地理学で用いられる統計情報をもとに，個人課題に取り組む機会を設ける予
定です。

キーワード： 地誌学，系統地理，地域産業，統計情報

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学習した知識に関する事項をおおむね80％は正確に回答することができる。また，習得した知識をもとに，特定の地理的現象に関して，表現して伝えられる技能を身につける。

評価方法： 課題・期末試験　　**評価割合：** 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 習得した知識をもとに，試験や課題において論理的，かつ端的に考察して表現できる。

評価方法： 課題・期末試験　　**評価割合：** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

上記の項目に含みます

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし，授業中の私語や著しく公正性を欠く言動やカンニング・剽窃行為等の不正行為があった場合は，減点や厳重注意の対象となる場合があるので注意してください。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
1.ガイダンス（地誌学の学問的視点）
2.日本の地域像
3.北海道地方の地誌について考える
4.東北地方の地誌について考える
5.関東地方の地誌について考える
6.茨城県の地誌について考える
7.中部地方の地誌について考える
8.近畿地方の地誌について考える

9.中国・四国の地誌について考える
10.九州・沖縄地方の地誌について考える
11.海外の地誌について考える(1)
12.海外の地誌について考える(2)
13.地域に関する資料(1)　地域に関する資料について紹介・概説します。
14.地域に関する資料(2)　地域に関する資料を整理し，加工する方法について紹介・概説します。
15.まとめ

使用テキスト： 中学，高校などで使用した地図帳がある場合は持参をお勧めします

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業の学習内容は，最低でも1時間をかけて復習すること

障がいのある履修者への対応： まずは教務部窓口に相談してください。

授業時間外の連絡手段： Eメール：usui.haru.sd@alumni.tsukuba.ac.jpで対応します

留意事項： ・社会科の教員免許取得希望者は受講を勧める。
・授業の終盤では，授業を通じて学習した内容をもとに個人で課題に取り組む機会を設ける予定である。

科目コード：41120　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **観光ビジネス論（Tourism Business）**

担当者： **澤端　智良**

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜4限　**履修可能学科・専攻：** ＥPe Pc ＣＷＦＮＭ

関連資格：　**ＡＬ要素：** 11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要： この授業では観光に関わるビジネスについて、主にマーケティングとマネジメントの視点から理解していく。講義の序盤では、「そもそも観光とは何か」、「観光と関係する産業にはどのようなものがあるか」について学んだうえで、観光産業の多くがサービス財を提供していることから、「サービス産業の特性」についても解説する。
第4回～第8回では、観光産業を事業分野ごとに取り上げ、実際の企業の事例を通じてビジネス・モデルやマーケティング戦略について解説をしていく。
後半のパートでは、観光学や社会学の知見も取り入れながら、「観光資源」「観光まちづくり」「オルタナティブ・ツーリズム」などのテーマを取り上げ、観光現象とビジネスの関係をより広い視点から捉えられるようになることを目指す。また第11回の授業ではケースを用い、観光地で生じる様々な課題について受講者全員で考える機会も設けたい。
なお、上記の学びを促進するために担当教員の実務経験から得た知見も随時共有しながら、観光ビジネスに対する興味喚起と理解の促進をはかっていく。

キーワード： 観光、観光産業、マネジメント、マーケティング、観光まちづくり、地域活性化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説した観光および観光関連ビジネスに関する概念や理論について正しく理解し説明することができる。

評価方法： 学期末試験　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ観光および観光ビジネスに関する基礎的な概念・理論を用いて観光地・観光産業の実態や問題を分析し、論理的に説明できる。

評価方法：学期末試験　　**評価割合**：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み、提出すること。また、教員から呈示された課題や問いに対しては、積極的に意見を述べること。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第1回】ガイダンス・イントロダクション
【第2回】観光とは何か／観光産業とは何か
【第3回】サービス産業の特性
【第4回】旅行業・旅行代理店
【第5回】運輸業
【第6回】宿泊業（1）宿泊ビジネスの特性と課題
【第7回】宿泊業（2）地域との繋がり
【第8回】出版業　-観光ガイドブック-
【第9回】地域資源と観光
【第10回】観光まちづくり
【第11回】温泉観光地のケース・スタディ
【第12回】新しいかたちの観光（1）マスツーリズムからオルタナティブツーリズムへ
【第13回】新しいかたちの観光（2）ダークツーリズム・ファンツーリズムなど
【第14回】新しいかたちの観光（3）メディアの変化・オンラインツーリズムなど
【第15回】全体のまとめ
定期試験

使用テキスト：特定の教科書は使用せず、毎回資料を配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：次回授業のテーマやキーワードについて参考文献やWeb等で調べ、事前に大まかな内容を理解しておくこと（60分）。また、授業後は学習した内容を振り返り理解しておくこと（60分）。その他、別途資料を配布した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。なお、予習・復習に際しては以下の文献を参照するとよい
・高橋一夫・柏木千春 編著（2016）『1からの観光事業論』、碩学舎
・大橋昭一・山田良治・神田孝治 編著（2016）『ここからはじめる観光学』ナカニシヤ出版
上記以外の文献についても必要に応じて授業内で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項：成績は、学期末試験を主（80%）とし、授業内で複数回課すレポート類の提出（20%）と合わせて総合的に評価する。したがって、授業内で課す課題は必ず提出し、それに基づいて議論を行う際にも積極的に参加する姿勢が求められる。特に【第11回】で予定しているケースを用いたセッションでは積極的に意見を述べてほしい。

科目コード：41121　　**科目ナンバリング**：　　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）： 日本史A（Japanese History A）

担 当 者： 藤野 真挙

基本情報

年 次：1　　**単位数：**2　　**授業形式：**講義

曜 時：金曜3限　　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職　　**ＡＬ要素：** 07、発表
08、協同学修
10、資料調査課題
14、輪読活動

授業の概要： 明治初期の文明開化期の思想について、詳しく学んでいきます。
日本が近代化してこうとする時期、当時の知識人たちはどのような未来像を語っていたのでしょうか。現代の日本の基盤を1から作っていった先人の思想や社会構想を学ぶことで、いまの常識にとらわれない「社会を見る目」を歴史から学んでみましょう。
受講人数にもよりますが、授業では教員による講義だけでなく、学生同士の協同学修（課題解決のための準備と発表）を実施します。

キーワード： 明治維新、文明開化、明六社、福澤諭吉、加藤弘之、西周、中村正直、阪谷素

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた歴史の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解している。

評価方法： 発表
学期末レポート　　**評価割合：**30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題に対して適切なレポートや発表を作成することができる。

評価方法： 発表
学期末レポート　　**評価割合：**70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、発表準備の過程などで積極的に活動している学生、または協同学修に極端に非協力的な学生に対しては、思考力・判断力・表現力の評価項目において加点・減点を行う。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としないが、他者の発表内容がレポート等にうまく反映されていた場合は、思考力・判断力・表現力において加点する。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の 行為で著しく公正性を欠く場合 は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回：ガイダンス
第2回：明六社と『明六雑誌』について
第3回：福澤諭吉と加藤弘之について
第4回：西周と津田真道について
第5回：中村正直と阪谷素について

第6回:グループ設定と課題設定
第7回ー第9回:グループ別ミーティングと発表準備
第10回:ポスター発表会①
第11回:ポスター発表会②
第12回:発表会のまとめと討論会
第13回:フィードバック講義①
第14回:フィードバック講義②
第15回:まとめ
※レポート

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後に理解が及ばなかった点を参考文献等を通して学習する(90分)
参考文献は授業内で指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 日本史の知識よりも日本語の読解力のほうが要求される授業です。

科目コード:41122 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **日本史B(Japanese History B)**

担当者: **藤野 真挙**

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:金曜3限 **履修可能学科・専攻:** M

関連資格: 教職

AL要素: 07、発表
08、協同学修
10、資料調査課題
14、輪読活動

授業の概要: 五カ条誓文の発布から帝国議会開院、大日本帝国憲法発布までの歴史を学びます。
江戸時代までの政治のあり方を変え西洋的な政治体制を作りあげようとした時代が、明治初期という時代です。憲法や国会といった現代にも続く政治システムの基盤は、どのように作りあげられていったのでしょうか。前期の日本史Aと同様に協同学修の方法を取り入れながら授業を進めていきます。

キーワード: 明治維新、五カ条誓文、漸次立憲政体樹立の詔、明治14年政変、自由民権運動、帝国議会、大日本帝国憲法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた歴史の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解している。

評価方法: 発表
学期末レポート
評価割合:30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題に対して適切なレポートや発表を作成することができる。

評価方法: 発表
学期末レポート
評価割合:70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、発表準備の過程などで積極的に活動している学生、または協同学修に極

端に非協力的な学生に対しては、思考力・判断力・表現力の評価項目において加点・減点を行う。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としないが、他者の発表内容がレポート等にうまく反映されていた場合は、思考力・判断力・表現力において加点する。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の 行為で著しく公正性を欠く場合 は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回：ガイダンス
第2回：五カ条誓文は何を目指していたのか
第3回：大阪会議と漸次立憲政体樹立の詔
第4回：明治14年政変と国会開設勅諭
第5回：自由民権運動と激化事件
第6回：グループ設定と課題設定
第7回ー第9回：グループ別ミーティングと発表準備
第10回：ポスター発表会①
第11回：ポスター発表会②
第12回：発表会のまとめと討論会
第13回：フィードバック講義①ー立憲主義における多数決と少数意見ー
第14回：フィードバック講義②ー大日本帝国憲法と教育勅語の関係ー
第15回：まとめ
※レポート

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後に理解が及ばなかった点を参考文献等を通して学習する（90分）
参考文献は授業内で指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：41123　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **西洋史（Western History）**

担当者： **森下　嘉之**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：月曜2限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職　**AL要素：** なし

授業の概要： 【まん延帽子等重点措置期間中の授業形態】遠隔授業（同時双方向型）
ヨーロッパが世界の歴史の中で、なぜ重要な役割を果たすことになったのか、それによって世界にどのような問題が引き起こされたのか。現代の「グローバル化」に潜む課題をヨーロッパの歴史から考え直す。

キーワード： グローバリズム、資本主義、社会主義、帝国、冷戦、ネイション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： (1)世界史という広い視野に立って、ヨーロッパの社会を理解できるようになる。(2)ヨーロッパ近現代史を学ぶことによって、歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける。(3)ヨーロッパ近現代史の最近の研究動向について理解できるようになる。

評価方法： 毎回の授業時に知識確認のためのコメントを求める。 **評価割合：各回のコメントの割合は全体の30**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 21世紀のグローバル世界がどのように形成され、どのような問題が生じているのかを知るとともに、歴史的な大事件だけでなく、地域に生きる人々の歴史と文化を学ぶことで、「世界の俯瞰的理解」を得る

評価方法： 総合的な思考力を確認するために期末レポートを課す。 **評価割合：期末レポートの比率は70%とする。**

▼学修に主体的に取り組む態度

20分以上の遅刻は出席とは認めない。

評価割合：特になし

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合：特になし

▼公正性

特になし

評価割合：特になし

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. ガイダンス:「ヨーロッパ」とはなにか
2. 16-17世紀ヨーロッパ「大航海/大交易」時代
3. 17-18世紀ヨーロッパ「環大西洋革命」の時代
4. 18世紀後半ヨーロッパ「フランス革命」の時代
5. 19世紀ヨーロッパ「帝国主義」の時代
6. 19-20世紀ヨーロッパ「ナショナリズム」の時代
7. 第一次世界大戦勃発と「ロシア革命」の時代
8. 第一次世界大戦終結と「ヴェルサイユ体制」の時代
9. 1920-30年代ヨーロッパ「両大戦間期」という時代
10. 1930-40年代ヨーロッパ「 ナチス・ドイツ」台頭の時代
11. 第二次世界大戦と「ホロコースト」
12. 第二次世界大戦の終結とヤルタ会談
13. 1950-60年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代1」
14. 1970-80年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代2」
15. 授業のまとめと21世紀のヨーロッパ

使用テキスト： 教科書は用いない。授業レジュメを毎回配信する。
授業を理解するための参考書としては、以下を挙げておく。
北村厚『教養のグローバル・ヒストリー：大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎回の授業レジュメを事前に配信するので、ダウンロードの上確認すること。また、授業後の確認コメントについても、提出を怠らないこと。

障がいのある履修者への対応： 受講希望者がいた場合には適宜対応する。

授業時間外の連絡手段： UNIPAの記載に準ずる。

留意事項： 特になし

科目コード：41124　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：東洋史（Eastern History）

担当者：中村　知子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜3限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職　**AL要素：** 10　資料調査課題

16
振り返り用紙と応答

（可能であれば　05
即時応答）

授業の概要：

本講義では、東洋史の中でも中国を中心とした近現代史を扱います。シラバスには、学習の目安として通史的項目を掲げましたが、講義内では歴史的な事象を追うだけでなく、現代の日本も含めた東アジアが直面している諸問題の発生要因、また考え方を含めた文化的差異等も学んでいきます。歴史を通じて、物事に対する多角的な視座を獲得し、歴史を学ぶ意義を考えていきます。

キーワード： 歴史　東洋史　中国　東アジア

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 中国を中心とする東アジアの近現代史を自らの言葉で表現できるようにします。

評価方法： 講義内で行われる複数の課題結果で評価する。　**評価割合：80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 歴史を過去の事象としてのみとらえるのではなく、多角的な視座を得るための一つのツールとして用いることが出来るようにします。

評価方法： 回答時の態度や内容で評価する。　**評価割合：20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

課題提出など授業前後に行うノルマがあるため、積極的な受講態度が望まれます。主体的な態度は上記の「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の項目に直結します。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

特に評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼公正性

本講義内で迷惑行為等が発覚した場合、また人権侵害や差別的発言が見られた場合、受講資格を取り消します。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画：

1 ガイダンス 受講の心得、学習の方法、課題等に関する説明
2 歴史学を学ぶ意義
3 現代中国が抱える諸問題
4 モンゴル帝国の特徴と明代（外交と国内統治）
5 中華と夷狄 明の崩壊
6 清の誕生 現代につながる清
7 清代の人口増加と華と夷
8 海外の圧力と清朝
9 清・朝鮮・日本の関係
10 辛亥革命と中華民国
11 中華民国期の少数民族地域
12 ロシアと中華民国 国共合作
13 日中戦争
14 中華人民共和国 毛沢東と大躍進政策
15 文化大革命、改革開放、そして現代へ

なお、授業計画は上記の通りではあるが、受講者の要望なども汲み、内容は臨機応変に変える。

使用テキスト： 特になし。講義内で使用する資料はteams内でPDFにて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 特に世界史を学んだことがない学生は、その時代の歴史をあらかじめ参考文献を読んでから受講すると良いでしょう（60分）。参考文献に関しては初回講義時にお話しします。

また、時折行われる課題は資料収集が必須となることが多いです。普段から中国のニュースや情報にアンテナを張り、雑学的な知識も含めストックしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますのでまずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学校で開示するメールアドレスに連絡すること。

留意事項： 提出していただいた課題は、講義内にて随時取り上げ補足説明する形でフィードバックしていきます。

科目コード：41126 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ基礎演習 a（Leadership Basic Seminar a）

担当者：田口 尚史

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：演習**

曜時：火曜3限 **履修可能学科・専攻：** M

関連資格：

AL要素： 08.協同学修
10.資料調査課題
11.討議
15.レポート指導

授業の概要： この授業は，大学での学びについて理解し，大学生活を円滑にスタートさせ，かつ大学の授業に参画するための基本的スキルを体得することを目的とする。したがって，他の科目を履修する際や卒業後の進路決定にも役立つように設計されている。具体的には，レポート作成のための情報収集力や論理的思考力，コミュニケーション力などを身につけるほか，卒業後のキャリア・パスをイメージできるようにする。

キーワード： 大学での学び，論理的思考，レポート作成スキル，コミュニケーション・スキル，グループ討議，キャリア・パス

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自己の将来につながる大学生活について考え，大学での学びの意義を理解することができる。

評価方法： 課題　　**評価割合：** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 論理的に考え，表現するための技術を身につけることができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のグループ討議に主体的に取り組み，積極的に発言し，他のメンバーと円滑に意見調整しながら，グループとしての見解をまとめることができる。

評価割合： 40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

第01回　大学での学び
第02回　自己理解と他者理解
第03回　大学生活をデザインする
第04回　読解力を身につける
第05回　キャリアを考える
第06回　要約力を身につける
第07回　レポートの書き方(1)
第08回　図書館ガイダンス
第09回　レポートの書き方(2)
第10回　グループ討議(1)
第11回　グループ討議(2)
第12回　グループ討議(3)
第13回　グループ討議(4)
第14回　レポートの書き方(3)
第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。毎回，プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献として，以下の2点を指定しておく。
(1)吉原惠子・間渕泰尚・冨江英俊・小針誠 著『スタディスキルズ・トレーニング[改訂版]』実教出版，2017年，ISBN:978-4407340617，1,200円＋税。
(2)桑田てるみ 編『学生のレポート・論文作成トレーニング[改訂版]』実教出版，2015年，1,200円＋税。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留 意 事 項： この科目ではBYOD(Bring Your Own Device)を導入する。授業時には各自ノート・パソコンを持参すること。

科 目 コ ー ド：41126　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ基礎演習 b（Leadership Basic Seminar b）

担 当 者：米岡　英治

基本情報

年 次：1　　**単 位 数：2**　　**授業形式：演習**

曜 時：火曜3限　　**履修可能学科・専攻：** M

関 連 資 格：　　**ＡＬ要素：** 08.協同学修
10.資料調査課題
11.討議
15.レポート指導

授業の概要： この授業は，大学での学びについて理解し，大学生活を円滑にスタートさせ，かつ大学の授業に参画するための基本的スキルを体得することを目的とする。したがって，他の科目を履修する際や卒業後の進路決定にも役立つように設計されている。具体的には，レポート作成のための情報収集力や論理的思考力，コミュニケーション力などを身につけるほか，卒業後のキャリア・パスをイメージできるようにする。

キーワード： 大学での学び，論理的思考，レポート作成スキル，コミュニケーション・スキル，グループ討議，キャリア・パス

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 自己の将来につながる大学生活について考え，大学での学びの意義を理解することができる。

評価方法： 課題　　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 論理的に考え，表現するための技術を身につけることができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のグループ討議に主体的に取り組み，積極的に発言し，他のメンバーと円滑に意見調整しながら，グループとしての見解をまとめることができる。

評価割合：40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授 業 計 画：　第01回　大学での学び

第02回　自己理解と他者理解
第03回　大学生活をデザインする
第04回　読解力を身につける
第05回　キャリアを考える
第06回　要約力を身につける
第07回　レポートの書き方(1)
第08回　図書館ガイダンス
第09回　レポートの書き方(2)
第10回　グループ討議(1)
第11回　グループ討議(2)
第12回　グループ討議(3)
第13回　グループ討議(4)
第14回　レポートの書き方(3)
第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。毎回，プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献として，以下の2点を指定しておく。
(1)吉原惠子・間渕泰尚・冨江英俊・小針誠 著『スタディスキルズ・トレーニング[改訂版]』実教出版，2017年，ISBN:978-4407340617，1,200円＋税。
(2)桑田てるみ 編『学生のレポート・論文作成トレーニング[改訂版]』実教出版，2015年，1,200円＋税。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： この科目ではBYOD(Bring Your Own Device)を導入する。授業時には各自ノート・パソコンを持参すること。

科目コード：41126　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ基礎演習 c（Leadership Basic Seminar c）

担当者：澤端　智良

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　**ＡＬ要素：** 08.協同学修
10.資料調査課題
11.討議
15.レポート指導

授業の概要： この授業は，大学での学びについて理解し，大学生活を円滑にスタートさせ，かつ大学の授業に参画するための基本的スキルを体得することを目的とする。したがって，他の科目を履修する際や卒業後の進路決定にも役立つように設計されている。具体的には，レポート作成のための情報収集力や論理的思考力，コミュニケーション力などを身につけるほか，卒業後のキャリア・パスをイメージできるようにする。

キーワード： 大学での学び，論理的思考，レポート作成スキル，コミュニケーション・スキル，グループ討議，キャリア・パス

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自己の将来につながる大学生活について考え，大学での学びの意義を理解することができる。

評価方法： 課題　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 論理的に考え，表現するための技術を身につけることができる。

評価方法: レポート　　**評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のグループ討議に主体的に取り組み，積極的に発言し，他のメンバーと円滑に意見調整しながら，グループとしての見解をまとめることができる。

評価割合: 40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

第01回　大学での学び
第02回　自己理解と他者理解
第03回　大学生活をデザインする
第04回　読解力を身につける
第05回　キャリアを考える
第06回　要約力を身につける
第07回　レポートの書き方(1)
第08回　図書館ガイダンス
第09回　レポートの書き方(2)
第10回　グループ討議(1)
第11回　グループ討議(2)
第12回　グループ討議(3)
第13回　グループ討議(4)
第14回　レポートの書き方(3)
第15回　まとめ

使用テキスト: テキストは使用しない。毎回，プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献として，以下の2点を指定しておく。
(1)吉原惠子・間渕泰尚・冨江英俊・小針誠 著『スタディスキルズ・トレーニング[改訂版]』実教出版，2017年，ISBN:978-4407340617，1,200円＋税。
(2)桑田てるみ 編『学生のレポート・論文作成トレーニング[改訂版]』実教出版，2015年，1,200円＋税。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項: この科目ではBYOD(Bring Your Own Device)を導入する。授業時には各自ノート・パソコンを持参すること。

科目コード: 41126　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:** 日本語

授業名（英文）: リーダーシップ基礎演習 d（Leadership Basic Seminar d）

担 当 者： Yodtomorn Pimprapa

基本情報

年 次 : 1　　**単位数 :** 2　　**授業形式 :** 演習

曜 時 : 火曜3限　　**履修可能学科・専攻:** M

関連資格 :　　**AL要素 :** 08.協同学修
10.資料調査課題
11.討議
15.レポート指導

授業の概要: この授業は，大学での学びについて理解し，大学生活を円滑にスタートさせ，かつ大学の授業に参画するための基本的スキルを体得することを目的とする。したがって，他の科目を履修する際や卒業後の進路決定にも役立つように設計されている。具体的には，レポート作成のための情報収集力や論理的思考力，コミュニケーション力などを身につけるほか，卒業後のキャリア・パスをイメージできるようにする。

キーワード: 大学での学び，論理的思考，レポート作成スキル，コミュニケーション・スキル，グループ討議，キャリア・パス

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自己の将来につながる大学生活について考え，大学での学びの意義を理解することができる。

評価方法: 課題　　**評価割合 :** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 論理的に考え，表現するための技術を身につけることができる。

評価方法: レポート　　**評価割合 :** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のグループ討議に主体的に取り組み，積極的に発言し，他のメンバーと円滑に意見調整しながら，グループとしての見解をまとめることができる。

評価割合 : 40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 :
第01回　大学での学び
第02回　自己理解と他者理解
第03回　大学生活をデザインする
第04回　読解力を身につける
第05回　キャリアを考える
第06回　要約力を身につける
第07回　レポートの書き方(1)
第08回　図書館ガイダンス

第09回 レポートの書き方(2)
第10回 グループ討議(1)
第11回 グループ討議(2)
第12回 グループ討議(3)
第13回 グループ討議(4)
第14回 レポートの書き方(3)
第15回 まとめ

使用テキスト: テキストは使用しない。毎回，プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献として，以下の2点を指定しておく。
(1)吉原惠子・間渕泰尚・冨江英俊・小針誠 著『スタディスキルズ・トレーニング[改訂版]』実教出版，2017年，ISBN:978-4407340617，1,200円＋税。
(2)桑田てるみ 編『学生のレポート・論文作成トレーニング[改訂版]』実教出版，2015年，1,200円＋税。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項: この科目ではBYOD(Bring Your Own Device)を導入する。授業時には各自ノート・パソコンを持参すること。

科目コード:41126 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): リーダーシップ基礎演習 e(Leadership Basic Seminar e)

担当者: 佐藤 和明

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:火曜3限 **履修可能学科・専攻: M**

関連資格: **AL要素:** 08.協同学修
10.資料調査課題
11.討議
15.レポート指導

授業の概要: この授業は，大学での学びについて理解し，大学生活を円滑にスタートさせ，かつ大学の授業に参画するための基本的スキルを体得することを目的とする。したがって，他の科目を履修する際や卒業後の進路決定にも役立つように設計されている。具体的には，レポート作成のための情報収集力や論理的思考力，コミュニケーション力などを身につけるほか，卒業後のキャリア・パスをイメージできるようにする。

キーワード: 大学での学び，論理的思考，レポート作成スキル，コミュニケーション・スキル，グループ討議，キャリア・パス

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自己の将来につながる大学生活について考え，大学での学びの意義を理解することができる。

評価方法: 課題 **評価割合:30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 論理的に考え，表現するための技術を身につけることができる。

評価方法: レポート **評価割合:30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のグループ討議に主体的に取り組み，積極的に発言し，他のメンバーと円滑に意見調整しながら，

グループとしての見解をまとめることができる。

評価割合：40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第01回　大学での学び
第02回　自己理解と他者理解
第03回　大学生活をデザインする
第04回　読解力を身につける
第05回　キャリアを考える
第06回　要約力を身につける
第07回　レポートの書き方(1)
第08回　図書館ガイダンス
第09回　レポートの書き方(2)
第10回　グループ討議(1)
第11回　グループ討議(2)
第12回　グループ討議(3)
第13回　グループ討議(4)
第14回　レポートの書き方(3)
第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。毎回，プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献として，以下の2点を指定しておく。
(1)吉原惠子・間渕泰尚・冨江英俊・小針誠 著『スタディスキルズ・トレーニング[改訂版]』実教出版，2017年，ISBN:978-4407340617，1,200円＋税。
(2)桑田てるみ 編『学生のレポート・論文作成トレーニング[改訂版]』実教出版，2015年，1,200円＋税。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： この科目ではBYOD(Bring Your Own Device)を導入する。授業時には各自ノート・パソコンを持参すること。

科目コード：41126　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：リーダーシップ基礎演習 f（Leadership Basic Seminar f）

担当者：長谷川　博康

基本情報

年次：1　　**単位数：2**　　**授業形式：演習**

曜時：火曜3限　　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格：　　**ＡＬ要素：** 08.協同学修

10.資料調査課題
11.討議
15.レポート指導

授業の概要： この授業は，大学での学びについて理解し，大学生活を円滑にスタートさせ，かつ大学の授業に参画するための基本的スキルを体得することを目的とする。したがって，他の科目を履修する際や卒業後の進路決定にも役立つように設計されている。具体的には，レポート作成のための情報収集力や論理的思考力，コミュニケーション力などを身につけるほか，卒業後のキャリア・パスをイメージできるようにする。

キーワード： 大学での学び，論理的思考，レポート作成スキル，コミュニケーション・スキル，グループ討議，キャリア・パス

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自己の将来につながる大学生活について考え，大学での学びの意義を理解することができる。

評価方法： 課題　　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 論理的に考え，表現するための技術を身につけることができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のグループ討議に主体的に取り組み，積極的に発言し，他のメンバーと円滑に意見調整しながら，グループとしての見解をまとめることができる。

評価割合：40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第01回　大学での学び
第02回　自己理解と他者理解
第03回　大学生活をデザインする
第04回　読解力を身につける
第05回　キャリアを考える
第06回　要約力を身につける
第07回　レポートの書き方(1)
第08回　図書館ガイダンス
第09回　レポートの書き方(2)
第10回　グループ討議(1)
第11回　グループ討議(2)
第12回　グループ討議(3)
第13回　グループ討議(4)
第14回　レポートの書き方(3)
第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。毎回，プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献として，以下の2点を指定しておく。
(1)吉原惠子・間渕泰尚・冨江英俊・小針誠 著『スタディスキルズ・トレーニング[改訂版]』実教出版，2017年，ISBN:978-4407340617，1,200円＋税。
(2)桑田てるみ 編『学生のレポート・論文作成トレーニング[改訂版]』実教出版，2015年，1,200円＋税。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： この科目ではBYOD(Bring Your Own Device)を導入する。授業時には各自ノート・パソコンを持参すること。

科目コード：41127　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：情報技術基礎（Basic Information Technology）

担当者：長谷川 博康

基本情報

年次：3　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： 現在、IT関連企業だけでなく、あらゆる企業において、コンピュータを使って仕事をしています。そういった意味で、仕事をしていく上では、ITに対する基礎知識を必須となっています。また、ITに携わる業務では、その知識を証明するための資格として、情報処理技術者試験があります。その資格のエントリーレベルの資格として、ITパスポート資格があります。

ITパスポート試験は、ITに対する知識が広範囲にわたるので、ITパスポート資格を学ぶことで、IT全般の知識をつけていくことができます。
この講義では、ITパスポート試験を通して、ITに関する広い知識を身に付けることを目指します。

キーワード： ITパスポート

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ITに対する基礎知識を身に付ける。
ITパスポート試験の合格水準に相当する知識を身に付ける。

評価方法： 小テスト　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ITパスポートの資格を取る知識を身に付ける。

評価方法： 期末テスト　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

理解を確認したり深めるために、授業中に発問する。良い回答があった場合には評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

授業内での他の受講者へのサポートや理解を深めるための質問、協力は評価として加点する。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回：講義の説明と内容
第02回：ハードウェア
第03回：ソフトウェア
第04回：システム構成
第05回：1から3のまとめ
第06回：ネットワーク
第07回：セキュリティ
第08回：データベース
第09回：アルゴリズムとプログラミング
第10回：4から7のまとめ
第11回：マネジメント
第12回：企業活動と法務
第13回：経営戦略とシステム戦略
第14回：8から10のまとめ
第15回：全体のまとめ、テストについて

使用テキスト： 「令和05年 イメージ＆クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室」(技術評論社出版) 栢木 厚 (著)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考図書として、以下の書籍を挙げておきます。
「令和05年 栢木先生のITパスポート教室準拠 書き込み式ドリル」(技術評論社 出版) 栢木 厚 (監修)
「令和05年【上半期】ITパスポート パーフェクトラーニング過去問題集」(技術評論社 出版) 五十嵐 聡 著

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。
メールでも対応しますので、連絡先は学務部に確認して下さい。

留意事項： 特になし

科目コード：41128 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **情報システム演習(Information Systems Seminar)**

担当者： **米岡 英治**

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 03実験・実技、体験、05即時応答、16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 企業は多くの情報を管理・活用しています。他企業や顧客から情報を入手するとともに、顧客への情報発信も行っています。これらの仕組みの開発は、一部の専門技術を持った人達だけの業務ではありません。情報を使う側の業務担当者が開発に携わることも多くなっています。今後DX(デジタルトランスフォーメーション)が進展していく中で対応していくためには、さまざまな事柄をつなぎ合わせ、ICTを活用していく必要があります。
本科目では、業務の自動化として注目されているRPA(ロボティック・プロセス・オートメーショ

ン）の利用、CMS（コンテンツマネジメントシステム）を活用したWebサイト作成について学びます。
また、担当教員の実務経験から考えられる内容も踏まえて、今後の進展に関する考察をしていきます。

キーワード： 情報システム、情報管理、DX、RPA、CMS

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： DX時代においてさまざまな情報管理や情報発信に対しての変革が必要なことを理解し、今後どのような取り組みが必要か検討することができる。

評価方法： リフレクションノート、レポート　　**評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容に基づいて、Webサイト、ロボットを作成できる。

評価方法： 課題作成　　**評価割合：** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

Webサイト、ロボットの作成状況と作成内容から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑行為がみられた場合には、厳重注意および減点の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし作成したWebサイトなどに人権侵害・差別的など著しく公正性を欠く内容があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】イントロダクション　授業概要、情報システムとは
【第02回】DX（デジタルトランスフォーメーション）（1）
【第03回】DX（デジタルトランスフォーメーション）（2）
【第04回】RPA基礎（1）RPA概要、環境設定
【第05回】RPA基礎（2）メモ帳操作、ブラウザ操作ロボット作成
【第06回】RPA基礎（3）Excel操作ロボット作成
【第07回】RPA基礎（4）応用ロボット作成
【第08回】CMS基礎（1）Webサイト作成概要（CMS）、環境設定
【第09回】CMS基礎（2）管理設定、Webサイトテーマ設定、基本構成
【第10回】CMS基礎（3）記事構成、設定
【第11回】CMS基礎（4）投稿記事作成、応用の検討
【第12回】応用（1）RPA出力との連携
【第13回】応用（2）連携の検討1
【第14回】応用（2）連携の検討2
【第15回】振り返り

使用テキスト： 資料をそのつど配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布資料について復習するとともに、新聞・雑誌などで企業動向に注意しておくこと。
自身のPCに環境を構築することで、授業時間外においても動作確認等を行うことが望ましい。
講義において参考資料を指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項： 課題作成に対するフィードバックを授業時間に口頭で行います。
WindowsPCを使用します。持参すること。
MacのノートPC利用者は事前に相談すること。

科目コード：41129 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：オペレーションズ・リサーチ（Operations Research）

担当者：長谷川 博康

基本情報

年次：3 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 17 発問と回答
03 実験・実技・体験

授業の概要： オペレーショオンズ・リサーチとは、意思決定のための数学モデルです。その代表的なものとして、輸送問題、割当て問題、巡回セールスマン問題、在庫管理問題、階層化意思決定法（AHP）問題があります。この講義では、オペレーショオンズ・リサーチの簡単な説明からはじめ、これらの問題を実際に解けるようになることを目的としています。また、このオペレーションズ・リサーチによる意思決定の方法や問題解決の方法につては、Excelのアドオンツールである ”ソルバー” のアドオン機能を使って解くことができます。
この講義では、オペレーションズ・リサーチについての考え方を説明し、意思決定方法や問題解決についてExcelの機能を使って解決する方法を理解します。

キーワード： オペレーションズ・リサーチ、線形計画法、動的計画法、Excelソルバー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： オペレーショオンズ・リサーチを理解する。実際にExcelのアドオンツール、”ソルバー”を使用して解いてみる。復習の小テストで回答することができる。

評価方法： 小テスト **評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： オペレーショオンズ・リサーチを理解する。実際にExcelを使ってORの問題を解くことができるようになる。

評価方法： 期末テスト **評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

理解を確認したり深めるために、授業中に発問する。良い回答があった場合には評価する。

評価割合： 10%

▼実践的ボランタリズム

授業内での他の受講者へのサポートや理解を深めるための質問、協力は評価として加点する。

評価割合： 0%

▼公正性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回：講義の説明と内容
第02回：意思決定とは
第03回：線形計画法問題
第04回：動的計画法問題
第05回：データの収集と整理
第06回：データ分析と予測
第07回：在庫の考え方
第08回：生産の考え方
第09回：輸送の考え方
第10回：割り当ての計画
第11回：発送の方法
第12回：AHPの利用
第13回：採算性の検討
第14回：OR実施の手順と仕組み
第15回：全体のまとめとテストについて

使用テキスト：毎回資料を配布します。その他に、「問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門 Excelの活用と実務的例題」日本評論社　高井英造 真鍋龍太郎 著　も使用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：各回授業を受けた後に各回配布した資料の確認と授業内容の復習をしてください。
オペレーショオンズ・リサーチの理解を深めるため、最適化理論の事例として次の参考文献を挙げておきます。「Pythonではじめる数量最適化 ケーススタディでモデリングのスキルを身につけよう」オーム社　岩永二郎　石原響太　西村直樹　田中一樹 著

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応します。
メールでも対応しますので、連絡先は学務部に確認して下さい。

留意事項：特になし

科目コード：41130　　**科目ナンバリング**：　　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：マーケティングコミュニケーション論（Marketing Communication）

担当者：澤端　智良

基本情報

年次：2　　**単位数**：2　　**授業形式**：講義

曜時：木曜4限　　**履修可能学科・専攻**：ＥPe Pc ＣＷＦＮＭ

関連資格：　　**ＡＬ要素**：07発表、11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要：マーケティング・コミュニケーションとは、広告・広報・セールスプロモーション・イベント・ブランドコミュニティなど、企業が顧客との関係性構築のために行う活動全般を指す。企業にとって、顧客とのあらゆる接点をいかにマネジメントするかは、事業の成否に大きく影響するようになってきている。
本科目では、マーケティング・コミュニケーションに関する基礎的な概念や理論を学ぶことで、企業・消費者双方の立場からマーケティング・コミュニケーションの役割や機能を理解することを目標に講義を進めていく。広告をはじめとする様々なプロモーション手段の理解に加

え、マーケティング活動全般の視点から企業のコミュニケーション活動を評価・分析できるようになることを目指す。

キーワード： コミュニケーション、顧客接点、広告、広報、セールス・プロモーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説した「マーケティング・コミュニケーション」に関する概念や理論について正しく理解し説明することができる。

評価方法： 定期試験　　**評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学習した「マーケティング・コミュニケーション」に関する基礎的な概念・理論を用いて、企業の広告・販促活動等の事例を分析し、論理的に説明できる。

評価方法： 定期試験　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み、提出すること。

評価割合： 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

【第1回】ガイダンス：マーケティング・コミュニケーションとは何か
【第2回】広告とは何か：広告の定義と種類／広告の機能と役割
【第3回】広告と社会志向・社会倫理
【第4回】広報・パブリシティ／セールス・プロモーション
【第5回】デジタル・マーケティング・コミュニケーションとPESOモデル
【第6回】何をどのように伝えるか：コンセプトとコピーワーク
【第7回】マーケティングコミュニケーションの設計・計画と効果測定
【第8回】マーケティング・コミュニケーションの実務ー広告会社や「宣伝部」の仕事
【第9回】マーケティング・コミュニケーションによる市場創造
【第10回】ブランドとマーケティング・コミュニケーション
【第11回】ブランド・コミュニティ ー顧客との関係性構築
【第12回】コーポレート・コミュニケーション／BtoBブランディング
【第13回】コミュニケーション・メディアとしての企業博物館
【第14回】アートプレイス ー企業は芸術支援から何を得るのか
【第15回】全体のまとめ
期末試験

使用テキスト： 特定の教科書は使用しない。授業で使う資料はPDFにしてUNIPA等へアップする（授業で使用するスライド等は特別な場合を除き紙では配布はしない）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次回授業のテーマやキーワードについて参考文献やWeb等で調べ、事前に大まかな内容を理解しておくこと（60分）。また、授業後は学習した内容を振り返り理解しておくこと（60分）。その他、別途資料を配布した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。

参考文献や資料等は、必要に応じ 授業内で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項： 授業期間内で複数回課す「レポート類」(計20%)と期末試験（80％）を総合して評価する。
なお、授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。
BYOD導入に伴い、講義資料はUNIPA等へアップすることとし、原則として紙では配布しない。手元に資料が必要な場合はデバイスを持参するなど各自で対応すること。

科目コード：41131　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **企業倫理（Business Ethics）**

担当者： **佐藤　和明**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 01 実地訓練
09 実地調査
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 事業活動を「自分良し」、「相手良し」、「世間良し」の三方を満足させるよう行わなければいけない。この思想・哲学を「三方よし」という。三方よしは、江戸時代中期に日本全国のみならず、鎖国の時代ながら、海外へも進出していた近江商人の企業倫理ともいえる。

三方よしという優れた経営思想、哲学を持った日本であったが、明治維新以降、富国強兵などの国策などにより、徐々に三方良しの理念を忘れていき、第二次世界大戦後の高度成長を経て現在に至っている。周知の通り、現代の日本、そして世界では、経済性、効率性など、利益追求のみに走り勝ちな傾向にある。特に、20世紀の時代は、世界、特に西側諸国は、豊かさを求めて、利益を追求してきた。その結果、現在問題となっている、環境破壊、公害などの問題が発生していきた。そして、温暖化現象などが顕在化し、地球の人々だれもが気象異常に気づくようになってきた。

このような背景により、企業も社会性、人間性、社会貢献活動等の価値観を併せ持った企業でないと社会に受け入れられない風潮が強まってきている。例えば、株式投資でも、社会的責任を果たしている企業以外には投資しない「社会的責任投資」を主眼に投資する投資家もいる。

企業は、法人と言われ、法律上、私達、自然人と同等の権利をもっている部分のある。企業といえども法的な人間であり、社会に参画している存在である。それ故、地球環境保全、社会貢献、人間尊重などの責任を共有し、負わなければならない。

本講義では、三方良しを基軸に、企業倫理の重要なキーワードと考え方を元に、事例とともに、考察していく。

講義の進め方としては、各回の冒頭に、企業倫理の基礎的なキーワードや事例を概説する。その後、各回のテーマに基づいたディスカッションやグループワークを取り入れた授業を行う。

キーワード： ケーススタディ、コンプライアンス、CSR、コーポレートガバナンス、ステークホルダー、危機管理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 企業倫理・企業統治における基本的な考え方、重要な理論、事例について理解し、考察することができる。

評価方法: 各回のレポート　　**評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 企業倫理・企業統治における基本的な考え方、重要な理論、事例について理解し、考察することができることに加え、考察結果をレポートとしてまとめることができる。

評価方法: 期末レポート　　**評価割合:** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

出席はもとより、課題レポートや事例に基づいたディスカッション、グループワークに主体的に参加する態度をはかる。

評価割合: 40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない

評価割合: 0%

▼その他

講師の授業は隔回で行い、その間の授業では振り返りを行う。リフレクションノートを記述して、理解度や問題認識の向上をはかる。

評価割合: 講師の授業は隔回で行い、その間

授業計画:

【第1回】オリエンテーション

【第2回】「三方よし」とは

【第3回】企業倫理とは

【第4回】ビジネス倫理（功利主義、義務論）

【第5回】ビジネス倫理（正義論、徳倫理）

【第6回】ビジネス倫理（行動倫理）

【第7回】企業倫理の制度化

【第8回】コーポレート・ガバナンス

【第9回】ステークホルダー志向の経営倫理

【第10回】社会的責任投資

【第11回】マーケティングと倫理

【第12回】広告と広報の倫理

【第13回】環境と経営倫理

【第14回】AIと倫理

【第15回】まとめ　期末レポートについて

使用テキスト： 教材は授業中に指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各回の考察レポートを次回の講義前日の締め切りを復習とする。次回のテーマに関しては、予習として、調べておく。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし

科目コード：41132　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **データサイエンス基礎（Basic Data Science）**

担当者： **長谷川　博康**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 17.発問と回答

授業の概要： 社会では、情報通信技術の発展によるインターネットの普及や、パソコンやスマートフォンの普及により、様々な分野が情報通信で繋がり、そのデータが日々蓄積されています。その蓄積されたデータを活用するため、データサイエンスやAIが注目されています。
また、政府では、AI戦略2019において「数理・データサイエンス・AI」を推奨しており、教育において、大学・高等専門学校では、文系・理系を問わず、すべての大学・高専生が、初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得することが目標として掲げられました。このような流れを受けて、拠点大学を中心とした数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムでは、2020年にモデルカリキュラムを策定し、発表しました。各大学等の「数理・データサイエンス・AI」の体系的な教育プログラムを文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度が創設されました。
データサイエンス基礎では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルを体系的に扱い学ぶ入門の講義を行います。

キーワード： データサイエンス、AI、データ分析

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： データサイエンス全般について、一般的な入門レベルの知識になります。各回で前回の復習小テストをします。

評価方法： 各回小テスト　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： データサイエンスについて、全般的な知識レベルです。Excelで簡単なデータの操作を行うことができるようになります。知識の確認のため、講義全体のテストをします。

評価方法： 期末テスト　**評価割合：20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業については、入門レベルになりますので、深く話してないところがあります。内容について詳しく知りたい方は、授業内や授業後でも結構ですので、質問をしてください。書籍や説明をしますので、気軽に聞いてください。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

質問があれば、積極的に質問をしてください。もう少し深いレベルの書籍や説明をしますので、気軽に聞いてください。授業内での質問や授業後の質問でも構いません。何か疑問に思うことなどを質問してください。

評価割合：10%

▼公正性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回：講義の説明と内容
第02回：社会で起きている変化
第03回：社会で活用されているデータ
第04回：データとAIの活用領域
第05回：データとAIのための技術
第06回：データ・AI活用の現場
第07回：データ・AI活用の最新動向
第08回：データリテラシー：データを読む
第09回：尺度と統計量、グラフ
第10回：データリテラシー：データを説明する
第11回：グラフの種類、データ型とグラフ
第12回：データリテラシー：データを扱う
第13回：データの集計、データ操作、複数テーブルの結合
第14回：データ・AI利活用における留意事項
第15回：全体のまとめ

使用テキスト：
「教養としてのデータサイエンス」 講談社　北川 源四郎 (編集), 竹村 彰通 (編集), 内田 誠一 (著), 川崎 能典 (著), 孝忠 大輔 (著), 佐久間 淳 (著), 椎名 洋 (著), 他
「AIデータサイエンスリテラシー入門 (基礎学習)」 技術評論社　吉岡 剛志, 森倉 悠介, 小林 領 , 照屋 健作 (著)
毎回授業で資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
各回授業を受けた後に各回配布した資料の確認と授業内容の復習をしてください。

障がいのある履修者への対応：
可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：
オフィスアワーに研究室で対応します。
メールでも対応しますので、連絡先は学務部に確認して下さい。

留意事項：
特になし